



地域による 学校支援活動

事例集

平成23年度
文部科学省生涯学習政策局

地域による学校支援活動事例集発行にあたって

文部科学省では、未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域が連携協力し、社会全体の教育力の向上に向けた取組の一層の推進を図ることを目的に、地域全体で学校や子どもたちの教育活動を支援する「学校支援地域本部」や「放課後子ども教室」の取組等を推進しており、現在は、全国各地でその地域の特色にあった様々な活動が行われております。

あわせて、地域の人々（保護者・地域住民等）と目標を共有した上で、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」の全国展開を目指しており、その有効な仕組みとして「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」を推進しております。

本事例集は、平成23年度に初めて行った「優れた「地域による学校支援活動」推進に係る文部科学大臣表彰」において、表彰を受けられた全国各地の「地域による学校支援活動」を広く紹介するために作成いたしました。

「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」の取組と連携した「地域の方々による学校支援活動」や、「学校支援地域本部」及び「放課後子ども教室」等の更なる推進並びに一層の活動内容の充実のために、ご活用いただければ幸いです。

末筆ですが、本事例集の作成にあたりまして、関係者の皆様方の多大なご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

平成24年3月

文部科学省
生涯学習政策局社会教育課
初等中等教育局参事官付(学校運営支援担当)

目次

● はじめに1

● 「地域による学校支援活動」事例

1. 学校支援地域本部を中心とした活動

都道府県市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
北海道	帯広市	帯広市立啓北小学校	○	○			学校の教育課程と連動！多くの教科にゲストティーチャーが参画	…6
	中頓別町	中頓別町学校支援地域本部	○				「生活職人」による地域ぐるみの学校支援！	…7
	富良野市	富良野市立富良野小学校	○				長年にわたる学社融合の取組を基盤とした学校支援活動	…8
青森県	七戸町	城南小学校 学校支援センター	○				町全体で学校支援活動を展開	…9
	八戸市	小中野小学校 学校支援センター	○				地域住民が一体となった町づくりが支える学校支援活動	…10
宮城県	村田町	村田町学校支援協議会	○				学校を拠点に明るく元気な地域をめざして“地域全体で子どもを育てる”	…11
栃木県	鹿沼市	北光クラブ	○	○			大人の豊かな学び愛のなかで、豊かな心の子どもを育て、豊かな地域を創る	…12
	日光市	落合地区学校支援地域本部事業	○				地域の子どもは地域で育てる。地域と学校が一体となった学校支援ボランティア活動	…13
	塩谷町	塩谷町地域教育力活性化本部	○				広がり始めた子どもへの思い(学校支援ボランティア年間計画の作成)	…14
群馬県	高崎市	高崎市立吉井西小学校 学校支援センター	○				地域の力を学校に！～学校と地域が連携・協力して教育の充実を図る～	…15
	沼田市	沼田市立沼田東小学校 学校支援センター	○				地域の力を学校に！！地域コーディネーターが繋ぐ学校と地域の教育力。	…16
埼玉県	ふじみ野市	ふじみ野市立西原小学校応援団	○				地域の力で楽しい学び、豊かな体験活動！	…17
	美里町	美里町立東児玉小学校応援団	○				学校・家庭・地域が一体となったふれあい体験学習	…18
千葉県	市川市	国府台小学校 学校支援地域本部	○				多様な学校支援活動と年間を通じた活動による学校を支える地域づくり	…19
	八街市	育て！実住っ子応援プロジェクト実行委員会	○				地域と学校とが手を取り合っ、未来に輝く実住っ子を育てるための子育て戦略！	…20
	山武市	睦岡小学校支援地域本部	○				地元の子どもを育てます！地域のおやじ(大人)が学校支援！！	…21
東京都	杉並区	杉並区立井草中学校	○		○		学校と地域との双方向性を重視した教育活動	…22
	小平市	小平市立小平第六小学校	○	○	○		コミュニティが育てる 子どもが広がる学校ー地域と共に歩む学校づくりー	…23
	葛飾区	木根川小学校学校地域応援団	○				野菜も活動も大豊作ー様々な支援活動の展開ー	…24
神奈川県	茅ヶ崎市	学校支援・地域連携事業	○				コーディネーターの力を活用し、地域ぐるみで子どもたちを育てる	…25
	小田原市	小田原市立鴨宮中学校区 学校支援地域本部事業	○				スクールボランティアでつながる地域連携	…26
新潟県	見附市	見附市「共創郷育」事業(田井小学校学校支援地域本部)	○				教育コーディネーターを中心にした学校の応援づくり	…27
石川県	小松市	符津小学校支援地域本部	○				地域は学校の応援団、学校は地域の活力源	…28
山梨県	小菅村	小菅小・中学校 小菅人を育む会	○				子どもは村の宝！先生は村の人・もの・自然すべて！小菅村課外授業	…29
	甲府市	相川っ子見守り隊	○			○	地域をあげて参画！地域の子どもを地域の人みんなで見守り育てる。	…30
長野県	辰野町	辰野町学校支援地域本部	○				生涯学習と学校教育の融合…。地域もよい、子どももよい、学校もよい、三者互恵の活動。	…31
	長和町	和田学校支援地域本部	○				保小中の教育活動と連携し、ふるさとの伝統や文化を体験する活動を支援！	…32
岐阜県	多治見市	多治見市立市之倉小学校 学校運営協議会	○		○		地域の人材・組織・教育力を十分に活かした継続的な学校支援体制の確立	…33
	山県市	山県市学校支援地域本部 実行委員会	○	○			学校と地域が協働(コラボレート)により、学校教育の一層の充実と地域の教育力の再生に寄与	…34
静岡県	富士宮市	貴船小学校支援地域本部(富士宮市立貴船小学校サポーターズクラブ)	○				「子どもとともに育つ」みんなをつなげ、みんなとつながるPTCA	…35
愛知県	大口町	大口中学校区 学校支援地域本部	○				学校支援は私たちの生きがいー子どもたちとともにー	…36
三重県	津市	サポーターいっちゅう	○				「子どもを育み、大人も育つ」地域サポーターによる地域力向上の実践！	…37
滋賀県	湖南市	岩根小学校 学校運営協議会	○	○	○		地域と協働でつくる学校(学校も地域の一部、地域も大切な学びの場)	…38
京都府	八幡市	八幡市中学校校区 学校支援地域本部	○				子どもも大人も輝ける学校支援をめざして～絆フェスタと学習支援を核にして～	…39
	京丹波町	京丹波町立和知小学校 地域教育協議会	○				郷土と協働 和と知の学校づくり～心を寄せ合う教育ステージの創造～	…40
大阪府	池田市	池田市立池田中学校区MTP(マイタウンプロジェクト)	○				顔見知りになることからスタート！子どもも大人も笑顔で過ごせる学校とまちづくり！	…41
	岬町	岬町地域教育協議会	○				地域ぐるみで子育て！(育てよう！うちの子 よその子 岬の子)	…42

都道府県市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
兵庫県	加古川市	加古川市学校支援地域本部 浜の宮ユニット	○				地域総がかりの教育!(中学校区連携ユニットと学校園支援ボランティアの参画)	…43
奈良県	王寺町	王寺北小学校支援地域本部	○				地域を学校の宝に、そして学校を地域の宝に	…44
	大淀町	大淀町学校支援地域本部	○				町内すべての学校(4校3園)の様々な「求め」に、専門のボランティアを派遣し学校教育を支援する	…45
	大和高田市	浮孔小学校支援地域本部	○				子どもたちを中心に据え、世代を超えた交流の場づくり	…46
和歌山県	田辺市	本宮地域共育コミュニティ本部	○				地域の教育力を生かした学校支援～活動の成果をふるさとへ～	…47
	上富田町	上富田町 共育コミュニティ推進本部	○				大好き かみとんだ ～多くの団体・人との連携を活かした地域づくり～	…48
島根県	浜田市	岡見小学校への学校支援活動(三隅 中学校区支援地域本部・岡見公民館)	○				オヤ爺が元気な秘密クラブ「水曜学校」	…49
	益田市	西益田地区教育協働化推進本部	○	○			地域みんなであつろうで子育て!あなたも「子育てパートナー」	…50
	江津市	渡津小学校	○	○			学校支援を中心とした教育コミュニティの創造	…51
岡山県	美咲町	旭小学校支援地域本部	○				できるときに できることから～年間のべ650人のボランティアが参加～	…52
広島県	三次市	吉舎中学校区 学校支援地域本部	○				「地域から学校支援」「学校から地域支援」～双方向のボランティア活動～	…53
	東広島市	三ツ城小学校支援地域本部 (三ツ城小サポートネット)	○	○			地域の子は地域で守り育てる～コミュニティハウスは“地域の活力”と“絆”を結ぶ拠点～	…54
	廿日市市	大野中学校区 学校支援地域本部	○	○			地域の子どもたちは地域で育てる～「誇れる学校・地域」の拠点づくりを目指して～	…55
山口県	宇部市	厚東小学校運営協議会	○	○	○		地域住民全員が学校支援ボランティア	…56
	岩国市	装港小地域教育協議会	○	○			「完全自立をめざして!」地域住民の参画による地域と融合した教育活動	…57
徳島県	美馬市	穴吹中学校区 学校支援地域本部	○				地域の力が学校に集い「絆」づくりをめざす学校支援活動	…58
香川県	さぬき市	さぬき市寒川学校支援地域本部	○				地域とともに健やかな子どもの育成。～学校と地域のかけはし～	…59
愛媛県	新居浜市	泉川中学校支援地域本部	○				学校の環境を整えることが、地域力を高めた!子ども達も立派な地域の一員だ	…60
	久万高原町	父二峰小学校支援地域本部	○				学校を拠点とした「ふるさとづくり」(みんな集まれ! みんなであったまる!)	…61
高知県	南国市	稲生小学校区支援地域本部	○				地域住民を交えたPTCA組織による“朝型社会復権”への取り組み!	…62
	土佐町	土佐町学校応援団	○	○			「できる時に できる人が できる事を ムリせず」に知の循環型生涯学習をめざして	…63
福岡県	宗像市	学校支援ボランティア「匠の会」	○				「むりなく、むりせず、おしつけず」だけでも参加。	…64
	宮若市	吉川小学校応援協議会	○				“大人も子どもチャレンジ吉川!よさを認めて伸ばそう吉川の子” まもるっ隊	…65
	うきは市	御幸小学校子育て応援協議会	○				来て!見て!!!育てる!!! 学校に足を運ぶことから始めよう。	…66
佐賀県	佐賀市	KSVN(嘉瀬小学校ボランティアネットワーク)	○				地域ぐるみで「ふるさと嘉瀬を愛する子どもたちを育てる」	…67
	嬉野市	嬉野コミュニティ教育支援協議会	○		○		学校で「学び」家庭で「しつけ」地域で「育てる」をスローガンにして	…68
長崎県	佐世保市	大久保小学校 学校支援会議	○	○			合言葉は「つながり」めざせ!大久保コミュニティ	…69
	壱岐市	翠の会・霞翠っ子育て協議会	○	○			学校・家庭・地域が子どもの育成目標を共有しながら教育力の向上!!	…70
熊本県	人吉市	人吉市二中校区 学校支援地域本部	○				支え、見守り、育てる、地域の力「われら人よし 活き域 学校応援団」	…71
	菊池市	菊池市立泗水小学校	○		○		地域とともに創る学びの創造!!	…72
	芦北町	たのうらっ子地域応援団	○				われら学校応援団!「学習」「環境整備」「登下校安全」「心」「行事」など幅広く支援	…73
大分県	津久見市	第二中学校区支援地域本部	○				学校の教育課程と運動!多くの教科にゲストティーチャー・学習サポーターが参画	…74
	別府市	南小・浜脇中学校区 ネットワーク会議	○				“地域総がかり”で子どもをはぐくむ～広がる学校支援ボランティアの輪～	…75
	佐伯市	弥生校区ネットワーク会議	○				高齢者の技と知恵は地域の宝!郷土の伝統を活かした学校支援活動を展開!	…76
宮崎県	日南市	南郷小学校 学校支援地域本部	○	○			地域の力で子どもを育てる支援の輪を作る「ボランティアルーム」!	…77
鹿児島県	いちき串木野市	いちき地域学校支援地域本部事業	○				「できることを できるときに できるところから」～レベルに応じた学校支援～	…78
沖縄県	名護市	屋部中学校区学校支援地域本部	○	○			みんなで「共育」参画!地域は子どもの応援団!(コミュニティブリッジの構築)	…79
	沖縄市	美里小学校 学校支援地域本部	○				地域の子は地域で育てる～ユイマール隊～	…80
仙台市	—	榴岡小学校学校支援地域本部	○				協働による人づくり!学校を核とした地域づくり!	…81
	—	西中田小学校学校支援地域本部・ 西中田こみこみスクール	○	○			つないで、とけこんで、「地域の絆」と「支援の輪」づくりを目指して	…82

都道府県市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
新潟市	—	新潟市立入舟小学校	○				絆ルームから始まる大人総がかりの子育て(学校・家庭・地域が手を繋ぐ)	…83
	—	新潟市立坂井東小学校	○				「学校とともに地域で子どもをはぐくむおとなの輪」を広げています!	…84
前橋市	—	南橋中学校支援地域本部事業	○				感謝の気持ちを伝えよう。地域の方との交流活動、ボランティア活動を通して!	…85
金沢市	—	高岡中学校支援地域本部	○				地域とともに育ち、地域を支える人材へ～2,000人を超えるボランティアとともに～	…86
尼崎市	—	尼崎市立学校支援地域本部	○				学校・家庭・地域の連携にもとづく「全面教育」	…87
奈良市	—	富雄中学校区地域教育協議会	○				生徒・地域住民・保護者・教職員が一丸となって クリーンアップ!	…88
下関市	—	長府地区ふるさと協育ネット「ほっちゃん」	○	○			学校の教育の力 家庭の教育の力 地域の教育の力を +(プラス)して 協育	…89
鹿児島市	—	郡山小学校地域本部	○				学校支援ボランティアと一緒に元気な学校に! 未来を担う子どもを地域で育てる	…90

2. 放課後子ども教室を中心とした活動

都道府県市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
北海道	帯広市	帯広市立啓北小学校	○	○			再掲 学校の教育課程と連動! 多くの教科にゲストティーチャーが参画	…6
栃木県	鹿沼市	北光クラブ	○	○			再掲 大人の豊かな学び愛のなかで、豊かな心の子どもを育て、豊かな地域を創る	…12
群馬県	明和町	明和町放課後子ども教室「あくしゅ」		○			手作り「めいわかるた」で郷土学習!	…91
埼玉県	久喜市	久喜市放課後子ども教室 ゆうゆうプラザ		○			学校にたくさんの人が集う! 体験や交流で、笑顔があふれるゆうゆうプラザの活動	…92
東京都	小平市	小平市立小平第六小学校	○	○	○		再掲 コミュニティが育てる 子どもが広がる学校 -地域と共に歩む学校づくり-	…23
神奈川県	綾瀬市	あやせっ子ふれあいプラザ事業		○			市民に定着したプラザ事業で子どもたちの成長を支援	…93
富山県	射水市	射水市放課後子ども教室 片口教室		○			地域・学校・家庭をつなぐ放課後子ども教室	…94
石川県	輪島市	諸岡公民館子ども教室		○			子どもたちの居場所づくり。地域の子どもは地域で育てる。	…95
	白山市	石川公民館石川っ子ジュニア文化サークル		○			地域の子どものは地域で育てる「子ども居場所づくり教室」	…96
福井県	大野市	小山放課後子ども教室		○			地域が支える! 体験・ふれあい・元気あふれる子どもの居場所	…97
山梨県	都留市	都留市放課後子ども教室		○			地域に密着した体験活動。子どもは地域の宝!	…98
岐阜県	山県市	山県市学校支援地域本部 実行委員会	○	○			再掲 学校と地域が協働(コラボレート)により、学校教育の一層の充実と地域の教育力の再生に寄与	…34
	坂祝町	坂祝町放課後子ども教室		○			放課後子ども教室と児童クラブ(学童)を併設	…99
愛知県	田原市	六連校区放課後子ども教室		○			地域の力で、毎日、すべての児童に安全で安心な居場所づくりを!	…100
	津島市	神島田小学校放課後子ども教室		○			子どもは地域の希望の光! 地域の子どものは地域で育てる。	…101
三重県	亀山市	放課後子ども教室 川崎フレンズ		○			「子どもの居場所は大人の居場所」保護者どうしでも、地域の人とふれあっています!	…102
滋賀県	湖南市	岩根小学校 学校運営協議会	○	○	○		再掲 地域と協働でつくる学校(学校も地域の一部、地域も大切な学びの場)	…38
大阪府	柏原市	柏原子ども教室 ☆い・ち・み☆		○			「いつもいっしょに、ちいきの、みんなと」-障がいのある子どもたちの居場所づくり-	…103
兵庫県	宝塚市	中山台子ども広場		○			育てよう未来の宝、つなげよう地域の和	…104
和歌山県	紀美野町	紀美野町中央公民館ふれあいルーム		○			子どもの居場所づくりで世代間交流!	…105
島根県	益田市	西益田地区教育協働化推進本部	○	○			再掲 地域みんなであつて子育て! あなたも「子育てパートナー」	…50
	江津市	渡津小学校	○	○			再掲 学校支援を中心とした教育コミュニティの創造	…51
岡山県	早島町	早島放課後子ども教室		○			充実した学習支援活動	…106
広島県	東広島市	三ツ城小学校支援地域本部(三ツ城小サポートネット)	○	○			再掲 地域の子は地域で守り育てる～コミュニティハウスは「地域の活力」と「絆」を結ぶ拠点～	…54
	廿日市市	大野中学校区 学校支援地域本部	○	○			再掲 地域の子どものたちは地域で育てる「誇れる学校・地域」の拠点づくりを目指して-	…55
山口県	宇部市	厚東小学校運営協議会	○	○	○		再掲 地域住民全員が学校支援ボランティア	…56
	岩国市	装港小地域教育協議会	○	○			再掲 「完全自立をめざして!」地域住民の参画による地域と融合した教育活動	…57
徳島県	東みよし町	加茂小学校学校運営協議会		○	○		「子どもの元気な声が響きわたる学校」にするために、学校支援隊が参画!	…107
香川県	東かがわ市	東かがわ市放課後子ども教室		○			東かがわの元気な子どもたちの健やかな育ちを見守り、地域みんなが生き生きと・・・	…108
愛媛県	宇和島市	三間放課後子ども教室		○			人と人との「想い」を繋ぎ、将来に渡りその「想い」を継承する活動	…109
高知県	土佐町	土佐町学校応援団	○	○			再掲 「できる時に できる人が できる事を ムリせず」に「知の循環型生涯学習」をめざして	…63

都道府県市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
佐賀県	吉野ヶ里町	吉野ヶ里町わくわく子ども教室		○			バラエティ豊かな活動を支える、地域ボランティアの底力。	…110
長崎県	佐世保市	大久保小学校 学校支援会議	○	○			合言葉は「つながり」めざせ！大久保コミュニティ	…69
	壱岐市	翠の会・霞翠っ子育成協議会	○	○			学校・家庭・地域が子どもの育成目標を共有しながら教育力の向上!!	…70
宮崎県	日南市	南郷小学校 学校支援地域本部	○	○			地域の力で子どもを育てる支援の輪を作る「ボランティアルーム」!	…77
鹿児島県	南九州市	かじかクラブ(田代小学校放課後子ども教室)		○			「地域の子どもは地域で育てる」～全保護者と各種地域団体との幅広い連携～	…111
沖縄県	那覇市	真和志小学校放課後子ども教室		○			学校・児童クラブと連携!地域のボランティアの心で子どもを育てる!	…112
	名護市	屋部中学校区学校支援地域本部	○	○			みんなで「共育」参画!地域は子どもの応援団!(コミュニティブリッジの構築)	…79
仙台市	—	西中田小学校学校支援地域本部・西中田こみこみスクール	○	○			つないで、とけこんで、「地域の絆」と「支援の輪」づくりを目指して	…82
さいたま市	—	ゆうやけ・サタデーサポート		○			～みんなで遊ぼう!! ゆうやけ・サタデーサポート～	…113
名古屋市	—	児玉小学校トワイライトスクール		○			地域の力を活用して、子どもたちに豊かな「遊び」「学び」「体験」「交流」の提供	…114
	—	御器所小学校トワイライトスクール		○			地域の力を活用し、子どもたちに豊かな「遊び」「学び」「体験」「交流」の提供	…115
京都市	—	西陣中央小学校放課後まなび教室		○	○		「地域の子どもは地域で育む」理念のもと、子どもたちに自学自習の習慣づけを図る。	…116
大阪市	—	西天満小学校「いきいき」活動		○			なかよくすすんで活動する「いきいき」をめざして!!	…117
	—	新平野西小学校「いきいき」活動		○			輝く笑顔あふれる「いきいき活動」を求めて	…118
堺市	—	白鷺小学校放課後ルーム		○			地域の子どもは地域の宝!子どもが輝く居場所づくり	…119
下関市	—	長府地区ふるさと協育ネット「ほっちゃや」	○	○			学校の教育の力 家庭の教育の力 地域の教育の力を+(プラス)して 協育	…89
松山市	—	五明っ子クラブ		○			学習習慣の定着と学力向上の手助けをする	…120

3. コミュニティ・スクールの取組と連携した活動

都道府県市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
東京都	杉並区	杉並区立井草中学校	○	○			学校と地域との双方向性を重視した教育活動	…22
	小平市	小平市立小平第六小学校	○	○	○		コミュニティが育てる 子ども達の夢が広がる学校ー地域と共に歩む学校づくりー	…23
岐阜県	多治見市	多治見市立市之倉小学校 学校運営協議会	○	○			地域の人材・組織・教育力を十分に活かした継続的な学校支援体制の確立	…33
三重県	津市	南が丘地域教育委員会			○		学校づくりは地域づくり 自主参画型で学校と地域の協働関係を深める	…121
滋賀県	湖南市	岩根小学校 学校運営協議会	○	○	○		地域と協働でつくる学校(学校も地域の一部、地域も大切な学びの場)	…38
山口県	宇部市	厚東小学校運営協議会	○	○	○		地域住民全員が学校支援ボランティア	…56
徳島県	東みよし町	加茂小学校学校運営協議会		○	○		「子どもの元気な声が響きわたる学校」にするために、学校支援隊が参画!	…107
高知県	黒潮町	大方高等学校 学校運営協議会			○		地域のブレインが県立高校をバックアップ!(大方高等学校学校運営協議会)	…122
佐賀県	嬉野市	嬉野コミュニティ教育支援協議会	○		○		学校で「学び」家庭で「しつけ」地域で「育てる」をスローガンにして	…68
熊本県	菊池市	菊池市立泗水小学校	○		○		地域とともに創る学びの創造!!	…72
京都市	—	OGT小中一貫コミュニティ・スクール(御所南コミュニティ、スマイル21プラン委員会、けやきプロジェクト)			○		未来に輝く小中一貫コミュニティ・スクール	…123
	—	西陣中央小学校放課後まなび教室		○	○		「地域の子どもは地域で育む」理念のもと、子どもたちに自学自習の習慣づけを図る。	…116
岐阜市	—	岐阜小学校運営協議会			○		学校支援ボランティアと運営協議会で新しい学校づくり!	…124

4. その他の学校支援活動

都道府県市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
青森県	むつ市	むつ市立川内小学校				○	地域住民による学校教育活動支援体制の確立	…125
山梨県	甲府市	相川っ子見守り隊	○			○	地域をあげて参画!地域の子どもを地域みんなで見守り育てる。	…30

● 参考資料

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について	…126
学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業について(学校支援地域本部、放課後子ども教室)	…128
地域とともにある学校づくりの推進について	…130
優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰(要項)	…133

こんな活動です!!

学校の教育課程と連動！ 多くの教科にゲストティーチャーが参画

活動名

帯広市立啓北小学校【北海道帯広市】

関係する学校

帯広市立啓北小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	13人	491人	19年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	68人	25日	なし
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
体育館		19年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

本校では、「教科の学習サポート」「文化・異世代交流」「教育環境の整備支援」「学校・地域連携」の4つの視点で学校支援地域本部事業をすすめることで、学校支援ボランティア活動を充実させるとともに、地域の連携や教育力の向上を図っている。また、学習支援や長期休業中の学習会などで、近隣大学の学生ボランティアが協力する体制づくりや、地域と学校が連携・協力して子どもをばぐくむ体制が構築され、地域に根ざした取り組みとなっている。

特徴

<特徴的な活動内容>

本校では、地域コーディネーター、校内コーディネーターが、上記の4つの視点で企画・推進・連携・調整を行い活動を進めている。「教科の学習サポート」では、1年生の生活科や2年生の図工、5年生の家庭科など、様々な教科での支援、「文化・異世代交流」では、クラブ活動や総合的な学習での指導、「教育環境の整備支援」では、学校農園の畑おこしや校内のガラス拭きが行われている。また、「学校・地域連携」の視点では、「土曜寺子屋」として盆踊りやミニ運動会などを実施し、放課後子ども教室事業との連携を密にした活動を展開している。

<実践に当たっての工夫>

平成19年度文部科学省「学校支援を通じた地域の連帯感形成のための特別調査研究」に取り組んで以来、「啓北小学校地域ネットワーク委員会」を中心とした活動を進めてきている。

「啓北小学校ネットワーク委員会」では、学校支援ボランティアの育成や連携、調整などに努め、地域の人材をはじめ近隣大学の学生がボランティアで活動するなど、幅広い関係者によって学校を支援できる体制を整えてきた。

その結果、ボランティアによる学習サポートがほぼすべての教科で実施されるとともに、登下校の見守り活動も行われ、ボランティア数が延べ2,500人を超えるなど、学校を支援し、子どもを見守る体制が根付いた。



←「啓北ネット通信」

「啓北ネット通信」は、創刊以来160号を数え、啓北小学校の学校支援ボランティアの活動の様子をインターネット上に公開している。



←今後に向けて 成果と課題

平成22年度帯広市学校支援ボランティア活用モデル事業 活動報告資料

事業を実施して

日常的に地域住民がボランティア活動をすることで、住民から「学校が気軽に行ける場になった」という感想や、子どもから「地域に目を向けるようになった」という感想が聞かれ、開かれた特色ある教育活動を展開することができた。

ボランティアとして参加する地域住民が増えることで、多くの目で子どもたちの育ちを見守る体制が構築でき、地域の教育力の向上も図ることができた。

こんな活動です!!

「生活職人」による地域ぐるみの学校支援!

活動名

中頓別町学校支援地域本部
【北海道中頓別町】

関係する学校

中頓別町立中頓別小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	69人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

以前から各学校においては地域のボランティアの協力を得ながら学校運営や教育活動を行っていたが、平成20年度より中頓別町学校支援地域本部事業として既存の人材バンクを改善し、新たに中頓別町まなびねっと「生活職人」として再編成した。学校を支援するために学校が必要とする活動について、学校支援地域本部コーディネーターが学校と生活職人をつないで、より効果的な学校支援の取組を推進している。

特徴

☆中頓別町学校支援地域本部の取組

事業の内容としては、地域教育協議会を年3回開催し、幅広い地域住民がボランティアとして参画できるよう取り組んでいるとともに、普及啓発活動も積極的に行うことで、学校支援地域本部事業が町内に浸透している。

学校支援ボランティアを生活職人として登録し、学校のニーズに適した学習支援活動に取り組んでいる。「生活職人」には平成23年9月現在で13団体/84個人が登録している。

☆特色ある活動

中頓別小学校では、地域を知り学ぶことをねらいとして、総合的な学習の時間に「中頓別探検隊」という取組や社会見学の中で、地域の歴史や文化を学習しているが、そのために地域支援本部では、生活職人の調整も含めて年間を通じてサポートしている。

また、学校の環境整備活動支援として、「安全パトロール」、「学校図書のカテゴリ整理・補修修理」を実施している。

☆連携や広がり

平成23年度からは「中頓別町学校・家庭・地域の連携による教育支援活動運営委員会」を設置し、昨年度までの学校支援地域本部に加え、放課後子ども教室も開設した。

放課後子ども教室においては、今年度は15名の児童が登録しており、学習活動や体験活動に取り組んでいる。コーディネーターは1名の方が兼務しており、今後は放課後子ども教室スタッフの育成や放課後児童クラブとの連携を模索している。

☆成果と課題

コーディネーターと学校の双方からの働きかけにより、学校支援地域本部事業が町民に理解され、学校支援にかかわるボランティアの人数が増えてきている。

ボランティアからのアイデアが学校の取組にも活かされ、地域素材に触れる場としての「直接体験」や対話・聞き取りなど子どもたちの課題を解決する意識が高まった。



開校100周年記念連風あげの協力



地域の歴史を知ろう!
【化石の発掘体験】



地域の産業を知ろう!
【養蜂体験】

事業を実施して

学校と生活職人との連携を学校支援地域本部コーディネーターが調整し、内容を深めていくことで、子どもたちの総合的な学習の時間(中頓別探検隊)に取り組む意欲が高まり、地域の素材を活かした豊かな実践となった。

生活職人から教わったり、学んだりしたことから児童が地域素材について総合的に考えを深め、地域に「提言」することで地域の中で実現に向けた取組を模索する声が芽生え、役場を中心にまちづくりの一環として生かされはじめている。

こんな活動です!!

長年にわたる学社融合の取組を基盤とした学校支援活動

活動名

富良野市立富良野小学校
【北海道富良野市】

関係する学校

富良野市立富良野小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	66人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級
実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
			一年度	-

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成11年の富良野市学社融合推進委員会設置規則の制定以来、学社融合を推進してきた富良野市立富良野小学校では、地域の实情に応じて、PTA、行政職員等の幅広い関係者の参画を得た協議会と連携し、効果的な活動が行われている。また、地域コーディネーターを務める教育委員会職員の調整のもと、「びえいふらの子どもの本ネットワーク」等、学校以外の地域の各種機関・団体とも幅広く連携協力を推進し、読み聞かせ、学習支援、学校外活動、学校環境整備、子どもの安全確保にかかわる「地域による学校支援活動」が活発に、かつ継続的に行われている。

特徴

<特徴的な活動内容>

富良野小学校では、長年にわたり積み重ねてきた学社融合の取組を基盤に、学校・PTA・ボランティア・地域等、幅広い関係者の参画で構成された市街西地区学校支援地域本部と連携し、学校が率先して多くの住民がボランティアとして参加しやすい環境を整備している。特にボランティアの確保については、有資格者や特技を持つ住民を登録した人材バンクを活用し、本の読み聞かせやスキー授業支援、学校外活動支援など、学校支援ボランティアとして参加しやすい体制の中で、学校支援活動が活発に、かつ継続的に行われている。

<実践に当たっての工夫>

本の読み聞かせは、富良野市の読書グループ「学校読み聞かせクラブ」から読み聞かせに適した絵本・児童書の情報を得たり、学校支援ボランティアの読み聞かせ活動のための研修を受けたりしたボランティアの協力を得て、年間135回、のべ450名の参加で各学年を対象に実施している。富良野市では、小学校における長年にわたる読み聞かせ活動により、市立図書館の児童図書貸出1人当たりの冊数が18.1冊となる成果をあげている。

また、スキー授業支援では、年間24回にわたり、のべ168名のボランティアが学校におけるスキー授業の指導補助に係る支援を実施している。参加するボランティアが徐々に増えてきており、子どもたちの学習効果が高まるとともに、保護者の学校教育に対する理解も深まっている。

他にも年間60回行っている登下校時の安全指導では、のべ500名に及ぶ保護者、地域住民の参加を得るなど、地域全体で子どもを見守り、育む体制を構築している。



富良野小学校での読み聞かせ



子どもたちも目を輝かせて聞く



広くボランティアを募集し学校を応援する

事業を実施して

富良野小学校の学校支援活動では、市民の方たちの熱い思いが子どもたちを育てる原動力になっている。幅広い関係者の協力により、長年にわたり着実な実践を積み重ねることで、先生、地域の大人が子どもたち一人ひとりと向き合う時間の増加、住民の学習成果の活用機会の拡充、地域の教育力向上など、大きな教育効果を生んでいる。

今後も継続しながら、引き続き、地域コーディネーターを配置し、地域の实情に合った創意工夫ある活動を展開する。

こんな活動です!!

町全体で学校支援活動を展開

活動名

城南小学校 学校支援センター
【青森県七戸町】

関係する学校

七戸町立城南小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	登録制度なし	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
	実施場所			開始年度
-			一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

・学習支援活動

家庭科でのミシン学習の指導補助、校外学習の引率補助、水泳教室での指導補助・監視、スキー教室の指導補助、マラソン大会での走路監視補助、総合的な学習の時間(南部裂き織り体験教室等)や道徳などのゲストティーチャー、夏季休業中の学習会での県立七戸高等学校生徒による学習支援等

・環境整備

・学校行事支援

・支援活動は年間を通して組織的、計画的に実施されている。

特徴

〈特徴的な活動内容〉

- ・七戸町は「町ぐるみ教育推進委員会」を設置し、町全体で地域の連携に取り組んでおり、その中で城南小学校は、先進的に地域と学校との連携を図りながら教育活動に取り組んできた。このように組織が町に位置づけられ、町全体での学校支援活動を展開している。
- ・県立七戸高等学校生徒による学習支援は、七戸高等学校と城南小学校の連携により、夏季休業中に行っている5年生の学習会で、七戸高等学校の2年生が、ドリルの採点ボランティアや子どもたちへの解説を行っている。教えられる側は学力の向上や意欲向上につながり、教える側としては達成感や喜びにつながった。

〈実践に当たっての工夫〉

- ・城南小学校では創立当初から地域ぐるみで学校を支援する地域風土があり、1965年のベルマークボランティアの開始を機に図書ボランティアなどに広まり現在に至っている。
- ・コーディネーターを複数配置し校内にコーディネータールームを設けて、学校と密接に連携をとりながら活動を進めている。
- ・公民館では、学習の成果を生かす目的で講師等の人材リストを作成し、紹介している。
- ・活動の成果を壁新聞等で地域に広めているとともに教職員の理解も得ている。

〈その他の特徴〉

- ・平成10年から城南サマーフェスタを開催するなど昔から地域ぐるみで学校を応援する態勢があった。
- ・平成19年度に県の事業「地域による学校支援の基盤強化事業」の研究モデル校になり、それまで行ってきた学校支援活動をより充実させるために、町に協議会を設置し、町全体で学校支援ボランティア活動に取り組んだ。
- ・「町ぐるみ教育推進委員会」を構成する地域の各種団体と連携している。また県立七戸高等学校とも連携している。



高校生による学習支援



ミシン学習補助



水泳学習補助

事業を実施して

- ・スキーや水泳、ミシン学習では少人数による指導により学習の成果が表れ、ボランティアも楽しみながら活動を行うことができた。
- ・ボランティアにとっては子どもたちの様子がわかったり、先生方や子どもたちのふれあいできて、参加して良かったとの感想が多く寄せられる。
- ・先生方は業務全般についての仕事量が軽減されたと感じている。
- ・子どもの挨拶や人との接し方において成長が見られる。

こんな活動です!!

地域住民が一体となった町づくりが支える 学校支援活動

活動名

小中野小学校 学校支援センター
【青森県八戸市】

関係する学校

八戸市立小中野小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	3人	55人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- ・図書ボランティア…月2回昼休みを利用した読み聞かせ、図書室環境整備
- ・地域学習のゲストティーチャー…総合的な学習の時間、生活科、社会科、家庭科、地域の歴史、えんぶり(郷土芸能)、昔の生活、昔の遊び、地域の伝統食
- ・校外学習引率補助…生活科、総合的な学習の時間、町探検引率、八戸市内見学引率
- ・調理実習補助…家庭科
- ・PTA主催の学年集会での講師…地域の踊り、和菓子づくり
- ・校内環境整備…季節に合わせた廊下の飾りつけ、廊下壁のペンキ塗り
- ・登下校の見回り…小中野地区地域ボランティアによる交差点等での指導、交通安全教室補助

特徴

〈特徴的な活動内容〉

- ・八戸市内小中学校の中でもいち早くコーディネーターを配置して、学校支援ボランティアを受け入れた学校であり、地域住民による学校支援活動の先駆的な役割を果たしている。
- ・公民館を中心にした組織が整い学校のニーズによってボランティアを派遣している。公民館に拠点があることで地域との連携がしやすい。
- ・ボランティアルームを中心にPTA、地域の方、先生がふれあい、活気がある。ボランティアルームでの話し合いによってボランティアが自分たちでできる支援に気付くようになってきている。

〈実践に当たっての工夫〉

- ・小学校のある小中野地区は、平成15年に八戸市の「生涯学習まちづくりモデル支援事業」のモデル地区に選定され、小中野まちづくり協議会を設立して町をあげて薄れつつある地域の連帯感を強め、地域の課題、資源、まちづくりの方向性を共有し、地域住民同士が一体となったまちづくりを進めている。
- ・ボランティアが情報紙を定期的に発行し、情報の共有化を図っている。
- ・コーディネーターが地域の人材情報を提供、紹介している。
- ・図書館整理から始まり、環境整備というように徐々に協力体制を取るようになっていった。

〈その他の特徴〉

- ・平成19年度には、文部科学省委託事業「学校支援を通じた地域の連帯感形成のための特別調査研究」の県研究指定校として取組んだ。
- ・コーディネーターが企画し、学校でボランティア養成講座を実施した。
- ・公民館、地域の婦人会、交通安全協会等と連携している。



地域との連携による学年集会

活動報告



事業を実施して

- ・コーディネーターの配置により、ボランティアへの連絡等における負担を軽減することで、地域人材を活用する際の教職員の負担感が緩和された。
- ・子どもたちとボランティアの交流で、地域の人がいきいきしてきた。
- ・ボランティアが子どもたちの顔を覚えて、学校内外での声の掛け合いが増えることで、地域で子どもを育むことにつながった。

こんな活動です!!

学校を拠点に明るく元気な地域をめざして “地域全体で子どもを育てる”

活動名

村田町学校支援協議会【宮城県村田町】

関係する学校

村田町立村田小学校、村田第二小学校、
村田第一中学校、村田第二中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	336人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
-			一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- 村田町全ての学校で、それぞれの地域の特色を生かした学校支援活動を地域のボランティアの支援を受け行っている。
 - ・ 特色ある活動支援：紅花学習を行い、栽培から染め物体験までの一連の学習活動を地域で支援。自分たちで栽培した大豆による手作り味噌づくり、そらまめづくり、地域の事業所やお店を回るまち探検活動など。
- 関係団体の長等で組織する「協議会」と、各中学校区毎に組織する「学校支援推進委員会」で協議しながら事業を推進している。
- ボランティア向け研修会や講習会を開催し、支援ボランティア育成に努めている。

特徴

《子どもたちを地域全体で育てる》

- ◆ 町内の各小学校・中学校において、「子どもたちの学習効果をより高めるため」「子どもたちが支援活動を通じボランティア(地域住民)へ感謝の気持ちを抱くため」「素晴らしい知識や技術を持った地域のボランティアとの交流による人間教育の場となるため」に学校の要望に応じて支援活動を展開している。

《生涯学習事業との連携》

- ◆ 地域の教育力をより高めるため、研修会や講習会を開催し、その実習の場を学校で行うことにより、生涯学習講座がボランティア活動と直結している。学校で学習成果を発揮することにより、学校を中心とした元気な地域づくりを目指している。
- ◆ 支援ボランティアやボランティアに興味のある方を対象とした研修会を実施。ボランティアそれぞれが持っている悩みを打ち明け、ボランティア同士の交流を深め、新たな支援活動への輪を繋ぐ役割を果たしている。
- ◆ 学校の環境整備と技術習得をねらいとした植木剪定講座を開催。植木の剪定技術を専門家に教わりながらボランティア活動を行う。また、読み聞かせ講座を開催する際も最後に必ず学校での実習をプログラムに取り入れている。このため、それぞれの講座を受講した方がそのままボランティア登録をし学校で活躍するなど、「学校支援地域本部事業」により社会教育・生涯学習が充実してきている。

《組織・広報》

- 商工会や文化協会、体育協会、町内の様々な団体などで協議会を構成し、町全体で学校を支援している。また、町内2つの中学校区を支援する「学校支援推進委員会」を設置し、より地域と学校が近い距離間で情報交換を行い支援活動につなげている。
- 「学校支援ボランティア活動」「子どもたちの様子」「研修会や講座の内容」などについての「村田町学校支援だより」を町内全戸に配布し、事業の普及・推進と周知に努めている。



町探検のようす
昔から残る店蔵の中の展示を見学



庭木剪定ボランティア
きれいになった松の前で



地域のボランティアに
昔のあそびを教わる子どもたち

事業を実施して

本当に多くのボランティアの方々へ支援を頂き、町全体で学校を支援していこうという動きが着実なものとなってきている。学校からも、支援活動が子どもたちに大きな教育効果を与えているという言葉を多くいただいているし、地域の中からも、学校で子どもとふれあうことに楽しさや生きがいを感じるという感想をいただいている。学校と地域のつながりで生まれる教育の相乗効果を今後もさらに深め、地域の教育力を高めていきたいと考えている。

こんな活動です!!

大人の豊かな学び愛のなかで、 豊かな心の子どもを育て、豊かな地域を創る

活動名

北光クラブ【栃木県鹿沼市】

関係する学校

鹿沼市立北小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	5人	50人	12年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	5人	29人	80日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	空教室 校庭 体育館 校外の自然観察地	17年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

北光クラブは、地域のボランティア団体、サークル、関係機関・団体や個人との連絡調整を行い、それらを通して地域に根ざした教育活動を支援し、学校・家庭・地域社会がより緊密な連携をはかり、子どもたちの教育にあたることができるようにしていくことを目的としている。また、個人が生涯学習として学ぶ場や、人と人との交流や情報交換の場を提供し、一人一人が楽しく心豊かに活動することを目的としており、その結果として、学校教育支援・学校支援が行われている。

特徴

<活動内容>

- 大人の学びに子どもを巻き込み楽しむ【生涯学習支援活動】
- 豊かな大人が提供する体験活動を子どもたちが自己選択し楽しむ【社会教育支援活動】
- 学校の授業に様々な知識を持つ地域の方や高校生を招き行う【学校教育支援活動】
- 学校の抱える問題や課題を地域や保護者と考え解決していくことや、人と人をつなぎながら子どもたちの教育環境を整える【学校支援活動】

<実践に当たっての工夫>

- 北光クラブニュースの発行・配布・自治会・回覧。ホームページの作成。
- 活動はすべて受益者負担・自己責任。
- 人材バンクの募集、管理。学校には情報提供をしている。
- PTA・青少年育成市民会議・子ども会育成会との連携

<連携・広がり>

学校から年度当初に出される「北光クラブ教室支援計画」に基づいて北光クラブが行うボランティア説明会によって学校支援活動がスムーズに行われている。

また、地域側から様々な活動プログラムの提案が行われ、子どもたちは自由に活動したい内容を選択して活動し、自己表現につながっている。

意欲的に取り組む子どもの瞳の輝きと、それを見守る大人の姿が多く見られ、相互に学び合う豊かな地域づくりが進められている。



学校支援
教室のカーテン洗濯



放課後子ども教室
ほっこり火曜ひろば



学校教育支援
高校生指導による琴の体験授業



チャレンジスクール
自然観察ハイキング

事業を実施して

- 保護者・地域住民が参画した学校運営が実現できている。
- 充実した学校教育＝授業が実施できている。
- 児童の学習意欲の向上や社会性の育成に大きく貢献している。
- 保護者や地域住民の学校理解、児童理解、学校への支援活動を促進している。
- 学校のスリム化が促進され、教員がゆとりをもって児童や教育に向かえ合えるようになった。
- 学校・家庭・地域が一体となって活動する意識とその実践意欲が高められている。

こんな活動です!!

地域の子どもは地域で育てる。地域と学校が一体となった学校支援ボランティア活動

活動名

落合地区学校支援地域本部事業
【栃木県日光市】

関係する学校

日光市立落合東小学校、落合西小学校、落合中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	3人	74人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

本事業は、平成20年度に委託を受けた落合地区学校支援地域本部事業において、地域コーディネーターを核とした学校支援ボランティア活動として実践を開始した。本事業を運営する組織として「落合地区学校支援企画実行委員会」を、支援する組織として「落合地区学校支援実施本部(落合地区地域教育協議会)」を設置した。

「地域コーディネーターの養成」「学校支援ボランティアの養成」を目的に「学校支援地域本部事業研修」を実施し、さらに、「学校支援ボランティアの手引き」「学校支援ボランティア活動実践集」を作成して人材の育成を行った。また、「学校支援ボランティアだより」を地区全戸に配布し、「学校支援地域本部事業」の啓発に努めた。

特徴

<組織、手法における特色>

本事業は、「地域コーディネーター」が学校支援ボランティア活動の中心である。学校から依頼される活動のすべてを地域コーディネーターがコーディネートしている。また、学校と学校支援ボランティアの打合せも、地域コーディネーターが中心となって行っている。

<活動内容の深化・多様化>

以前は保護者中心であった学校支援ボランティア活動が、地域住民が協力する学校支援ボランティア活動になっている。特に、環境整備活動や読み聞かせ活動において、地域住民の参加が増えている。また、各教科や総合的な学習の時間において地域住民のゲストティーチャーも増え、地域住民が自分の能力を活かせる場となり、喜びや生きがいを感じている。

<連携・広がり>

公民館陶芸教室講師が、中学校美術部の陶芸指導を行ったり、家庭科調理実習で作ったピザを公民館のピザ窯を使って調理したりしている。また、家庭科調理実習のお手伝いとして、地域婦人会が協力するなど、「学校」と「公民館」、「学校」と「地域団体」が連携・協力した学校支援ボランティア活動が行われている。



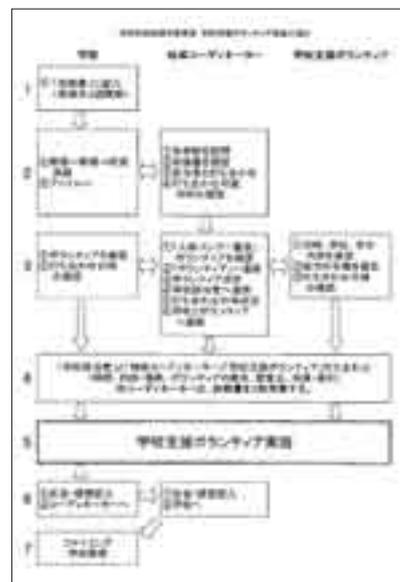
読み聞かせをする地域の方



環境整備をする地域の方々



公民館のピザ窯を活用する中学生



地域コーディネーターを中心とした支援の流れ

事業を実施して

学校では、「教師の連絡負担が減り、教師の作業内容も減った。」「児童一人ひとりに目が届くようになった。」「より専門的な授業を展開することができるようになった。」などの成果があった。地域では、「学校や子どもの様子が分かってきた。」「地域の子どもに対する関心が深まった。」「学校以外でも地域のために何かやってみたいと考えるようになった。」「生活に張り合いができた。」などの声が上がってきた。地域と学校の連携・協力では、学校行事に対して保護者だけでなく地域住民、地域団体も積極的に参加するようになった。

こんな活動です!!

広がり始めた子どもへの思い (学校支援ボランティア年間計画の作成)

活動名

塩谷町地域教育力活性化本部
【栃木県塩谷町】

関係する学校

塩谷町内各小中学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	136人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	あり
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	あり
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

これまで保護者や地域住民による学校への支援活動は活発に行われていたが、このような素晴らしい取組を全町に広げつつ、まだ活かされていない地域の貴重な人材を掘り起こし、地域の教育力の活性化や学校・家庭・地域の連携による心身共に健全な児童・生徒の育成を図るために、本事業が展開された。これまで「学校の敷居は高い」というボランティア側からの意識と、「手間が増えてしまい教師自身が授業に取り組んだ方が手取り早く効果が得られるだろう」という学校側の意識を踏まえ、実践を重ねることで、ボランティアと学校相互の協働意識を高める取組を進めてきた。

特徴

〈特徴的な活動内容〉

年度当初に学校の代表者(校長、教頭、教務主任)とボランティアの代表によって構成される実行委員会において協議した結果をもとに、町内全小中学校を対象に「学校支援ボランティア年間計画」を策定した。計画に基づき、コーディネーターが学校やボランティアへのコーディネートを行った。また、活動の実績を「学校支援ボランティア通信」や「町学校支援ボランティア年間計画」として学校にフィードバックし、活動の蓄積とデータ化を図った。

〈実践に当たっての工夫〉

実践を通して、有用性を実感することを第一に実施してきた。そのためボランティアに対しては個に応じたコーディネートをするとともに、学校の求めに応じた新たな人材発掘を行ってきた。また、学校の担当者及び教職員への研修会の開催と、役割分担を明確化したマニュアルを配布し、学校側が最小限の労力にて実施できるように留意してきた。特に、学校支援ボランティア年間計画の作成によって、活動が計画的に実施されるようにするとともに、コーディネーターからも学校側への働きかけがスムーズにされるようにしてきた。

〈連携・広がり〉

学校からの求めに応じ、ボランティアバンクに登録されていない人材についてもコーディネートを実施してきた。こうした場合、コーディネーターの人的接点を使ったり、新たに対象を絞って募集チラシを配布したりすることで、新たな人材を発掘してきた。

人の広がりが徐々に進み、バンクの充実が図られてきた。

〈高齢者の生きがいに〉

公民館講座との連携を進める中で、高齢者学級受講生に、子どもの「昔遊び体験」のゲストティーチャーを依頼した。反響が大きく、受講生の多くが活動に参加した。

学びの成果を活かすと共に、高齢者にとっても生きがいになった。



ボランティア休暇を使って



国際交流で茶道を披露

学校支援ボランティア年間活動(平成22年度)

年度	種別	種別	社会	体育	習工	音楽	家庭科	総合的な学習	その他	クラブ	英語
1年	お話し会(10月)			水への慣れ、泳ぎ方(7月)				給食調理科(種別別、実、心)2(10月) 数の遊び(2月)	学校行事(エレフトーンの演奏)(11月) おまわりさんの仕事について(12月)	クリスマス会(12月)	
2年	お話し会(10月)							生活、昔の遊び(12月)	学校行事(エレフトーンの演奏)(11月)	クリスマス会(12月)	
3年	お話し会(10月)	理科探究の進め方(10月)	学校の周りの様子(5月) 学校の周りの様子(5月) (歴史的建造物) (歴史的建造物)					音楽を楽しもう(1月)	ばらばら遊び(10月) 地獄学級(10月) 学校行事(エレフトーンの演奏)(11月) 歴史探究(11月)	クリスマス会(12月)	
4年	お話し会(10月)		森林資源の有様活用(7月) 湖に子供水場、湖形湖沼水場(7月)	リズムに合わせてリズムあそび(7月)				琴教室(1月)	学校行事(エレフトーンの演奏)(11月)	クリスマス会(12月)	
5年	お話し会(10月) 昔の様子、民謡(3月)							琴教室(10月)	祭り(10月) 家から作られる食品を調べる。(10月) 学校行事(エレフトーンの演奏)(11月) 郷土料理(そば打ち)伝授(11月、2月)	クリスマス会(12月)	
6年	お話し会(10月)		茶道教室(1月)					琴教室(12月)	学校行事(エレフトーンの演奏)(11月) 白の文化(運動)(11月) 育てた大豆を使い豆餅作り(2月)	児童会の準備・アップカー(10月)	
7年									児童会の準備・アップカー(10月)		

※は、特別支援学級での活動

事業を実施して

塩谷町ではこれまで主に小学校での学校支援ボランティア活動が行われてきたが、数年前から小中学校の統廃合が進み、中学校が3校から1校へ、小学校が8校から3校へととなり、地域の核となる学校とのつながりの再構築が求められていた。そうした中、1中学校区が全町をカバーすることとなり、町全体で地域の方の活躍の場を見いだすことができるようになった。特に、「学校支援ボランティア年間計画」の策定により約50件の活動が実践され、今後、その実績を学校にフィードバックすることで、更なる深化・拡充に結びつけていきたい。

こんな活動です!!

地域の力を学校に!

～学校と地域が連携・協力して教育の充実を図る～

活動名

高崎市立吉井西小学校
学校支援センター【群馬県高崎市】

関係する学校

高崎市立吉井西小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	5人	313人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

吉井西小では、平成18年度より学校支援センターを設置し、児童を地域の子として見守り育てていく実践を推進し、地域と一体となった教育活動を展開している。「できる時無理なく 仲良く 末永く」を合い言葉に、コーディネーターチームを配置することで、活動にかかわる人が入れ替わっても継続・拡充がスムーズに行われ、変化にすばやく対応できる学校支援センターシステムをつくりあげてきた。学校と地域が連携・協力し、授業や学校生活における指導・支援を充実させるとともに、児童の安全確保・学習環境の整備等、学校教育全体の質的向上を目指している。

特徴

<特徴的な活動内容>

(1)【持続可能な活動を行う】コーディネーターの役割を確立し、自主的活動を促進する。(2)【効果的な活動を行う】ボランティア年間計画表や毎月のコーディネーター会議やボランティア連絡協議会により、学校や地域との情報の交換・共有を行う。(3)【成果を実感できる活動を行う】職員室掲示を利用して、教職員全てがボランティア活動情報を共有する。児童とボランティアの交流の機会を設定する。アンケートにより成果・課題をつかむ。(4)【学校理解を深める】学校支援センターについての情報公開を積極的に進める。

<実践に当たっての工夫>

(1)保護者・地域住民からなるコーディネーターチームを中心に、学校と各ボランティアが連携し活動する組織の構築。(2)区長会・公民館などの外部組織との連携による地域からのボランティア参加者の拡大。(3)学校支援センターやボランティアの運営方法改善検討と年間運営計画の立案。(4)運営計画を基にコーディネーターから各ボランティアに依頼・実施する運営形態の確立。(5)ボランティアだより・学校通信・学年通信・HP等を通して、保護者・地域への情報発信や各ボランティア間の情報交換や実践内容の公開等の実施。



ボランティア連絡協議会



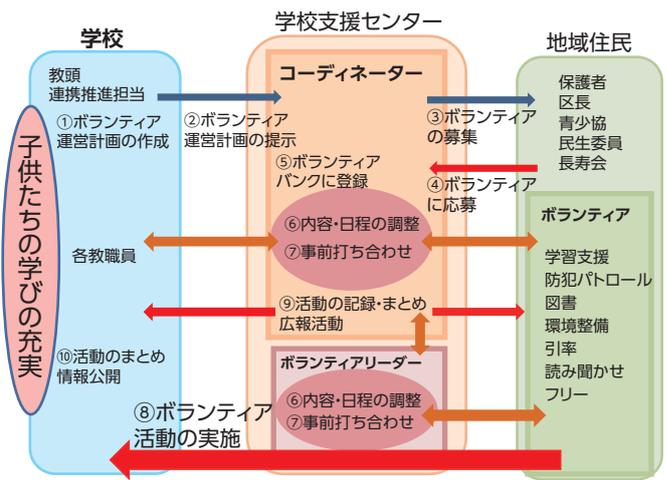
授業にかかわる学習支援
<英語ボランティア>



授業以外の学習支援
<読み聞かせボランティア>



環境支援や地域交流支援
<みどりボランティア>



事業を実施して

地域の力を取り入れた教育活動を展開したことにより、以下のような成果が見られた。児童は、「ボランティアの人を見ると、この学校は安全で楽しいなって思う。」「ていねいに教えてくれるからやる気が出てとてもいい。」等、「地域の子」として見守られている安心感と充実した学びによる満足感を得たようである。ボランティアは、「子どもたちが喜んでくれたときや笑顔を見たときに、大変なことや疲れるような活動でも忘れてしまう。」等、子育てにかかわる充実感を実感できた。また、教員は、「児童へのよりきめ細かな支援が行えるため、学習活動が以前より工夫しやすくなった。」と授業改善への意欲が向上した。このように三者それぞれがメリットを実感できたことにより学校全体が活性化した。

こんな活動です!!

地域の力を学校に!! 地域コーディネーターが繋ぐ学校と地域の教育力。

活動名

沼田市立沼田東小学校
学校支援センター【群馬県沼田市】

関係する学校

沼田市立沼田東小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	148人	21年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

沼田東小学校支援地域本部では、学社連携推進担当教諭や地域コーディネーターが中心となり、学校支援センターの機能を高め、授業支援や遠足の引率補助、登下校の安全見守り、遊具のペンキ塗りや植木の剪定など、学校支援ボランティアを幅広く実施し、教育活動の充実を図っている。また、「子どもに生きた体験をさせたい」という、学校・家庭・地域の願いを受け、地域コーディネーターが主体となり「夏休みわくわく体験活動」を企画実施している。この「夏休みわくわく体験活動」の実施は、地域の企業や元婦人会員、大学生等が講師となるなど、地域全体で子どもを育てる気運を高めている。



気軽に頼める学習支援(書写)



尾瀬小学校の引率補助

特徴

地域コーディネーターが、学校の要望に応じたボランティアを募り、① 授業にかかわる学習支援、② 登下校や校外学習(遠足や尾瀬学校)における安全確保及び環境整備、③ 授業以外の体験活動(夏休みわくわく体験活動)を実施している。また、随時発行している広報紙『学ボラだより』を保護者に配布したり、地域に回覧したりすることにより、地域と学校が連携した活動の紹介やボランティアの募集等を行うなど、学校の学校支援センターを核として、学校と地域が一体となり子どもの「生きる力」の育成が推進されている。

< 1 授業にかかわる学習支援の深化 >

実施の際の留意事項や学校の要望(支援の内容や場面)を細かくボランティアに伝え、学習支援を効果的に行っている。

- ◆ 家庭科の調理実習やミシンの学習において、教師の補助を行う。(例えば、包丁で大根を切る時などの体験の質と量を確保するとともに安全の確保をしている。)
- ◆ 書写(毛筆)においては、個に応じた指導がなされ、児童が満足できる作品を書く補助的な支援がなされている。
- ◆ 国語の単元の一つにある点字の指導なども、専門の方を依頼し個に応じた指導がなされ、児童の習熟の程度に応じた指導補助を行っている。

< 2 子どもの安全確保や環境整備等の支援の多様化 >

多くの目で子どもを見守ったり、様々な環境整備を行ったりしている。

- ◆ 遠足や尾瀬学校などの内容を充実させるため、自然や山に詳しいボランティアを依頼するとともに、ボランティアと職員で事前に下見を行うなど、安全の確保をはじめとして、内容の質的な向上を目指している。
- ◆ 遊具のペンキ塗りやみどりのカーテンの設置など、学校支援センターが主体となって、地域の方に呼びかけ、一緒に作業していただき、学校環境の向上を図っている。



遊具のペンキ塗り(環境整備)

< 3 授業以外の体験活動「夏休みわくわく体験活動」 >

毎年、およそ10の体験活動が地域や地元企業の方々の協力により実施され、子どもたちの豊かな体験と学びの場になっている。

- ◆ 芸術的な体験(地域の有志)
- ◆ 安全や野外活動に関する体験(消防、地域の有志)
- ◆ 地域の企業や店主等による職業体験(銀行、自動車整備工場、茶舗、ANA)
- ◆ 自然観察や科学体験(群馬大学、ニュースポーツクラブ)
- ◆ 食育につながる体験(地域の有志、ガス会社、JA)など



アイディア溢れる体験活動(自動車を構造を知ろう)

事業を実施して

- 地域コーディネーターを中心に、学校支援がより組織的、主体的に行われ、ボランティアの拡充とともに、学校支援センターの機能が上がり、連携内容の評価及び改善が進められ、支援内容の質的な向上が図られている。
- 地域コーディネーターが企画実施している「夏休みわくわく体験活動」により、「子どものために」という共通の視点で、学校と地域が理解し合える関係が築かれてきており、子どもの真の「生きる力」の育成につながっている。
- 地域コーディネーターが学校支援ボランティアを依頼することにより、地域の方が生きがいを感じる場となっている。

こんな活動です!!

地域ので楽しい学び、豊かな体験活動!

活動名

ふじみ野市立西原小学校応援団
【埼玉県ふじみ野市】

関係する学校

ふじみ野市立西原小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	91人	21年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

本学校応援団は西原小児童の健やかな成長を願い、児童がより楽しく意欲的に学習に取り組むように様々な教育活動への支援を目的に、平成21年度から活動している。それは、子どもたちにもっと勉強してほしい、いろいろな体験を経験してほしい、安全な生活を送ってほしいという保護者や地域の方たちの願いが結集したものである。授業での指導補助、遠足や校外学習での安全確保、登下校時の安全確保、学校ファームを活用しての農業体験活動等に力を注ぎ、楽しく学習できる場、貴重な体験ができる場づくりの支援を続けている。

特徴

- 本学校応援団は、学習支援、環境整備、安全確保を主として取り組んできている。特に、環境整備(芝張り)及び学校ファームを活用した農業体験活動(全校でのサツマイモ栽培)では、ボランティアたちの指導や励ましに子どもたちの活動意欲・身近な環境への関心が高まった。
- 芝張りでは、ボランティアが芝生を子どもたちに配布し、子どもたちが芝を置いた後に目土を入れる作業をした。サツマイモの栽培では、苗植えの時に苗を子どもたちに配る、つる返しを行う、収穫の時に畑のマルチシートをはがすといった子どもたちではかなりの時間を費やすところを支援した。結果、時間も教育課程の計画内に収まり、普段土に触れることの少ない子どもたちにとって貴重な体験となった。
- 本校では放課後子ども教室にも取り組んでいる。応援団が子ども教室と連携し、応援団のボランティアが子ども教室のスタッフ(ボランティア)として活躍している。また、応援団は地域とも連携し、地域の行事も積極的に支援している。
- 学校応援団のボランティアが放課後子ども教室のスタッフとして参加することで、お互いの不足しがちな人材を補い、お互いの活動内容を充実したものにしている。



芝の目土入れ

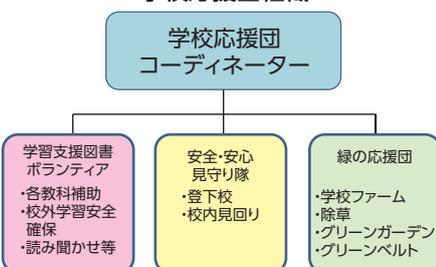


いも掘りのつるきり



学校応援団と放課後子ども教室の連携
(七夕かざり用の竹の切り出し)

学校応援団組織



年間の予定

- 学校応援団会議・・・学期1回程度
- 学校応援団・放課後子ども教室連絡協議会・・・年2回程度
- 読み聞かせ・・・年間20回程度
読み聞かせボランティア会議・・・各学期1回
- 学習支援活動・・・年間15事業
(校外学習補助を含む)
- 緑の応援団・・・芝・サツマイモ栽培補助、除草(随時)
- 安心安全見守り・・・随時
- 校区内地域防犯会議・・・年2回



収穫祭(感謝の集い)

事業を実施して

たくさんのボランティアが西原小を支援することで、子どもたちの学習意欲の高まりを感じた。また、農業の体験活動を通して、仕事の大変さについて理解を深め、食への関心が高まった。子どもたちはボランティアが自分たちのために活動してくれていることへの感謝の気持ちを持ち続けている。参加しているボランティアは、「自分にできることを できるときに できればいいんだ」というスタンスで参加している。自分の特性を生かして参加しているのも、やりがいを感じる人が大勢いることはとても心強く感じている。

こんな活動です!!

学校・家庭・地域が一体となった ふれあい体験学習

活動名

美里町立東児玉小学校応援団
【埼玉県美里町】

関係する学校

美里町立東児玉小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	490人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

昭和43年のPTA正副会長の代から続く「東小会」の支援のもと、学校・家庭・地域が連携した様々なふれあい体験活動を実施している。そのひとつが、5年生の総合的な学習の時間に行われている「餅米作り」である。今から9年前、学校から徒歩5分ほどの所にある休耕田を借り受け、餅米作り学習を始めた。東小会の皆様の指導を受け、苗作りから田植え、水の管理、稲刈りなどの体験を行っている。そして、収穫された餅米で、お世話になった方々を招待し、収穫祭で餅つきを行い、餅を全校児童にもふるまっている。その他にも地域の方々の支援を受け、様々なふれあい体験学習を行っている。

特徴

○5年生・総合的な学習の時間「ライスでGO!」稲作農業体験(学校ファーム)の取組

5年生児童が苗作りから水の管理、田の草取り、稲刈りまでの体験学習をする。収穫した餅米は、学校応援団や地域の方と共に餅つきを行い、全校で収穫の喜びを味わっている。5月から11月までの餅米作り学習で東小会・各種支援ボランティアの学校応援団をはじめ、農業に携わる地域の方々、保護者、PTA役員に指導・協力をいただき、食べ物の生産や命の大切さを学ぶ学習を実施している。学校・家庭・地域との「絆」を深めるための本校の代表的な活動となっている。

○2年生・生活科「かかし作り」や5年生・「親子布ぞうり作り」の取組

前年度5年生が稲作で作った「わら」を使って、2年生が「学校ファーム」に立てる「かかし」を製作する。学校応援団でもある「東児玉老人クラブ」の支援をいただき、10～12体の「かかし」を製作し、学校ファームに設置する。

5年生は、親子ふれあい学習(土曜日を活用した親子学習)の際に、学校応援団・布ぞうりクラブの支援を受け、親子で布ぞうりを作りふれあい体験学習を実施している。

○1年生・生活科学習での「昔遊びの会」の取組

1年生が東児玉老人クラブの方と、昔からの伝統的な遊び道具を作成する。そして、子どもたちと東児玉老人クラブの方が一緒に遊ぶふれあい体験学習を実施している。老人クラブの責任者と教職員の打ち合わせを事前に持つ中で、活動の積み重ねがあるため、例年の活動の踏襲ではなく、老人クラブの方からもより充実した体験学習になるような提案もあり、子どもの実態に合った楽しい学習を実施している。

○4年生・総合的な学習の時間による車椅子・車椅子バスケットボール体験学習の取組

4年生の総合的な学習の時間「障害のある方と共に生きる」の中で、学校応援団や脊髄損傷協会の支援を受け、パラリンピックなどで数多く活躍している全国脊髄損傷者連合会埼玉県支部長佐久間先生を講師として迎え、学習を進めた。講演を聴いたり、実際に車椅子の操作や車椅子バスケットボールの体験学習を行っている。



稲刈り体験



布ぞうり作り体験



車椅子体験

事業を実施して

- 畑に囲まれた農村部の学校であるが、子どもたちも教職員もほとんど農業体験がない。そういう中で、学校応援団の支援により農業体験活動を通して食育学習ができた。
- 学習支援ボランティアにより、子どもたちが住んでいる町のよさや文化にふれ、ふるさとを愛する気持ちが育っている。
- 年代や立場を越えた多くの方々とのふれあいで、感謝の心や思いやりの心が育まれている。また、学校応援団や学習支援ボランティアも子どもたちとふれあうことによって、「子どもたちから『元気』をもらっている」との声を頂いている。

こんな活動です!!

多様な学校支援活動と年間を通じた活動による学校を支える地域づくり

活動名

国府台小学校 学校支援地域本部
【千葉県市川市】

関係する学校

市川市立国府台小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	387人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	1人	1日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		1年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	1人	1人	1学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

市川市では、平成15年度より各小・中学校区にコミュニティサポート委員会を設置し、学校を含め子どもにかかわる諸団体(学習支援クラブ、PTA、自治会、子ども会、民生児童委員、青少年相談員、コミュニティクラブ、読み聞かせ団体など)が集まり、連携・協力するために情報交換や協議を行っている。この会議の場では、学校教育支援活動や学校外教育支援、地域社会づくりが話し合われている。平成20年度からは学校支援地域本部を取入れ、学校教育支援を充実させてきた。平成22年度の国府台小学校では、学習支援として、講師や学習補助(22回延104人)、読み聞かせ(115回延175人)、青色防犯パトロール(30回延70人)、交通安全(120回延600人)、デイサービスとの交流等(21回延420人)、クラブ活動(10回延80人)などの分野で地域住民が協力している。

特徴

地域による支援活動の効果が、学校教育の充実だけではなく、「地域コミュニティづくり」を実現している。

- ① 多種多様な学校支援活動…学習支援、学校行事支援(ふれあい祭り等)、学校環境整備支援、児童の安全確保のための支援など、地域住民がかかわっている学校支援活動として幅広い領域の活動が行われている。このため地域支援者の特徴や特技を活かしながらボランティアを募ることができ、児童のニーズに合った支援の実現はもとより、多くの地域住民が学校に集う機会を得ることができる。
- ② 活発かつ継続性のある学校支援活動…花ボランティア、読み聞かせ活動、登下校指導、安全パトロールなど、年間を通じて活発かつ継続的に行われているものが多い。継続的な学校支援活動は、地域住民と学校・児童との交流を深め、コミュニティの広がりを進めることができる。



学区にある梨農家は、厚意により、受粉、摘果、袋かけ、収穫の見学や体験を年間を通して受け入れている。



保護者や地域の方々が、定期的に学校の花壇の手入れをしている。児童の委員会があるときにも、一緒に活動している。



読み聞かせの団体がお昼休みに読み聞かせや人形劇などを定期的に行っている。また、朝の時間帯を利用して教室での読み聞かせもしている。

事業を実施して

児童の学習意欲が高まると同時に、児童を支えるさまざまな地域住民や団体の姿勢が、児童の豊かな心を育てている。地域住民としても、学校で児童にかかわる事で自己肯定感を持てたり、さらにレベルの高い知識を得ようと生涯学習意欲が促進されている。また、学校支援を通して地域住民のつながりがさらに深まり、地域コミュニティ構築に役立っている。

こんな活動です!!

地域と学校とが手を取り合って、未来に輝く 実住っ子を育むための子育て戦略!

活動名

育て!実住っ子応援プロジェクト実行委員会
【千葉県八街市】

関係する学校

八街市立実住小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	241人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

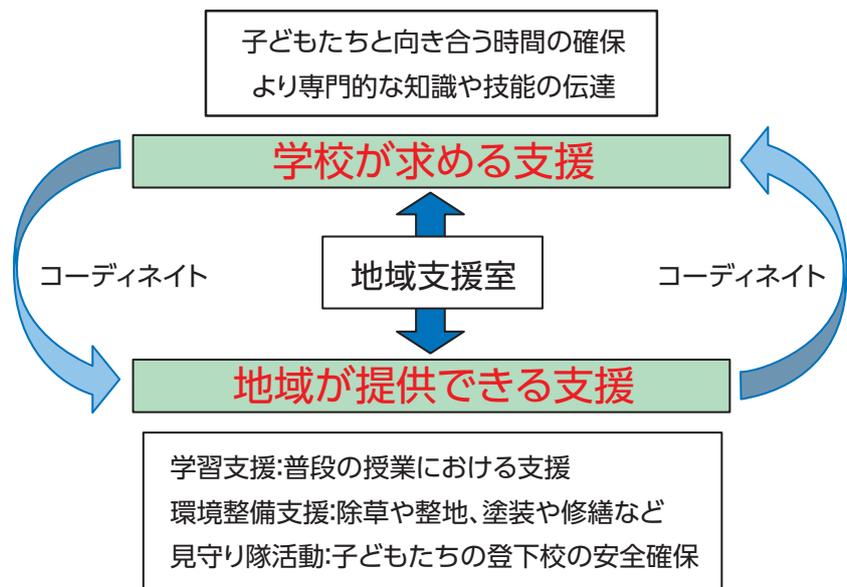
平成15年度より、学校の依頼に応じて、保護者や地域住民が学校の教育活動(現在の「見守り隊」や「学習支援」の前身となる活動等)の支援にかかわってきた。本活動は、これらの実績を生かし、学校支援地域本部事業に結びつけたものである。地域コーディネーターと学校とが連携を図りながら、主に以下の活動について、地域の支援を教育活動に生かしている。

- 学習支援活動…算数(担当教諭の支援及び個別指導の充実)(240回延240人)、家庭科(担当教諭の支援及びグループ活動の指導等を援助)(12回延86人)
- 見守り隊活動…約150名のボランティアが、児童の登下校の見守り活動を実施。(225回延10,350人)
- 環境整備支援活動…図書関係の掲示物や廊下等の季節感あふれる掲示作品を作成したり、植栽や修繕等の活動を実施。(17回延34人)
- 実住っ子塾の運営…ワークやふるさと学習(「やちまたレンジャー」)や体験教室(陶芸や藍染教室)を長期休業期間中に実施。(25回延119人)

特徴

<具体的な活動の指針 ~継続性を強めるために~>

- 無理な計画をしない。
- 子どものためにという視点で動く。
- 地域の人も楽しく参加できることを大切にする。
- 学校の意見を取り入れることを大切にする。



見守り隊の活動



実住っ子塾



学習支援

事業を実施して

<成果>

- ・ 地域に開かれた学校づくりの推進が図られた。→ 地域の教育力の向上につながっている。
- ・ 地域の人とのかかわりを通して、子どもたちのコミュニケーション能力の向上が図られた。
- ・ ある地域ボランティアの声「子どもたちが、イキイキと輝いていけるお手伝いができればうれしいです。」

こんな活動です!!

地元の子どもを育てます！ 地域のおやじ(大人)が学校支援！！

活動名

睦岡小学校支援地域本部【千葉県山武市】

関係する学校

山武市立睦岡小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	285人	21年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

自主的な学校支援組織「おやじの会」をベースに平成21年度に睦岡小学校支援地域本部が結成され、地域を挙げて学校を支援する様々な取組を行っている。

- ・読み聞かせ活動(15回延べ240人)
- ・学習支援活動(28回延べ441人)
- ・見守り隊活動(199回延べ3,100人)
- ・広報支援活動(行事写真撮影等)
- ・環境整備活動(5回延べ85人)
- ・体験活動支援・・・「さんぶの森でキャンプ」を1泊2日で開催(4年生以上を対象とし約40名参加、支援ボランティア延べ55名)

特徴

睦岡小学校は平成7年頃より、保護者及び教職員による学校後援組織「おやじの会」が結成され、地域や保護者の父親たちによる学校支援が活発的である。その経緯より、「おやじの会」をベースに睦岡小学校支援地域本部が立ちあげられた。「地域の子どもは地域の大人が育てる」をモットーに地域・学校・行政との連携がとれた活動を実践している。また、睦岡小「おやじの会」の活動に刺激を受け、近隣の小中学校に広がりを見せ常に地域をリードする役割も果たしている。



さんぶの森でキャンプ



太巻き寿司支援



読み聞かせ活動

事業を実施して

学校支援地域本部活動が、地域の人たちに浸透し高齢者から子どもまでの幅広い交流が盛んに行われ、子ども達からは「いろいろな体験ができて楽しい!」、地域の大人達からは「自分達が見守る事で子ども達が元気に明るく笑ってくれるのが一番」と学校を通して幅広い繋がりができている。

こんな活動です!!

学校と地域との 双方向性を重視した教育活動

活動名

杉並区立井草中学校【東京都杉並区】

関係する学校

杉並区立井草中学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	○	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	80人	18年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	1人	1日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		1年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H19.4.1	11人	398人	14学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成17年度よりPTAのOBやおやじの会など地域の人が中心となり生徒の学習支援・体験活動支援を開始。翌年には放課後の居場所の開設や地域の人をゲストティーチャーとした授業を開始した。

平成19年度に地域運営学校として指定された。学校運営協議会の活動目標のひとつ「地域・家庭・学校の情報を共有し、地域づくりできる人材育成」を決め、町会・商店会等との交流を深めている。

平成21年度には学級サポーター(愛称コミ担)制度を創り、教員とともに地域ぐるみで生徒を育てている。

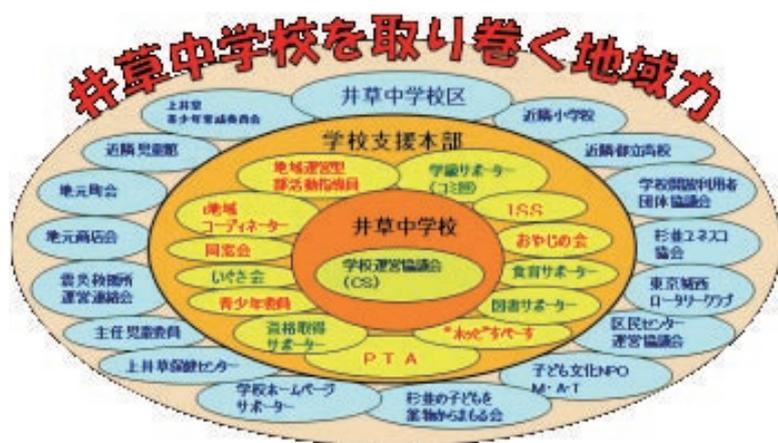
特徴

学期に1回、学校運営協議会委員・学校支援本部員・PTA役員・教員が集まり、ひとつのテーマについて話し合う交流研修会を実施。研修会とあわせて昼食会を行うことで、各団体の委員と教員との交流や相互理解が深まっている。

学級サポーター(愛称コミ担)は学校運営協議会委員・学校支援本部員等がなっているため、学校・生徒の実情を把握した上での会議や支援を行っている。

学級サポーター(愛称コミ担)は、縦割り学級に7~8人配置した学級の応援団、保護者の家庭教育アドバイザーとして活動。また、運動会等での応援・道徳等のゲストティーチャー・日常の授業参加なども行っている。学校行事への参加はメールを使用して行事の予定の連絡をおこなっている。

地域の人が主体となって活動するISS(井草サバイバルスピリッツ)は地域運営型部活動で、地域イベントへの参加やボランティア活動など豊かな体験活動を行っている。



学校=学校運営協議会(CS)=学校支援本部がイコールパートナーとして活動



小学生へのレスキュー指導



学級サポーター(コミ担)

事業を実施して

地域の人は、学校に来て生徒にふれ合うことで、学校とともに子ども達を育てようという機運が生まれた。また、学校教育の理解者となり、主体的に生きがいを持って学校教育を支援してくれるようになった。

中学生は、地域行事に参加するようになり、地域に愛着を持つ生徒に育つようになった。地域の活力もでてくると感謝されている。中学生を介して学校と地域との結びつきが強まった。

こんな活動です!!

コミュニティが育てる 子どもの夢が広がる 学校 —地域と共に歩む学校づくり—

活動名

小平市立小平第六小学校【東京都小平市】

関係する学校

小平市立小平第六小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	○	—

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	12人	180人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	13人	87人	132日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	図書室、和室、多目的室、校庭等	19年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H19.4.1	13人	566人	18学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

保護者や地域住民の意向を適切に反映させ、学校経営協議会を中心にコーディネーター部会、各ボランティア組織、地域の各種機関・団体との連携により、学校づくりを進めている。平成23年度の主な活動は、ふれあいパトロール(朝の見守り)・学習支援ボランティア(各教科支援)・図書ボランティア(図書室整備・読み聞かせ)・おやじの会(ペットボトルロケット飛ばし・流しそうめん大会)・ふれあいマンデー(毎週月曜日 地域の方々とのふれあい活動)・クラブ活動ボランティア(クラブ活動支援)等であり、毎年約5000人の方々から支援いただいている。

特徴

〈活動内容を継続・定着させるための工夫〉

特徴的なのは、単発のボランティア活動ではなく、年間を通して、毎年改善しながら継続的に行われていること。それは、学校経営協議会による評価・支援体制や実際にボランティアを束ねるコーディネーター部会による活動が大きい。コーディネーター部会は、ボランティア養成講座を毎年開催し、ボランティアの心得等啓発、その組織維持・継続を図るため、教職員との交流会等計画的に行っている。

〈地域の各種機関・団体との連携協力〉

単にゲストティーチャーではなく、地域の方の願い・教師の思いをすり合わせながら一緒に授業をつくり出したり、よりダイナミックに展開したりということが可能になった。例えば、各商店会の協力により、地域の方々とのふれあいを大切にした「お店番体験(3年)」、地域に伝わる糰うどんを地域の方々のご助力で、小麦の栽培からうどんづくりまで学習する「小麦から食へ(4年)」、農業・酪農・林業等9つのテーマから選択し、八ヶ岳と小平の地域の方々から学ぶ「マイチャレンジ学習(6年)」など地域の総合力で生まれた活動であり、継続されている。

〈多様な活動内容〉

- 早稲田大学竹中研究室(健康な身体づくり コダイラスロン共同開発)
- 白梅学園大学(学生ボランティア 授業支援)
- 株式会社ブリヂストン東京工場(社会科見学 ビオトープ造成)
- 六小地区青少対(スポーツまつりやほほえみコンサート等)
- 社会福祉協議会ボランティアセンター(福祉体験)
- 浅見農園 ○ 加藤農園 (学童農園 栽培体験)

〈その他の特徴〉

学校広報を重視し、保護者や地域住民への情報発信(各種便り・ホームページ等)を積極的に行っている。

- 全日本小学校ホームページ大賞東京都最優秀賞(平成20～23年度の4年連続)



ボランティア交流会(コーディネーター主催)



流しそうめん大会(おやじの会主催)



石臼粉ひき体験(小麦の会支援)

事業を実施して

- 各ボランティアがいるから、充実した体験活動、人々とのふれあい、興味・関心・意欲の向上が図られている。
- 放課後、休日の児童の活動の場が増え、地域ぐるみで子どもを育てる意識が高まっている。
- 地域の方々とのふだんからの交流・ふれあいが、多くの子どもに地域活動への興味・関心また参加へつながっている。
- 多くの目と心と知恵で豊かな学びを創造することがコーディネーターやボランティアの生きがい・やりがいとなり、地域全体の活性化へつながっている。

こんな活動です!!

野菜も活動も大豊作 — 様々な支援活動の展開 —

活動名

木根川小学校学校地域応援団
【東京都葛飾区】

関係する学校

葛飾区立木根川小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	200人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成15年から、保護者が、学習支援・水泳指導・図書館のボランティアとして活動する組織がつけられていたこともあり、学校地域応援団事業のモデル校として事業が始まった。これまでの事業を継続しながらも、保護者による朝学習の見守り、授業中のドリル学習の丸つけ補助、図書ボランティアによる読み聞かせ、図書館の整備等の支援活動が展開し続けている。また、新たに広く地域の人材を求め、地域の方が畑づくり・田んぼづくり、地域の歴史を学ぶ授業(ゲストティーチャー)、水泳指導、エコキャップの回収・講演会が行われている。

特徴

平成22年度から始めた畑づくりは、地域住民の農業経験者がすぐに協力してくれるとともに、草取りや水やりにも保護者や児童も積極的に参加するなど、協力体制が築かれている。また、草取りや水やり時に、保護者同士、地域の方と保護者が児童の成長や子育てについて話し合うなど交流することで、家庭の教育力向上についての効果も見られ始めている。さらに、学校の教育環境の改善・充実についてのアイデアが、地域や保護者の中からも出てくるなど、学校を支える意識の高まりが見られる。平成23年度は、創立60周年であり環境整備等に積極的に協力した。

○ 円滑な学校と地域コーディネーターとの連携

年2回の地域教育協議会のほかに、毎月1回、学校長、副校長、地域コーディネーター、PTA会長、保護者をメンバーとする運営会議を実施することで、学校の要望が、地域コーディネーターによく理解されている。また、運営会議のメンバーとコーディネーターが、連携を密にすることによって、常に情報交換が行われ、地域コーディネーターのサポートになっている。さらに、職員室内に、地域コーディネーターが設置した連絡ボードを活用することで、教職員との連携が密になり、教職員の要望が理解されやすい仕組みを作っている。

○ 多数のボランティアが活動に参加

年度当初に、保護者にボランティア登録を行い、人材を確保している。また、広報誌「木根っ子新聞」を発行し、保護者や地域に支援活動を知らせるとともに、活動への参加を募っている。結果として、平成22年度のボランティア参加者は、のべ約2700名であった。

運営委員会は、PTA役員・学区内町内会長などで構成されている。活動に対する委員の理解・関心も高く、町内会による助成制度など、地域が一体となって活動の継続を支援している。

○ コーディネーターのサポート体制の確立

学校と地域コーディネーターとの連携を密にしながら、発想豊かに様々な学校教育への支援事業を実施している。また、コーディネーターの業務を5人で分担し、事業の継続性もふまえた運営をしている。



木根っ子新聞(畑活動特集号)



キッピー



連絡ボード



算数の丸つけ



60周年の準備(花植え)

事業を実施して

木根っ子村を開設し共に作業体験をする中で、子どもたちは、町の中で普段接している地域住民(お年寄り)に素晴らしい知恵を持っていることが分かり、自然と「畑の先生」と呼び、その技術を学ぶ姿が見られている。また、保護者も一緒に作業を行う中で農業に関わる話を多く聞き、ただ手伝うだけでなく意味を考えて行うようになってきた。指導者も、他の仲間から色々な知識を得る努力をし、子どもや保護者に教えている。農作業体験を通して、子ども、保護者、地域の方の交流が深まるとともに、新たな学びの機会となってきている。

こんな活動です!!

コーディネーターの力を活用し、地域ぐるみで子どもたちを育てる

活動名

学校支援・地域連携事業
【神奈川県茅ヶ崎市】

関係する学校

茅ヶ崎市立萩園中学校、汐見台小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	—	—	○

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	4人	2,692人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	—人	—人	—日	—
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	—		—年度	—
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成20年度より文部科学省の委託事業で、円蔵中学校・円蔵小学校・室田小学校の3校で取り組んだ「学校支援地域本部事業」の成果と課題を検証し、平成23年度から茅ヶ崎市独自の事業として「学校支援・地域連携事業」を立ち上げ、萩園中学校、汐見台小学校をモデル校として試行している。

この事業は、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもたちを育てることを目的とし、地域が学校の教育活動等に協力する体制や取組についての研究を進めていくものである。学校長が地域コーディネーターを推薦(5名以内)し、教育委員会が委嘱する。地域コーディネーターは、学校の要望やニーズに応じて、校内コーディネーターや学校支援ボランティアとの連絡・調整を行う。

特徴

〈平成22年度まで取り組んだ「学校支援地域本部事業」における主な活動内容〉

- 学習における支援
- 学校行事における支援
- 環境整備における支援
- 登下校時の子どもの安全確保の支援
- 三校合同事業「地域安全マップづくり」

〈平成23年度から取組を始めた「学校支援・地域連携事業」のポイント〉

- ・「校内コーディネーター」と学校長が推薦(5名以内)し、教育委員会が委嘱した「地域コーディネーター」を各学校に配置する。
- ・校内コーディネーターは、学校の要望やニーズをとりまとめ、地域コーディネーターとの連絡・調整を行う。
- ・地域コーディネーターは、顔の見える関係を大切にしながら、学校のニーズに応えられる学校支援ボランティアを学校につなげていく。
- ・地域コーディネーターは学校支援・地域連携事業の核となる存在であり、地域コーディネーターが効果的に機能することで、事業がより活性化される。



平成22年度学校支援地域本部事業
「水墨画の体験」



平成22年度学校支援地域本部事業 「クリーンボランティア活動」



平成22年度学校支援地域本部事業
「裁縫の授業」

事業を実施して

- ・各学校に地域コーディネーターを配置することにより、学校の多様なニーズに対して、地域の力を最大限に生かした効果的な学校支援を行うことが可能となり、より充実した教育活動を実現させることができています。
- ・地域コーディネーターと校内コーディネーターとの連携が円滑になり、学校支援ボランティアの人材確保や学校支援ボランティア間の連絡・調整をスムーズに進めることができるシステムが構築されてきています。
- ・平成22年度まで「学校支援地域本部事業」として取り組んだ円蔵小学校においては、校内コーディネーターと地域コーディネーターを配置した取組を平成23年度も継続して行っている。

こんな活動です!!

スクールボランティアでつながる地域連携

活動名

小田原市立鴨宮中学校区
学校支援地域本部事業【神奈川県小田原市】

関係する学校

小田原市立鴨宮中学校、下府中小学校、矢作小学校、豊川小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	7人	740人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	1人	1日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		1年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	1人	1人	1学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

小田原市では地域一体教育と幼保・小・中一体教育の融合を推進しており、鴨宮中学校区においては教育活動における様々な実践研究について、地域内の小中学校が連携して取り組んできた。また、地域の特性を生かした様々な方法により、地域の人材や教育力を学校教育への支援として活用してきた。

そのような状況の中、平成20年度から「学校支援地域本部事業」の委託を受け、先に述べた鴨宮中学校区における研究への取組やこれまでの地域教育力の活用について、より一層の推進を図った。

特徴

<特徴的な活動内容>

◎ 鴨宮地区における一体教育の推進

幼稚園・小学校・中学校が交流・連携していくことが相互の学校支援に繋がると考え、子どもの教育を11年間のスパンで捉え、『鴨宮地区のめざす児童・生徒像』と『鴨宮の幼・小・中6つのめあて』を設定した。また、その実現のため、平成22年度には『鴨宮地区における一体教育推進計画』を策定し、「鴨宮中学校区一体教育推進委員会」を中心に4つの研究部とその下に11の分科会を組織し、各小・中学校の全教職員がいずれかの分科会に所属することで、小・中学校における教育活動の様々な課題を総合的にとらえた連携に取り組んでいる。

◎ 鴨宮中学校区スクールボランティアコーディネーター連絡会の開催

校区内のコーディネーターが情報を交流することで、自分たちの活動の自信に繋がったり、不足を補ったりすることができた。また、スクールボランティアの共有化が図られ、地域の人材や教育力が学校教育の支援として、より効果的に活用されるようになった。

◆ 開催回数

平成21年度から始まり、年2～3回継続して開催している。

『鴨宮地区のめざす児童・生徒像』

- ① 相手を思いやり、あたたかい心を持った子
- ② 友だちとともに進んで学び、学ぶ楽しさを知る子
- ③ さわやかな生活をし、健康で運動大好きな子
- ④ 何事もねばり強く取組む、たくましい子

『鴨宮の幼・小・中6つのめあて』

- ① 明るくさわやかにあいさつができる
- ② 学習に集中することができる
- ③ 話を聞き、自分の言葉で伝えることができる
- ④ 骨身を惜しまず清掃ができる
- ⑤ 学習習慣を身につけることができる
- ⑥ 継続的に体を動かし、遊びや運動ができる



美化ボランティアによる柵づくり



学習ボランティアによる家庭科指導補助

事業を実施して

学校支援地域本部を一つの核として、地域一体教育と幼保・小・中一体教育の融合に向け、計画的に取り組むことができた。その中で、スクールボランティアコーディネーターが創意工夫した活動を行い、地域の様々な世代の方のボランティア活動をコーディネートした。また、小学校の教員が中学校のサマースクールに参加したり、中学校の教員が小学生に授業をしたり、中学生が小学校や幼稚園の行事にボランティアに行ったりするなど、スクールボランティアの共有だけでなく、学校間での交流も進めることができた。

こんな活動です!!

教育コーディネーターを中心にした学校の応援団づくり

活動名

見附市「共創郷育」事業
(田井小学校学校支援地域本部)【新潟県見附市】

関係する学校

見附市立田井小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	3人	101人	18年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

地域と学校とが一体となって児童・生徒を育てる新たなシステムを構築し、各学校や地域のもっている「教育資源(ひと・もの・地域の声)」の有効活用を図り、教育の質を向上させ、効果を上げることを目指した。

- ①図書館ボランティア「虹のかけはし隊」による学校図書館サポート
- ②地域の伝統文化の発掘と継承
- ③学校支援サイト「エプロン特派員」への情報投稿と虹のかけはし隊通信「レインボー通信」の発行、全保護者及び町内回覧
- ④年間を通じた学習支援の実施(校外学習の補助等)
- ⑤教育コーディネーターによる関係団体等との連携、協力を重視した取組(PTAとの共催事業の開催等)

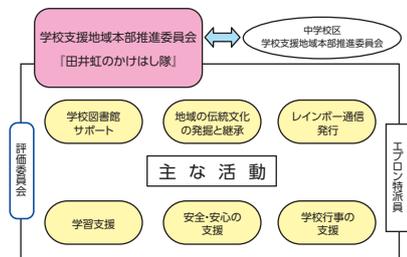
特徴

【組織・手法における特色】

- 3名の教育コーディネーターを配置して、それぞれの立場や得意分野を生かした活動を推進。地域の教育資源の発掘や関係機関との連携や共催事業への積極的な関わりなどを展開。学校情報の発信など、多面的に活動していただく。
- 学校支援地域本部推進委員会を毎月開催。活動計画の立案、審議、反省、情報交換を活発に行う。
- 地区公民館、コミュニティセンター、市立図書館など、幅広い「学校応援団づくり」を推進。

【活動内容の深化・多様化】

- 教育コーディネーターが、関係団体等との連携の窓口となり、多様な教育活動の場を提供。特に、公民館、地区コミュニティ、市立図書館との共催事業が活発に展開。夏休みの「わくわく体験塾」も教育コーディネーターを中心に、学校支援地域本部が全面的に協力体制を組んで実施。
- 地域において体験活動に活用できる場や協力していただける方々、団体等の情報が蓄積され、有効な教育資源として一覧化。
- 学校図書館を地域に開放。図書の見つけ方やブックトークにおいて指導、助言をいただく。
- 学校支援地域本部の会において、中学校区との連携を進める。
- 春夏秋冬、季節感ある図書館環境整備の効果により、子どもの読書量、特に家での読書量が年々増えている。これが国語力の向上にもつながってきている。
- 定期的に読み聞かせ活動も継続実施。
- 地区コミュニティ主催の敬老会での太鼓演奏を披露。地域行事への参加、地域環境整備活動への参加など教育活動のステージが学校の中から地域全体へと広がりを見せて、子どもの意欲も高まる。



虹のかけはし隊図書館整備



敬老会でのみつば太鼓披露

事業を実施して

【成果・地域の声】

- 地域の教育資源の活用や地域の方々に見守られての教育活動、交流活動により学習内容や活動の質が大きく向上。
- 地域、保護者の目線からの情報発信により学校の取組や子どもの様子が幅広く公開され、学校の信頼感を大きく高めた。
- 学校の手助けをしたい、子どもとの交流で元気をもらえた、楽しみが広がった、という肯定的な意見が多数寄せられている。

活動名

符津小学校支援地域本部【石川県小松市】

関係する学校

小松市立符津小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	115人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

学校・家庭・地域社会が連携・協働して、子ども達の「生きる力」の育成を図ることを目的に、平成11年度より取り組んできた地域との協力について、平成20年度の指定を機に組織の再構築と支援のねらいをより鮮明にした。

地域の様々な大人が学校教育活動に関わることにより、子ども達に多様な体験・経験の機会を増やし、子ども達の規範意識やコミュニケーション能力の向上を図る。地域の教育力の学校教育への導入を進める「開かれた学校づくり」を進める。



田植え



地域の名人のお話を聞く



クラブの講師に感謝の手紙

特徴

《特徴的な活動・内容》

- 25名以上の地域の先生に支えられているクラブ活動
毎年4～6年生約160名に12講座を開設。最終日は、全校及び保護者・地域の方を招いて発表会を行う。
手話クラブは、毎年夏に開催される、障害者の「ふれあい運動会」の手話コーラスに参加。
- 親子ふれあい体験学習
地域に講師を依頼し、全校児童・全校保護者約600名を20程の講座に分けた体験学習会。
- 田・畑の体験学習
複数の地域の協力者より、畑・田・合鴨をお借りし、田では、JAの協力の下、合鴨農法による米づくり体験に取り組み、最後には地域の協力者を交え、収穫米で感謝の会を行っている。
又、畑では3年～6年までの理科・総合での作物栽培を行っている。
さらに、3年生は、地域協力者の育てたそばを、刈り取り・脱穀・そば打ちを経験し、協力者全員を招いてそば会食を行っている。
- 授業等へのゲストティーチャー
 - ・地域(木場潟)の歴史学習の先生(4年)。
 - ・地域の名人探しで、校区の名人にインタビューを行い、校内で発表する(3年)。
 - ・初めて習字書写に、姿勢・持ち方・書き方の指導及び書き初めの指導を6時間ほどして頂く(3年)。
 - ・朝読書の時間に図書ボランティア10名の方による読み聞かせを全学年で行っている。また、地域の英語の堪能な協力者に、英語の絵本を英語で読み聞かせて頂いている。(1～4年)。
- 地域の方による環境支援
 - ・見守り隊として児童の登下校を中心に、声かけ等で見守って下さっている。
 - ・校舎内の修理、校舎周りの樹木の剪定及び校地内の樹木の消毒に、校区内の建設業者、庭師及び町内会長の方々が率先して、無償で協力して頂いている。
- 地域への発信
 - ・校区駅前朝市への出店(6年生の手作りクッキー等)。
 - ・校区の商工祭や公民館行事へのプラスバンドの出張演奏。
 - ・校内行事への案内、参加呼びかけ。

《実践にあたっての工夫》

- ① 授業計画、活動・体験計画等は全学年を系統的・組織的に綿密に立案する。
- ② 授業や体験活動のねらいを達成するために、外部指導者の指導場面と内容について、事前に綿密に打合せしておく。
- ③ クラブ活動や、親子ふれあい体験学習等、多くの協力者が必要な行事については、年度末に来期をお願いをすると共に、新しい講師を紹介していただくなど、協力者の充実と広がりを図る。

事業を実施して

20年度に事業を受けて、地域からの協力は更に強くなり、以前にも増して多くの人材が学校のために協力していただけるようになった。児童も、知らなかったことが、地域の先生のおかげで、できる・わかるようになったと、実感している。また、地域の指導者の方からは、児童の上達が素晴らしく、学校に来るのが楽しみという御意見をいただいた。さらに、校区内の行事等に教育の一環として積極的に参加し、学校から地域へのベクトルの強化を図っている。今後も、地域に活力をもたらす交流、融合を工夫していきたい。

こんな活動です!!

子どもは村の宝! 先生は村の人・もの・自然 すべて! 小菅村課外授業

活動名

小菅小・中学校 小菅人を育む会
【山梨県小菅村】

関係する学校

小菅村立小菅小・中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	27人	12年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

山梨県の東部、東京都との県境にある小菅村は人口800名程の小規模村です。そのため村には学習塾や児童館などがなく、交通の便も含め恵まれた環境ではありません。また一学年10名以下の小規模学級の中で近所に同年代の友達が少なく、家の中で遊ぶ子どもが多い傾向にありました。こういった状況と学校週5日制が導入される際にその受け皿づくりを投げかけた村民を中心に平成12年に「小菅人を育む会」が生まれました。会の目的は理想的な小菅人の育成であり、それを「公德心の持てる人」「思いやりのある人」「互いに個性を認め合える人」「小菅村に誇りを持てる人」としています。その上で大人の自由な発想のもと子供たちのために小菅村の自然と地域を生かした冬山散策、きこり体験、川遊びなどの自然体験や、神楽、獅子舞、文化祭などの文化活動を年間を通して行っています。

特徴

<活動内容>

委員は1期3年で小菅村住民有志(30代～60代男女)と小菅小中学校の教員、計20数名が勤めています。平成23年現在で会が発足し12年目となっており、これまでに約100名程の村民が委員として会へ携わっています。活動内容に当たっては、小菅村内をフィールドにし、小菅村の豊かな自然の中で郷土の四季を満喫できる野外活動や文化・芸術活動を学校側の意見を取り入れながら企画・実行しています。

<これまで行った活動例>

☆足あとウォッチング

→ 冬山を散策しながら、雪の上の足あとから山に生息する動物の生態を学びます。足あとの解説は会の委員や地元猟友会の皆さんが行いました。最後には猟友会よりイノシシ鍋の差し入れもありました。

☆ソバ打ち教室

→ 地元の高齢者に講師をお願いし、村の名産品であるソバ打ちに挑戦しました。他にも…

☆きこり体験 ☆川遊び ☆祭典神楽・獅子舞練習見学会 ☆ナイトウォッチング
☆学校へ泊ろう ☆ミニ文化祭・ミニコンサート などの体験事業を行ってきました。

<活動にあたってのポイント>

1. 地域の良さを再発見する

委員の知っている地域の良さや昔よく体験したことなどを掘り起こしながら、どんな体験を子どもたちにさせてあげたいか話し合うことで、村ならではの生きた体験事業を行うように心がけている。

2. 地域・学校との連携強化

村の広報誌や青少年育成関係会議などで会の活動を周知することによって、より多くの住民が関わるような仕組みづくりをしている。また同時にそういった場を活用することで学校と地域の関係が強化され、お互いに協力し合える関係の構築を目指している。



足あとウォッチングの様子



ソバ打ち教室の様子

事業を実施して

体験活動のフィールドを村内の様々な地区や場所に設定することで、子供同士がお互いに住む地域の良さを認め合える傾向が出てきたり、同様に大人たちもそれぞれが持つ得意分野において指導者となることで地域の良さを再発見したり、地域間連携や地域の教育力向上につながったりと当初の目的以上の成果を上げている。

「子どもは村の宝」を合言葉に村一丸となって子どもたちを育てる雰囲気がより高まったように感じる。

こんな活動です!!

地域をあげて参画! 地域の子どもを地域のみんなで見守り育てる。

活動名

相川っ子見守り隊【山梨県甲府市】

関係する学校

甲府市立相川小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティ・スクール	その他
○	-	-	○

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	121人	16年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

子どもたちの安全確保のために、下校時に自治会をはじめとした地域の各種団体・関係者が通学路の要所に立ち、見守り活動を行っている。あいさつを交わしたり声かけを行うことで、なごやかなふれあいのひとときとなっている。総合的な学習の時間での「小正月行事」では、地域の伝統行事であるまゆ玉や柳・お帳屋づくり、そしてどんど焼き等の活動を地域住民と子どもたちが一体となって行っている。また道徳の地域公開授業に地域の方々に参加する等、地域のみんなで見守り育てる。

特徴

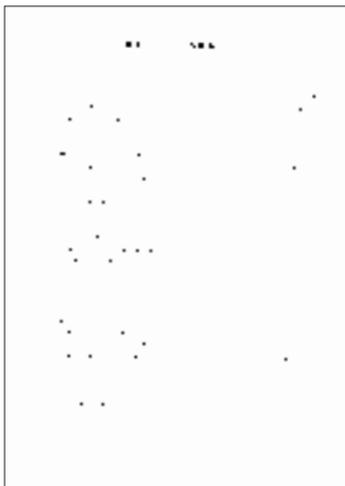
子ども 学校 地域の絆——市街を見下ろす山裾にある相川地区は、以前は田畑が多かったが、今は住宅街が広がり文教地区でもある。ふるさとへの愛着や誇りをもって人々は暮らし、地域をあげて温かい協力や支援を学校に寄せている。下校時の児童の安全確保には平成16年から、総合的な学習の時間における小正月の行事は20年以上支援を続けている。また3.11の地震以後、子どもたちが同じ名前の石巻の相川小に学用品やメッセージを送る活動を始めると地域の方々もともに支援の輪を広げた。お互い呼応するかのような絆を感じる。

大勢のみなさんが参加 その仕組みは——相川地区自治会連合会が中心になり、15単位自治会、地区青少年育成協議会、老人クラブ、地域福祉活動推進委員会、食生活改善推進協議会、消防団相川分団、女性部連絡協議会、体育協会、文化協会、堂を守る会、社会福祉協議会、民生児童委員、女性市民会議OGの12団体が協力して当番制で見守り活動を行っている。あわせてスクールガード・地域防犯アドバイザー(警察OB)・愛キャッチ(男性パトロール隊)・愛レディス(女性パトロール隊)のみなさんがほとんど毎日のように見回り活動を継続されている。このように地域の多くの方が参加することにより、短時間の活動で成果を上げている。

効果的な運営のために——教頭(コーディネーター①)は学校行事や下校時刻を示す予定表を自治会連合会事務局長(コーディネーター②)に送付。コーディネーター②は毎日2自治会、1団体ごとに当番を決め、その割り当て表を月1回の自治連定期会にて配布している。

活動の深化のために——市主催のスクールガード講習会に各種団体リーダーを中心に参加し、情報把握に努め、安全確保に向けて学んでいる。また関係者が防犯会議を行い、パトロールの情報交換や課題について協議する場としている。

地域の方々の思いをうけて——地域の伝統行事を総合的な学習の時間に位置付け、地域の方々の協力を得て2年に1度小正月行事を実施。校庭にはお柳が建てられお帳屋もつくられる。3年生はまゆ玉、4年生はお柳、5年生は獅子舞、6年生はお帳屋を担当。相川地区の新春の伝統行事や伝承芸能に触れる機会となっている。



安全パトロール



小正月行事

事業を実施して

児童の安全が確保され、犯罪への抑止力になっているのみならず、地域の人々と子どもたちとのあいさつや声かけ、お世話になっている地域の方々に礼のお手紙や育てた花を贈る等、子どもたちに豊かな心が育まれている。また子どもたちのあいさつで元気をもらっているという手紙をいただいたこともあり、子どもたちにとっても地域の人々にとっても見守り活動は有意義な活動になっていると思われる。そのほか、小正月行事や道徳の授業への参加もあわせ、地域の子どもたちを地域のみんなで見守り育てようという空気が醸成されている。

こんな活動です!!

生涯学習と学校教育の融合…。地域もよい、子どももよい、学校もよい、三者互恵の活動。

活動名

辰野町学校支援地域本部事業【長野県辰野町】

関係する学校

両小野小学校、川島小学校、辰野西小学校、辰野東小学校、辰野南小学校、辰野中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	413人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

事業のねらいに、『地域が学校を支える体制を確立し、活発な学校支援をととして地域と学校の交流を一層盛んにし、地域・学校双方の教育力を高めるとともに、辰野町に協働・共育の気風を醸成する』を据え、機能する学校支援組織に改善したり、より有効な学校支援のあり方を求めて、調査研究および研修に重点を置いたりした。また、辰野町全体に学校を支援する気風を満たすために『学校支援だより』を発行するとともに、役場広報、全戸回覧、有線放送、地元の新聞記事などの手段を使って地域への啓発に努めた。



サタデースクール



九九の計算道場

特徴

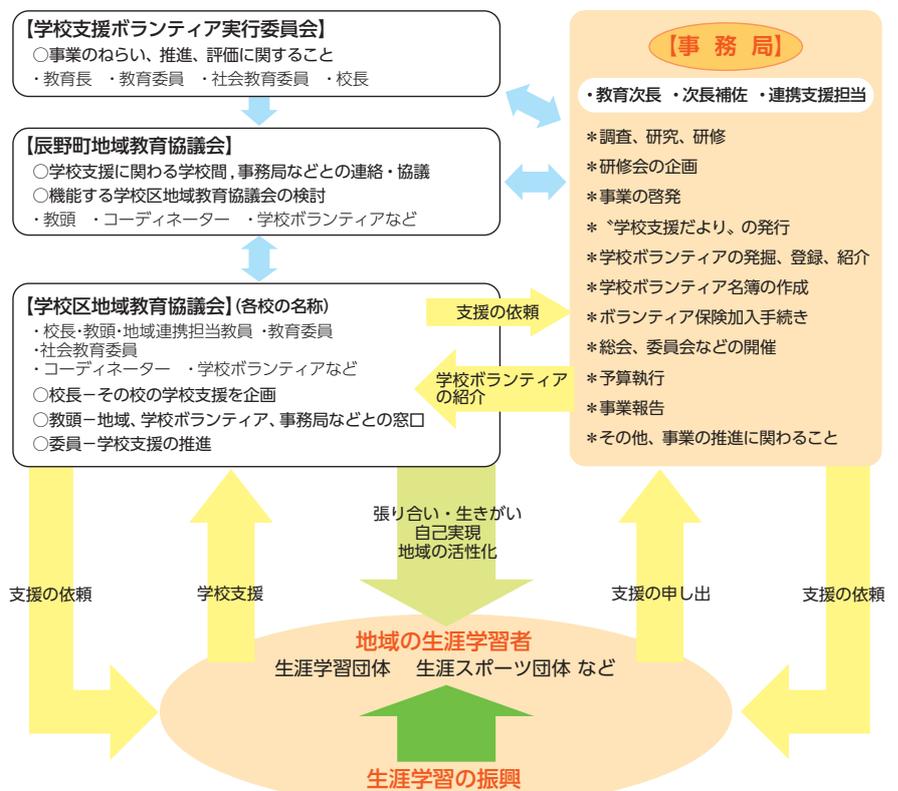
地域の方々全員が生涯学習者である、という認識のもと、学校支援活動を生涯学習の成果を発表する場の一つと捉え、学校支援ボランティアの登録をお願いしてきた。

先ず、子どもや学校にとって『よい』ということ、さらに、学校支援ボランティアにとっても生涯学習推進の弾みになったり、張り合いや生きがいにつながったりするような『よさ』を感じてもらえるよう配慮している。

地域が『よい』、子どもが『よい』、学校も『よい』、という三者互恵の事業をととして、辰野町に学校支援の気風を満たし、地域の教育力と学校の教育力を共に高めていきたい。

学校からの要望以上に学校支援ボランティアの登録がある。

【学校支援組織図】



事業を実施して

地域が学校を支援する組織が確立し、支援の体制も整った。調査研究および研修の成果や学校支援の様子などを、その都度、地域や学校に知らせてきたことにより、町全体に学校を支援する気風が醸成されてきている。地域の生涯学習者は、これまで学んできたことを、熱意をもって子どもたちの学習に生かしてくれている。学校からの要望以上の学校支援ボランティアが登録してくれた。学校支援ボランティアの活動の場がさらに広がるよう、学校支援の『よさ』を啓発しながら学校に働きかけていきたい。これまで、町教育委員会に設置した事務局が中心となって事業を推進してきたが、徐々に地域主導の事業に移行していきたい。

こんな活動です!!

保小中の教育活動と連携し、ふるさとの伝統や文化を体験する活動を支援!

活動名

和田学校支援地域本部【長野県長和町】

関係する学校

長和町立和田中学校、和田小学校、長和町保育園

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティ・スクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	100人	21年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

地域の子どもが減少傾向にある中で、学校の取組みや生徒の生の様子が地域の方々に届きにくいという課題を抱えていた。そこで、地域の方々に多く学校に足を運んでいただき生徒と接したり、生徒も地域の方々とふれ合うことを通してコミュニケーション能力を高めたり、自己有用感を味わったりしてほしいと考えて活動を開始した。

書道や箏など地域の達人をゲストティーチャーとして招いたり、毎週朝に生け花の指導をしながら校内を飾ったりして校内が活気づく活動をしている。また、職場体験活動や生活習慣の向上、安全や安心、地域との交流の取組みを行っている。

特徴

和田地域の多くの地域住民が関わって保育園を含め小・中学校の教育活動と密接に関連した取組みを行っている。地域の自然や文化的資源を活用するとともに、博物館や大学等と連携することを通して、児童生徒がふるさと和田に誇りを持ったり伝統文化の技を継承したりする機会を提供している。また、キャリア教育・体力向上・食育・メディアコントロールなど保育園・小学校・中学校における現代的課題に取り組んでいる。

<うまくいったきっかけと工夫等>

以前から行ってきた伝統的な活動を活かして指導者を確保した。生徒とのふれあいや褒めることや認める姿勢で生徒たちが地域の方々に信頼するようになった。地域の方々にとっては、生徒の学びに関わることができたり、気持ちの交流が生まれることがやりがいになっている。職員がボランティアの方々に日頃から感謝の言葉を述べたり気軽に話をしたりすることで互いに信頼し合える状況が生まれてきた。主として総合的な時間を活用した体験的な学習内容は、前年度の早いうちから日程を組んでいる。生け花活動も当番の分担を年度当初に決めておく。予定が決まっていることで、地域の方々も声を掛け合って分担してかかわってくれる。

<特徴的な支援活動>

- ◆ 和心支援部…毎週月曜日に、地元でとれた花を持ち寄って生け花指導を行って学校中に花を飾る活動をおこなっている。
- ◆ キャリア教育支援部…職場体験学習の実施にあたって受け入れ職場の開拓を行っていたくとともに、事前に受け入れ担当者が集まって共通指導内容を確認して体験実習を行う。実習後再び集まって、生徒の具体的な活動を振り返って成果を確認し合っている。
- ◆ 地域の歴史学習支援部…黒曜石原産地遺跡群や中山道和田宿の歴史的建築物を題材に、町の教育委員会の学芸員が中心になって学習プログラムを作成し、体験的な活動を実施している。
- ◆ 安全安心支援部…保小中の学校長・教頭・安全・生徒指導係、地域の安全協会、教育委員会、警察駐在所長が集まって、生徒指導上の諸問題、登下校や休みの安全にかかわる事柄の情報交換を行っている。



和心学習支援部 生け花指導



和田宿学習



職場体験学習-受け入れ担当者会

事業を実施して

<育ってきている児童生徒の姿>

生徒が地域の方々の技能のすばらしさに気づき敬意を払えるようになったこと、体験的な活動を通して、学年を越えて信頼感が生まれたり、学力だけでなく友達の良さに気づく機会が増えてきた。文化祭をはじめいろいろな場面で発表したり自分を表現する機会が増えたことから地域の方々や保護者から認められる機会が多くなり明るくそして真剣に物事に取り組む姿が増えてきた。

地域の方々にとっても、生徒との交流を生きがいに感じているただけたり。子どもの育ちに当事者としての役割を感じたりできた。

こんな活動です!!

地域の人材・組織・教育力を十分に活かした 継続的な学校支援体制の確立

活動名

多治見市立市之倉小学校 学校運営協議会
【岐阜県多治見市】

関係する学校

多治見市立市之倉小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	—	○	—

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	403人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	—人	—人	—日	—
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	—		—年度	—
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H19.4.1	6人	329人	14学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成19年度に学校運営協議会制度による学校(コミュニティスクール)として指定された本校は、平成17年度に文部科学省調査研究指定を受け、学校運営協議会検討委員会を立ち上げて以来、行政及び学校関係者、保護者、地域住民が共に学校づくりにかかわってきた。また、平成20年度からは、学校運営協議会の委員が学校支援地域コーディネータや学校支援ボランティアを兼ねることにより、学校支援ボランティアの発掘とコーディネート、学校行事への協力、学習支援、環境整備活動、支援ボランティア活動の拡充、将来的にも継続できる組織体制の確立を進めてきた。



クラブ(調理)



市之倉教育協議会拡大会議

特徴

これまでの活動の成果を踏まえ、学校運営協議会委員の負担軽減とより一層の保護者、地域住民の学校運営への支援・参画を目指して、本年度からは名称を市之倉教育協議会と変更し、委員数をそれまでの13名から6名とし、組織のスリム化と運営の改善を進めた。

<幅広く地域住民の参画を目指すために(市之倉教育協議会拡大会議)>

年間に2回、協議会委員とPTA、市之倉区、地域の児童生徒の育成に関わる団体の代表者による拡大会議を開催した。年度当初の拡大会議では、活動計画の説明と参画依頼を行い、協議会の活動の周知を図るとともに、組織としてのコーディネート機能を強化した。そして、評価・提言、学校支援、教育支援の3部会を協議会委員、PTA、地域の児童に関わる団体の代表者で組織した。

<計画・実践・評価・改善 3年間のロングスパンで改善を目指すために>

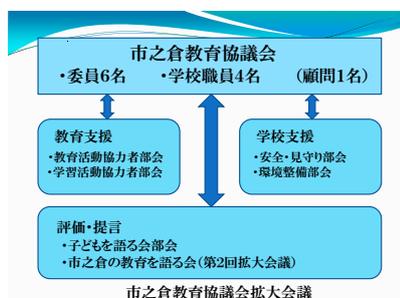
本校の評価・提言機能の大きな特色である、学校職員、児童、保護者、地域住民が参加し課題について語り、改善策を語り合う『語る会』を3年間のスパンで行うこととした。そして、「子どもを語る会」部会を、PTA、公民館、児童センター、保育園、児童民生委員、町づくり市民会議等、児童の生活に関わる地域の方々で構成し、定期的に情報交換を行う中で、児童の成長と課題を洗い出し、学校の教育活動の一層の充実を目指した。

<地域との協働を目指すために(地域の支援ネットワークづくり)>

地域の児童見守り活動、PTAによる安全な地域づくりのための環境改善活動など、それぞれの団体の独自の活動を、学校支援部会の中に位置付けた。そして、共通の課題として地域のハザードマップ作りに取り組みむ中で、防犯、防災等の非常時の地域防災ネットワーク作りを進めている。これにより、教育協議会がPTA活動等の支援を行うことができるようになり、より実効性のある活動が可能になった。

<より一層の教育支援充実を目指すために(地域人材・組織を活かして)>

書写、調理、絵手紙、卓球などそれぞれの分野で活動してみえる地域の方にクラブ活動の指導者になっていただいたり、公民館活動で講師をしてみえる方に、夏休み中のサマースクールの講師になっていただいたり、学校行事の健康フェスティバルの日に地域ボランティア、地域指導者、中学生、学校医、栄養士、保健センター職員などに協力していただいたりできるように、支援に適した人材をコーディネートしている。これにより、児童の学習の選択肢を増やしたり、地域で行っている活動への関心を高めたりすることができている。また、5年生の総合的な学習の時間においては、地元の窯元10数軒に協力いただき、インタビュー取材や作陶をする中で、児童が地域への関心を深め充実感を味わっている。



事業を実施して

- 地域の行事に参加しようとする児童や、まちづくり市民会議や児童センターの子どもスタッフとして積極的に活動しようとする児童が増えてきた。児童の成長を願って、学校職員と保護者、地域住民が協力して組織的に支援する態勢が生まれている。
- 「市之倉教育協議会」と名称を変更し、各部会に地域の各組織団体の代表者に加わってもらうことにより、保護者や地域住民による学校支援がさらに推進され、地域で学校を支える体制が整ってきた。上図の中にある全ての部会が参加する市之倉教育協議会拡大会議も年2回開催できるようになり、より地域に根ざした組織となるように努力を続けている。

こんな活動です!!

学校と地域が協働(コラボレート)により、学校教育の一層の充実と地域の教育力の再生に寄与

活動名

山県市学校支援地域本部実行委員会
【岐阜県山県市】

関係する学校

山県市内3の中学校、9の小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	—	—

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	3人	706人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	447人	215日	あり
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	公民館、体育館		18年度	なし
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

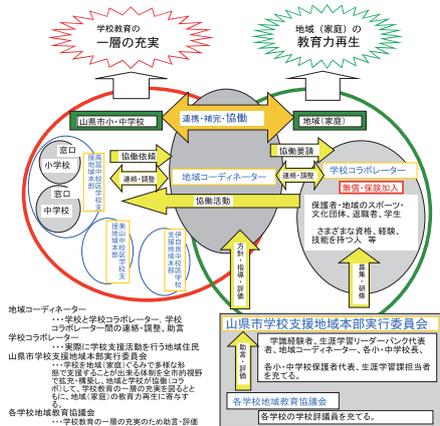
※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- ① 国の事業をきっかけに、学校を地域(家庭)ぐるみで多様な形態で支援することが出来る体制を全市的な視野で拡充・構築することとする。
- ② 学校と地域(家庭)が協働(コラボレート)して学校教育の一層の充実を図るとともに、地域(家庭)の教育力再生に寄与することを目的とする。

特徴

- ① 平成15年に3町村が合併。学校教育の充実、新しく地域教育力再生を図るための重要な施策とした。23年度から市単事業として継続している。
- ② 地域住民のボランティアを「学校コラボレーター」としたり、学校評議員を地域教育協議委員とするなど、既に学校が行っている活動を継続発展させることとする。
- ③ 事業の具体を写真や文章で簡潔に表現した「学校コラボレーター通信」(A4判、裏表1枚)などを年4回発行し、市内全児童・生徒、及び全コラボレーター、公民館・役所などに配布している。
- ④ 教育長の講話を始め、ワークショップなどによる学校コラボの資質向上のための研修を年4回実施している。



山県市学校支援地域本部事業イメージ図

【環境施設メンテナンス型】		【ゲストティーチャー型】	
15 施設の補修	0件 0人	1 小学校教科指導	24件 1,05人
16 植木の剪定	0 0	2 中学校教科指導(含選択教科)	8 8
17 道具の手入れ	0 0	3 上学年総合的な学習の時間	94 265
18 パソコンの管理	0 0	4 生活科・下学年総合的な学習の時間	74 387
19 ハネル清掃など	0 0	5 特別活動(含クラブ指導)	34 33
20 その他	— —	6 遊学の時間	8 10
		7 読み聞かせ	73 376

【環境施設サポート型】		【学習アシスタント型】	
21 図書室整理	44件 1,57人	8 学校行事	12件 128人
22 花壇の清掃・除草	— —	9 校外活動引率	2 2
23 掲示物の整理	2 8	10 授業における補助	27 33
24 リサイクル活動補助	0 0	11 登下校安全指導	— —
25 生花活動	2 3	12 校内預かり指導	1 3
26 校地内清掃・除草	11 16	13 部活動指導	— —
27 その他	1 5	14 その他(日本語指導)	8 8

平成22年度学校コラボレーター実施状況



学校コラボレーター通信(No.7)

事業を実施して

- ① 「学校コラボレーター」事業により地域住民が生きがい・やり甲斐を感じ、そのことを喜ぶ声が、一層多く聞かれるようになった。
- ② 公民館などで学習し、さらに子ども達の期待に応えようと学び、活用する人が増加した。
- ③ 子ども達が地域において、積極的に挨拶をするなど、交流が活発になってきた。
- ④ 会員登録は706人で延べ419件・1569人が活動した。その他に部活動指導や子どもの登下校の見守り活動も本事業の一環として活動しているが、その数はあまりにも膨大で人数の把握ができていないのが現状である。

こんな活動です!!

「子どもとともに育つ」 みんなをつなげ、みんなとつながるPTCA

活動名

貴船小学校支援地域本部(富士宮市立貴船小学校サポーターズクラブ)【静岡県富士宮市】

関係する学校

富士宮市立貴船小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	76人	19年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成19年度に発足した貴船小サポーターズクラブ(PTCA)を母体とする学校支援地域本部事業を学校応援団として位置付け、「学校支援」と「地域支援(地域が行う教育活動の促進)」の両面を柱とした、PTAとC(コミュニティ)の協働による学校づくりを推進している。「できるところから、無理をしないで、楽しみながら」を活動方針に、家庭と学校生活の安全・安心、安定した学習環境づくり、地域コミュニティの活性化による、よりよい地域づくりへの貢献を目指している。

特徴

●活動内容の深化・多様化

学校支援地域本部事業としての活動は平成21年度からスタートしたが、その母体となる貴船小サポーターズクラブとしての取組は平成19年から継続されてきた。

活動の柱の一つである「学校支援」としては、読み聞かせ、各教科におけるゲストティーチャーや教員補助等の学習支援、草取り、樹木伐採、花壇整備、楽器カバー作り、建具設備等の校内環境美化、不登校気味の児童への生活支援等、多岐にわたる活動が行われている。コーディネーターの調整により、ボランティアとして関わる地域人材や支援内容が年々拡大するとともに、ボランティアの立場・役割も明確となり、より充実した支援活動が展開されている。

また、活動のもう一つの柱である「地域支援」として、親子食育講座、自転車乗り方教室、リサイクル活動、防災訓練、ラジオ体操参加促進等、地域が行う教育活動の推進にも努めている。

●連携・広がり

地域教育協議会を年3回開催し、学校・地域の現状から問題・課題を明らかにした上で、支援活動の推進方策について検討している。

また、PTA総会にPTCA会員も出席し、支援活動やPTAバザーフェスティバルへの協力要請や活動の理解を得る場としている。フェスティバルへの商店街協賛、通学合宿の実施、地域活動への参加等、学校行事と地域行事の共同開催も、PTAと地域(C)の協働による学校づくりの一環として推進されている。



事業を実施して

学校のニーズと地域の力をマッチングさせた効果的な学校支援の充実により、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間が増えたこと、ボランティアの人数・内容の広がり、子どもたちが多様な知識や経験をもつ大人と触れ合う機会が増え、よりきめ細かな教育につながりつつある等、教育活動のさらなる充実が図られつつある。今後の持続的かつ自立的な活動展開のために、校長のリーダーシップの発揮、教職員の地域との連携協力に対する理解の深まりや、地域の力をうまく取り入れていくマネジメント能力の向上等が重要であると考えられる。

こんな活動です!!

学校支援は私たちの生きがい —子どもたちとともに—

活動名

大口中学校区 学校支援地域本部(愛知県大口町)

関係する学校

大口中学校、大口南小学校、大口北小学校、大口西小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	48人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

大口町の学校支援活動は子どもの健やかな成長を願うと同時に、町民が生涯学習に寄与していくことを目的にしている。各学校区でボランティアを募集し、その創意により学校ごとに独自の活動を展開している。中学校では清掃と環境整備、図書館、特別支援学級授業サポート、小学校ではそれぞれの学校で活動は違うものの、継続的な活動として、図書館や理科室の整備サポートや清掃の指導等を行っている。単発的な活動としては、家庭科実習や校外学習引率の授業サポートのほか、保健室や運動会のサポート等を行っている。ボランティアが楽しく生き生きと取り組み、自らの生きがいにもなっている。



ボランティア研修会



小学校図書館サポート

特徴

<活動の特徴>

大口町は生涯学習基本構想の下に「生涯学習のまちづくり」を推進している。学校支援の活動は、平成20年度から始まり、今年で4年目になる。平成23年度からは「生涯学習のまちづくり実行委員会」が町から委託を受け、活動を展開している。学校支援はその柱のひとつであり、町内の高齢者にとって活躍の場ともなっている。

学校支援活動は、支援する側・支援される側双方にとって意義深く充実した活動であり、この活動を継続発展させることで、学校支援のみならず、「町民の生きがいづくり」及び「地域の教育力向上」もめざしている。「いつでも、どこでも、できる人が、できるときに、できることを」の考えの下、ボランティアの自主性を重視し、活動の後で常に話し合いをもつなど、創意溢れる活動を推進しようとしている。最近、ボランティアの輪が広がり、地域交流の活性化など様々な場面で成果も見え始めてきた。

<実践に当たっての工夫>

- 実行委員会は、町内のいろいろな団体や会社等の代表で構成している。年に5回、総会・役員会を開催し、多方面からの意見を集約し、活動の方向性等を決定している。
- ボランティアは中学校で46名、小学校で各校10名ほど登録している。20歳代から80歳代まで幅広く、大学生から保護者、勤労者、退職者とバラエティーに富んでいる。コーディネーターは学校とボランティアの調整をして毎月予定表を作成し、各ボランティアに知らせている。活動予定を知ること、毎回参加するボランティアも増え、安定した活動が実施できた。
- PTA、読み聞かせグループ、登下校安心パトロール団など他の団体とは、それぞれの立場を尊重し、必要に応じて連携をしている。
- 学校支援活動を町民に広く知ってもらうため、予定や活動をホームページや広報へ掲載している。また、学校行事の時にビラを配布したり、手製の掲示物を公共の場へ掲示したりしている。□コミなども含め、最近、ボランティアの数が徐々に増えてきている。
- 日ごろの活動だけでなく、教員と一緒にいった研修会や子どもたちと一緒に食べる給食試食会、行事への参加などいろいろな取組を行い、子どもたちや教員とふれ合う機会を多く持つようにした。ボランティアは学校が身近に感じられるようになってきている。

<その他の特徴>

中学校には、地域開放玄関があり、ボランティアが地域開放室に自由に入出入りすることができる。また、地域開放室は活動前後の集合場所であり、憩いの場所(居場所)でもある。小学校にもこのような部屋の設定をお願いしている。平成24年度新築の南小学校には地域開放室が作られる予定である。



中学校環境整備

事業を実施して

ボランティア自身がやりがいをもって取り組めるようになってきており、お互いの繋がりも強くなってきた。そして、地域の学校は地域で支えていくという意識も高まってきた。活動後の反省会では「今度、これやろう」という自発的な提案も生まれてきている。また、日ごろの活動や行事への参加等で子どもや教員とふれあう機会が多くなり、ボランティアと学校との関係も良くなってきた。そのため、校外で会っても挨拶を交わせるようになり、地域での行事などがスムーズに進むことが多いようである。さらに、教員も学校支援への理解が深まり、地域貢献をしたいという気持ちが芽生えてきている。

こんな活動です!!

「子どもを育み、大人も育つ」 地域サポーターによる地域力向上の実践!

活動名

サポーターいっちゅう【三重県津市】

関係する学校

津市立一身田中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	6人	72人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
-			-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

家庭や地域での子育てが薄れ、PTAや子ども会活動が弱まるなど、地域での子どもを取巻く環境がきびしくなる中、平成20年春に、地域からコーディネーターを6名集め「サポーターいっちゅう」を結成し、学校支援地域本部事業に参画した。地域内外から運営委員を委嘱し、公募で集まった72名のサポーターと協働して、「子育て・育ち・親育ち」「子どもを育み、大人も育つ」地域を目指して、学習支援・キャリア教育支援・生徒会活動支援・地域教育力向上支援の4つの事業をきめ細かく実践し、学校とともに地域立の中学校づくりを展開している。校内にサポーターいっちゅう事務室を設置し、週3日サポーターが常駐している。



一身田地区のナイトスクール



白塚・栗真地区のナイトスクール

特徴

サポーターいっちゅうは、学習支援・キャリア教育支援・生徒会活動支援・地域教育力向上支援の4つの事業を柱に事業展開している。

【地域力向上支援事業】

●ナイトスクールの運営

部活動をしている子どもや、クラスで授業カリキュラムについて行けない子ども、様々な理由で自宅では学習できない子どもたちをターゲットとし全校生徒を対象に希望者を募り、毎学期、週2日の8週間(16日)、19時から21時までの2時間「ナイトスクール」を開催してきている。一身田中学校は一身田地区・白塚地区・栗真地区の3つの地域が校区であるが、一身田地区の子どもたちは津市北部市民センターを会場として、白塚地区・栗真地区の子どもたちは白塚市民センターを会場としてそれぞれお借りし、両地区合わせて60名を超える子どもたちの学びの場を提供している。

この学びの場を見守るスタッフは、地域の教員OBの方を講師として迎え、サポーターいっちゅうのサポーター登録者及び運営委員の中から講師補助を募り、15名程度のスタッフが子どもたちの質問に答えたり、プリントの添削をしたり、受付や運営管理をするなどして関わっていただいている。また、学校の先生方も時間をやりくりして参加していただいている。①学校ではいままさら聞けない初歩的なことや、先生には聞けないずっと解らなかったことなど、地域の講師や講師補助のサポーターには聞ける。②サポーターと一緒に考えることが楽しい。と子どもたちの評価も良い。当初は、学校の先生方に余計な負担をかけることになる懸念していたナイトスクールへの先生方の参加についても、現在では、「子どもたちをキャッチできる場となっている。」など、積極的に参画している。

【その他の事業】

●生徒会活動支援事業では、地元の祭りである「一身田寺内町まつり」の舞台の企画運営を一中生、高校生、大学生が協働し取り組んでいる。また、生徒会から要望のあった、学校玄関への桜の植樹、部活用倉庫の建築などを支援している。●キャリア教育支援事業では、生徒が会社を起業し、寺内町まつりでバーチャルカンパニーを出店する取組みを支援している。●その他事業では、購買事業として、県下で始めて飲料用自動販売機を校内に設置し、安全な飲料の確保、熱中症の対策及びサポーターいっちゅう事業に係る活動原資の確保を実現した。



飲料用自動販売機の導入

事業を実施して

親でもない、先生でもない、地域のおっちゃん、おばちゃんが学校の子どもたちや先生方と協働しふれ合っていく中で、挨拶運動が進んだり、学力の向上が実感できたり、先生方の負担が少しでも軽減できるなど、子どもも大人も達成感を持てたことは大きな収穫である。結果、学校も落ち着きを取り戻し、地域力も微力ながら確実に向上している。この活動を無理せず、細くとも長く継続していくことが今後の課題であり、私たちの後継者(地域のキーパーソン)やサポーターをどんどん掘り出し、託していきたい。

こんな活動です!!

地域と協働でつくる学校 (学校も地域の一部、地域も大切な学びの場)

活動名

岩根小学校 学校運営協議会
【滋賀県湖南市】

関係する学校

湖南市立岩根小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティ・スクール	その他
○	○	○	—

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	45人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	20人	20日	なし
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	小学校の教室(コミュニティハウス)と運動場		19年度	あり
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H19.4.1	16人	241人	12学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

将来、地域づくりの担い手となる子どもを、学校と家庭、地域が一体となって育てていくこと、とりわけ社会的弱者の側に立つ子どもの学びの向上や保護者への支援を目的とし、社会の激しい変化に流されない安定した活動を推進していくために導入した。コミュニティ・スクールと学校支援地域本部事業を兼ねての活動を展開している。学校運営協議会を核としながら、学校評価活動、ボランティア活動、子どもを含めた地域の安心・安全活動を中心としながら、5年目にして、徐々に「地域と協働でつくる学校」意識が教職員や地域住民に根付いてきた。今年度、学校運営協議会では「新しい公共」型学校づくりを年間議題として取り上げて協議を行っている。

特徴

日常的な活動の校内ボランティアとしては特別(個別)支援に3名、クラブ活動に11名、図書室支援に7名、1年生清掃支援に4名、放課後教室に4名、一方、校外ボランティアとしては休日の学習支援(土曜教室)に15名などが主な関わりである。それ以外のボランティアとしては、環境整備支援、情報ネット支援、総合学習支援などがある。活動を継続して経済的にバックアップする委員会も設立され、人が入れ替わっても細く長く続けていける仕組みが構築されている。学校運営協議会の理事も役割を細分化し、活動内容を理解したうえでの協議が可能な仕組みを生み出している。

「学校も地域の一部」と考え、理事の代表(理事長)や学校長が必要に応じて、地域のまちづくり協議会の会議に出席するなど、地域との連携を深めることを実践している。また、学校行事や公開日については保護者はもちろん、地域の学校関係者(区長や民生委員、他団体の役員、公共施設職員)にも案内を届け、地域の方ができるだけ気軽に学校に足を運べる、いわゆる敷居の低い学校を心がけている。今年度の夏休みには、地域産出の「さくら御影石」を使った石アートづくりに、地域まちづくり協議会の呼びかけで、小学生が親子で参加し、後世に残る作品を完成した。

ボランティアと教職員が共通の課題をもって子どもと関わっていくこと、年に1回はボランティア全体の交流会をもち、教職員とともに語り合う場を設定している。さらに、特別支援学級での支援や土曜教室、クラブ活動等については、互いの思いを交流する機会を設け、子どもに力のつくよりよい関わり方を模索しているところである。最も大切なのは、子どもに関わる大人が同じ目線をもつことであろう。

本校の「放課後教室」は、スタート当時(平成19年度)はサッカーの放課後クラブとして月に2回実施されていた。1年生から3年生の子どもで希望者を募って行っていたが、平成20年度より、教室の第一部を自主学習時間とし、第二部をサッカー教室として今に至っている。年々希望者が増え、今年度は20名の子どもたちが、ボランティアが見守る中、コミュニティハウスで宿題等に自分で取り組み、後半は男性ボランティア2~3名の指導でサッカーを楽しんでいる。終了する午後5時過ぎには保護者が迎えに来られ、異年齢の集団活動経験を積んでいる。「土曜教室」は昨年度からスタートし、今年度は4年生児童対象に年間30回程度のボランティアによる学習会を実施している。



「土曜教室」の授業風景



3年生の「店長修業」(喫茶店)



地域の先生のクラブ活動(茶道:さくら)

事業を実施して

「地域と協働でつくる学校」を合い言葉に5年目。組織が固まり、人が集まり、つながりを築いていったことで、「自分にできることから行動」の空気が生まれてきた。加えて、学校に足を運ぶ機会の少ない住民層を招くことで、地域全体と子どもの関わりが生まれ、多くの方が子どもに関心をもってくださるようになった。今後は「新たな公共」を目指しての地道な取組を展開していきたい。

こんな活動です!!

子どもも大人も輝ける学校支援をめざして ～絆フェスタと学習支援を核にして～

活動名

八幡市中学校校区 学校支援地域本部
【京都府八幡市】

関係する学校

八幡市立男山中学校、男山第二中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	183人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- 地域との連携体制の再構築を図り、地域社会が主体となり、学校が本来の教育活動に力が注げるように支援すると同時に、地域に住む人々の力を発揮する場として展開して、地域社会全体の教育力の向上を図る。
- 各中学校区において、コーディネーターを中心とした専門部による支援体制を整備する中で、学習支援活動や校内環境整備、安心安全な支援活動など、幅広い学校支援活動を継続し、児童・生徒の学習・活動意欲の向上を図っている。

特徴



男山中学校校区学校支援地域本部
第3回絆フェスタ
(オープニングセレモニー)



男山中学校校区学校支援地域本部
第3回絆フェスタ
(模擬店等会場)



男山中学校校区学校支援地域本部
環境支援活動
(八幡小学校内の草刈り作業)



男山第二中学校学校支援地域本部
環境支援活動
(くすのき小学校内のり面草刈り作業)



男山第二中学校学校支援地域本部
学習支援活動
(学習指導)



男山第二中学校学校支援地域本部
安全・安心パトロール
(くすのき小学校 児童達の登校)

事業を実施して

- 日常的な支援活動により、各ボランティアと児童・生徒のふれあいや絆づくりが進み、学習活動やクラブ活動等への意欲が高まるなど、効果があらわれてきている。また、学校支援活動が地域の人々の生涯学習成果の発揮の機会となり、居場所づくりにもつながるなど、有意義な取組となっている。
- 主要事業であり、学校・生徒会・PTA・地域自治会・各種団体・行政等を含めた地域総がかりで地域に向けての啓発活動として取り組む絆フェスタやふれあいフェスティバルの開催により、学校と地域の絆が深まるとともに新たな世代間交流の機会へと発展するなど大きな成果を上げている。

こんな活動です!!

郷土と協働 和と知の学校づくり ～心を寄せ合う教育ステージの創造～

活動名

京丹波町立和知小学校 地域教育協議会
【京都府京丹波町】

関係する学校

京丹波町立和知小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	23人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

本校は旧和知町にあった3小学校が統合された学校である。3つの小学校のときは、地域との交流が日常的にできていたが、統合により地域との結びつきが希薄になっていた。その状況を打ち破り、新しい時代に合った地域との結びつきのある学校にしたいとの思いから本支援事業に取り組んだ。和知小学校地域教育協議会は会長・副会長各1名、学校教職員を含む13名の委員で構成している。学習・読書・栽培・食育の4つの支援部があり、委員が部長を兼ねている。日常的にはコーディネーターが活動・連携のコーディネートをしている。年3回の協議会を開催し、計画や活動状況等について協議している。夏休みには、委員と教職員合同の懇談会等を持つなどして連携と情報交換に努めている。

特徴

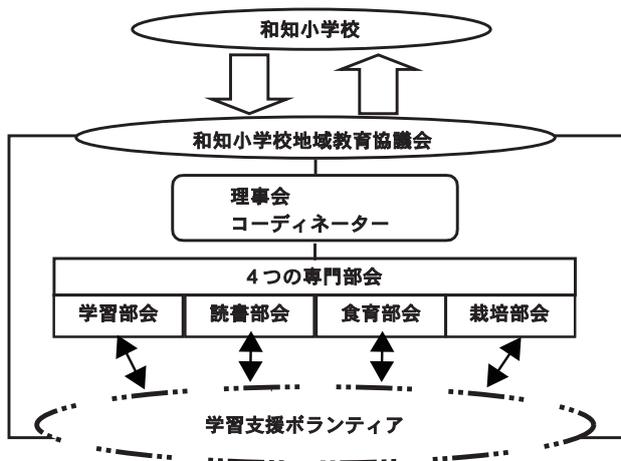
「学習支援部」クラブ活動で、和知人形浄瑠璃会が浄瑠璃クラブを、和知太鼓保存会が太鼓クラブを、老人クラブがものづくりクラブを支援している。教科でも地域学習、稲作体験など幅広い支援を行っている。学力補充の時間(すくすくタイム)に教員OBによる支援も行っている。

「食育支援部」各学年で栽培した野菜や地域の野菜を使った調理の指導、食生活の見直しなどの食習慣の指導支援を行っている。

「栽培支援部」学級園の畝づくり、花壇の花植え、有機肥料づくり、栽培委員会の支援。

「読書支援部」毎週火曜日の朝の読み聞かせ。月1回のお話会。

- 学習支援、読書支援、食育支援、栽培支援の4つの部会が様々な活動を展開している。
- 郷土の伝統芸能を伝承していくシステムがある(学習支援部のクラブ活動支援)。
- 学校園や学級園での栽培支援(栽培支援部)から、収穫した野菜を使っての調理の支援(食育支援部)まで一環した活動が行われている。
- 学校支援ボランティアと学校教職員との連携が自然体で楽しくできている。



人形浄瑠璃クラブ



地域での学習風景

事業を実施して

今や、年間450人以上のボランティアが小学校にかかわっている。それぞれが今までの経験を生かし、農作業や料理、感銘を受けた本などを子どもに「生きた知恵」として伝えている。こうした活動は、学校の課題解決に止まらず、過疎化と少子高齢化が進む地域に、間違いなく新風を吹き込んでいる。学校づくりを通じ、地域が元気になると感じている。地域社会の未来を担う子どもは、学校だけで育つのではなく、学校と家庭と地域との無理のない連携で、豊かな心と生きる力を育むのではないだろうか。そう信じ、地道な活動を続けたいと思う。

こんな活動です!!

顔見知りになることからスタート! 子どもも大人も笑顔で過ごせる学校とまちづくり!

活動名

池田市立池田中学校区MTP
(マイタウンプロジェクト)【大阪府池田市】

関係する学校

池田市立池田中学校、池田小学校、呉服小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	22人	300人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

池田中学校区MTPは、①ふれあい・人権、②社会、③文化、④自然、⑤学力、⑥健康といった分野で学校行事、職場体験、進路相談、国際理解、校内緑化、学習サポート、クラブ活動など子どもたちに関わるあらゆるサポートを行う組織である。スタッフの登録は約300人。DJ(土曜授業)や「よのなか」科の授業などを中心に実施している。絵画教室やハンブル教室、畑プロジェクトなどもあり、学校が地域の人々の生涯学習の場にもなっている。春と秋には、多くの人々が顔見知りになるようにMTPフェスティバルを実施している。MTPをNPO化し、NPOが中心となり学校支援活動の運営をコーディネートしようとしている。

特徴

<学校を核にまちづくり>

池田中学校区MTPは、学校と地域が融合した新しい学校づくりをめざしている。学校づくりに、地域の人々が関わる仕掛けを多くつくることで、子どもと大人、大人と大人が顔見知りになり、地域でのコミュニティの再構築が進むと考えている。

●協力を呼びかけるポスター



このポスターは、地域のお店や商店街のあちこちに掲示されている。

「ちょっと学校に力を貸して下さい」の声に、実に多くの地域の人々が応えてくれ、ここからMTPスタッフの申し込みが始まった。

●DJ(土曜授業)

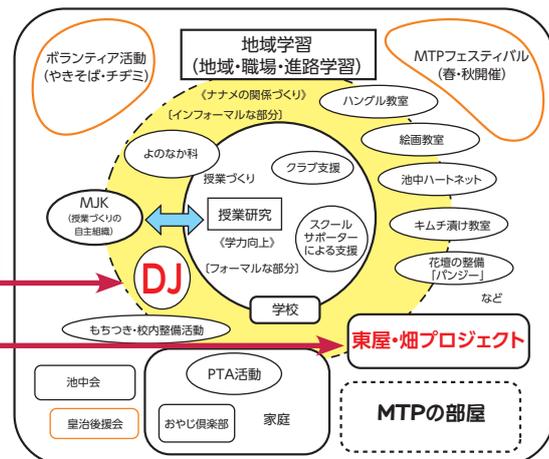


小学校算数に取り組み1年生とMTPスタッフ

●東屋・畑プロジェクト



畑でできた玉ねぎの収穫



学校と地域が関わる仕掛け(上図の黄色部分)を多くつくることが、学校づくり、まちづくりにつながる。

事業を実施して

- 子どもたちより：(職場体験の感想) 商店街を通ったら両側が全部池中生で埋めつくされていて、声をかけあった。池中生の顔を地域の人たちが覚えてくれて良かった。
- 地域住民より：地域の活性化には、地元子どもたちとのコミュニケーションも必要であると感じた。
- 教職員より：穏やかな雰囲気のある学校ができ、保護者や地域の人々からの「何でもやるよ。力貸すで…」の声に、さらにやる気が出た。

こんな活動です!!

地域ぐるみで子育て! (育てよう! うちの子 よその子 岬の子)

活動名

岬町地域教育協議会【大阪府岬町】

関係する学校

岬町立岬中学校、岬町立多奈川小学校、
岬町立深日小学校、岬町立淡輪小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	4人	158人	19年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

子どもたちの豊かな人間関係づくりと「生きる力」を育むため、各校園所での教育支援活動を中心とした教育コミュニティづくりをめざし、登下校の安全見守り活動や部活動の支援活動、岬中学校ラーニングセンター(図書室)での放課後学習支援活動(岬☆ドラセン)の取組を推進している。

また、「朝ごはんレシピ集」や「生活習慣確立リーフレット」等を活用し、子育て支援のための広報活動も積極的に行い、秋には「ふれあい教育フェスタ」を実施し、取組の交流を図っている。

特徴

岬☆ドラセンでは、コーディネーターが学生ボランティアの募集や保護者への参加の働きかけを行っている。また、内容としてプリント学習等だけではなく、学生等が勉強方法等に関する自分の経験談を披露する中で、子どもたちの学習意欲を高めている。平成22年度は、45回実施し、のべ参加生徒数509名、スタッフ数354名であった。

ふれあい教育フェスタでは、子どもたちの学習意欲や体力向上をめざし、岬町の子どもたちのテレビの視聴時間が全国平均に比べ長いという調査結果から、「ノーテレビデーは可能か?」をテーマとしたワークショップを小中学生、保護者、地域住民、教員で行った。大阪大学大学院の高田一宏先生からは、「テレビを見る、見ないという結論ではなく、自分の生活を自分で組み立てることができるようになっていくことが大切である」という助言があった。平成22年度のフェスタには、4,000名の地域住民の参加があった。



「岬☆ドラセン」
岬中学校での放課後学習支援活動



「ふれあい教育フェスタ」でのワークショップ



「学校安全ボランティア」による登下校安全見守り活動



「朝ごはんレシピ集」等の
子育て支援リーフレット

事業を実施して

岬☆ドラセンでは、生徒は「毎回少しずつ学んで成長していく場で、楽しみながら学べる」、スタッフは「新たな出会いがあり、生徒や地域の方々と交流を深めることができる」といった意見があり、子どもも大人も学びの場となっている。

ふれあい教育フェスタのワークショップでは、保護者から「生活を見直すことができ、家族のコミュニケーションの大切さを改めて感じた」という感想もあり、取組を通じて、話し合いの場に学びがあり、子ども、教職員、保護者、地域住民の出会える場をつくっていくことが大切である。

こんな活動です!!

地域総がかりの教育!(中学校区連携ユニットと学校園支援ボランティアの参画)

活動名

加古川市学校支援地域本部
浜の宮ユニット【兵庫県加古川市】

関係する学校

加古川市立浜の宮中学校、浜の宮小学校、尾上小学校、若宮小学校、浜の宮幼稚園、尾上幼稚園、浜の宮保育園

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	6人	150人	19年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
		-	-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

加古川市では、平成19年度から中学校区を一つの単位(ユニット)として、その地域の保育園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校が相互に連携し、家庭、地域とも連携を図りながら、子どもたちの連続した学びや育ちを支援していくための事業を推進している。その中でも、浜の宮ユニットでは、各学校園に1名ずつ計6名の地域コーディネーターが配置されており、学校園の必要とする支援の集約とボランティア人材の派遣を担っている。



共同制作した横断幕



トライやる・ウィーク町内会活動



園芸ボランティアによる学校支援

特徴

〈特徴的な活動内容〉

● 組織・手法における特色

地域コーディネーターが相互に連携・協力できるよう、情報交換の場として連絡会が組織されている。

● 活動内容の深化・多様化

学習支援活動や見守り活動、花壇整備、読み聞かせ等学校園のニーズに応じた多種多様な支援が展開されている。

〈実践に当たっての工夫〉

● 地域への情報発信

ユニットのテーマ、目的、行事の報告、案内などを主に掲載した「ユニット便り」を年3回定期発行している。ユニットに所属している幼児・児童・生徒の全家庭に配布するとともに、町内会の協力も得ることで全戸回覧し、より多くの方々への協力を呼びかけている。

● 連携・広がり

地域の各種団体の代表者が一堂に会する「青少年育成連絡協議会」と連携協力を行っている。平成22年度は、「かわそう あいさつ 守ろう ルールとマナー」という横断幕を共同制作し、町内会との協力により、集会所や公民館等を含め、町内15箇所に掲示し、地域を挙げて啓発に取り組むことができた。

〈その他の特徴〉

● 特色あるトライやる・ウィーク

兵庫県が、平成10年度から全国に先駆け実施してきたトライやる・ウィークも、浜の宮中学校では、職場体験協力事業所での活動に加え、町内会毎に生徒を受け入れ、クリーン作戦や田植え、老人会との交流行事をもつ等、地域に支えられた独自の活動が展開されている。



平成21年度から保護者と児童・生徒を対象に、「あいさつと規範意識に関するアンケート」を実施している。

事業を実施して

浜の宮ユニットの活動テーマ「かわそう あいさつ 守ろう ルールとマナー」は、学校園に通う子どもたちだけでなく、地域の方々の中にも浸透してきている。学校園関係者評価委員会の中でも、「子どもたちはあいさつを本当によくするようになった」と好評を得ている。今後も、学校園がまちづくりの拠点となれるよう創造的な活動を展開していきたい。

こんな活動です!!

地域を学校の宝に、そして学校を地域の宝に

活動名

王寺北小学校支援地域本部
【奈良県王寺町】

関係する学校

王寺町立王寺北小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	8人	123人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

「北小PLAN22」～特色ある教育活動を展開し、児童・教職員・保護者・地域が誇りとする学校～(平成20年度から3年間の中期目標)のもと、学校支援地域本部事業により地域や保護者との連携を図り、様々な取組を実践し、地域に誇れる学校づくりをめざした。具体的には、「学習指導のサポート」「図書室の運営サポート」「科学教室の運営サポート」「花と緑の環境整備と登校付き添い活動」の4部門に分かれて学校支援ボランティア活動を行っている。ボランティアとして、保護者や祖父母はもちろん、様々な職業の方々が登録し、児童の教育活動を支援している。

特徴

地域による学校支援活動を始めてからの3年間で、本校にかかわっていただいたボランティア総数は、のべ7,900人にも上る。この間、王寺北小学校は、大きく変わった。このことは、学校評価アンケート調査にもよく現れている。

全保護者を対象にしたアンケートの「学校は特色ある教育活動をしている」という項目での肯定的回答率は、42%(H18)から90%に達した。(教職員は同項目で62%(H18)から100%)また、全児童対象のアンケートで「学校の勉強は、わかりやすい」という項目では肯定的回答率は、77%(H20)から90%に、「学校が好きだ」の項目では86%であった。

学校支援ボランティアによって学習環境が整い、学習活動が活発になり、児童の学習意欲と教職員の意気込みが高まり、学習効果が上がる。そして、その効果を目の当たりにすることによって、さらにまた支援活動が活発化し、その成果がまた学校改善へとつながっていくという、まさに「学校支援スパイラル効果」と言うべき状況が起こっている。

【学習指導のサポート】



▲3年生 そろばんの学習



▲5年生 合奏パート別練習



▲6年生 ミシンの実習

【図書室の運営サポート】



▲図書室の本の修理・整理

【科学教室の運営サポート】



「北小科学教室」

○毎月1回土曜日に開催。科学工作を中心として毎回違った内容で実施している。外部から講師を招いたり、科学ボランティアが指導したりして児童に科学のおもしろさを体験・体感させている。

【花と緑の環境整備】



○各学年の要望に基づいて、畝作りや植付・除草・施肥・収穫などのお手伝いしてもらっている。また、同じメンバーで登校付き添い活動も行い、児童の安全確保の一翼を担っていただいている。

事業を実施して

取組当初は、ボランティアの方々に「ありがとうございます」と申し上げるばかりであったが、最近は逆にボランティアの方から「ありがとう」を言ってもらえることが多くなってきた。またそのころから具体的な効果が表れてきていると感じるようになってきた。地域の方々に支援していただいて学校が活性化し、地域の方々が学校を自己実現や生涯学習の場として活動することで、地域文化の向上や活性化につながっていく。つまり、学校と地域が互いに支援・貢献し、感謝し合える関係を築くことが公立学校運営や経営の要であり、重要な要素であることを、この取組を通して実感し、確認することができた。

こんな活動です!!

町内すべての学校(4校3園)の様々な「求め」に、専門のボランティアを派遣し学校教育を支援する

活動名

大淀町学校支援地域本部【奈良県大淀町】

関係する学校

大淀町立大淀中学校、大淀桜ヶ丘小学校、大淀希望ヶ丘小学校、大淀緑ヶ丘小学校・幼稚園

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	4人	575人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- ・地域住民が教職員と連携することにより、子どもたちに豊かな教育環境を保障し、今日的な「おらが学校」づくりをする。
- ・子どもの登下校の安全確保活動、学校緑化花づくり支援活動、学校園環境整備支援活動、遠足引率付き添い支援活動、プール・水泳・剣道等クラブ活動支援、パソコン支援活動、学生ボランティア活動、稲作チーム活動、運動会等学校行事支援活動、職場体験事業者協力活動、高齢者の昔のくらしや戦争の語り部等の活動、点字や手話等の指導、ゲストティーチャー、図書室支援活動、小学校外国語活動(英語)支援活動他。

特徴

<特徴的な活動内容>

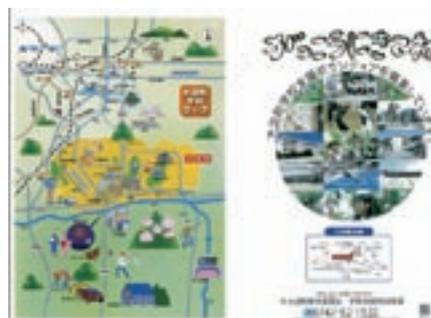
- 小学校外国語活動(英語)において、文部科学省の「英語ノート」に対応した教員並びにALT用の年間35レッスンの英語冊子を作成し、全国から問い合わせがある。

<実践に当たっての工夫>

- インターネット・ホームページ、テレビ、ポスター、パンフレット、ちらし、広報誌、新聞等積極的に広報活動を展開している。
 - ・ボランティア登録者の募集、ボランティア活動の様子を周知する等。
- 参加者・活動の拡充
 - ・ボランティア登録者600名弱(町民2万人弱)、20数種類の事業活動、年間延べ1,000回以上の活動回数である。
 - ・教員を目指す学生ボランティアは「先生の卵」として授業や事務処理等をサポート、掃除・休み時間には子どもたちと関わりながら学んでいる。一方、教員もやりがいを持って学生ボランティアに関わり、学校に活気が生まれ喜ばれている。



英語冊子



ポスター



学生ボランティア



パンフレット

事業を実施して

- ・学校支援地域本部活動を積極的に利用するようになったことで、地域に学校が開かれてきた。
- ・昔からの地域は少子高齢化が顕著で、一方、新興住宅地には子どもは多いがボランティアが少ないことから、ボランティアや保護者がともに参加し、学校を支援することで地域全体で子どもを育てる環境が整いつつある。

こんな活動です!!

子どもたちを中心に据え、世代を超えた交流の場づくり

活動名

浮孔小学校支援地域本部
【奈良県大和高田市】

関係する学校

大和高田市立浮孔小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	103人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- 学習支援活動:外国語活動(英語)、家庭科補助(ミシシがけ・調理実習)、図工(絵画指導・陶芸指導)、音楽(雅楽演奏・琴)、地域学習の補助(町探検・土器体験)、戦争体験の話、クラブ活動(卓球・ソフトバレー・バドミントン・バスケット)。
- 環境整備:生け花(10年以上、自分の畑で育った花を生けてくださっている)、トイレ明るくきれいな作戦、図書室環境整備、屋根修理、校庭清掃、樹木消毒、剪定。
- 学校行事:奉仕作業、親睦レクリエーション指導、キャンプファイヤー(消防団の人達による消火活動)、マラソン大会清掃、運動会テント張り、学校支援ボランティアの集い参加(ボランティアの体験発表・内容掲示)。

特徴

- 「学校・家庭・地域が一体となって健やかな子どもを育てます」「子ども・教職員・保護者・地域住民みんなで作る笑顔いっぱいの学校」を合い言葉に、実践活動の質と量を高め、学校力と地域力の合力による教育全体の推進を図り、学校、地域全体が温かい雰囲気になれるよう取り組んでいる。
- 学校の教職員と地域とが一体となって事業を成功させようとする意欲と熱意。
- 学校の教職員とボランティアの需要と供給の両輪がうまくかみ合い、作動し、年々ボランティア活動の幅が広がっている。
- 校区内のボランティアのみにとどまらず、市内のボランティア達の支援も得ている。地域ボランティアの組織化。
- 効果的な教育資源の収集・蓄積(ゲストティーチャー)。



生け花ボランティア(10年以上続いている)



絵画ボランティア(日本画家の先生方)



部活動ボランティア(体育協会の先生方)



キャンプファイヤーの後の消防ボランティアの方々

事業を実施して

- 事業関係者からの感想:(ボランティア)「地域に住みながら、学校の中に入る機会がなくなっていたが、子どもたちと交流することが出来、生きがいと元気と喜びをいただいた。今後もボランティアをしていきたい。」(学校)「学習支援の場では、教職員とボランティアの協働で学習効果を上げることができた。」「児童・教職員・PTA、ボランティアがともに活動する場が増え、人の和が広まった。」(事業担当者)「地域に発信すれば、それ以上の支援が返ってくるというのが実感である。地域の教育力の深さを発見するたびに驚かされる日々であった。地域の方々の『学校を何とかしてあげなくては』という思いに支えられての学校である。地域とつながり、地域とともに歩む学校であり続けることを再認識した。」

こんな活動です!!

地域の教育力を生かした学校支援 ～活動の成果をふるさとへ～

活動名

本宮地域共育コミュニティ本部
【和歌山県田辺市】

関係する学校

田辺市立本宮中学校、本宮小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	132人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

過疎化・高齢化が深刻な問題となっている本宮地域において、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を実践することにより、子どもたちの「生きる力」を育成し、地域の活性化も期待できる。

そこで、「学びあい、支えあい、高めあう学校と地域社会」をテーマに、地域共育コーディネーターが中心となって、学校支援ボランティアが学校からの依頼により様々な活動を行う中で、学校と地域の出会いの場づくりに取り組んでいる。

特徴

【特徴的な活動】

○ゲストティーチャー型

世界遺産に登録されている熊野古道を、語り部の話を聞きながら一緒に歩くことにより、語り部から、相手に伝える時のポイント等を学ぶことができるとともに、次の学習に役立てることができる。

○学習アシスタント型

家庭科の授業において、ハーフパンツ作りや地域の特産物である『めはりずし』作りなどの支援をいただくことで、授業に変化や広がりを持たせることができる。

○施設のメンテナンスや環境サポート型

図書ボランティアとして本の読み聞かせだけでなく、図書室の整理整頓や掃除、庭木の剪定や飼育小屋の補修、花壇の整備などの活動も行っている。

○学校運営サポート型

運動会などの学校行事やクラブ活動への支援や放課後支援等も行っている。本宮地域では、バス通学の児童・生徒が多く、下校のバスを待つ間、小学校では4・5・6年生に、絵画・工作・茶道・五目並べ等のクラブ活動を、また、1・2・3年生には、絵本の読み聞かせや昔の遊びなどの活動をしている。

【ふるさとづくり実践】

地域伝統文化活動として、地域の伝統芸能教室のみなさんから、平治川(へいじがわ)の長刀踊りや大瀬(おおぜ)の太鼓踊りなど、古くから地域に伝わっている踊りを、太鼓や長刀の持ち方から教わり、運動会や地域の祭りで披露するなど大いに地域に貢献している。



語り部と歩く古道ハイク



高菜漬け めはりずし作り



ハーフパンツ作り



運動会で太鼓踊り披露



文化祭で長刀踊り披露

事業を実施して

「学校」「家庭」「地域・公民館」の三者間の交流が一層深まった。また、規範意識やコミュニケーション能力の向上、さらには、学習に対する意欲の向上が見られた。地域の方からは、「子どもから元気もらった。」「自分の学んだことや特技を生かすことができる。」「学校や子どもたちのことがよくわかり、子どもたちとのつながりができてきた。」「郷土に対する子どもたちの意識が向上してうれしい。」等の意見をいただいた。この取組から、児童生徒の心に、「地域に誇りを持ち、地域を大切にしよう」とする思いが育つとともに、地域に貢献しようとする態度が育ってきている。

こんな活動です!!

大好き かみとんだ ～多くの団体・人との連携を活かした地域づくり～

活動名

上富田町共育コミュニティ推進本部
【和歌山県上富田町】

関係する学校

上富田町立朝来小学校、生馬小学校、岩田小学校、市ノ瀬小学校、岡小学校、上富田中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	96人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
-		一年度	-	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成20年度に「地域の子どもは地域で育てる」を目標に、モデル地区として生馬地区に生馬地域共育コミュニティ本部を設置。平成22年度から町内全ての小中学校において活動を行うなど、段階を踏んで事業を展開してきた。また学校だけではなく、公民館や青少年育成町民会議などの多くの団体と連携することで、より多くの方の参加が得られ、特色のある活動が展開可能になった。その他、小中学校の連携にも力を入れている。

特徴

公民館をはじめ、地域の様々な団体と連携を図り事業展開をすることで、特色のある取り組みを行っている。小学校からの要望を受け、平成21年度から開始した「寺子屋塾」は、毎週水曜日に生馬公民館で開催され、地域の方が先生となり子どもたちに書き方指導、卓球指導等を行っている。今では生馬小学校の約半数の児童が参加している。また、青少年育成町民会議と連携し、中学校、高校、地域住民が参加した「くちくまのリバースクール」では、中学校の校長先生が講師となり計4艇のカヌーを作成し、進水式には町内にホームステイしていたオーストラリアの学生たちも参加し、幅広い交流の機会を持つことができた。

この他、共育コーディネーターのアイデアにより、中学校の水泳部員が生馬小学校の児童に指導する「水泳交流」により、中学生が「地域の一員」として小学生と交流する機会が持て、さらにそこからヒントを得て開始した陸上交流は、その成果が伝えられる中、町内全ての小学校の取組に広がっている。中学生は自分の出身小学校を訪問し、小学生と関わることで「自信」をつけたという報告を聞いている。

このようにひとつの事業に多くの団体に関わり合うことで、公民館行事に参加する地域住民が増えるなど、その効果として、団体活動の活性化が図られた。



小中陸上交流



くちくまのリバースクール



寺子屋塾

事業を実施して

当初は学校側も地域の人が入ることに特別な準備が必要と身構えていたが、回を重ねるごとに「壁」のようなものが取り払われてきた。また、地域側も学校の中に実際に入ることによって、今まで知らなかった学校の様子を知ることができ、学校や子どもたちに対して、さらに関心を持つことができたとの声をいただいた。

日頃から、授業の中に地域の方が入ることによって、子どもと大人が“顔見知り”になり、地域の中で出会ったときにも挨拶を交わすようになるなど、繋がりが生まれてきている。

こんな活動です!!

オヤ爺が元気な秘密クラブ「水曜学校」

活動名

岡見小学校への学校支援活動(三隅中学校区支援地域本部・岡見公民館)【島根県浜田市】

関係する学校

浜田市立岡見小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	3人	117人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成20年より学校支援地域本部事業を導入し、積極的に学校に支援する機運が育まれた。学校側も、地域住民が学校に入りにくかった「見えない壁」の解消のため、空き教室の開放を行う等の対応を行い、地域住民、特に「オヤ爺」達が定期的に学校に通う(?)「水曜学校」が開かれるようになり、施設の修繕等の支援活動だけでなく、子どもとの交流や生活態度の見守り等に大きく係わることが出来るようになった。また、学校行事、地域行事にお互いが参加することが頻繁に行われ、生徒・児童が自分たちで企画することもでき、地域と学校が一層強く繋がってきている。

特徴

岡見小学校区(岡見公民館)では、元来、公民館と学校、保育園、児童クラブが隣接しており、この利点も生かし連携をとって活動していた。但し、あくまで学校の要望ありきのため、水曜学校のような自由な活動ではなかった。「水曜学校」の特筆すべき点は、“定期的”でありながら“強制感のないこと”。毎週水曜日だけ開放される空き教室に、希望する「オヤ爺」たちが集まる。特にノルマもないし、予定もない。学校側とその時その時に出来ることを相談する。必要に応じてそれぞれの連絡調整を公民館が行っているため、地域も学校も安心して連絡しあえる。それぞれが、自分のできることを考えて繋がっていることが強みである。

この活動によって、学校と地域がお互いの活動に積極的に参加するようになった。例えば地域行事である「うちわ祭り」や公民館祭りに生徒が企画立案し、出店を行った。また、学校行事の「海体験」について、地域行事として地域支援のもと、行事が円滑に進めることができた。これらの活動が公民館主事(コーディネーター)を通して、極めて円滑に行われている。



水曜学校(校庭池の修理)



うちわまつり(子どもの出店)



海体験(生き物観察)

事業を実施して

水曜学校の参加者からは「自分たちが世話になった学校なのに、なかなか行きにくかった。この活動で学校の役に立つのと同時に、自分たちの居場所もできた。」「(自分たちの)孫ばかりでなく、子どもたちが挨拶やお礼をしてくれる。最初は話しくかったが、今では遊びに来てくれる。」とお礼の言葉がよく聞くことができる。学校側も普通なら頼みにくいことでも、常時学校にいてくれるお陰でいろいろな相談ができると好評である。

こんな活動です!!

地域みんなであつろうて子育て! あなたも『子育てパートナー』

活動名

西益田地区教育協働化推進本部
【島根県益田市】

関係する学校

益田市立西益田小学校、益田市立横田中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	7人	105人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	26人	33日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
余裕教室		18年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

これまで益田市においては、島根県の事業「ふるさと教育推進事業」やクラブ活動等において地域の「ひと・もの・こと」を活かした学校教育活動を展開し一定の成果をあげてきた。そこで益田市では、平成20～22年度の3年間文部科学省委託事業「学校支援地域本部事業」のモデルを西益田地区に指定した。学校・家庭・地域の連携をより一層深め、学校教育に保護者・地域住民が広くかかわることを通して、地域の教育力の向上と児童生徒の学力向上をめざし、学校・家庭・地域がパートナーとなり、つろうて(一緒に)子どもたちを育てていくための体制づくりをめざした。これをさらに充実させるために平成23年度からは、益田市独自の事業として「益田市教育協働化推進事業」を全小・中学校で取り組んでいる。

益田市教育協働化推進事業は、学校支援地域本部事業を柱としており、市内全小・中学校で実施するため、中学校区の公民館にコーディネーターを配置し、公民館を中心に「地域ボランティアの創出」と「地域と学校の連携を推進する体制づくり」を行うものである。継続的な活動としては次の5つが挙げられる。

- ① 本部を地域の核である公民館に置き、いつでも立ち寄れる集える場所となるよう環境を整備。
- ② 公民館と放課後子ども教室・放課後児童クラブが連携して事業実施。
- ③ 子どもたちにとって地域の方が学校内でいつでも見える、出会う、関われる環境づくり。
- ④ 啓発用チラシを配り、地域の気運醸成をねらい「のぼり旗」を設置。
- ⑤ コーディネート依頼書の活用。



川での学習安全監視



下校時の見守り



啓発用チラシ



のぼり旗



ミシンの指導

事業を実施して

西益田地区では、既存の「地域で育む益田の子推進協議会」を母体とし地域教育協議会を開催した。また、学校支援を行う子育てパートナーは、放課後子ども教室(ボランティアハウス)や放課後児童クラブの関係者と共通していることが多いため、この3つの事業を総合的・有機的な取組に位置付け、それぞれのリーダーが益田市教育協働化の地域コーディネーターとなっている。3年の文部科学省委託事業が終了してもこのメンバーを中心に継続的な活動が行われている。

こんな活動です!!

学校支援を中心とした教育コミュニティの創造

活動名

渡津小学校【島根県江津市】

関係する学校

江津市立渡津小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	24人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	22人	24日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
図書室		20年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

地域コーディネーターが学校の要請に応じて、学習支援活動、クラブ活動、読み聞かせ、学校の草刈などのコーディネート活動を行っている。また、学校の召集する「学校支援委員会」に地域コーディネーターが参加し、学校の様子を聞き、それに応じて、地域の協力体制を作っている。

◆渡津小学校 学校支援員名簿

1. 渡津公民館長
2. 地域コーディネーター(婦人会長)
3. 青少年健全育成会長
4. 渡津連合自治会長
5. 長田民生委員
6. 岩貝・小迫谷民生委員
7. 嘉戸・嘉戸団地民生委員
8. 塩田・金川口民生委員
9. 主任児童委員
10. 渡津民生委員
11. 渡津老人会長
12. 渡津地区学校交通安全対策協議会会長
13. スポーツ少年団総団長
14. 渡津小学校PTA会長
15. 渡津小学校PTA副会長
16. 渡津小学校PTA副会長
17. 渡津小学校PTA副会長

特徴

<地域コーディネーターの活躍>

渡津婦人会が核となり、会長が「地域コーディネーター」の委嘱を受けている。週一回の「読み聞かせ活動」を中心に、学校に常に足を運び、学校の要望を聞く時間を作っており、その場で、教員と直接連絡を取って、どのような活動を行うか、どんな要望があるかを把握している。

<活動の連携・広がり>

発足当初より、婦人会が学校支援の中心として活動し、現在では、さらに渡津小学校の学校支援員から、地域の各団体のネットワーク化をはかり、自治会・体育協会・青少年健全育成会・公民館・民生委員・万寿会(老人会)に学校支援の依頼を行い、活動に参画する地域の方も増えてきている。

放課後子ども教室では、コーディネーターを保護者が交替で務め、社会貢献活動の成功体験や、保護者間の人間関係作りにも一役かっている。また、学校支援地域本部事業の地域ボランティアが子ども教室の安全管理員としても参加しており、地域の異世代間の連携・交流の場となっている。

<主な活動内容>

- ・総合的な学習・教科学習(ミシン学習、調理実習、書初め)
- ・サマースクール(夏休み学習) ・学習発表会の題材研究支援
- ・囲碁、地域伝統クラブ(銭太鼓、地域料理など)
- ・読み聞かせ活動 ・体育館の幕縫製
- ・校庭の草刈 ・芋畑の整備
- ・放課後子ども教室



◆意見交換・連絡会(校長先生を交えて)



◆読み聞かせの様子(毎週一回)

事業を実施して

- ・地域が一体となって学校や、地域の子どもの関わるという意識が地域全体に広がってきた。
- ・地域の子どもの顔がよく見えるようになり、登下校で出会ったときに大きな声で挨拶が出来るようになった。
- ・地域の人が自分の学習で得た知識、経験を教育活動に生かしていくことで、子どもたちの教育がより豊かになっている。
- ・子どもたちから、お礼の手紙や電話をもらい、感動している。おかげで気持ちよく活動できる。
- ・子どもとの触れ合いの中で、やりがいや、生きがいを感じられるようになり、子どもから元気をもらえる。

こんな活動です!!

できるときに できることから ～年間のべ650人のボランティアが参加～

活動名

旭小学校支援地域本部【岡山県美咲町】

関係する学校

美咲町立旭小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	46人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	あり
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	あり
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

児童が「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を実感できる学校、地域に親しまれ信頼される学校づくりに向け、学校支援地域本部を立ち上げた。学習支援や学校行事等の支援、環境整備支援など幅広く活動をしている。

特徴

〈特徴的な活動内容〉

● 幅広い学習支援活動

遠足や校外学習の安全見守り、スポーツテストのアシスト、水泳の指導補助や本の読み聞かせ等、地域のボランティアが様々な学習支援活動を展開している。また、全校朝遊びや昼休みの昔遊び体験、キャンプやスキーなど様々な体験活動を提供する土曜体験活動塾など、交流や体験の提供も行っている。(平成22年度 278事業)

● ボランティア研修会・連絡会の開催

ボランティア研修会を随時、連絡会を年に数回開催し、ボランティアの資質の向上、ボランティア同士の情報共有を図っている。特に、学習支援においては、子どもへの関わり方についてのルールをボランティアに徹底し、適切な支援につなげている。

● 校内研修での共通理解

学校における校内研修で学校支援地域本部のねらいやコーディネーターの役割、校内体制等の確認をしたり、運営の改善について検討をしたりして、教職員の意識を高めている。

〈実践に当たっての工夫〉

● 学校支援ボランティア年間計画表の作成

ボランティアが参加しやすくなるよう年間計画表を作成した。作成に当たっては、各学年の年間指導計画や行事予定をもとに、支援内容や必要なボランティアの人数等を学校とコーディネーターが話し合うことにより、学校のニーズやボランティアの効果的な支援の在り方について共有することができている。

● アンケートの実施

保護者やボランティアを対象にしたアンケートを毎年行い、集計結果や意見・要望等を事業運営に反映している。

〈その他の特徴〉

● 県内の学校支援活動への貢献

地域コーディネーターや学校長は、各地の研修会などで学校支援地域本部の実践やその意義について講義等を行っており、県内の学校支援活動の充実に貢献している。



本の読み聞かせ



土曜体験活動塾「デイキャンプ」

学校支援ボランティア年間計画表

事業を実施して

4年間の継続した取組で、教職員とボランティアの信頼関係が築かれ、スムーズな運営ができています。また、保護者を対象にしたアンケートでは、8割以上の保護者が「学校支援は子どもの生きる力の育成につながっている」と回答、ボランティアの9割以上が「学校の雰囲気はよくなっている」と回答するなど、取組の成果が着実に現れている。

こんな活動です!!

「地域から学校支援」「学校から地域支援」 ～双方向のボランティア活動～

活動名

吉舎中学校区 学校支援地域本部
【広島県三次市】

関係する学校

三次市立吉舎中学校、吉舎小学校、安田小学校、
八幡小学校、八幡小学校徳市分校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	7人	272人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級
実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
-			-年度	-

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

「地域の人材」「地域の支え」「地域に学ぶ」「地域に貢献」をキーワードに、地域コーディネーターを中心として、教育活動をより豊かにするボランティアの活動を推進し、学校と地域の連携を図る。

- 地域教育協議会による情報共有
- 地域人材を学校の諸活動に活用
- 中学生が地域の諸活動に参加

特徴

<特徴的な活動内容>

- **地域教育協議会** … 学校長、保護者代表、各種団体の長、学識経験者が委員となり、各活動や地域人材について連携。
- **中学生のボランティア活動の推進** … 地域行事に中学生が積極的に協力し、地域が活性化している。
- **“吉舎中方式”学校図書館整理** … 生徒や教職員、保護者、地元日影館高校生、地域住民が協力して、不要な本の払出し、新しい本の購入等、吉舎中学校の図書室を整備した。

<実践にあたっての工夫>

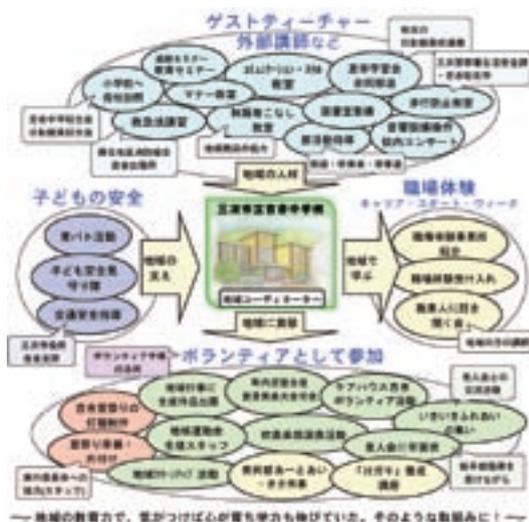
- ・ 地域コーディネーターによる地域教育協議会の定期的な開催、情報共有(人材、活動)、人材バンクの情報更新
- ・ 『きさ共育だより』を全戸配布しての活動紹介・広報
- ・ 市広報で学校支援地域本部事業の特集を組む
- ・ 中学校区内(小、中)の教職員への授業支援ニーズ調査
- ・ 『ボランティア手帳』を作成し中学生のボランティア活動を促進
 - ① 学校の負担軽減を図るため、地域からのボランティア依頼は地域コーディネーターが受ける。
 - ② 地域コーディネーターが中学校と調整し、中学生が活動に参加する。
 - ③ 活動後に地域の人に手帳にスタンプを押してもらう。



「ボランティア手帳」表紙



“吉舎中方式”図書室整理



事業を実施して

- ・ 吉舎中学校区内の情報共有、人材バンクの作成により、小学校区を越えた人材確保ができ、学校活動が充実した。
- ・ 中学生と地域住民が、顔と顔のつながりをもつことができた。地域活動に中学生が参加したことで、イベント自体に活気もみながり、関わった人たちが今後の活動に期待感をもつとともに、中学生が地域活動に関心をもつようになった。
- ・ 図書室がきれいになり、整備に関わった人はもちろん、多くの人が図書室や図書に関心を持つようになった。
- ・ 地域住民が、学校の図書購入を目的とした「共育楽読会」という組織をつくり、寄附金で本を購入した。

こんな活動です!!

地域の子は地域で守り育てる～コミュニティハウスは“地域の活力”と“絆”を結ぶ拠点～

活動名

三ツ城小学校支援地域本部(三ツ城小サポートネット)【広島県東広島市】

関係する学校

東広島市立三ツ城小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	109人	21年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	93人	49日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
東広島市三ツ城コミュニティハウス		19年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成21・22年度、三ツ城小学校区を東広島市学校支援地域本部事業のモデル地区に選び、校舎内にある三ツ城コミュニティハウスを拠点に、学校・家庭・地域、さらに大学が一体となって地域全体で学校を応援する連携協力体制「三ツ城小サポートネット」を構築した。地域のボランティアが学校を支援するこれまでの取組をさらに発展させ、地域コーディネーターが学校のニーズと地域の力をマッチングする役割を担うことで、より効果的な学校支援に高め、人と人や地域の絆を深めた。その成果を「地域の子は地域で守り育てる」取組のモデルとして、市内全地域に情報発信、広報啓発している。

特徴

地域コーディネーターは、コミュニティハウス(社会教育施設)を拠点に、実際に活躍する地域住民や保護者らとのつながりを保ち、校長、教頭、主幹教諭や生涯学習担当教諭と日常的に支援活動に関わる情報連携に努め、地域教育協議会での方針に基づき、6つの分野で有機的に活動できるよう調整している。挨拶運動、登下校時の見守り活動などの学校安全支援、読み聞かせ、図書室の環境整備などの読書活動支援、情報誌の発行などの情報発信支援、地域学習、教科学習などへの学習支援、緑化活動、花壇の手入れなどの環境整備支援、クラブ活動、地域スポーツ活動などへの体験活動支援がある。



<支援地域本部のリーフレット>



<「夢配達人プロジェクト」を掲載した新聞記事>

青少年育成広島県民会議が主催の平成21年度「夢配達人プロジェクト」では、三ツ城小6年生谷口都和さんが応募した夢「日本一でっかい凧を作って、凧揚げをしたい!」が選ばれ、4月開校予定の中央中学校建設地にて夢を叶えた。三ツ城小学校支援地域本部スタッフも青少年育成東広島市市民会議、東広島市夢配達人プロジェクト実行委員会とともに地域ボランティアとして活躍した。



<登下校時の見守り活動>

↑ コミュニティハウスでは毎週木曜日の午後3時から午後5時、放課後子ども教室「三ツ城わくわく広場」が催され、多くの子どもたちが参加している。子どもたちが安心して楽しく遊び、豊かな体験活動ができるようたくさんのスタッフが参画し、運営を行っている。一番の特色は、広島大学の学生ボランティアスタッフを中心としたけん玉、工作、ヒップホップ、合唱、留学生との国際交流プログラム「世界の遊び」など、さまざまなプログラムが実施されることである。また、地域スタッフによるハンドベル、折り紙、絵手紙、将棋、バドミントン、日本の伝統文化である日本舞踊、茶道、銭太鼓などの講座も工夫されている。夏季休業限定のそろばんやヨガなども特徴的なものである。

事業を実施して

地域や大学生のボランティアとの繰り返しふれあい体験により、子どもたちと地域の人々との絆は深まり、地域の人々の思いや感動は次世代へと受け継がれている。保護者や地域の方からは「共通の話題が増え、家庭での会話も増えた」「子どもからパワーをもらい、日常生活に張りができた」「他のボランティアの方々とも仲良くなり、世界が広がった」との声が、子どもたちからは「あんな大人になりたい」と思える人に出会えた」「地域が好きになった」との声が、先生からは「授業ではできない体験の機会が増えた」「ゆとりができ、子どもたちとしっかり向き合えた」との声があがっている。

こんな活動です!!

地域の子どもたちは地域で育てるー「誇れる学校・地域」の拠点づくりを目指してー

活動名

大野中学校区 学校支援地域本部
【広島県廿日市市】

関係する学校

廿日市市立大野中学校, 廿日市市立大野西小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	18人	68人	21年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	22人	121日	なし
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	図書室, 体育館, 運動場, 市民センター(公民館)		19年度	なし
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

未来を担う子どもたちが「誇れる学校・地域」を持てるよう、「地域の子どもは地域で育てる」という方針に基づいて、学校と地域が相互に信頼しあい、お互いの願いや課題、情報を交換・共有している。

また、子どもたちが活動に積極的に参画することで「達成感・役立ち感」を獲得できるような運営を行っている。

ボランティアの参加人数は約13,300人(平成22年度延べ人数)にのぼり、継続的な見守りや活動支援を通して、地域の大人に知り合いが増えたことで、子どもが地域の行事へ積極的に参加するようになった。

特徴

○ 学習支援・体験支援・情報発信支援等の分野ごとに、18人のコーディネーターが(一部は重複)所属し、支援ボランティアと学校との調整を行っている。子どもも役割を持ち、活動に積極的に参加している。

地域との合同清掃【児童・生徒の積極的な参加】(写真1)

大野中学校では、各地域(区)の代表が「子ども区長」として自分たちの地域の生徒の意見をまとめ、大人の区長と共に清掃場所を検討する等、学校と地域の連携に積極的にかかわっている。清掃当日は大野西小学校の6年生も参加している。

「読書の広場」【体験支援・学習支援】(写真2)

大野西小学校の校内に「読書の広場」というスペースを設け、地域のサークルの作品展示や竹細工教室、人形劇の実演等を行って地域の方と児童が交流している。読書の広場には、地域の方々やPTAから寄贈された図書が置いてあり、児童と支援ボランティアで図書の整理・貸出などの管理を行っている。

「みらいカレンダー」の作成【情報発信支援・体験支援】(写真3)

大野地域の地区行事と学校行事を同時に見ることができる「みらいカレンダー」を作成することにより、地域と学校とが情報共有している。カレンダー作成のための情報収集や製作費とする寄付集めを子どもたちが行っている。

他にも、小学校では、全学級での週1回の読み聞かせ、校外学習での児童の見守り、書道・家庭科等の学習支援、新1年生定着支援(教師の補助として生徒に個別にアドバイスする)、中学校では、基礎学力の定着を図ることを目的とした学習会(補習)の支援等、様々なきめ細かい支援が行われている。



写真1: 地域清掃の打合せ



写真2: 大野西小「読書の広場」



写真3: みらいカレンダー

事業を実施して

「私が住む校区では、地域の多くの人たちが毎日のように学校に行く。私は中学校の補習のお手伝いに入る。生徒は先生が用意した問題に取り組み、私たちが採点する。生徒は、合理的に時間を使い、集中して学習に取り組むことができる。また、私たちの励ましを受けて、楽しそうに成果を実感できているようだ。学校と地域が互いに一歩踏み込んで、より具体的な手だてを計画し、特に学校は地域を大きく受け入れる必要があると思う。」(支援ボランティアによる新聞投稿記事より抜粋)

こんな活動です!!

地域住民全員が学校支援ボランティア

活動名

厚東小学校運営協議会【山口県宇部市】

関係する学校

宇部市立厚東小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	○	—

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	400人	19年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	0人	25人	289日	あり
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	厚東ふれあいセンター		19年度	あり
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H22.4.1	10人	78人	7学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

「地域に開かれた信頼される学校づくり」を目指して、「教育を考える懇話会」、「地域参観日」、「三世交代交流遠足」、「校区合同大運動会」などを実施し、学校、家庭、地域社会の連携を図っている。

また、地域住民の子どもに対する意識が高く、子ども対象の行事には多くの人が参加、協力しているほか、登下校の子どもたちの安心安全を確保するため、地域ぐるみで見守り隊を組織している。



特徴

<特徴的な活動内容>

学校運営協議会を年間10回程度開催し、学校運営についての話し合いだけでなく、運営委員自身が大きな行事や事業の中心となりながら、地域住民にも協力の声掛けをするなど、学校への支援体制や地域との連携を図っている。

また、地域住民や保護者、教職員が一同に会して行われる「教育を考える懇話会」や、児童、教職員の様子を参観してもらうための「地域参観日」を実施することで、学校・家庭・地域社会の連携強化を図っている。

さらに、学期ごとに保護者や地域住民を対象にコミュニティアンケートを行い、学校に対する意見や要望を把握し、学校改善を積極的に進めている。アンケートを実施するごとに、地域住民の学校への関心は高まっている。

<工夫点>

今まで、コミュニティアンケートは「地域参観日」などで当日書いてもらっていたが、考える時間が少ないためか回答率が良くなかった。23年度より学校に対する意識の向上をねらいとした地域評価員を新たに組織し、事前にコミュニティアンケートを送るようにした。その結果、回答率も良くなり、学校への意見等も増えた。

<連携>

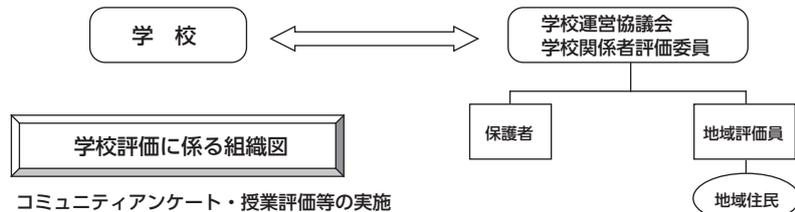
放課後児童クラブと放課後子ども教室が一体となって活動している「ひだまり」との連携強化に積極的に努めている。

地域住民も「地域の子」「地域の孫」として、朝は見守り隊、放課後は子ども教室の指導者というように、いろいろな場面で子どもたちに関わっている。

<その他の特徴>

【地域住民による学校支援】

- 環境整備・竹林整備や花壇の手入れ、剪定や除草など
- 学校支援・読み聞かせ、算数学習支援など
- その他・登下校の安心安全を確保する見守り隊など



事業を実施して

【学校の声】

- ・地域住民の学校に対する関心が高くなってきた。
- ・児童の心が育ってきている。
- ・安心・安全な学校づくりを推進できた。

【保護者・地域住民の声】

- ・コミュニティ・スクールの取組で、学校と地域の壁が低くなってきている。
- ・お役に立つことがあれば、協力はいりません。
- ・学校に行く機会が増えたおかげで、近所の子どもたちが自由に遊びに来るようになり、楽しい時間を過ごすことができた。

こんな活動です!!

「完全自立をめざして！」地域住民の参画による地域と融合した教育活動

活動名

装港小地域教育協議会【山口県岩国市】

関係する学校

岩国市立装港小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	77人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	29人	23日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
装港小学校及び装港供用会館		20年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成20年度から、国の委託事業の「学校支援地域本部事業」に応募。地域教育協議会を立ち上げ、人材バンクを整備し、地域の力を組織的に幅広く学校教育に取り入れることを目的に事業に取り組むこととした。

人材バンクに登録した地域の方を、学校支援ボランティアとして、「学習支援ボランティア」「安全支援ボランティア」「環境支援ボランティア」「寺子屋(放課後子ども教室)支援ボランティア」「行事支援ボランティア」に再編し、より子どもや学校のニーズに幅広く対応できるようにし、地域住民の活躍の場も明確にした活動を仕組んだ。



朝の読み聞かせ



防犯ボランティアの方と地区清掃



地域の方の流通の仕組みについての授業

特徴

〈特徴的な活動内容〉

- 学校支援地域本部事業の中に、放課後子ども教室を一つの柱として位置づけ、学校職員と地域住民が一緒になって、子どもの安全安心の場作りや学習・体験活動の提供を計画的に行っている。
- 学校支援ボランティアのメンバーは、地域の住民はもちろんであるが、企業や公民館の職員を含み、地域の特色を最大限に生かした教育活動を展開している。現在もボランティアの募集を続けている。

〈実践に当たっての工夫〉

- 委託事業としての平成22年度までは、コーディネーターの謝金等を補助金により支出していたが、3年間で基盤を作り上げ、現在は、コーディネーター等も完全にボランティアとして活動している。いわば、地域のボランティアによって学校教育活動支援が定着した。
- 放課後子ども教室については、補助金を活用して学校施設を中心活動場所として運営しているが、2年後には完全自立をして、地域住民による運営となるように、現在準備を進めている。
- 3年間の取組の成果を、市内はもちろん県内でも普及を図った。市内では、新たに4校が、本年度から地域による学校支援活動を本格的にスタートさせた。

寺子屋年間計画

4/23	土	お年寄りとグランドゴルフ
5/28	土	ミクロ生物を観察しよう
6/25	土	俳句に親しもう
7/21～29		みんなで勉強
8/5	金	料理教室(併用会館)
8/17～23		みんなで勉強
8/24	水	リサイクル工作(併用会館)
10/1	土	ニュースポーツに挑戦
11/5	土	昔の遊び道具を作って楽しもう
12/3	土	自分を守るためにできること
1/21	土	フラワーアレンジメント
2/11	土	手品に挑戦しよう
3/3	土	いのちについて考えよう

事業を実施して

地域による学校支援活動に取り組む中で確認できたことは、多くの大人とのふれあいの中で、いろいろな体験を積むことは、子どもの健やかな成長にとって極めて重要なことであり、子どもにとっても教職員にとっても、学校にとっても予想以上の成果があったことである。そして、地域にとっても、学校が地域住民の生き甲斐づくりや、地域の方向士の交流の場として重要な役割を果たしていることが確認できた。学校支援ボランティアの導入が、当初の目的である学校が元気になり、地域も元気になることが確信できた。無縁社会日本といわれるほど家族や地域のつながりが薄れてきつつある今日、地域の中の学校として地域のために果たすべき学校の役割は、さらに大きくなっていると感じた。

こんな活動です!!

地域の方が学校に集い「絆」づくりをめざす学校支援活動

活動名

穴吹中学校校区 学校支援地域本部
【徳島県美馬市】

関係する学校

美馬市立穴吹中学校、穴吹小学校、宮内小学校、穴吹幼稚園、宮内幼稚園

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	163人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
-		一年度	-	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成20年度に穴吹中学校校区学校支援地域本部を立ち上げ、学習支援(読み聞かせ、総合学習などの体験活動)、部活動の補助(ソフトテニスの指導及び各部大会引率)、環境整備、登下校時の安全指導、学校行事への参加(運動会・文化祭)とあらゆる分野でボランティアが学校を支援していく態勢ができています。

平成21年度から学校支援ボランティアが独自で発行している新聞は、学校の様子をボランティアだけでなく、保護者・地域全体に発信するものとなり、学校と地域の距離をより短し、地域が学校への関心を持つ有効なものとなっています。

特徴

活動を開始して3年が経過し、幼稚園・小学校・中学校側の積極的な事業活用があり、「学習支援」「部活動の支援」「環境整備」「登下校時の安全指導」「学校行事」などの幅広い支援を学校支援ボランティアが行っている。「学習支援」では、中学校国語(書道条幅書き・俳句)、「学校行事」では市行事である筏下りレース参加支援を行っている。

学校支援ボランティアが新聞「清流タイムズ」(宮内小)、「ボランティア穴吹」(穴吹小)、「ANA」(穴吹中)を発行し、学校支援ボランティア活動や学校行事の様子をボランティアや保護者・地域全体に迅速に積極的に伝えている。この広報活動によって、ボランティアの活動への関心が継続するとともに、地域全体のつながりを醸成している。

学校支援という目的で取り組みを始めたが、ボランティアからは、「買い物をしていたら、子どもから挨拶をしてくれた」「今度はいつきてくれるの?」など、校外でも児童・生徒から声をかけてくれるようになり、とてもうれしいとの感想も寄せられている。このことから、学校支援ボランティアにとっても自分たちの力を学校で発揮できることが結果として生涯学習の場づくりとなっている。



総合学習として
じゃがいもの収穫指導



中学校ソフトテニス部の指導補助



環境整備として定期的な花壇づくり



本部発行「ANA」

事業を実施して

- 地域ボランティアより「子どもと共通の話題がふえ、家庭での会話がはずむようになった。」
「子ども達から感謝の声・手紙、学校新聞をボランティアにも送られてくることがうれしい。」
- 教職員より「ボランティアの方々の読み聞かせ活動により、子どもが本に興味をもつようになった。」
- 子どもより「地域の方々との距離が近くなり、あいさつができるようになった。」

こんな活動です!!

地域とともに健やかな子どもの育成。 ～学校と地域のかけはし～

活動名

さぬき市寒川学校支援地域本部
【香川県さぬき市】

関係する学校

さぬき市立天王中学校、神前小学校、
石田小学校、寒川幼稚園、寒川保育所

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	265人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

・以前から地域ボランティアの養成に取り組む寒川公民館を拠点に、学校への支援と地域力の活用等を目的として事業を開始。



ボランティアだより

特徴

- ・各保・幼・小・中学校のほぼ中心にある公民館に事務局を置き、コーディネーターを配置することで、学校や地域とのコミュニケーションが容易である。
- ・各保・幼・小・中学校の代表者と事務局(コーディネーターを含む)との定期的な意見・情報交換会を開催し、意見要望等に迅速に応えるとともに、コミュニケーションを図ることで、事業がスムーズに行われている。
- ・年3回、「学校支援ボランティアだより」を学校や地域の全戸へ配布し、活動状況を知らせたり、活動や養成講座等への参加募集をしたり、情報の発信をしている。
- ・ボランティアの登録は、当初から個人登録に併せ、団体登録も実施している。中・高生の登録も加わり、年々登録数は増加している。
- ・ボランティアの資質向上のため、先進地の事業内容やボランティアの興味関心のある内容を中心に、講師を招いて養成講座を実施した。また、コミュニケーションを図る意見交換会も行った。
- ・活動の申込依頼・回答・報告等がスムーズに行えるよう、統一の様式を作成している。



ボランティア養成講座



昔のお話



古墳見学



放課後英語教室(中学校)

事業を実施して

- ・学校支援ボランティアの活動に刺激され、中学生が自らボランティアとして地域の文化祭や、運動会、また施設のイベントなどに、土・日曜日や長期休業日を利用して活動を始めた。
- ・学校関係者の声：「施設の維持管理や行事など、職員だけではできないところを支援していただき助かっています。今後も続けてほしいです。」「地域の人たちとのつながりができ、愛情のある援助をしていただいて、教師の資質向上にもなっています。」「学校と地域が連携できるシステムが公民館を中心にしてできているので、学校からの依頼も気楽にでき、負担も少なく本当に助かっています。」「教員数が少ないため、教師の専門性や行動力には限界があります。学校教育を充実するためには、地域の人材活用がこれからも必要です。」
- ・保護者の声「地域の方々が子どもたちを大切に思ってくださることに心から感謝します。子どもたちの記憶の中にも、このボランティアの方々の姿は、きっといつまでも残るに違いないと思います。」
- ・数学補充教室の参加生徒(中1)の声：「普通の授業では分からないところを先生に聞くのは恥ずかしいですが、「数楽教室」ではいつでも質問できます。この教室に参加してよかったと思います。感謝しています。」
- ・小5児童の声：「いつも朝早く、そして下校の時も見守ってくれとても感謝しています。夏休みにマーチングで学校に行く時も立ったださっているの、やさしいなあと思いました。」
- ・地域住民の声：「子どもたちから、元気をもらいました。ありがとうございます。」「学校行事の案内をいただけ、学校へ行く機会が増え、学校が身近に感じられるようになりました。」

こんな活動です!!

学校の環境を整えることが、地域力を高めた!子ども達も立派な地域の一員だ

活動名

泉川中学校支援地域本部
【愛媛県新居浜市】

関係する学校

新居浜市立泉川小学校、泉川中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	5人	200人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

子ども達の成長に地域の大人が積極的に関わろうという気持ちが生まれたのは、学校が一時乱れた時期に、学校側から地域に協力を求められ、地域も何とかしなければという気持ちが芽生えたからである。取り組む主な活動は次の3領域

- ① 場を整える活動……学校内の樹木剪定や花壇の整備、飼育小屋の改造、図書館整備など
- ② 学習を支える活動……総合的な学習の支援、稲作や伝統行事体験、部活動の指導、職場体験学習の受入先調整など
- ③ 安全・安心を支える活動……通学時見守り活動、地域と子どもが作る安全安心マップ、遠足など校外活動への協力など



学校環境整備活動



サロン交流風景

特徴

●「いつか学校に恩返しがあった。」地域には学校のために惜しみない力を提供してくれる人がいた。

みんなで学校の環境を整備しようということになり、当初は簡単な草刈りを想定していたのが、いざ始めると高所作業車、パッカー車、チェーンソー、塗装作業など様々な機材が結集し、本格的な作業になった。学校は見違えるように美しくなり、その後、生徒達も積極的に清掃活動に取り組むようになった。その際、ある協力者が言った言葉「自分は中学時代悪くて、学校に迷惑をかけた。恩返しせねばと思いつつ、学校の敷居は高くできなかった。でもやっと念願がかなった。本当にありがとう。」この言葉が地域の人の心情を代弁している。学校は、やはり地域住民の心のふるさとである。

●「先生の苦勞がよくわかったよ。」学校に入って初めて見えてくるものがあった。

小学校で校長の呼びかけに応じ遠足に随行した。以前から放課後子ども教室で子ども達との関係はあったが、学校での姿をつぶさに見るのは初めてだった。低学年の予想できない行動にただただ唖然、先生の汗だくの様子を見て「改めて先生の大変さを知った。私にできることはいつでも手助けするよ。」との声が聞かれた。一緒にお弁当を食べ、歩きながら学校や家庭の話聞き、子どものありのままの姿が見えてきた。それをきっかけに小中学校と地域との情報交換会が毎月開かれている。学校の状況が伝わり、地域の押し売りじゃない学校側の要望に応える真の支援ができるようになった。

●「一対一の関係で子どもと向き合う」子どもの心に寄り添う関係が必要だ。

学校では集団生活が基本であり、先生が一人の子どもだけに関わることは困難である。その点、地域の人は子どもとじっくりと関わる事ができる。算数の分からない子には分かるまで教えることができ、日頃の悩みをじっくり聞くこともできる。また、学校では自分の居場所を見つけられない子どもも、地域の中では役割を担い、自己有用感を感じることもできるのだ。不登校気味だった子どもが地域の大人との関わりを通じて登校し始めた体験や子ども達がボランティア活動に取り組む姿も増えた。地域の大人が子ども達の変容を実感し、子ども達のために何かやらなければという思いが高まったのだ。

●大人の居場所(いずみわくわくサロン)

学校は地域住民が入るには敷居が高い場所である。小学校長の発案で、気軽にみんなが集まることのできる場が確保された。予算ゼロであったが、地域に声をかけ、ソファや冷蔵庫などが無償提供され、畳の間が大工さんの協力で工賃なし、材料費のみで完成した。子ども達と地域の大人が気軽に触れあうことができるサロンとして有効活用されている。



遠足の安全支援

事業を実施して

学校支援地域本部事業で感じたのは、小さなことでもいいから具体的な支援活動を継続すること、互いが本音を出し合ってきたと縁結びをすることの大切さであった。みんなが持っている学校や子どもを思う情熱によって熟議が生まれ、問題解決に向けて協働する新たな仕組みができた。この新たな取組みが地域力を高めてきたと確信している。それぞれの支援活動は小さなものかもしれないが、その積み重ねが大きな歩みになる。将来的には特に学校支援などと言わなくても、当たり前前に学校に関与する風土になり、子ども達にとっても『誇り』に思える地域を目指したいものである。

こんな活動です!!

学校を拠点とした「ふるさとづくり」 (みんな集まれ! みんなであつたまる!)

活動名

父二峰小学校支援地域本部
【愛媛県久万高原町】

関係する学校

久万高原町立父二峰小学校、父二峰幼稚園

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	3人	120人	22年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

小学校1校と幼稚園1園への学校支援は、体験活動の支援(米作り体験やさつまいも栽培活動の支援、水生生物調査の支援、炭焼き体験や門松・しめ縄づくりの支援など)、放課後「遊びの学校」の講師(昔話の生語り、「フラメンコ教室」、「マイ箸づくり教室」、「ディスコン教室」など)、授業のゲストティーチャー、環境整備活動の支援(草刈り、樹木剪定、清掃活動など)、見守り活動への協力、学社連携・融合型の学校行事の積極的推進(運動会、学芸会、校区別人権推進大会など)多岐に渡る。学校に地域の力を取り入れると共に、学校を拠点としたふるさとづくりを推進している。



300人のふじみね大運動会



名人さんと門松・しめ縄づくり

特徴

<特徴的な活動内容>

- 体験活動では、「ふるさと学習」を教育課程に組み込んで展開している。中でも、「名人さんに学ぶ」学習は、生活科や総合的な学習の時間や学校行事等の時間を活用して、地域の方と相談しながら伝統的に継続している。
- 放課後「遊びの学校」は、地域コーディネーターの企画事業として、月1回、地域の方や専門家を招き実施している。
- 子どもを主人公にした地域参加・応援型の運動会は公民館の全面的協力の大会となっている。

<実践に当たっての工夫>

- 学校支援組織を見直し、全ての地域関係団体の代表者及び有識者で構成する「ふじみね学校支援連絡協議会」を発足させる。規約も活動しやすいように毎年改正している。地域コーディネーターをPTA役員より公民館別に複数選出し継続できる体制にした。なお、地域コーディネーターを養成するために、専門家を招き、コーディネーター研修会を実施している。
- 3公民館には全教職員が分担して運営委員となり、学校支援を依頼すると共に公民館行事には積極的に子どもが活躍できるように奨励している。その他の地域関係組織にも該当教員が加入している。
- 学校支援ボランティア広報紙の発行、学校だよりや町内の広報紙等を活用すると共に、各地域組織の代表者を通じてのPR活動を充実させ、地域住民全員が学校支援ボランティアとなるように働きかけている。
- 壮年会主催の「川遊び体験」事業や婦人会協力の「防災頭巾づくり教室」など、様々な団体・組織が子どもの育ちを自主的に支援してくれている。

<その他の特徴>

- 「ふるさと学習」ノートを活用した取組を始め、子ども自らが地域にかかわっていく手立てを講じている。
- 伝統文化継承活動を奨励している。
- ワークショップや学校支援シンポジウムを学校・家庭・地域一体で行い、これからのふるさとづくりを模索している。

未来へのメッセージ

「今、私たちは地域の人に助けられているので、大人になったら、子どもたちがずっと大切にしたいと思えるふるさとにしたい。」(4年)

「ふるさと学習で、父二峰が自分の誇りに感じた。これからも地域の行事に進んで参加して、伝統文化を学び、そして、伝えていけるようになりたい。」(6年)



学校支援シンポジウム

事業を実施して

学校に「地域がある」環境をつくることで、風通しがよく落ち着いた学校づくりができ、学校と家庭と地域が実感を持って連携できてきた。統廃合によって開きかけた学校と地域の距離が近くなり、子どものために地域で応援しようという雰囲気も大きく育った。そして、学校にたくさんの地域の人が集まることにより、互いの交流が生まれ、ふるさとのよさを共に味わう機会が多くなり、人と人との絆を確かめ合い深め合うことでよりよいふるさとづくりにもつながってきている。何より、子どもたちがふるさとに誇りを持ち、進んでふるさとづくりにかかわろうとしてきたことは大きな成果であった。

こんな活動です!!

地域住民を交えたPTCA組織による“朝型社会復権”への取り組み！

活動名

稲生小学校区支援地域本部
【高知県南国市】

関係する学校

南国市立稲生小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	3人	45人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

稲生小学校は、平成17年6月よりPTAに、地域住民(C；コミュニティ)を入れたPTCA化に取り組み、翌年4月に正式にPTCA組織で、学校・家庭・地域の連携により、推進力のある学校と地域運営に取り組んでいる。平成20年より、PTCAの発展性をも目指し、“学校支援地域本部事業”を受託し、毎年、新たな取り組みへのチャレンジを続けている。

特徴

現在、「朝型社会の復権による地域教育力の向上 ～学校支援から地域支援へ～」というテーマに向けて、本来、朝型である高齢者の参画により、“週明けの朝に焦点を当てた活動”を更に推進する取り組みを始めている。

●朝のラジオ体操(週明けの月曜日実施)

平成19年4月より、週明けの全校朝礼時に地域住民が参加して、児童とともにラジオ体操を行っている。これまでの単なる参加者を増やす取り組みだけではなく、この「ラジオ体操」を、地域住民の健康づくりという視点で深化させている。

●花育(ラジオ体操の後、月に2度程度実施)

平成20年10月から、元農業高校の教頭先生を講師として迎え、「花育」に取り組んできている。花育は、「食育」と同様に、地域協力を基盤とした体験型教育プログラム支援の要素があり、まだまだポピュラーではないが、学校花壇を利用した植物栽培での情操教育にもつながるという考えのもと、積極的に展開している。

●本の読み聞かせ(ラジオ体操の後、月に1度実施)

平成22年12月から、地域住民、特に高齢者による低学年児童への絵本の読み聞かせをほぼ毎月実施している。この活動を継続する中で、高齢者と児童の結びつきが強くなり、児童に喜びや安心感を与えるだけでなく、高齢者の生き甲斐づくり・脳の活性化にもつながってきている。



花育



地域の方も参加の1/2成人式



読み聞かせ



ラジオ体操

事業を実施して

学校の想いと家庭・地域の想いが一緒になった形であまり進んでいる。これからも一連の活動の一つ一つを成熟させ、学校と地域の連携強化をさらに進めていき、人・モノ・予算面で負担のかからない持続性を高めた活動に昇華していきたいと考えている。

また研究機関からの調査も受け、大学院生等との交流も積極的に図ってきた。(平成22年度筑波大学大学院地域施設研究室、平成23年度東京大学大学院教育学研究科)このような経験も本活動を見直す大切な機会になっている。

こんな活動です!!

「できる時に できる人が できる事を ムリせずに」知の循環型生涯学習をめざして

活動名

土佐町学校応援団【高知県土佐町】

関係する学校

土佐町立土佐町小中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	92人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	60人	185日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	小学校:南校舎1階、中学校:理科室		21年度	なし
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

土佐町学校応援団は、地域全体で学校・子どもを支援する活動を通して、学校教育の充実、子どもたちの安全確保、家庭・地域の連携による地域教育力の再生を図るため、平成20年度に活動をスタートさせた。学校応援団員は登録制で、「できる時に できる人が できる事を ムリせずに」をモットーに活動を継続している。

運営にあたっては、文部科学省の「学校支援地域本部事業」と「放課後子どもプラン推進事業」を活用し、土佐町学校応援団推進本部が母体となり、学校教育への応援、放課後子ども教室の開設、社会人への授業開放等の複合経営のかたちをとっている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- **小学校特別活動(お茶、囲碁・将棋、イラスト、マリンバ、アウトドアクラブ)、中学校体育科授業(剣道)、選択教科授業**
…学校応援団員が日頃取り組んでいることや、得意な分野を生かし講師として活動することで、応援団員の学びの成果を適切に生かし、更に学ぶ意欲が向上するなど、より深い生涯学習につながっている。
- **廃校を利用した学び場・交流の場づくり**
…廃校となった小学校を活用し、夏休みの学習の場、子どもたちと高齢者の交流の場の提供を行っている。企画や準備・運営は学校応援団員が中心となり実施している。
- **生涯学習学校**
…学校応援団員が児童生徒といっしょに授業を受けるもので、児童生徒は大人とのふれあいや会話をすることで、落ち着いて授業に臨みコミュニケーション力を高めていくことができている。また、地域の大人が授業に参加することで安全な学校環境をつくっていくことができている。

【実践にあたっての工夫】

複合経営のかたちをとることで、運営委員会及びコーディネーターが一本化され、学校と地域の情報共有がより図られるとともに、教育活動支援員や学習アドバイザー等の動きが把握しやすくなり、学校応援団としての組織の充実が図られている。

また、地域全体で学校・子どもを支援する仕組みや活動の方向性について、学校、地域、行政が、同じベクトルを持ちやすくなっている。



小学校クラブ(アウトドアクラブ)



廃校を利用した交流の場づくり



生涯学習学校

事業を実施して

全国生涯学習フォーラム高知大会「学校を核とした地域コミュニティの再構築」に関するアンケート結果より

※各設問について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の内、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合計した割合(%)

- ・「学校に(子ども)かかわることが楽しみになっていますか。」(学校応援団員)・・・98%
記述：子どもたちを知ることができ、自分の生きがいになる。子どもたちを見守っている地域を目指したい。
- ・「地域住民が学校にかかわることで、教育内容の充実が図られていますか。」(小中学校教職員)・・・96%
記述：出会いの機会が増え子どもたちの成長につながる。生徒の興味、関心が向上した。
- ・「地域の人といっしょに活動して楽しいですか。」(小学校1～4年生)・・・98%
- ・「地域の人といっしょに活動してよかったですか。」(小学校5・6、中学校1～3年生)・・・92%

こんな活動です!!

『むりなく、むりせず、おしつけず』 だれでも参加。

活動名

学校支援ボランティア「匠の会」
【福岡県宗像市】

関係する学校

宗像市立玄海小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティ・スクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	9人	59人	11年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

「匠の会」は、結成から12年目を迎え、子どもの健やかな成長を願う趣旨に賛同する団体、個人、ゲストティーチャーなど総勢59名の会員によって組織される。年度初めの総会において、各部より活動計画が出され、会長・各部代表世話人・教頭で調整を行いながら学校カレンダーを作成する。定例の読み聞かせ、年間を通した菊づくり、コミュニティと連携した安全指導、多様な学習支援を行っている。また、地域コミュニティ防犯部会や青少年育成部会等とも連携して活動の輪を広げている。

特徴

- 日常的に職員室を訪れ、学校のニーズを把握している。
- 地域と学校の信頼関係を保ちながら、日常のかつ継続的な活動を展開している。

<各部会の活動>

- ① ほしむし：本の読み聞かせ
- ② さいばい：校内の花壇の花植え・整備
- ③ 木工：物の修理・木工制作
- ④ 菊づくり：子ども達へ年間を通した菊づくりの指導
- ⑤ 環境・緑化・防犯：樹木の剪定・防犯パトロール・見守りあいさつ隊
- ⑥ 学習・体験：学習指導・教材環境づくり
(習字、絵画、版画、器楽、合唱、工作、俳句、英会話、パソコン、昔遊び、郷土の歴史、お茶、お花、化学、野外、球技、スポーツ、ストーリーテリング、稲作、野菜づくり、果物作り、河川の環境教育、ごみ問題、校内環境づくり、教室環境づくり、保険安全指導、点字体験、車いす体験、手話指導)
- ⑦ 玄友会(学校教育全般支援)



ほしむし



菊づくり



学習支援—習字学習



防犯—子ども見守りあいさつ隊



学習支援—米づくり



防犯—駐在所

事業を実施して

- ・子どもたちは、「読み聞かせ」や「ストーリーテリング」を楽しみにしており、読書に対する興味が高まった。
 - ・「西日本菊花展」にむけて一人一鉢の菊づくりに日常にかかわり、見事な大輪を咲かせることができた。
 - ・「習字」では、指導の積み重ねにより、子どもたちが丁寧な字を書くようになった。
 - ・生活科での野菜作りやもち米づくりなど、様々な場で多くの支援者による活動を展開した。
 - ・春と秋の「花いっぱい運動」を中心にして、校内を花でいっぱいにした。
- ※以上のような取り組みを通して、学校から、「様々な学習支援により豊かな学習活動が展開された。」「子どもの興味関心の高まり・豊かな心の育成・命の大切さなどが育った。」と感謝されている。

こんな活動です!!

“大人も子どもチャレンジ吉川!よさを認めて伸ばそう吉川の子” まもるっ隊

活動名

吉川小学校応援協議会【福岡県宮若市】

関係する学校

宮若市立吉川小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	6人	133人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

合い言葉「大人も子どもチャレンジ吉川!よさを認めて伸ばそう吉川の子」のもと、学校応援隊をまもるっ隊とした。まもるっ隊ジャンパーと帽子を作り安全ボランティアとPTAに配布。平成23年度から組織を見直し地域住民から会長及び副会長を選出。PTA予算に活動費が予算化された。吉川校区の子どもたちは学校家庭地域が一体となって育ていくことを目標に掲げスタッフ133人でスタート。年3回の実行委員会と4組織のリーダーからの実施報告がされ情報交換を深めている。活動内容は、1. 学習支援 教科学習支援の他 しめ縄づくりにチャレンジなど 2. 環境整備 定例の資源回収と資源リサイクルの日常化 3. 安全支援 登下校のまもるっ隊 4. PTA 地域家庭と一体となった行事

特徴

小規模校の特色を生かし活動4年目を迎えた。地域との絆が深まり各活動が定着。活動内容に応じリーダーからの発信でボランティアのメンバーがそろそろ。子どもたちとかかわり、みんなが元気になり温かい雰囲気につつまれる。学校だけでなく、地域ぐるみで子どもたちを見まもり育てようとして取り組んでいる。

学校応援隊の組織と活動(まもるっ隊)



事業を実施して

学校と地域、PTAが一体となった組織の確立が図られ、年度が変わっても各リーダーが次のリーダーへ活動内容を引き継ぐ体制が整った。実行委員会では、それぞれの立場で活動したことや気付いたこと、課題やその解決方法など幅広い内容で意見が出されるとともに、校区の情報交流ができています。少子化に伴い困難になってきた資源回収を自治会でも協力体制をとったり、常時回収も積極的に実施されることとなりPTAの活動や児童会活動に貢献している。また、災害時の対応について学校と地域が連携して取り組む課題も出されるなど学校だけで解決できない内容を地域ぐるみで考えている。地域の特色を生かした体験活動がさらに充実している。

こんな活動です!!

来て! 見て!! 育てる!!! 学校に足を運ぶことから始めよう。

活動名

御幸小学校子育て応援協議会
【福岡県うきは市】

関係する学校

うきは市立御幸小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	4人	60人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

福岡県では、学校、家庭、地域が主体的にそれぞれの教育力を高めながら子どもを育成していく「教育力向上福岡県民運動」を展開している。

御幸小学校では、より充実した教育活動が展開できるようにするために家庭・地域が連携し学校を支援している。

具体的には、「学校見守り隊」「シルバー保安官・青色パトロール」「学習見守り隊」など、幅広い学校支援活動を展開し、学校が中心となり地域・家庭と連携協力して健やかな子どもの育成に取り組んでいる。



学校見守り隊

特徴

●学校見守り隊

主に昼休みに、「危険な遊びをしていないか」「子どもたち同士のトラブルは起きていないか」と子どもの安全を見守る。そのことで子どもたちと顔見知りになり、街角で出会ったときも、挨拶を交わすようになってきた。子どもたちは、見守られている安心を感じ、地域の方々への感謝の気持ちを持つようになってきている。

●シルバー保安官・青色パトロール

雨の日も風の日も、温かい目で子どもたちの安全を守っているのが「シルバー保安官」である。御幸小学校の下校を守る保安官となる。このシルバー保安官のおかげで、子どもたちは、いつも安全に見守られ下校できている。また、学校行事などの日に、地域を巡回するのが「青色パトカー(防犯協会)」である。訓練を受けた防犯協会の人たちが、子どもたちの下校時間に合わせ、パトロールしている。

●読み聞かせ隊

読み聞かせボランティアと保護者ボランティアの方により、月に二回、全学年での読み聞かせが行われている。

読み聞かせにより、読書への興味や関心を高めている。子どもたちは、読み聞かせを始め以前より積極的に読書に取り組むようになり、読書経験を広げている。

●学習見守り隊

学校で行われる学習活動の見守りを行う。家庭科で行われる調理実習や裁縫(ミシンの使い方)、体力テストの測定、九九の暗唱などを見守る。

また栽培活動でのさつまいもの苗植やさつまいも掘りの見守りを行っている。



読み聞かせ隊



学習見守り隊

事業を実施して

昼休みに「学校見守り隊」が黄色のビブスを着て、いつも通りに優しい目をして子どもたちを見守っている。

朝「読み聞かせ隊」が教室に行き、時間になると読み聞かせを始め、子どもたちは、時間通りに集まり、熱心に聞いている。

この3年間の取り組みで、校区の方はもちろん保護者も一緒になって活動しており「地域で子どもを育てる」こと、大きな活動はできないけれど、日頃からの小さな活動が子どもたちを温かく見守ることなど確実に定着している。学校と地域、保護者が一つになり、健やかな子どもの育成に向けた取り組みとなっている。

こんな活動です!!

地域ぐるみで「ふるさと嘉瀬を愛する子どもたちを育てる」

活動名

KSVN(嘉瀬小学校ボランティアネットワーク)【佐賀県佐賀市】

関係する学校

佐賀市立嘉瀬小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	179人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	なし
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	なし
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

嘉瀬町では、平成7年度から小学校にゲストティーチャーの導入があり各種団体をはじめとする地域の色々な人たちが子どもたちを支援している。平成14年度からは、「地域ぐるみの子育て」の実践として第1・3土曜日の休業日に子どもの居場所づくり「どようひろば」を学校、地域、保護者、企業が連携して、日頃なかなか体験できない様々な企画や、学校の授業では実施が難しい体験活動などを地域の人たちとともに支援している。平成20年10月からは、授業日における学習支援活動、子ども見守り活動や休業日の活動等、地域におけるそれぞれの学校支援活動を、5部に整理統合した。このようにKSVN活動は、学校支援活動を通じて、子どもと大人がつながりを持ち、学校と地域が協力・連携し、嘉瀬の子どもをともに育む活動である。



子どもと一緒に給食中

特徴

〈特徴的な活動内容〉

地域の子どもは地域で育てるという機運もあり、学校には常時地域の人々が入り出し、協力・連携がとりやすい環境がある。学校の施設内には、地域の人々が会議(打合せ)や、サークル活動など各種活動や休憩ができる場として、空き教室の一部を「コミュニティルーム」として利用している。KSVN活動には、保護者はもちろん地域の各種団体や企業、小学5、6年生のボランティアジュニアも地域の一員として参加・参画する。また、活動費に自治会が継続的に補助を行ない、町ぐるみの活動となっている。

〈実践にあたっての工夫〉

平成14年に設立したKSVNの「どようひろば」は、全体参加者数がボランティアスタッフも含め毎回約90名である。そのなかで、児童の参加は約60名(全児童の約1/4)であり、1度も「どようひろば」に参加したことがない子どもは約1割である。活動には、地域の高齢者、保護者、各種団体、学校職員など様々な人たちが、「できる時に、出来る人が、出来ること」をモットーに参加しやすいようになっている。また、コミュニティルームは、地域の人が責任者となり、ほぼ毎日コミュニティルームで地域の人々の憩いの場をつくっていることで、更に学校と地域の連携がとりやすくなっている。PTAは、父親による企画を取り入れたら、PTA会員を卒業した後は地域会員としての登録者を推進したりしている。



学習支援 暗唱ききとり



KSVN組織図

事業を実施して

学校や地域はともに、子どものために何かをしたいと思ったり、考えたりしているが活動のきっかけがなかなかない。そういう環境の中で、KSVN活動に参加したり、コミュニティルームに来たりすることで、孫や子どものいない世代の人たちが学校に来る機会ができ、学校や子どもたちの状況を知ったりすることができる。活動に参加した人からは、「はじめて学校にきた。子どもと一緒に活動することは楽しい。今の子どもたちは、こんなことも知らないのか、いろいろなことを教えてあげたい。今の先生たちは昔と違って忙しい。自分にも何か出来ることがあってうれしい。」などの声がある。

こんな活動です!!

学校で「学び」家庭で「しつけ」地域で「育てる」をスローガンにして

活動名

嬉野コミュニティ教育支援協議会
【佐賀県嬉野市】

関係する学校

嬉野市立嬉野中学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティ・スクール	その他
○	-	○	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	310人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H19.4.19	15人	416人	14学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

学校に対する保護者や地域の要望は多様化している。学校もその要望に応えるべく日々努力をしているが、十分に答えることが難しいケースも生じてきた。そこで、学校・家庭・地域が力を合わせることで、子どもたちを最大限に支援することをねらいとして活動がスタートした。学校支援ボランティアを募り、子どもたちへの支援を充実させ、地域みんなで地元の学校をよりよくしていこうという思いで活動している。

特徴

平成19年度からコミュニティ・スクールとして指定をして、保護者や地域の声を学校運営に反映させてきた。また、学校支援地域本部事業に平成20年度から取り組ませていただき、学校と地域とをつなぐ連携コーディネーターを配置できた。この連携コーディネーターの配置によって、地域の要望を的確にとらえ、学校運営に反映させると同時に、学校の要望をボランティア団体に伝え、学校支援の充実を図ることができた。平成23年度は、学校とボランティア団体の代表者との直接交渉によって活動できるまでに進展した。

<特徴的な活動内容>

- ① 学校施設を開放し、ボランティア団体の例会や生徒との交流会を学校で開くことにより、生徒理解が深まり、より具体的に教育活動への助言をいただいている。
- ② 学校支援に特化するだけでなく、学校も地域に貢献するという双方向的な取組により、学校に対する地域からの信頼が得られた。
- ③ ボランティア団体の一つである国際ソロプチミスト佐賀西部の方から、『佐賀県の10代女性の人工妊娠中絶率が国内ワースト1という現実を問題視している。中学生のために何かお手伝いをしたい。』というお話があり、学校において性教育講演会を開催した。

<実践に当たっての工夫>

協議会委員による、「学校と地域の連携の在り方を考える『熟議』」を実施した。『熟議』では、「保護者、地域の方が学校に来やすい環境づくり」や「学校と地域相互の人材活用」などを課題として議論し、参加者が活発に意見を出し合い、学校と地域のつながりを深めるための具体的な方策について考えた。すべての委員の方に課題とその方策を考えていただいたことは大きな成果であり、今後継続して実施することで、活動の活性化にもつながると確信している。



団体の例会後の生徒との会食の様子



うれしガーデン(学校園)での地域の方々との協働作業の様子



体育館で実施された性教育講演会



和やかな中にも本音が出された熟議

事業を実施して

地域の方々やボランティアをしていただく団体の方々の会話や会議の話題に、中学校のことが取り上げられるようになり、中学校のイメージが大変良くなった。そのようなことが積み重なり、地域の方々の子育てに関する意識も変容し、地域の子どもの子育てに一役を担っているという自覚が醸成されつつある。また、地域が学校を支援していただけるということは、これからの学校教育を考えたときに、非常に大きな財産であると考えられる。今後は、この財産を再構築するとともに、これからの教育に引き続き生かしていきたい。

こんな活動です!!

合言葉は「つながり」 めざせ!大久保コミュニティ

活動名

大久保小学校 学校支援会議
【長崎県佐世保市】

関係する学校

佐世保市立大久保小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	11人	115人	21年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	37人	30日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	図書室、会議室、体育館、運動場	20年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

大久保小学校児童の確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成を実現するために、学校・家庭・地域が一体となった活動を推進することを目的として三者が互いに意見を出し合い、それぞれの役割及び協力し合うことを明確にすることで相互の教育力の向上を図っている。また、めざす児童像を共有し、あいさつ運動を始め、学習支援ボランティアとしてのサポート活動、行事の共同開催、研究授業の参観など、まさに学校の強力な応援団として活動している。



5年 総合しめ縄作り



地域の達人による講座開催

特徴

〈特徴的な活動内容〉

- 毎月1回の定例会において、学社融合行事の企画・運営の検討、学校の教育課題及びその対策についての共有化等を行っている。
- 放課後子ども教室、職場ふれあい体験、地域の達人を活用した講座開催等、子どもの豊かな体験活動を充実させている。
- 教職員の研究授業を参観し、学校関係者評価に活かしている。
- 「ふれあい運動会」「こころを見つめる集会」「輝きっ子まつり」と学社融合行事を年に3回行っている。

〈実践に当たっての工夫〉

- 民生委員児童委員や公民館長、保護者等によるあいさつボランティアが登校の見守りを行っている。「あいさつ」を共有目標とすることで継続性を高め定着を図っている。
- 「ふれあい運動会」「こころを見つめる集会」「輝きっ子まつり」の企画運営に参画し、広報活動を充実させることで行事の趣旨等の周知を図り、公民館長・民生委員児童委員等をはじめ、一般の地域住民等が多数参加している。
- 店舗が多数集まっている地域性や様々な技を持った地域の達人を活かし、豊かな体験活動を充実させている。
- 学校支援会議を学習支援部・安全部・環境部・体験活動部で組織し、各活動の把握や実働に取り組んでいる。
- 学校支援会議委員が放課後子ども教室のコーディネーターを兼務し、講師の情報や事前準備のボランティア召集などネットワークを活かした取組を行っている。多数の学習支援ボランティアがゲストティーチャーとして活動している。
- 定例会で教育課題の共有化を図っている。

〈その他の特徴〉

- 支援会議委員が、有識者・連合町内会長・福祉推進協議会会長・PTA代表と各種機関の代表者が集まり、非常に高い当事者意識をもって取組を支えている。
- 学社融合行事により、多数の地域住民のコミュニティとしての場を提供している。

〈年間の主な活動計画〉

4月 会則確認・年間計画立案	10月 研究授業参観
5月 ふれあい運動会実施	11月 輝きっ子まつり
6月 こころを見つめる集会実施	12月 門松作り
7月 教育課題及び対策の共有	1・2月 学校関係者評価
9月 輝きっ子まつり実施計画	3月 体育館清掃 卒業式出席

事業を実施して

- 毎月の定例会において、学校の現状や課題について共有することができ、学校の強力な支援者としての存在は大変貴重である。授業参観にも来て頂き、教師に対して温かい感想や励ましをくださることで教師の意欲にもつながっている。
- 様々な人との関わりによる豊かな体験が子どもたちにつながるの大切さを教えてくれている。また、子どもとのふれあいを楽しみに笑顔で学校に集まってくださる姿を見るのも大変うれしいことである。

こんな活動です!!

学校・家庭・地域が子どもの育成目標を共有しながら教育力の向上!!

活動名

翠の会・霞翠っ子育成協議会
【長崎県壱岐市】

関係する学校

壱岐市立霞翠小学校(いきしりつかすいしょうがっこう)

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	37人	19年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	3人	74人	22日	あり
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	教室 体育館 校庭		19年度	なし
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

学校・家庭・地域が双方向の信頼関係を深め、それぞれの意見を学校運営に反映させることにより、創意工夫しながら特色ある学校づくりを推進している。5つの共有目標(道徳心の向上、学力の向上、体力・耐性の向上、生活力の向上、コミュニケーション力の向上)の達成に向けて、年間計画に基づいた実践をすすめる、年間2回の評価により実践の改善を行っている。

学校、地域実践部、家庭実践部の代表は、学校支援会議(霞翠っ子育成協議会)において、年間計画の提案及び進捗状況の報告を行うとともに、連携しながら霞翠小学校のよりよい教育の実現に向けて共通実践ができる体制を整えている。



【かすいわんぱくすもう大会】



【ボランティアと子どもの交流会】

特徴

〈学校・家庭・地域が三位一体となった教育力の向上〉

○積極的な連携・協働体制

年間8回を数える学校支援会議(霞翠っ子育成協議会)では、学校、家庭、地域の立場から、見取った子どもの様子やそれぞれの実践について話し合われる。実践の成果や今後の課題を子どもの姿から洗い出し、どのような点から共有目標の達成に向けて互いに協働していけばよいかについて熱い話し合いがなされている。

○各部の積極的なかわり

霞翠っ子育成協議会は、3つの部(学校・家庭実践部・地域実践部)から構成されている。年間計画に基づき、それぞれの部から子どもを伸ばすための具体案が提案され、共通理解のもと、実践が進んでいる。

地域実践部の中に所属する企画広報部は、翠の会の広報活動として、「コミュニティ翠」を年間3回発行している。さらに、本校の校庭に作られている土俵を使つての「かすいわんぱくすもう大会」は、企画広報部の主催で3つの部の協力を得ながら、毎年、実施されている。また、学校はホームページを開設し、それぞれの教育実践について具体的な取組のあしあとを公開している。

○学校支援ボランティアによる学習等のサポートの推進

子どもの学習の充実を図る目的から、各教科(家庭、音楽、生活)、図書、囲碁将棋クラブ、パソコン、環境について学校教育を支援するボランティアの体制が整っている。コーディネーターにより、いつ、どこで、どのようなボランティアが必要なのか学校との調整を図り、地域人材を招聘し、教育効果を高めている。

火曜日の朝の読書の時間や読書集会には、図書ボランティアの読み聞かせや大型紙芝居が行われ、子どもの読書活動が充実している。また、音楽や家庭科などの学習において、技能の指導も個別に行うなど行き届いたサポートが実践されている。

さらに、地域老人会による「かすい応援隊」の取組が月に2回実施され、昼休みの時間に子どもとふれあう活動も展開されている。

○どんぐり隊による多様な体験活動の実践

放課後子ども教室として、どんぐり隊の活動がある。子どもたちに不足している体験活動や伝統文化に関する学習の場を設定し、生きる力を育むことを目的としている。第2、3、4の土曜日の午前中、地域のボランティアの協力により、様々なクラブが体験活動を行っている。



【大正琴クラブの活動】

体験活動クラブには、ゲートボール、昔遊び、手芸、料理クラブがある。また、伝統文化クラブとして、詩吟、将棋、生け花、和(茶道)、大正琴のクラブが活動を行っている。

事業を実施して

学校・家庭・地域の積極的な連携・協働体制に支えられて、子どもたちへの手厚い支援が行き届いている。また、それぞれが共有目標を共通理解して取り組むので、目指す子ども像が明確であり、何を課題として子どもへかかわっていくのかをしっかりとらえた上で子どもと接することができている。その結果、子どもは様々な学習経験や生活経験を通して、たくましく生きていく力を身につけていっているといえる。また、多くの方とのふれあいの中で、子どもの社会性や自主性が豊かにはぐくまれている。

活動名

菊池市立泗水小学校【熊本県菊池市】

関係する学校

菊池市立泗水小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	○	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	67人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
-		一年度	-	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H17.6.16	12人	524人	19学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成17年文部科学省コミュニティ・スクール調査研究校の指定を受けて以来、地域とともにどのような教育活動ができるかを模索してきた。その後、地域コーディネータが導入され、これまで取り組んできた内容を精選し、また新たな取り組みも組み込みを行いながら、さらに地域の力を生かした体験的な活動や学習補助、地域との交流など効果的な学習活動等の実践をしている。年間計画に基づいた地域の活用だけではなく、教師や地域等の要望も、教務、コーディネーター、担任が調整することで、実現できる体制を作っている。

特徴

地域とともに取り組んでいる学習には、以下の4つがある。「年間計画に基づく授業」は毎年行われている内容で、生活科の町探検、家庭科のミシン、生活科の昔遊び体験などがある。「教師の意図に基づく授業」は教師が授業をデザインする中で、ゲストティーチャーやアシスタントティーチャーを取り入れると効果が高いと思われる授業で取り組んでいる。授業デザインによって異なるため、必要に応じてお願いしている。これまで社会科で地域の移り変わりや産業の理解を深める授業等を行った。「児童の興味・関心に基づく授業」は児童が興味を持ったり、疑問を持ったりしたところからスタートする。必要な体験、人材を確保し、打ち合わせをしながら授業を展開している。これまで電車、蚕、椿油について調べる学習に取り組んだ。「地域の願いに基づく授業」は、地域から児童に教えたい、協力したいという願いに基づき、教科の学習と照らし合わせながら、可能な限り取り組んでいる。これまで介護老人保健施設の交流と理解、租税教室、農業体験等に取り組んだ。

年間計画に基づく授業



牛舎を探検する児童

児童の興味・関心に基づく授業



電車について質問する児童

教師の意図に基づく授業



農家の方に話を聞く児童

地域の願いに基づく授業



地域の施設を訪問する児童

2年生生活科「町探検」

毎年、町探検を班毎に行っており、地域の施設や店、牛舎などを保護者(AT)といっしょに回っている。探検場所は班毎に自分たちで決定し、事前にコーディネータから目的や日時等の連絡をしている。児童は自分たちで探検できた喜びや、それぞれの場所で体験などを行い、多くの気づきを得た。

3年生総合「泗水町大好き」

児童が町を調べの中で、電車を通っていた跡を発見した。そこから様々な疑問が湧き、実際に電車を運営していた会社を訪ね、電車を通っていた頃の泗水町の様子などについて説明を聞いたり、質問をしたりした。昔の町の様子を知った児童はさらに昔のことを調べようと意欲を持った。

5年生社会科「食料生産を支える人々」

教科書で学習した地域と自分の地域とを比較するために、地域の農家の方から、飼料米を育てていることを解説していただいた。児童は課題に対する自分達の考えを確かめ、地域の実態をとらえることができた。

4年生総合「出会い・ふれあい・喜び合い」

地域の介護老人保健施設から「認知症について児童に理解させたい」という願いがあり、学習の計画に組み込んだ。児童が施設を訪問し、説明を聞いたり、交流したりすることを通して、施設や高齢者に対する理解が深まった。

事業を実施して

事業の成果は以下の通り

【学校】地域を生かした効果的な授業の実践ができ、開かれた学校づくりを行うことにつながった。

【児童】体験的な活動などにより、意欲の向上につながるとともに、地域とのつながりを深めることができた。

【地域】子どもとふれあう機会が増え、学校の応援団としての意識が向上した。

こんな活動です!!

われら学校応援団! 「学習」「環境整備」「登下校安全」「心」「行事」など幅広く支援

活動名

たのうらっ子地域応援団【熊本県芦北町】

関係する学校

芦北町立田浦小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	57人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

子どもと交流をしながら、子どももボランティアも元気になるように活動している。主に、算数・国語の基礎基本の問題の丸付け、廊下や図書室の季節感あふれる掲示物の作成、校外学習時の安全確保・引率、運動会や学習発表会での衣装作り、月に2回子どもと一緒に取り組む掃除、花の苗移植などである。不定期ではあるが、年5回ほど広報紙を発行し、活動の様子やボランティアの感想などを積極的に紹介している。

特徴

【学校と応援団の連携】

学校のニーズをはっきりさせるため、学校の担当者とコーディネーターで事前の打ち合わせを実施している。3週間先までの行事や2週間時間割の提示によって予定を明確にし、応援団活動の調整を行っている。学校内の会議室を控室として活用し自分たちのペースで楽しく活動している。PTAと共有しているパソコンを活用し広報紙や調整表の作成をしている。

【活動内容の多様化】

季節に合った掲示物の作成や花苗移植、定期的な学習支援や掃除活動など、年間をとおした活動計画ができています。一方、学校のニーズにできるだけ応え、校外学習の引率や運動会の衣装づくりなどの活動も行っている。

【参加者・人数の充実】

「できることを できるときに できるところから」をモットーにボランティア募集をし、「ちょっと子どもの顔を見に行こうかな」という気持ちを大切に、保護者・地域の方以外に校区外からの参加もある。身体がご不自由にもかかわらず、家で掲示物を作成してくださるボランティアもいる。

【継続性と定着度】

子どもの笑顔を思い浮かべ、楽しい会話をしながら掲示物や衣装の作成したり、さまざまな支援活動をしている。

ボランティア活動をとおして、子どもたちに関する話題や情報交換も多くなり、地域も元気を取り戻すことができた。

子どもたちの笑顔が地域の元気の源になっている。



夏の掲示物



基礎基本の問題の丸付け支援



掃除支援(子どもと一緒に)



3年生「書写」支援



種床からポットに苗移植作業



秋の掲示物



運動会の衣装作り



運動会「低学年ダンス」

事業を実施して

田浦小学校は、平成20年4月に3校が統合して新しい小学校としてスタートした。子どもたちは、約6割がスクールバス登下校となり、「地域との関わりの低下」が懸念された。本事業を同時にスタートし、地域ボランティアの継続的な協力と交流機会を持続させてきたことにより、子どもたちと地域の人々とのつながりを途絶えさせなかった。また、読み聞かせ活動や学習支援活動などを通じて、教員も子どもたち一人ひとりをこれまで以上にしっかり指導できるようになった。なによりボランティアが元気に活動している。

こんな活動です!!

学校の教育課程と連動!多くの教科に ゲストティーチャー・学習サポーターが参画

活動名

第二中学校区支援地域本部
【大分県津久見市】

関係する学校

津久見市立第二中学校、青江小学校、堅徳小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	191人	19年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

地域の人々とのふれあいと地域の人の持っている力を子どもの教育に活かしたいと考え、教科・総合的な学習の時間、学校行事の中で積極的に取組んだ。当初はゲストティーチャーや学習サポーターの活動が主だったが、活動が進むにつれ、環境整備や登下校の安全指導にも広がり、活動数も増えてきている。

特徴

<特徴的な活動内容>

・学習支援(ゲストティーチャー、学習サポーター)学校行事への支援が中心で始めたが、最近では環境整備(庭木の剪定、草取りなど)や登下校時の安全指導に広がりを見せている。

<実践に当たっての工夫>

- ・学校ごとに日常的な活動として実施している。例えば「読み聞かせ」では、堅徳小(月2回朝読書の時間に全学年で実施)青江小(5月から毎週月・木の中休み・昼休みに実施)。書写指導では、堅徳小(学期2～3回全学年で実施)、青江小(学期2～3回高学年で実施)、しいたけのコマ打ち体験は、毎年1回、3年生を対象に実施。高学年に対しては「しいたけ料理」を実施。
- ・毎年同じ活動をすることにより、より多くの地域の人々に活動の目的などが理解しやすくなり、多くの方が活動に参加しやすくなった。
- ・書道教室の生徒による書写の指導、環境美化グループによるしいたけのコマ打ち、森の学習指導、区長を中心とした地域住民による昔の遊び、各種チャレンジ教室の開催など、既存の組織や団体の特性を活かした取組みをしている。
- ・第一中学校区の小中学校へも取組み事例やボランティアの紹介など積極的に行ってきた。平成23年度からは、「津久見市教育力向上支援事業」として第一中・第二中の中学校区で「学校支援活動」「放課後子ども教室」「学びの教室」を実施している。
- ・これまでの「地域人材を活用する道徳の授業」「地域とはぐくむ学習力向上事業」(学習サポーター)「地域人材活用学習力向上事業」などの研究成果を引き継ぎ、子どもや地域の実態を考え、特色ある学校教育活動として位置づけている。



第二中学校 AED講習



青江小学校 炭だし体験



堅徳小学校 チャレンジまつり(茶道)

事業を実施して

- ・学校の様々な活動を地域のボランティアが支援することで、子どもが地域の人々とふれあう機会が増えるため、保護者や先生とは異なる大人とのコミュニケーション能力が向上した。
- ・地域住民の自らの経験や、公民館等で学習した成果を活用できる場が広がることにより、自己実現や生きがいづくりにつながるようになった。
- ・学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され、地域ぐるみで子どもを見守る機運の高まりや、学校を核とした地域の活性化につながっている。

こんな活動です!!

“地域総がかり”で子どもをはぐくむ ～広がる学校支援ボランティアの輪～

活動名

南小・浜脇中学校区ネットワーク会議
【大分県別府市】

関係する学校

別府市立南小学校、浜脇中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	534人	19年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
	実施場所			開始年度
-			-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

「南小・浜脇中校区ネットワーク会議」(学校支援地域本部)は、地域の諸団体や学校、PTA、大学関係者等で組織した。年間約200の事業を実施してきた。平成19年度に文部科学省の委託事業として、「学校支援を通じた地域の連帯感形成のための特別調査研究」を実施し、その際に地域のネットワークを作り、ネットリーダー(コーディネーター)が学校と地域をつなぐ調整役となる体制ができた。平成20年度からは、「学校支援地域本部事業」として委託(県からの再委託)を受け、継続して地域住民のボランティアにより、学習支援や環境支援等の学校支援を行ってきた。

特徴

2校それぞれにネットリーダー(コーディネーター)を配置し、地域と学校との連絡調整にあたった。また、学校側にも地域教育担当者を置き、学校側の要望の取りまとめなど、窓口となった。自治会や老人会、婦人団体、PTAなど地域の様々な団体や個人に協力を求め、地域住民のボランティアによってさまざまな学校支援活動を実施した。

南小学校では、読み聞かせ活動を保護者と読み聞かせグループが連携して低学年に対して毎週実施。次第に活動が定着し、ボランティアが十分確保できるようになったため、現在では毎週1回全学年で実施するようになっている。学習支援では算数の九九の暗唱での聞き役や家庭科の調理、裁縫実習の補助、総合的な学習の時間での「浜脇薬師祭り」の灯籠づくりの講師等の活動に取り組んだ。また社会科の校外学習では「まち歩きグループ」のメンバーが地域の案内を実施した。運動会でも太鼓や踊りの指導等に取り組んでいる。クラブ活動の時間には、バドミントンや工作、手芸、囲碁などに多くの地域住民が指導者として参加している。その他、登校時の見守りは週2回、地域住民と保護者が連携する形で続けている。

浜脇中学校では、3年生の総合的な学習の時間に「ものづくり講座」を実施しており、「和太鼓」「手話」「調理」「木工」「写真」等のコースにおいて、地域住民が講師として指導。家庭科の裁縫実習ではミシンの扱い方などの指導補助を行った。また、定期テスト前の放課後学習の際に、地元大学生が学習支援を行った。さらに英語検定受験に向けた英語学習の支援にも取り組むとともに、放課後や夏休みには図書館での補充学習の支援も実施した。その他、地区生徒会の空き瓶回収や地区清掃などの生徒会行事、部活動に対しても支援を行っている。幼稚園や小学校との合同バザーにおいても会場設営や片付けを含めて、地域住民と保護者が連携して支援を実施した。



南小学校(社会)地域探検支援



浜脇中学校での大学生による放課後学習支援



浜脇中学校(総合)和太鼓指導支援

事業を実施して

事業を継続していく中で、次第に地域住民の関心や事業への理解が高まるとともに、学校側の受け入れもスムーズになっていった。それにつれて、事業数、ボランティア数ともに増えていき、活動が充実していった。ボランティアに参加した住民が、学校外でも子どもたちに気軽に声をかけられるようになったり、子どもたちが、親しみを込めてあいさつができるようになるなど、子どもたちが地域の中で育つという環境作りには大きな効果が見られた。参加した住民からは、「子どもたちとの交流で元気をもらった」「自分の技術を活かす喜びを感じた」という感想が聞かれた。

こんな活動です!!

高齢者の技と知恵は地域の宝！郷土の伝統を活かした学校支援活動を展開！

活動名

弥生校区ネットワーク会議
【大分県佐伯市】

関係する学校

佐伯市立明治小学校・幼稚園、上野小学校・幼稚園、切畑小学校・幼稚園、昭和中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	165人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績（補助の有無についてはH23年度の状況）

活動の概要

学校支援活動を中心とした学校、家庭、地域の教育の協働を進めるため、地域コーディネーターを配置し、「協育」ネットワークづくりをスタート。地域の高齢者等に郷土料理やしめ縄づくり等のゲストティーチャーを、あるいは登下校時の「子ども見守り隊」や「学校環境整備ボランティア」を募り、活躍の場を設定。特に「学校に負担をかけない」、「ゲストティーチャーには教えることに専念できるようコーディネーターがサポート」など配慮し、学校と地域がお互いに心地よい関係を構築している。また、毎年実施することで季節的な行事として学校にも地域の方にも定着してきた。

特徴

特徴的な活動事例

・学習支援活動（田植え体験）

校庭の隅にある花壇に水を張り田んぼにして田植えを実施。地域の方の指導で「しろかき」は子ども達が踏んづけてつくった。これからの水の張り方等の管理も指導してくれ、秋には全校の児童がお米の様子を見ることができた。

・学校行事等支援活動（郷土料理伝承）

地域のおばあちゃん達を指導者として味噌、しんちよきもち、だんご汁作り等郷土料理作りを実施した。だんご汁作りや漬物作りに使用する大根は小学生が学校行事で作ったものを利用するなど、協同した形で実施した。

・子どもの安全確保活動

老人クラブ会員等地域の高齢者を中心に「子ども見守り隊」を結成し、登下校時の安全見守りを実施。年度当初には学校側の配慮で小学校体育館において小学生との対面式をおこなった。

・環境整備活動

梅雨明けに学校グラウンド等敷地内に生える草取りや、落ち葉拾いを実施した。放課後になると児童も集まり進んで手伝いをした。



農家の方に野菜の作り方を習った！



毎年恒例となった味噌作り



花壇に水を張り田植えに挑戦！

事業を実施して

【地域住民の声】

・学校に行く機会が増えた ・町をあげた事業や学校行事にも協力的になった ・自分も子どもも笑顔で気持ちよく挨拶(声かけ)ができるようになった！ ・地区の広報誌にも興味を持ちはじめた！ ・「あんたも来(こ)んかえ?」と言って友達を誘うようになった！

【学校の声】

・コーディネーターの存在はまるで出前の注文のように気軽に頼めてありがたい ・子どもたちが目を輝かせて活動に取り組んでくれるようになった ・地域の方と接することで子どものコミュニケーション能力が高まった ・学校だけでは教えられない味噌づくりなど専門的な学習ができてよかった。

こんな活動です!!

地域の方で子どもを育てる支援の輪を作る「ボランティアルーム」!

活動名

南郷小学校 学校支援地域本部
【宮崎県日南市】

関係する学校

日南市立南郷小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	58人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	16人	53日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
生活科室		21年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- 総合的な学習の時間の体験活動支援及び学習支援

例:「ふるさとの海を知ろう!」

プロのダイバーによる着衣泳の仕方や、救助方法についての体験学習



海の中の様子を知る体験学習

- 生活科、家庭科の体験活動支援及び学習支援
- 体育や音楽授業の学習支援
- 登下校時の安全な見守り活動
- 学校敷地内の環境整備支援
- 図書整理の支援

特徴

(1) コーディネート体制の充実

「学校支援地域本部事業」と「放課後子ども教室推進事業」において、コーディネーターの兼務により、両事業で発掘・育成してきた地域ボランティアを共有する体制の整備を図っている。

(2) 地域住民が集うボランティアルーム「サロン」の誕生

「学校支援地域本部事業」のボランティアルームと「放課後子ども教室推進事業」の活動場所を学校の余裕教室に設置することで、地域住民が集う「サロン」として、一日中、ボランティアの方が常駐することができ、日常的な学校支援活動が可能となっている。

(3) 地域住民の参画意識の向上

学校が必要とする地域人材をコーディネーターに依頼し、ゲストティーチャーとして招聘することで、学習内容の充実を図っている。また、ゲストティーチャーとなった方も実施回数が増えるにつれ、独自に工夫した資料作成等、参画意識の向上が見られるようになり、地域の活性化にもつながっている。



【着衣泳・シュノーケル体験】



【地域ボランティアが集う「サロン」】



【鉄肥杉を知ろう!】

事業を実施して

ボランティアルーム「サロン」の設置によってコーディネート機能の一元化ができ、「学校支援地域本部事業」と「放課後子ども教室推進事業」の連動がスムーズに行われるようになった。このことにより、子どもの学校の生活時間から放課後の時間まで、同じ地域住民の方々による一貫したきめ細かな学習活動等の支援が十分に行われるようになり、地域による学校支援活動を充実することができた。子どもたちは、地域の方とのふれあいや体験活動を楽しみにしているし、地域の方からも、子どもたちとのふれあいを通して元気をもらっているという声がよせられている。

こんな活動です!!

「できることを できるときに できるところから」～レベルに応じた学校支援～

活動名

いちき地域学校支援地域本部事業
【鹿児島県いちき串木野市】

関係する学校

いちき串木野市立市来小学校・川上小学校・市来中学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	181人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-	-	-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成20年度から「新しい時代のいちき串木野市を担う心豊かでたくましい人づくり」を目標に、学校・家庭・地域・地元企業等が一体となり、地域全体で子どもを見守り育てることができるよう、地域の教育力を高めるとともに、地域が学校を支える仕組みづくりを目指し、学校を中心とした地域づくりや地域の活性化を推進している。事業全体の推進は地域住民で組織された「いちき地域学校支援実行委員会」が中心となっており、実務面は地域コーディネーターがボランティアの募集や登録、学校ニーズの調査、学校支援活動の情報提供等を行っている。

特徴

学校支援ボランティアの募集に当たっては、「できることを できるときに できるところから」を目標に掲げ、支援内容をレベル1からレベル5まで設定し、地域住民が気軽に登録して、可能な範囲で学校支援が行えるよう工夫している。レベル1は「自分のできる範囲で支援」、例えば散歩や農作業の合間にできる登下校時の見守り、学校行事への参加等であり、レベル5は「学校の要請に応じて教科指導や自分の経験を生かして支援」、例えば教科指導の補助や部活動の支援等である。

現在、市来地域を中心に、個人139人、企業42社が学校支援ボランティアとして登録している。地域住民による支援は、音楽科・家庭科・体育科・国語科(書写)等の学習支援活動、花壇の手入れ等の環境整備、安全パトロール等の安全確保、芋植え等の体験活動支援、クラブ活動・部活動支援、テスト前質問教室の支援等である。また、企業による支援は、学校の施設・設備の補修や点検、樹木のせん定等の環境整備、職場体験活動の受入れ等である。平成22年度の支援活動の実績は、支援回数延べ672回、支援人数延べ1,430人であった。

支援活動の様子は、地域コーディネーターが毎月1回、「学校支援ボランティアだより」を作成して、学校や地域住民等の関係者に配布している。学校支援ボランティアからは、「自分の活動の様子を取り上げてもらって嬉しい。」「自分のできることをこれからも続けていきたい。」などの声が寄せられている。この広報活動によって地域住民が学校や子どもたちに関心を持ち、支援活動に参加する人数が増えるなど、年々学校と地域の結びつきが深まっている。

今後、学校支援の組織づくりを串木野地域へも広げ、市内全域で活発な支援活動を展開していきたい。



レベル1
自分のできる範囲で支援



レベル2
自分のできる範囲に一定の回数で支援



レベル3
自分のできる範囲で決まった時間の中で支援



レベル4
学校の要請に応じて決まった時間の中で支援



レベル5
学校の要請に応じて教科指導や自分の経験等を生かして支援

事業を実施して

学校支援活動の成果として、次のような声が寄せられるなど、学校を中心とした地域の絆づくり・活性化に結び付きつつある。

学校：「支援してくださる方が一人入ってくださるだけで、とてもスムーズに授業ができた。とてもありがたい。」

子ども：「教えてもらってとても良かった。また来てもらいたい。」

保護者：「同じ地域の身近な人に教えてもらえるのはうれしい。地域の結びつきを感じた。」

企業：「地域にある学校のために企業として協力できるのは、大変やりがいを感じている。」

こんな活動です!!

みんなで「共育」参画!地域は子どもの応援団! (コミュニティーブリッジの構築)

活動名

屋部中学校区学校支援地域本部
【沖縄県名護市】

関係する学校

名護市立安和小学校、屋部小学校、屋部中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	3人	240人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	10人	100日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
空き教室		23年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

通常の授業ペースでは内容把握が厳しかった児童を対象に、児童のペースで学べる場を構築。退職教諭や大学生を活用した日常的な学習支援・放課後学習の実施。教育課程において地域人材をゲストティーチャーとして活用。保護者と地域住民の協力による読み聞かせ・スクールガード・環境整備活動。地域企業を活用したキャリア教育支援。



地域の方による講話
〔「せせらぎ」ができるまでの話し〕



ありがとう集会



個別学習指導



老人会による昔遊び伝承



読み聞かせ年間計画表

特徴

<特徴的な活動内容>

◆地域の退職教諭が協力。個別学習支援教室 ◆退職教諭・大学生による学力向上月間集中指導 ◆保護者・退職教諭・駐在署員・地域住民が協力。読み聞かせや人生語り活動 ◆地域農家とJA農業指導員がタイアップ!米作り支援(生産・加工・販売) ◆民生委員がゲストティーチャーに!民生委員の仕事とは(学校の要望に応じてゲストティーチャーは随時対応) ◆伝統芸能継承!運動会でエイサーや空手の演技指導 ◆ヤギの育て方勉強会 ◆地産地消!地域食材を利用した料理教室。

<実践にあたっての工夫>

①個別学習指導において、学校と連携し退職教諭及び有識者懇談会を開催。事業への理解と協力を仰ぐ。②読み聞かせ・スクールガード・部活動支援等の既存活動において、人材バンクの作成や広報活動を行う。参加人数の増加や多様化を促進。③事務局会議や地域教育協議会を開催。学校や地域と情報の共有化を図る。④大学のボランティア説明会に参加。学校のニーズに添った人員の確保。

<連携・広がり>

①大学の構内や中央公民館において、関係機関と市内のコーディネーターとの情報交換の場が確保されており、各校の取組みや関係機関の動き等を把握できる環境にある。②学校側の理解度が高く、コーディネーターを積極的に活用している。

<その他の観点>

学校主催の「ありがとう集会」(勤労感謝の日がある11月に実施)が継続的に行われており、児童からボランティアの方々へ感謝の言葉と児童の育てた花の苗が送られる。学校側のボランティアへの配慮や気遣いが好評。

事業を実施して

「お礼を言ってもらおうと反対にエネルギーになる」「子ども達に会うだけで元気がもらえる」等ボランティアの「生きがい」作りの場になっている様子や「個人で教えてもらおうと集中できる」「地域の事をたくさん知ることができた」等児童生徒から、学ぶ意欲への向上がみられた。ボランティアの対応で若干の負担があるにも関わらず「子どもが伸びて行くのが目に見える」と喜ぶ学校の姿勢が嬉しくなる。成果を上げている個別指導に関してはボランティア数に限りがあり人材の確保が早急の課題となっている。

こんな活動です!!

地域の子は地域で育てる～ユイマール隊～

活動名

美里小学校 学校支援地域本部
【沖縄県沖縄市】

関係する学校

沖縄市立美里小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	60人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	1人	1日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		1年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	1人	1人	1学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

1. 学習支援活動(全学級を対象に学習支援ボランティアを配置)
2. 部活動指導(6部活動指導)
3. 環境整備(樹木の剪定)
4. 登下校の安全指導(スクールガードを中心に安全指導を行う)
5. 学校行事(運動会や学芸会で必要な小道具づくり、遠足等で安全管理)
6. 学校支援ボランティア募集に関わる広報活動。

特徴

学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることが目的
ねらい

- 1 地域全体で学校の教育活動を支援することで、先生方がより教育活動の力を注ぐことができるようになり、学校教育の充実を図る。
- 2 地域のみなさんの持っている力や社会教育で学んだ成果を学校教育で活用する。
- 3 地域の多くの方が学校を支えることにより地域のきずなを深め、地域の教育力の活性化を図る。

毎週木曜日に学級に入り読み聞かせ行っています。毎朝、各学級ごとに10名程度の割り振り、安全指導を行なっています。

部活(野球部、サッカー部、バスケット男女、音楽部、新体操部)。環境整備では玄関のペンキ塗り、木々の枝打ち、農園の整備、校舎周辺の苗木の世話等を行っている。運動会や学芸会で必要な小物作りやエプロンの古くなったゴムの取り替えを行ったりする。このように以前からばらばらであった活動を学校支援地域本部事業の一つにまとめる事により、連携がうまく、よりはっきりと活動が見えてきた。今後は、学習ボランティアにさらに力を入れていきたい。(例えば漢字検定、かけ算九九検定チェックボランティア)



バスケット部指導



新体操部指導



エプロン補修



玄関のペンキ塗り



朝の安全指導



丸付けボランティア



環境整備



読み聞かせ



平和学習：講話

事業を実施して

【子どもの声】毎週木曜日の読み聞かせが楽しみです。

【ボランティアの声】子ども達の笑顔やあいさつがとてもうれしいし元気がもらえて心が和む。

【学校職員の声】ボランティアの協力のお陰で、子ども達と向き合う時間、教材研究に充てたりする時間を多く持つことができた。

【成果と課題】成果：学校と地域との連携が図られた。地域コーディネーターのお陰で、学校支援の幅が広がった。

課題：学校支援ボランティアの登録人数を増やす必要がある。

こんな活動です!!

協働による人づくり! 学校を核とした地域づくり!

活動名

榴岡小学校学校支援地域本部【仙台市】

関係する学校

仙台市立榴岡小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	39人	485人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-	-年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

毎朝、通学路での防犯ボランティア(各地区の防犯協会の協力)、保護者による安全見守りに始まり、常時、保護者の学習サポーターや学生サポーターが来校し、子どもたちの学習支援を行っている。また、キャリア教育、金銭教育、食育など学習活動の実践において、その道のスペシャリストをゲストティーチャーとして招聘し、数多くの特別授業を実施している。

平成12年度より地域の協力を得てキャリア教育の一貫として弟子入り留学に4年生が取り組んでいる。弟子入り留学(就業体験)の発展として平成21年度より5年生、6年生がお世話になった弟子入り留学の親方の協力を得て「どんどこ! 巨大紙相撲大会」(監修kosuge1-16)の企画運営を児童が行っている。当日は、弟子入り留学の親方を相撲部屋の親方として招き、大会を盛り上げている。さらには、起業教育の一貫として地域の商店の協力により児童運営の出店の経営も行っている。

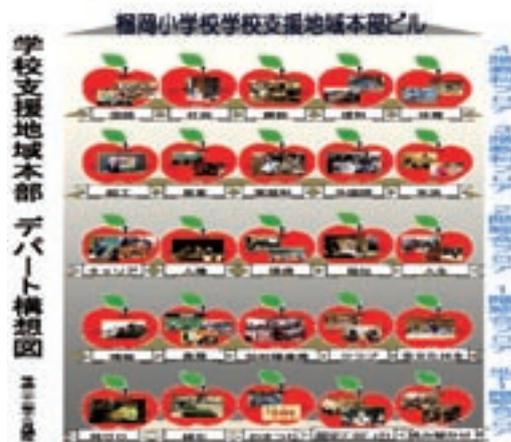
また、JA仙台の協力の下、「全学年栽培学習」の実施や社会福祉協議会の協力により地域のお年寄りを招いて児童と交流を図る「生き生きふれあいサロン」、市民センターの協力により、「平和学習」や「昔遊び」など、地域の関係諸団体と連携しながら、多種多様な活動を実施し体験活動の充実を図っている。

特徴

- 学校の教育活動を支える土台として学校支援地域本部がある。学校運営図に示されている。【図1】
- 学校支援地域本部デパート構想図を作成し、地域コーディネーター会議開催の折、各教科・領域での支援者の情報を得ている。【図2】
- 特別授業について、全学年、年間カリキュラムに位置付けグランドデザインを作成している。次年度、どの学年の担任になってもそれを引き継ぎ、継続できるようにしている。



【図1】学校運営図



【図2】学校支援地域本部デパート構想図



どんどこ! 巨大紙相撲大会(kosuge1-16)

事業を実施して

学校支援地域本部の取組により、多くの大人と学校が結び付くことができました。それは、安心・安全な学校づくりの大きな力となり、さらには多種多様な体験活動の実施を可能にした。専門性のあるゲストティーチャーとの出会いは本物に触れる機会にもなり、児童の興味・関心を高め意欲的に学ぶきっかけにもなった。また、次代を担う子どもたちの育成に参画したいという大人全てが関われる機会を得ることとなり、子どもと大人のナナメの関係から情意面での成長が著しい。多くの大人に見守られている本校の子どもたちは、あいさつ運動やからだづくり、ボランティア活動、清掃活動などに自発的に取り組んでいる。本校に関わっている大人や卒業生、上級生をモデルとして、子どもたちは、以前にも増してパワフルかつエネルギッシュに活動している。

こんな活動です!!

つないで、とけこんで、 「地域の絆」と「支援の輪」づくりを目指して

活動名

西中田小学校学校支援地域本部・
西中田こみこみスクール【仙台市】

関係する学校

仙台市立西中田小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	5人	115人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	4人	27人	221日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	北校舎内多目的室・特別教室 校庭		16年度	あり
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成16年6月に、学校施設開放の拡充と地域住民による子どもたちの安全な居場所づくりを目的に、放課後子ども教室(当時:地域子ども教室)を立ち上げた。主な活動として、①水曜日の放課後・土曜日に行う地域ボランティアによる講座(22年度は延べ269回実施)と、②定員超過のため学区内の児童館で行っている児童クラブに登録できない児童の居場所づくり(20年度～)を行っている。

20年12月には学校支援地域本部の指定を受け、放課後子ども教室の人材や地域団体との関係を生かして学校支援活動を行っている。また登下校の巡視にあたる防犯ボランティアや、緑化活動、クラブ活動のボランティアについても、学校のニーズをもとに事務局が連絡・調整し、支援にあたっている。

特徴

●放課後子ども教室

【地域ボランティア等による多様な講座】

水曜放課後と土曜日には、地域住民が先生となり多様な講座を行っている。日本の伝統文化(折紙・書道・囲碁・百人一首)、創作活動(ビーズ・フラワーアレンジ)、音楽活動(うたはともだち・箏・和太鼓)など、児童の興味関心を高める多様な講座に、年々参加人数は増加している。土曜スタディでは、月2、3回土曜日に学生による算数の学習支援を行っている。

【こみこみ教室】児童クラブに登録できない児童の居場所

主に3年生の児童が対象で、平日放課後と長期休業中に活動している。子育て経験者であるスタッフの家庭的な対応が、児童に親しまれ保護者からの信頼を得ている。

●学校支援事業

放課後子ども教室講師による積極的な支援など、特に地域住民による支援活動が活発である。さらに読み聞かせボランティアへの参加など、保護者の関心も高くなってきた。学区内の事件の減少など、防犯ボランティアによる抑止力も効果を上げている。

●運営委員会と事務局

地域主体による運営を目指し、校内に事務局を設置した。その結果、学校との連携を取りながら自立した運営ができています。土曜日にもスタッフが常駐することにより、児童館や市民センター、体育振興会など地域団体との連携・交流が活発に行われ、活動への支援につながっている。

運営委員会は、PTA役員・学区内町内会長などで構成されている。活動に対する委員の理解・関心も高く、町内会による助成制度など、地域が一体となって活動の継続を支援している。

●西中田げんきまつり～こみこみフェスタ～

活動の広報と子どもたちの健全育成を目標に始めた「こみこみまつり」が、PTAとの共催行事として定着し、地域団体も参加しての学校を挙げたイベントになっている。



立ち上げ時からの講座「うたはともだち」。毎年地域のコンサートに出演しているが、今年は元気な歌と踊りで地域の方々を元気づけた。



4学年総合：日本の伝統文化を学ぶ授業で百人一首(競技かるた)を体験。

事業を実施して

●安心して子育てできる地域へ…

活動を通じた学校と地域の信頼関係を土台に、震災時の避難所運営もスムーズに行うことができた。住民からは住みやすい地域と言う声が聞かれ、地域の活性化・一体化に寄与している。かかわっている住民の多くが、活動を「生きがい」としている。

●学びの質の向上と学びを通じた地域への貢献を!

教職員に加え、学校支援ボランティアの方々の力を生かすことで、質の高い学びを子どもたちに提供している。また、生活科・総合的な学習の時間を中心に学習を通じた地域貢献を行い、循環型の支援につながるような学習活動を展開している。

こんな活動です!!

絆ルームから始まる大人総がかりの子育て (学校・家庭・地域が手を繋ぐ)

活動名

新潟市立入舟小学校【新潟市】

関係する学校

新潟市立入舟小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	94人	19年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

入舟小学校は、平成19年度から「地域と学校パートナーシップ事業」に取り組み、今年で5年目になる。入舟小学校パートナーシップ事業では、ボランティアはいりふね応援隊に登録し、校外学習引率や学習補助(家庭科調理、算数のかけ算聞き隊など)、全校登山、クラブ活動などの学習支援に協力している。さらに、PTA活動支援や、子どもたちを地域で育てる活動にいたるまで、幅広く行っている。中でも地域の方々で構成されている「花壇部」は、独自の活動に発展し、学校の委員会活動にもお手伝いとして参加しており、子どもたちと一緒に草取りをするなど、活動を通して交流を進めている。



お寺での修行風景



修行編での人権教育

特徴

<子どもたちを地域で育てる活動の事例>

「お寺でゴ〜ン! 修行編」& 「学校でもゴ〜ン!」

平成20年度に新潟市生涯学習センターと協働事業で「早寝早起き朝ごはん」モデル事業として始める。地域のお寺に泊まり、地域の銭湯に行き、地域の社会教育施設で活動する。学社民の融合がこの活動から始まる。

※学：学校，社：社会教育施設，民：入舟小学校区コミュニティ協議会・PTA

◆H20…全学年募集 66名参加 2回に分けて開催(お寺泊)

◆H21…2年生から6年生募集 100名をこえたので、2年〜5年で2回・6年生で1回計3回開催(お寺泊)

◆H22…2年生から5年生55名参加で1回(学校日帰り) ・6年生28名参加で1回(お寺泊) 計2回開催

※この年から「学校でもゴ〜ン!」と「お寺でゴ〜ン! 修行編」となる。

◆H23…2年生から5年生60名参加で1回(学校泊) ・6年生19名参加で1回(お寺泊) 計2回開催

【特徴その1】

学校が希望するテーマにそって活動。昨年度までは「食育と生活習慣」、今年度は「人権教育」

→テーマが決まると、一つ一つの活動が学校教育の一環となり、目に見える活動になる。

【特徴その2】

ボランティアの募集は、時間を区切った案内(例：夕飯の準備・銭湯の送迎など)にする。

→お手伝いの時間が短くなるので、より多くの大人が協力できる。

【特徴その3】

活動は公民館・郷土資料館・縁の会(おやじの会)・いりふね応援隊がそれぞれ企画する。

→たくさんの団体が参画する事で、みんなの負担が軽くなる。

絆ルーム



【絆ルーム】

PTA事務局・入舟小学校区コミュニティ協議会事務局・地域教育コーディネーター室がひとつになっている。それぞれの会議はもちろん、学校・公民館・コミ協・民生員・PTA・応援隊で組織される「地域連携会議」や、校長が先生となり、地域・保護者の皆さんと人権教育について勉強する「井戸端会議」なども行っている。人と情報が集まりやすく、茶の間の役割も果たしている。

事業を実施して

「学校の敷居が高い」と感じていた地域の方々が、「地域と学校パートナーシップ事業」をきっかけに、学校や子どもたちの様子を知る機会がもて、学校も地域での子どもたちの様子や問題など、情報が早く入ってくるようになった。たくさんの大人が学校教育にかかわることで、子どもたちにとっては、認めてもらえる機会が増え、誰かが見てくれている安心感を得ることができた。大人は、学校に足を運ぶことで、得意分野を授業に活かしたり、たくさんの人とのかわりの中から学びを得ることができた。これからもみんなで「お互い様」という気持ちを共有しながら、この事業に取り組んで生きたい。

こんな活動です!!

「学校とともに地域で子どもをはぐくむおとなの輪」を広げています!

活動名

新潟市立坂井東小学校【新潟市】

関係する学校

新潟市立坂井東小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	182人	19年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成19年、新潟市の「地域と学校パートナーシップ事業」パイロット校として活動を開始した。地域教育コーディネーターを中心に、「地域で子どもをはぐくむおとなの輪を広げよう」を合言葉に、自治会、中学校区コミュニティ協議会、中学校区育成協議会、「わくわくランド(放課後子ども教室)」など、地域の組織を集めた支援母体で活動している。学校との連携によるボランティアの場が広がっており、年間の学校支援ボランティアの延べ人数は1000人を超える。活動をとおして、学校支援ボランティアを核とした地域の人づくり・関係づくりに取り組んでいる。

ボランティアから地域づくりへ



特徴

- 月・水・土の放課後子ども教室「わくわくランド」が、学校支援ボランティアのつながりの核となっている
- 学校支援ボランティアの場が充実している
「学習補助：朝学習での読み聞かせ、校外学習の引率補助など」、
「指導補助：ゲストティーチャー、チームティーチング」、
「環境支援：図書館蔵書登録作業、花壇の手入れなど」
- 新たな学校支援へと活動が広がっている
5・6年生の自然教室や修学旅行への引率補助ボランティア、水泳授業の監視ボランティアなど。
- 地域に開いた学校行事・活動が根付いている
春・秋の全校草取り、全校遠足、文化祭・バザー、児童会祭りなど。
- 学校に、地域住民の学びの場・学びを活かす場ができています
学びの場：季節の料理教室、小学生・中学生・おとなと一緒に挑戦する漢字検定、公民館と共催のパソコン教室など。
学びを活かす場：公民館や自治会のサークル(琴、華道、茶道、パソコン)が、クラブ活動や環境支援で活躍している。

<大切にしていること>

- 打ち合わせ・スタッフ会議で関係づくりをする
協働し、お互いに自分の言葉で語り、認め合う場を大切にしている。そのために、学校との合同研修会、活動の打ち合わせ・反省会、定例スタッフ会議の場を活用している。
- 考え方の違いを理解し合い、違いの中で子どもたちの社会性を育てる
「特別な資格や経験は不要、誰でも安心して参加できること」を活動の原則とする。お互いの考え方の違いを否定せず、大切なことは共通理解を図る。
- それぞれが活躍できる場を作る
声を掛けられるだけでなく、声を掛けて仲間を集められる人を増やす。



事業を実施して

地域のおとなが学校に来て、「学校や子どもたちへの思いを行動に表す」、「自分たちでできることを考え行動する」、「共に活動し、責任と喜びを分かち合う」そんな姿がごく普通に見られるようになった。また、教職員と地域教育コーディネーターの連携により、学校支援ボランティアの場が広がり、子どもたちの学習環境や学習活動の充実が図られている。「ボランティアに参加して地域の人と知り合った」という保護者も多い。今、坂井東小学校の学校支援ボランティアは、学校とともに子どもをはぐくみ、自分たちの地域生活を豊かにしていこうとするおとなの輪を広げている。

こんな活動です!!

感謝の気持ちを伝えよう。地域の方との交流活動、ボランティア活動を通して!

活動名

南橋中学校支援地域本部事業【前橋市】

関係する学校

前橋市立南橋中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	76人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

本校では、以前から国語科の書道の学習、音楽科の箏曲の学習、総合的な学習の時間の職場体験学習等で地域の方に指導していただいている。また、毎週金曜日の朝の読み聞かせや毎日登校時のあいさつ運動などでも、多くの地域の方にお世話になっている。このように日頃お世話になっている地域の方々に対する感謝の心を育てるために、コーディネーターが学校と地域の調整を図りながら、平成20年度より、次のような交流活動やボランティア活動を行ってきた。

- ・地域のシンボルとなっている橘山で、橘山憩いの森愛護会の皆さんや自治会の役員さんと一緒に、1年生全員が整備活動を行った。橘山では下草刈り、枝打ち、鳥の巣箱つけ等の活動を行った。
- ・学校の近隣の公園および遊歩道の清掃を、地元自治会の方と一緒に3年生全員が清掃活動を行った。
- ・3年生の有志50名が、地域の老人会の方と、全面人工芝の南橋中第2グラウンドで、グラウンドゴルフのルールを教えていただいたあと、一緒にグラウンドゴルフを楽しんだ。
- ・地域の健全育成団体が小学生以下の子どもたちを対象に行っている行事「のびゆくこどものつどい」「ろばたのつどい」に、ボランティアとして参加して、地域の子どもたちへの支援を行った。「のびゆくこどものつどい」と「ろばたのつどい」に参加した生徒数は合わせると約300名で、本校の約1/2の生徒が参加したことになる。

特徴

《活動の特徴》

本校の活動の特色は、地域の方に学習の支援をしていただくだけでなく、生徒たちが自分たちで地域の方と一緒にできることに主体的に取り組んでいることである。お世話になってきた感謝の気持ちを伝えていることである。

《参加者の増加》

生徒の交流活動、ボランティア活動が定着してくる中で、各活動の参加者が増加してきている。朝のあいさつ運動では今年度になって地域の方が20名ほど新たに参加した。今年5月の「のびゆくこどものつどい」には、昨年よりも約50名多い約200名の生徒がボランティアとして参加した。

《活動の広がり》

生徒と地域の方の交流活動は、一緒に活動する清掃活動、グラウンドゴルフだけでなく、生徒が地域の方に指導するパソコン教室、おもしろ科学教室を、昨年度実施した。今年度は見合わせたか、来年度は実施する予定である。



【1年生全員による橘山の整備活動】



【老人会とのグラウンドゴルフ】



【「のびゆくこどものつどい」に200名参加】

事業を実施して

- ・生徒たちが主体的に交流活動、ボランティア活動に取り組むことで、生徒たちは改めて地域に育ててもらってきたことを実感し、感謝の気持ちが育ってきている。それが落ち着いた学習態度、生活態度にもつながっている。
- ・生徒たちの計画的、継続的な活動について、地域の方からは賞賛していただいております、学校と地域の一層の連携につながっている。

こんな活動です!!

地域とともに育ち、地域を支える人材へ ～2,000人を超えるボランティアとともに～

活動名

高岡中学校支援地域本部【金沢市】

関係する学校

金沢市立高岡中学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	2,056人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-	-	-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- ・年間を通じてのあいさつ運動の実施。
- ・大規模な地域清掃。(ハイパークリーン大作戦)
- ・出店活動や地域の達人から技を習う文化活動。(高中祭)
- ・受験生のために下級生や地域の方が行う餅つき大会。

特徴

(ハイパークリーン大作戦)

幼児から年配者まで、約1,000人が参加。自分達の住んでいる町を地域の方々とともに自分達の手で清掃。その際には、地域の方から地域の歴史等も学んでいる。

(高中祭)

展示部門と舞台発表の2部門から成る「達人に学ぶ」では、1・2年生が地域の達人から、熟練した技や技術を学び、発表を行う。九谷焼や獅子舞、虫送り太鼓等 金沢の伝統芸能を次世代を担う中学生に伝えていく。統計24講座約40名の講師が参加してくれている。

出店活動では、地域の飲食店等の出店があり、3年生が働く意味や接客の心構えを学ぶ。どの活動においても、高中祭までの準備期間や練習を通じて礼儀作法等以後の人生で役立つ社会全般のマナーも学ぶ。

保護者も、即売品回収や食券袋づめ作業等の準備段階から当日の物品販売まで携わっている。約500人の支援がある。

(餅つき大会)

校区内からそれぞれの地域の道具を持ちより、準備段階より地域住民・保護者の沢山の方の支援がある。合格祈願のために1・2年生が大人とともに3年生をもてなす。

(コーディネーターの勤務体制)

学校に常勤し、いかなる活動の問い合わせにも対応できるようにしている。



ハイパークリーン大作戦



高中祭



餅つき大会

事業を実施して

- ・一番の成果は、様々な活動を通して沢山の地域の方や保護者が学校へ来てくれたことである。
- ・どの活動においても、付近住民の方や保護者が地域や年代を超えて高岡中学校をより良いものにし、後に高岡中学校を卒業した事を誇れるような学校にしたいという熱意が感じられる。
- ・自分のできる事で、学校を支援しようという動きが出てきて、ボランティア登録者が増加傾向にある。

活動名

尼崎市立学校支援地域本部【尼崎市】

関係する学校

尼崎市立大庄小学校、大島小学校、浜田小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	—	—	—

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	3人	243人	21年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	—人	—人	—日	—
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	—		—年度	—
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

1 活動の目的・契機

子どもが犠牲となる不幸な事件を契機に、平成16年から地域住民等あらゆる団体に呼びかけ、「子どもを見まもり隊」を組織し、同隊を核とした学校、家庭、地域の緊密な連携の中で人間性を育む教育の推進を図る。

2 活動内容

(1)教育活動支援 「登下校の見守り、各科学習支援、読書活動、クラブ活動、学校行事支援など」 (2)学校環境整備 「図書館整備、図書データ打込、グラウンド整備など」 (3)その他 「サッカー教室指導、手づくりおもちゃ指導など」

特徴

- (1)子どもが犠牲になる痛ましい事件の発生等により、子どもの登下校を見守ろうという地域の気運が高まり、自然発生的に「子どもを見まもり隊」が組織された。
- (2)「子どもを見まもり隊」は地域による学校応援団の組織である。
- (3)登下校の子どもの見守り活動は、年間を通して毎日実施している。
- (4)学校支援地域本部事業の推進にあたっては、地域内の各種団体の代表者からなる「推進会議」を組織し、会議は欠かすことなく毎月1回以上、定期的で開催されている。
- (5)毎月1回、活動情報や学校の月行事等を記載した、「見まもり隊だより」を発行し、会員に配布している。
- (6)ボランティアの人数も毎年増加傾向にある。

これまでの事業を通じて、地域の宝物として大事に育てられている子どもたちの笑顔が確実に増えている。地域の大人の後ろ姿から、支え合う大切さを学習し、ボランティアの皆様の姿が、まさに「生きた教材」となっている。

今後とも、これまでの経験を基に、益々パワーアップした、「地域づくり、安全・安心まちづくり、学校づくり、そして人づくり」を推し進めてまいりたいと思っている。



読み聞かせ



学校整備



見まもり隊

事業を実施して

- (1) 「安全・安心のまちづくり」の意識が高まり、防犯抑止力につながってきた。
- (2) 学校、地域、PTAの活動が活性化してきた。また、地域、PTAの関心が学校に向けられるようになってきた。
- (3) 地域コミュニティが活性化してきた。
- (4) 大人にも、子どもにも感謝の気持ちが芽生えてきた。
- (5) ボランティア活動が生き甲斐になり、多くの住民に、「ほっとけない」という意識が定着してきた。

こんな活動です!!

生徒・地域住民・保護者・教職員が一丸となって クリーンアップ!

活動名

富雄中学校区地域教育協議会【奈良市】

関係する学校

奈良市立富雄中学校、富雄北小学校・幼稚園、
鳥見小学校・幼稚園、富雄第三小学校・幼稚園

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	12人	295人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-	-年度	-	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

当地域教育協議会は、中学校を活動拠点に事務局体制を組織し、校区にある各学校のコーディネーターが相互に連携するとともに、ボランティアによる積極的な支援を受けながら、地域ぐるみによる子育てと教育活動を展開している。

中でも、『花いっぱい通学路クリーンアップ作戦』は、園児・児童・生徒・教職員・保護者・ボランティアが一体となった取組である。

特徴

<特徴的な活動内容>

「花いっぱい通学路クリーンアップ作戦」として、初夏と初冬に各一週間を設定し、富雄中学校区の幼稚園・小学校・中学校が通学路の花苗の植付けの他、各学校園が相互に連携しながら環境整備活動を行うものである。中学校では、この期間に「富中のクリーンアップキャンペーン」と銘うって、生徒会が中心となり生徒ボランティアを募集し、多数の教職員・保護者・地域教育協議会が募集した環境ボランティアと共に、各小学校から中学校までの通学路を一斉に歩き、美化活動と同時に、危険箇所を確認しながらの安全点検活動も合わせて行った。

<実施に当たっての工夫>

幼稚園・小学校・中学校のコーディネーターはそれぞれの校区の活動について、常に情報交換を行い、各校園の活動時にはお互いに参加し、連携と交流を深めている。また、コーディネーター同士はメーリングリストにより全員情報共有ができています。

中学校区には複数の小学校があるため、年2回、近隣小学校のPTA交流会を開催している。また、学校ごとのボランティア意見交換会では、それぞれの学校支援内容についての意見交換や、支援のあり方について協議を行っている。

<その他の特徴>

学校側が必要としている活動をコーディネーターに明確に伝えることにより、コーディネーターは登録ボランティアにきめ細かく参加を依頼することができた。また、PTAとも連



PTA交流会



植え付け作業



環境活動の説明

事業を実施して

中学校区全体で取り組むことにより、共通のテーマを目標に学校と地域が連携でき、コーディネーターも学校園を超えて関わりが持つことができるようになった。子ども達もボランティアをはじめとする地域の方々と日常的に交流することにより、親・教職員以外の大人とのコミュニケーション活動が深まりつつある。

地域ボランティアにおいても、学校への入り込みが定着化し、子どもと一緒に活動することにより喜びを感じている。今後、さらに中学生・教職員・保護者・ボランティアが一丸となって活動できる取組を行っていききたい。

こんな活動です!!

学校の教育の力 家庭の教育の力 地域の教育の力を + (プラス) して 協育

活動名

長府地区ふるさと協育ネット
「ほっちゃや」【下関市】

関係する学校

下関市立豊浦小学校、長府中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	○	-	○

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	315人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	50人	30日	あり
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	ほっちゃや(豊浦小5舎1階)		22年度	なし
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

近年、地域の教育力の低下や学校現場における教員の業務量の増加により、きめ細やかな指導時間を確保することが困難になるなど、児童生徒の健全育成が懸念されている。こうした状況の中、小中学校を支援するため、平成20年度、長府地区学校支援地域本部「ほっちゃや」が活動拠点として設置された。「ほっちゃや」では、学校と地域との連携体制の構築を図り、多様な形態の支援は3年間で360件にのぼり、支援ボランティア「ほっちゃーず」はのべ2000人を超えた。加えて新規のボランティア団体「長府中おたすけ隊」「ほっちゃ倶楽部」が立ち上がるなど地域にも波及する活動となっている。



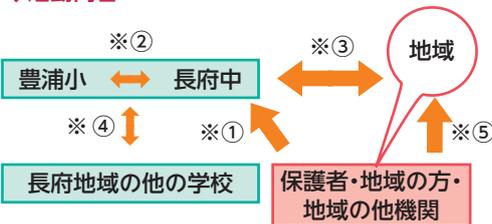
読み聞かせ



読み聞かせ

特徴

◆活動内容



◆活動上の工夫(円滑な運営のために)

- ・協議会の実施(学校・地域・保護者の代表で構成。年3回実施)
- ・ミニ協議会の実施(支援者との打合せ及び終了後意見交換)
- ・教職員へのアンケート、説明会の実施(ニーズの把握)
- ・「ほっちゃ通信」の発行(広報紙。支援活動報告と新規ボランティア募集)
- ・ロゴマークの作成(バストなどに印刷し、校外での活動時に活用)

※①多彩な学校支援

- ・地域の方、保護者による様々な支援…各種講話、校外学習支援、清掃作業、下校見守り、人形劇・読み聞かせ、クラブ・部活指導、バザー協力 等
- ・他機関との連携…JAと連携して食農教育、美術館・博物館での鑑賞会
- ・地元企業との連携…全ての職場体験を地元で実施、職業講話
- ・新規ボランティア団体の発足
 - *「長府中おたすけ隊」…長府中学校の保護者とそのOB・OGで組織
 - *「ほっちゃ倶楽部」…子ども達に文化・歴史とのふれ合いのため「ほっちゃーず」が設立
- ・「ほっちゃ広場」開設…児童と地域の方とのふれあいの場として金曜日の放課後実施

※②小中の連携

- ・教職員間…出前授業の実施、職場体験受け入れ 等
- ・保護者間…「豊浦小おやじの会」「長府中おたすけ隊」の協力による学校支援

※③地域貢献と地域との協働

- ・地域貢献…児童生徒と保護者による地域の清掃、地域行事への参加
- ・地域との協働…学校と地域が協議を重ね行事開催「長府音楽祭」「交通安全教室」
 - *「長府音楽祭」…長府地域の小中高6校が参加(※④各校が交流)

※⑤「ほっちゃーず」による地域活動

- ・地域での行事開催…「ほっちゃ倶楽部」が地域でのコンサート、歴史教室開催
- ・地域行事の手伝い…「豊浦小おやじの会」「長府中おたすけ隊」が参加



読み聞かせ

事業を実施して

- ・子ども…地域の人と一緒に活動できたので、よりいっそう楽しくなった。新しい体験ができた。
- ・ボランティア…学校に行くことで気持ちに張りができ、元気がもらえる。地域の思いを子ども達に伝えることができた。
- ・教職員…幅広い人材の紹介により児童生徒の活動が広がり、地域とのつながりも深まった。

●成果

①支援活動の定着と幅のひろがり ②小中間の連携の強化 ③学校と地域の協働 ④子ども一人ひとりを生かす機会の拡大

こんな活動です!!

学校支援ボランティアと一緒に元気な学校に! 未来を担う子どもを地域で育てる

活動名

郡山小学校地域本部【鹿児島市】

関係する学校

鹿児島市立郡山小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティ・スクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	212人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	1人	1日	-
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		1年度	-
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	1人	1人	1学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

鹿児島市においては、昭和48年から全小学校区を単位として、学校・町内会・各種社会教育関係団体等の代表から組織される校区公民館運営審議会が設置され、これまでに青少年の健全育成や校区民の生涯学習のための事業等を実施し、大きな成果をあげてきた。そこで、本組織を地域教育協議会に指定し、「地域の教育力」を生かした、本市独自の地域ぐるみによる「学校支援ボランティア事業」を推進してきた。

郡山小学校地域本部においても、これまで培われてきた「地域の教育力」を生かして、地域と連携した学校運営を図り、地域住民が積極的に学校を支援することや地域の教育力の活性化、子どもと教員が向き合う時間の増加等を目的として、平成20年度から支援活動を実施してきた。さらに、学校運営への協力は地域住民だけではなく、校区内の企業関係者も学校支援ボランティアに登録して、支援活動に取り組んでいる。

特徴

<地域の特色を生かした活動内容>

地域住民が学校支援ボランティアとして、地域に伝わる伝統芸能「郡山小唄」の指導補助を行い、運動会の全校踊りに生かしたり、総合的な学習の時間において、5月から11月までの長期にわたり、アイガモ農業による稲作体験等の活動を支援し、収穫をとおして子どもたちに達成感や命の大切さを感じさせたりするなどの成果をあげている。また、「科学好きな子ども」の育成を目指した生活科や理科での実践・研究が認められ、平成21年度にソニー子ども科学教育プログラム最優秀プロジェクト校を受賞しており、その取組の中でも、生活科の校外学習や理科の観察・実験等の補助にボランティアが積極的に関わってきた。

<支援活動実施に当たっての工夫>

学校からの要望を受けて、地域コーディネーターが学校支援ボランティアを募集する。募集方法としては、チラシを作成して新聞折込で校区内の全戸に配布したり、地域教育協議会において地域の人材についての情報提供を依頼するなどしている。その結果、22年度は212人の登録者があり、学校からの要望に応え、充実した活動を行っている。また、コーディネーターは人材バンクを作成し、連絡体制を整え、学校支援ボランティアの活動分野ごとの組織化を図っている。学校も支援計画を年間学習計画に位置づけ、計画的な活動を推進している。

<5年生の総合的な学習の時間での稲作体験における関係者の感想>

【子ども】

初めての田植えだったけど、ボランティアの方々が笑顔で親切にわかるまで教えてくれたので、とても楽しくできた。

【ボランティア】

子どもと一緒に汗を流し、子どもの喜ぶ姿がうれしかった。いつでも支援してあげたい。

【教職員】

たくさんの方の力を子どもたちに親切に笑顔で教えていただき、感謝している。



伝統芸能「郡山小唄」の指導補助

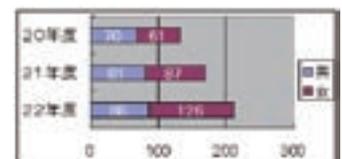


新1年生下校見守り活動



稲作体験

【ボランティア登録者の推移】



事業を実施して

本事業をとおして、地域住民と子どもの交流が深まり、あいさつや言葉かけなどが促進されるとともに、高齢者の生きがいづくりも図られた。さらに、地域住民が学校内外で支援活動を行うことで、子どもの安心・安全の確保につながった。また、家庭科での製作活動や伝統芸能活動等での専門的な支援が行われ、教員が子どもと向き合う時間が増加したと共に、地域の企業が学習教材づくりの支援を行うことで、充実した活動が図られるようになった。

手作り「めいわかるた」で郷土学習!

活動名

明和町放課後子ども教室「あくしゅ」
【群馬県明和町】

関係する学校

明和町立明和西小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	一人	一人	一年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	16人	114日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
プレールーム		20年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- 明和町では、平成19年度よりスタートした「放課後子ども教室推進事業」(文部科学省)を受けて「明和町放課後子ども教室」を平成20年6月より開設した。目的は放課後において、小学校の余裕教室を使用し、子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境作りを推進するためである。
- 月・水・金の放課後、週3回実施している。通常は宿題、スポーツ、ゲーム、工作、伝承遊び等を行っている。特別教室として英語の本の読み聞かせ、スポーツ教室を隔月で実施している。

特徴

<特徴的は活動内容>

郷土の歴史・文化・名所旧跡・特産物等を詠んだかるた遊びを通して地域の事をもっと知り、郷土を愛する心を育ててほしいと「めいわかるた」を作成した。普通版、A5版、A4版の3サイズを作成し、人数、場所にに応じて遊べるようにした。子どもたちは、とても喜んで遊んでくれている。また、町内の小学校、町PR用DVD「キラリと光り続ける明和町」や「明和町マップ」に使用され、地域全体への広がりを見せている。

<実践にあたっての工夫>

- 季節感を取り入れた年間カリキュラムを作成し、それをもとに二ヶ月に一度活動予定を書面で保護者に知らせている。
- 保護者向けの便りを毎月配布し、活動の様子を知らせている。
- 子ども教室日程表を作り、児童の主体的な活動を促すようにしている。また、異年齢の児童が集まっているよさを生かし、最後の10分間は参加者全員で集団遊びを行い、読み聞かせをして感動を共有し、心豊かに落ち着いた状態で帰宅できるようにしている。

<その他の特徴>

- 手作り教材(輪投げ、紙相撲、明和町パズル)の活用。
- 地域の方々の参画を得た和太鼓の鑑賞や体験。また、マジックショーや指編み等の体験活動を行っている。
- 公民館祭りへ参加し、舞台上で合唱や大型紙芝居等を行っている。



和太鼓に挑戦!



みんなでかるた遊び

放課後子ども教室 一日のながれ

2:45	2:50		3:50	4:00	4:15下校
出欠(挨拶)	宿題	活動 (絵画・工作・読書・遊び等)	集団遊び	帰りの会 (読み聞かせ・先生の話)	

事業を実施して

- 勉強やスポーツを通じた異年齢同士の交流から協調性が身に付き、互いに教え合い、励まし合うなかで、一つのことを成し遂げる喜びを味わわせることができた。
- 地域の方々の参画を得た活動を通して、家族以外の大人とふれあい、交流することで社会性を育むことができた。
- ボランティアさんの参画を得て「人と人との触れ合いを通して地域で育てる」「地域で関わる」取り組みになりつつある。
- 家では普段できない事が学んでいるようです。一人っ子なので友だちと過ごせる時間が楽しいみたいです。(保護者の声)
- 子どもたちは楽しく通っているようです。礼儀の指導もしてくれるのでありがたいと思います。(学校関係者)

こんな活動です!!

学校にたくさんの人が集う! 体験や交流で、笑顔があふれるゆうゆうプラザの活動

活動名

久喜市放課後子ども教室
ゆうゆうプラザ【埼玉県久喜市】

関係する学校

久喜市内16の小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	35人	75人	27日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	校庭、体育館、音楽室、図工室、理科室、家庭科室		17年度	あり
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

すべての子どもを対象として、放課後や土曜日に小学校の施設(安心・安全な活動拠点)を活用して活動している。地域住民の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動などの多彩な体験活動を実施している。参加児童数は1620名、参加率は40%、サポーターは1200名を超えている活動である。地域住民との交流により、地域の方々との「出会い」、培われる「絆」は、子どもたちを大きく成長させている。また、異学年・異世代間の交流活動で、地域の教育力・コミュニティづくりにも大きな成果をあげている。



楽しい活動のひとつ(フラダンス)



地域の方の指導(スポーツ吹き矢)

特徴

<特徴的な活動内容>

- ① 子どもが創るゆうゆうプラザ
子どもスタッフ募集と育成、子ども会議の開催等を通して、子どもが自分たちの空間を主体的に創る姿勢を高めている。
- ② サポーター研修会
講演会や16会場で工夫されていることを情報交換し、よりよい活動づくりを目指している。

<実践に当たっての工夫>

- 活動場所の広がり 毎年数校ずつ広げ、現在、市内23校のうち16校で実施
- 活動日 16の会場で平日と土曜日に年間292日の開催。参加児童もサポーターも年々増加している。
- ゆうゆうプラザの組織 久喜市放課後子ども教室運営委員会(各会場の活動についての助言・調整、研修会等の企画運営)と各ゆうゆうプラザ実施委員会(年間事業計画立案・サポーター募集・活動日の準備・運営)
また、統括コーディネーターをおき、教室コーディネーターとの調整を図る。
- ゆうゆうプラザ活動内容
学習:そろばん・算数教室・短歌・理科実験・英語で遊ぼう・民話など
スポーツ:ドッジボール・バドミントン・なわとび・グラウンドゴルフ・ティーボール・タグラグビーなど
文化芸術:編み物・茶道・生け花・料理・ケーナ・南京玉簾など・全215講座を開催
- 地域の方々の協力
サポーターとして、市民大学や高齢者大学の卒業生が協力。
- 子どもスタッフ
イベントの企画や司会などを子どもたちに。
- ゆうゆうノートの活用

年間計画 活動期間は、6月(開校式)～2月(閉校式)

会議・研修会	運営委員会	年4回	・予算・事業計画、研修会企画運営 ・ゆうゆうプラザノート発行(参加児童に全員配布) ・効果の検証(アンケート) ・活動報告書作成 等
	情報交換会	年2回	・各会場の取組について情報交換 ・活動参観
	実施委員会	随時	・年間活動計画作成 ・子ども・サポーター募集 ・教室運営(受付～下校) ・サポーター会議 等
	研修会	年1回	11月【講演会(ボランティアで深めよう絆 山田修平氏)】

事業を実施して

「子どもにとって」は感性の醸成や生きる力の基盤づくりができた。また、人とのかわり方でコミュニケーション能力が向上した。
「学校にとって」は子どもたちを見守っていく大人の輪が広がった。専門的な知識・技能が導入できた。
「保護者にとって」は教育活動に高い関心が寄せられている。
「地域にとって」は多様な体験活動の機会を提供できる社会の仕組みづくりができた。「子どもを地域の宝にする活動」である。

こんな活動です!!

市民に定着したプラザ事業で子どもたちの成長を支援

活動名

あやせっ子ふれあいプラザ事業【神奈川県綾瀬市】

関係する学校

綾瀬市立綾瀬小学校、綾北小学校、綾西小学校、早園小学校、綾南小学校、天台小学校、北の台小学校、落合小学校、土棚小学校、寺尾小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	41人	180日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	プラザ室・学校指定の教室・校庭・体育館	10年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

学校と地域とが一緒になって子どもたちの「遊び場」と「仲間」と「遊ぶ時間」を確保し、放課後の安全・安心な活動を支援することを通じて、子どもたちの社会性・自主性・創造性を養うことを目的としている。平成8年に市内全小学校で実施した放課後の過ごし方調査の結果をもとに、平成9年6月から試行的に1箇所を開設、平成10年6月から全小学校10箇所ですべて市をあげて先駆的に取り組んできており、市民に根付いた事業になっている。子どもたちは自主的な遊びによって学年や性別を越えた仲間関係を築くとともに、地域の人達との顔の見える関係やふれあいの貴重な経験となっている。



【夏休み工作教室～うちわづくり】



【紙飛行機飛ばし大会】

特徴

●運営

各プラザは、小学校ごとに組織された「あやせっ子ふれあいプラザ○○運営委員会」が運営。運営委員会は自治会、青少年健全育成会、子ども会、青少年指導員、青少年補導員、民生・児童委員、PTA、学童保育クラブ、校長、パートナー（安全管理員）等の代表者、概ね12名から20名で構成されている。

この運営委員会で、子どもたちが安全で遊びやすくするための方法などを決めている。

●実施日及び実施時間

各プラザの実施は、原則として、休日を除く月曜日から金曜日（給食のある日）までの授業終了後から午後5時まで、11月から3月の間は、帰宅時間等を考慮して午後4時までとしている。

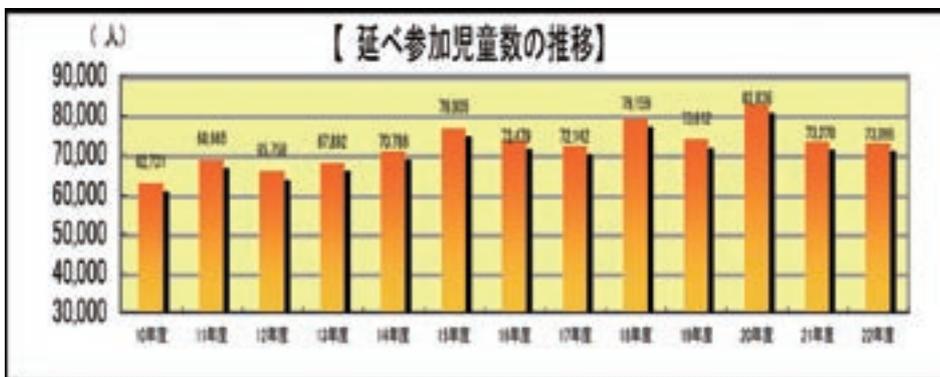
また、平成19年度からは普段の「あやせっ子ふれあいプラザ事業」とは別に、夏休み期間中に「わいわいプラザ事業」を実施している。これは、普段関わることの少ない大学生と子どもたちがふれあう機会をつくり、お互いの人間形成の役に立ててほしいとの考えから始めた事業で、子どもたちは、お兄さんやお姉さんとのふれあいを毎年楽しみにしている。

●イベント等

子どもたちの自主的な遊びが基本だが、ひな祭り、七夕祭り、すいか割り、工作教室、スポーツ大会、クリスマス会など、四季折々のイベントを定期的に取り入れていることもプラザ事業の魅力となっており、子どもたちに大変喜ばれている。

●事業充実への取組

各プラザで子どもたちを見守るパートナー（安全管理員）の高齢化が課題となっており、平成23年度から、まだ一部のプラザではあるが、市内の高等学校や専修学校などの協力を得て、生徒や学生にボランティアでパートナーの補助役をお願いしている。



事業を実施して

平成10年6月に市内全小学校10箇所ではじまったプラザ事業も14年目を迎え、すっかり市民に根付くとともに、この事業を通じて毎日地域の人々が学校に入り子どもたちとふれあうことで、学校と保護者と子どもと地域のつながりがより強くなっている。また、ひとり遊びから集団遊びへの変化、運動量の増加による体力の向上、学年、性別を越えた仲間づくりによる協力や思いやり、ルールの遵守、マナーや社会性が培われるなど、目に見える成果も出てきている。これからも、時代の変化や市民ニーズの多様化に対応しつつ継続実施していくため、平成23年11月にプラザ事業検討委員会が発足し、事業の更なる充実を図っていく。

活動名

射水市放課後子ども教室 片口教室
【富山県射水市】

関係する学校

射水市立片口小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	—	—

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	16人	29日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	教育相談室、音楽室、生活科室		16年度	あり
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

片口教室は、小学校を活動場所として、茶道・音楽・伝承遊びの3サークルが活動を行っている。各サークルは、6月～2月の期間、月1回(サークルによっては2回)定期的に開催され、学校以外の充実した活動・体験の場であるとともに、地域の安全管理員との交流を通じ、挨拶や礼儀、思いやりや感謝の心を醸成する場として定着している。

特徴

<特徴的な活動内容>

●地域の公民館まつりへの参加

・茶道サークルのお点前による来館者へのもてなし、音楽サークルの舞台発表

●保護者をサークルへ招待

・茶道サークルの児童の保護者を招待し、児童がお点前を披露。保護者も茶道を体験

●学校との連携

・学校の“育てたい子ども像”である礼儀や思いやりについて安全管理員と共通理解を図り、活動の中で育まれるように配慮するなど健全育成を重視

<実践にあたっての工夫>

●放課後児童クラブとの連携

・小学校の敷地内にある放課後児童クラブから参加する児童の安全確保のため児童の所在を確認する個別カードを作成

●子どもの参加を促す取組

・放課後児童クラブの保護者説明会で放課後子ども教室を紹介し児童の参加を促進
・外国人の子どもや保護者と連絡を取り合うために国際交流協会と協力

<その他の特徴>

●保護者や地域の理解

・小学校主催で実施される「地域感謝デー」に安全管理員が招待され、児童が日頃の感謝を表すとともに、安全管理員に対する保護者や地域の方々の理解を図る。



茶道サークル
(言葉遣いや礼儀作法なども)



音楽サークル
(季節の歌や音遊び、合奏など)



伝承遊びサークル
(昔の遊びや手づくりおもちゃなど)

<年間の主な活動>

	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
茶道	茶道に親しむ基本の作法	茶道に親しむ基本の作法	基本の作法 袱紗の使用	基本の作法 袱紗の使用	応用練習 (お盆の作法)	応用練習 (お盆の作法)	作法の復習 お茶会の練習	保護者を招待したお茶会
音楽	楽器に親しむ 雨の歌	手話で表現 季節の歌	楽器で リズム遊び	楽器の演奏	公民館まつりの練習(歌・合奏)	音楽を使った 身体遊び	ピアノの体験 冬の歌	楽器で合奏 季節の歌
伝承遊び	もくもく プーパー笛	フィンガー プーメラン	ビュンビュン ごま	牛乳パックの パチンコ	牛乳パックの ルービックキューブ	紙粘土の ペンダント	手づくり オセロ	手づくり オセロ大会

事業を実施して

- ・安全管理員の高い指導者意識と子どもたちへの深い愛情により、放課後の体験活動の充実が図られただけでなく、安全管理員との信頼関係が高まり、子どもたちにとって、放課後の安心して活動できる居場所となっている。
- ・公民館まつりへの参加や地域感謝デーでの地域の方々との交流は、子どもたちの自信と感謝の気持ちを育むだけでなく、保護者や地域の方々からの理解を得られるきっかけとなった。

こんな活動です!!

子どもたちの居場所づくり。 地域の子どもは地域で育てる。

活動名

諸岡公民館子ども教室【石川県輪島市】

関係する学校

輪島市立門前西小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	一人	一人	一年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	3人	16人	127日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
輪島市立諸岡公民館		20年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

当館が位置する諸岡地区には、平成18年に2つの小学校を統合してできた輪島市立門前西小学校が設置されている。小規模校のため、校区に児童クラブを設置することが困難で当時隣の校区のクラブへ通っていた児童もいたことから、平成20年度に「地域の子どもは地域で育てる」という趣旨で放課後子ども教室を開設し、地域のボランティアが子どもたちの異年齢集団での遊びを見守るとともに宿題や社会的ルールを指導したり、地域の指導者による様々な体験教室を企画する等、学びと交流の場となっている。

特徴

<特徴的な活動内容>

- 幅広い関係者の参画による地域住民の活動内容の多様化

地域ボランティアが当番で安全管理員として参加し、子どもたちの安心安全な活動を見守り、交流を通して礼儀や社会生活のルールも機会をとらえ教えている。

また、子どもたちに様々な体験を経験させるため、様々な分野で生涯学習を実践する地域の方々の協力を得て、料理教室、環境問題に関する学習、地域の歴史、スポーツ教室等に関するもの等、多種多様な学習機会を提供している。

しかし、現在実施している体験教室は年間を通じて実施されるというものではないため、今後はクラブ活動のように数か月単位で行う企画を学校と相談のうえ展開する必要を感じている。

<実践にあたっての工夫>

- 下校時の見守りボランティアとの連携

当地区では、地元のボランティアで実施している下校時の安全「見守り隊」の皆さんが学校支援の観点から継続して取り組まれているが、子ども教室に参加する児童を毎日学校から当館までの約800m送って来てくれている、そのため下校時の安全確保の点でも問題ない。



ケーキ作り教室



剣道教室



読み聞かせ



茶道教室

事業を実施して

当地区は典型的な高齢化社会となっており、子どもたちが遊んでいる声を聞けるのは当館で行っている「放課後子ども教室」にきて聞かれる程度である。この子ども教室では子どもたち同士が異年齢集団で過ごすため、時には喧嘩もしながら切磋琢磨した子どもたちが育ってくれることを希望している。子どもたちも少しずつ礼儀作法やお互いのルールを学びながら、成長しているのがわかる。

こんな活動です!!

地域の子どもは地域で育てる 「子ども居場所づくり教室」

活動名

石川公民館 石川っ子ジュニア文化サークル
【石川県白山市】

関係する学校

白山市立石川小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	11人	79日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	白山市立石川公民館、浅野太鼓楽器店他		18年度	なし
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

地域の先生、小学校の先生と連携して各教室を毎週土曜日に開催、夏休み教室は平日に開催している。また、施設等に出かけ様々な活動を実施している。食育にも取り組み、子ども・親・祖父母と幅広く学習の場を設けている。

特徴

一地区に一公民館一小学校一保育所と恵まれた教育環境で、それぞれ連携して事業を行っている。開始当時から囲碁・茶道・絵てがみ・マジック・太鼓・三味線の各教室を開催し、文化祭に学習の成果を発表している。また、鳥越公民館と地引網や物づくり体験などの交流事業を行っている。

文化祭に各教室の発表の場を設け、太鼓・三味線教室は地元の盆踊りや小学校の運動会でも演奏を披露している。夏休み教室は毎年たくさんの申込みがあり、22年度は14教室開催し、のべ362名の参加があった。(石川小学校児童数299名)



H22年4～9月
絵てがみ



H22年5～10月
茶道



H22年7月27日
鳥越交流 勾玉作り



H22年8月2日
紙すき



H22年8月11日
九谷絵付け



H22年8月17日
桑島化石発掘



H22年10月23日
文化祭で太鼓・三味線演奏



H23年2月5日
親子クッキング

事業を実施して

小学校だけでは体験できない様々な活動や学習を通してふるさとを意識することができた。また、地域の先生・協力者と子ども達との交流も深まった。今後とも公民館・小学校・地域の連携を深め、さらに充実させていきたい。

こんな活動です!!

地域が支える! 体験・ふれあい・元気あふれる 子どもの居場所

活動名

小山放課後子ども教室【福井県大野市】

関係する学校

大野市小山小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	—	—

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	0人	35人	188日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	図書館、体育館、校庭、ホール、公民館	19年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- 活動の目的 子どもたちに放課後の安全で安心な居場所を提供し、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。
- 活動を開始したきっかけ 従来より土・日を中心に行っていた子ども対象の事業を、放課後子ども教室に移行した。
- 活動時間 平日の放課後～午後5時30分
- 活動内容 月曜日を体験学習の日として様々なプログラムを提供。その他の日は、子どもたちを自由に過ごさせ、子どもの自主性を重んじた異年齢交流を行っている。

特徴

<広いスペースを使った活動場所>

学校の全面的な協力のもと、放課後に使用していない場所のほとんどを開放してもらい、広い遊びスペースを子どもたちに提供している。そのため、教室に参加を希望するすべての児童を受け入れることができている。

<安全管理員同士の共通理解の推進>

子どもに対する接し方や、緊急時の対応方法を文書化した「安全管理員マニュアル」を作成し、安全管理員同士の共通理解を図っている。

<太鼓教室の実施>

5月から12月までの教室実施期間中の毎週水曜日、和太鼓教室を開催し、その練習の成果を地域の行事で発表している。

<月曜体験学習>

毎月第2、第4月曜日には、体験教室と題して、全員参加でさまざまな子供向け教室を開催している。

<市内の他地域教室との情報交換>

市内の4つの放課後子ども教室の代表者と市の担当課が集まり、年に数回、情報交換をする機会を設けて情報収集を行い、運営の参考にしている。

平成22年度体験教室活動内容

日程	活動内容
5月10日	空手
5月24日	紙芝居
6月14日	絵手紙
6月28日	フラワーアレンジメント
7月13日	流しそうめん
9月13日	ネイチャークラフト
9月27日	自然観察
10月25日	国際交流
11月16日	座禅体験
11月29日	ロボット遊び
12月20日	クリスマスリース
1月18日	ふるさとカルタ大会
1月31日	料理教室
2月14日	お菓子づくり
2月22日	ストリートダンス
3月8日	お楽しみ会



太鼓教室の様子



座禅体験の様子

事業を実施して

放課後の子どもの安全な居場所が確保されるとともに、少子化で集落での子どもの数が少なくなっている中、子どもたちに遊びの場を提供することにより、集団生活における人間関係を子ども同士のふれあいの中で体感させることができている。

こんな活動です!!

地域に密着した体験活動。 子どもは地域の宝!

活動名

都留市放課後子ども教室【山梨県都留市】

関係する学校

都留市立東桂小学校、宝小学校、
谷村第二小学校、旭小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	一人	一人	一年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	11人	41日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
放課後子ども教室で借り上げた畑 地域コミュニティセンター、公民館、グラウンド		16年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

各地域協働のまちづくり推進会の事業の一つに位置づけ、学校・家庭・地域・行政の緊密な連携のもとに、子どもたちの安心・安全な居場所づくりを推進している。

農業体験活動では、子ども自らが野菜や花などの作物の栽培・収穫を行い、さらにそれらを使った料理活動やフラワーアレンジメント等に活用している。地域の行事への参加や地域指導員の協力など、地域に密着した活動である。

特徴

- ・地域協働のまちづくり推進会の事業の一つに位置づけ、子ども教室実行委員会を組織し、活動の企画・実施をしている。各地域の農業従事者・諸団体等の地域人材の協力を得ている。また、地域の文化祭で収穫した野菜を販売する等、地域に密着した活動をしている。
- ・子どもが自ら作物を栽培・収穫をし、その作物を使っての料理やフラワーアレンジメント等を行うことで、活動の広がりを図っている。年間を通した生産活動を行うことにより、多くの参加者を得ることに繋がっている。また、活動内容に関しては、学校の意向を十分に考慮することや、指導員である地域人材の声を反映させる等、コーディネーターが連携を図り、回を重ねるごとに内容を充実させている。また、子どものアンケートを反映させ、子どもに寄り添う活動内容になるよう工夫をしている。
- ・都留文科大学と連携を図り、大学生を指導員として活用している。地域指導員だけでなく大学生が活動に参加することにより、子どもが幅広い世代と交流を深めることができることや、教員を目指す大学生にとっても勉強となっている。

【活動例】

- 6月 花・野菜の植え付け
- 7月 きゅうりの収穫と畑の手入れ、収穫したきゅうりでQちゃん漬け
- 8月 花の収穫と畑の手入れ、フラワーアレンジメント
- 9月 白菜の苗つけ、さつまいもの収穫
収穫したさつまいもでだんご汁と鬼まんじゅう作り
- 12月 白菜の収穫、収穫した白菜で漬物と白菜シチュー作り
- 1月 収穫した大豆で豆腐作り



農業体験活動



フラワーアレンジメント活動



大学生参加の様子

事業を実施して

子ども教室を通して、異学年との交流など、新たなコミュニケーションの場となっている。また、子どもたちと地域の大人の間で交流が生まれ、子どもにとって安心・安全な地域づくりの一助となっている。

家庭においても、活動の話を家族にしたり、家でも料理を実践してみるなど、子どもの積極性や新たな関心を抱かせることにも繋がっている。

こんな活動です!!

放課後子ども教室と児童クラブ(学童)を併設

活動名

坂祝町放課後子ども教室【岐阜県坂祝町】

関係する学校

坂祝町立坂祝小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	—	—

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	62人	193日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	キッズドリームワールド、小学校図工室、体育館、運動場など		17年度	あり
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

子どもたちが安全・安心に過ごすことができる居場所(活動拠点)を、地域の教育力を結集して整備・支援することにより、次代を担う健やかで思いやりのある坂祝の子の育成をめざす。

また、子ども教室との連携のもと、子ども教室開催時間外にも居場所が必要な児童に対して活動場所を整備・支援し、共働き家庭や核家族世帯の子育て支援を行う。

特徴

- 平成17年度より「地域子ども教室」として運営開始。
- 平成22年度から、地域社会の中で放課後や週末などに子ども達が安全で安心して、健やかに育まれるよう、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」を一体的に実施。
- 地域の指導員が充実(地域の指導員が9名登録)
- 地域行事や地域の人材を生かした体験活動が充実(公民館まつりとの連携・食生活改善推進員協議会と連携した食育教室・踊り保存会による盆踊り体験等)
- 保護者サポーターや中学生ボランティアの積極的な参加



秋の収穫いもほり



毎週金曜の読み聞かせ



学習タイム

事業を実施して

- 子ども教室と児童クラブを同一施設で実施することで、施設を有効利用でき、児童クラブ事業を効果的に展開できるようになった。(運営面)
- 2つの事業の側面から、総合的に子どもを見届けることができるようになった。(指導面)
- 児童クラブ利用者にとって、子ども教室から児童クラブへの移行が便利になった。(利用面)

こんな活動です!!

地域の中で、毎日、すべての児童に安全で安心な居場所づくりを!

活動名

六連校区放課後子ども教室
【愛知県田原市】

関係する学校

田原市立六連小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	—	—

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	—人	32人	261日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
六連市民館		20年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

田原市の放課後子ども教室推進事業は、現在、児童クラブ未設置の小学校に設置されている。そのため、留守家庭の児童に適切な遊びや生活の場を与えるといった児童クラブの機能も有している。

六連校区放課後子ども教室は、校区内に通うすべての児童を対象に、放課後の安全で安心な居場所の提供を行う場として実施している。

毎日の活動内容は、主に学校の宿題やドリルを使っての自主学習、自由遊びやスポーツ等を行っている。また、長期休業時などは、近くの海岸に散歩に出かけたり、バスを使って野外学習をするなど、児童が毎日楽しく通えるように指導員がプログラムを工夫し、実施している。

特徴

六連小学校区では、児童クラブが開設されていないため、放課後子ども教室の開設時間や開設日数等は児童クラブの基準に準じており、平日は学校終業後毎日午後6時まで、長期休業時等は午前8時から午後6時までとし、年間260日前後の開設となっている。そのため、1年生から3年生までの児童参加率はとても高く、日常の活動として定着している。また、学校と連携し、定期的に指導員が学校に赴き、学校行事等の情報を得たり、下校時に子ども教室参加児童の班編成を学校へ依頼するなど、学校と協力し、子どもたちが安全に活動へ参加できる体制を構築している。

活動内容は、通常、室内では宿題等の自主学習の他、ボールや玩具を使った自由遊びや、読書活動を行っている。屋外では広場や遊具を活用し、ドッジボールやサッカー等のスポーツ活動を行っている。また、長期休業時などは、近くの海岸に出かけて、海辺の自然観察を行ったり、市のバスを利用し、身近な地域の教育資源を活用した幅広い活動を提供することにより、地域、郷土への理解を図っている。それ以外にも、地域と合同の避難訓練や市民館まつり、地域のお年寄りが行っている体操教室への参加等、校区の行事や施設の講座に参加し、異世代交流の機会を持つことで、子どもたちの豊かな成長を支援している。

<実施にあたって>

放課後の安全で安心な居場所づくりの提供のため、児童の安全管理に関すること等は児童クラブのガイドラインに準じて実施している。また、参加児童の出欠の確認を徹底し、保護者の送迎を原則とするなど、学校・保護者の協力を得て安全で円滑な運営を図ることで、将来へ持続可能な活動となっている。

<その他>

六連小学校は小規模校であり、児童クラブは開設していない。放課後子ども教室の活動内容に児童クラブと同程度の開催日数・時間を合わせ持たせることにより、日常的に子どもたちに安全で安心な居場所を確保している。



指導員手作りの教室だより



教室の様子



学習の時間

事業を実施して

子ども教室を開設したことで、放課後に子どもたちが心を開放し、安心して自由遊びやスポーツに興じる場ができた。学校管理外で、異年齢児童が集い、様々な経験を積むことで社会教育力を向上させている。また、地域の拠点である市民館で実施し、学校、校区自治会、保護者等が活動に参画することで、地域の子どもは地域で見守り育てるという気運の向上が図られている。

こんな活動です!!

子どもは地域の希望の光！ 地域の子どもは地域で育てる。

活動名

神島田小学校放課後子ども教室
【愛知県津島市】

関係する学校

津島市立神島田小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	21人	119日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
体育館内会議室		21年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- 放課後における地域の子どもの安全かつ安心な活動の場を確保し、地域の住民の参画を得て、さまざまな体験、交流、学習等の活動の機会を提供する。
- 教室の開催日 火・水・金 授業後から午後5時まで
- 参加対象者 神島田小学校に在籍する小学生
- 申込手続など 申込用紙を提出後、定員(25人)を超えた場合は抽選。参加料は無料、ただし、保険料と材料費は実費。
- 主な活動 読み聞かせ、宿題、外遊び、自由遊びなど
- ボランティア講師等による各種体験活動 護身術、お手玉、将棋、おやつ作り、お茶会、名刺交換ゲーム、カミコプター作り、壁面製作、七夕製作、バルーンアート、しゃぼん玉遊び、写真立て作り、船作り、リサイクル工作、うちわ作り、ロングひこうき作り、お楽しみ会、折り紙のコースター作り、ハロウィン工作、箸入れ作り、カレンダー作り、クリスマスツリー作りなど

特徴

- 様々な分野、世代の方をボランティアとして招き、交流をしており、コーディネーターをはじめ、スタッフはすべて地域住民である。また、学校とも良好な信頼関係を保ち、地域社会との係わりを大切に考え、子どもは地域の一員であり、地域で育てるということを常に意識している。
- 季節行事のイベントに向けた工作など、子どもたちが興味を示すことをスタッフ同士で話し合い、実践している。また、月1回程度であるが特別講習としてボランティア等の協力を得たイベントを企画し、地域交流を実践している。
- 3年目となり、保護者からも認知され、定員以上の参加希望があり、地域で必要とされる事業となっている。
- 学校とスタッフが常に連絡を取り合い、信頼関係を築き上げているため、活動拠点である体育館内会議室以外に、安全面や管理運営などを考慮しながら、体育館や図書室、校舎の間の中庭など、放課後に余裕のある場所を利用してもらい活動している。また、地域コミュニティで培った人脈を活用した交流や市立図書館から毎月本の貸出交換の協力を得るなど、様々な世代、分野で連携している。
- コーディネーター以下、スタッフはすべて平成14年に結成された学校ボランティア「神島田サポート」に所属している地域の方であり、小学校での読み聞かせボランティアやコミュニティ協議会の構成員も兼ねており、学校、地域において必要かつ重要な役割を担っている。



地域の高齢者を招いてのお茶会



ジャンボしゃぼん玉遊び



バルーンアート作り

事業を実施して

毎年、子どもたちがワクワクするような企画を実施しており、参加した子どもからは「いろいろなことが体験できて楽しい」という言葉をもらう充実した内容となっている。また、保護者からは、家庭では体験できないことを企画していることについて感謝されている。

こんな活動です!!

「子どもの居場所は大人の居場所」 保護者どうしても、地域の人とふれあっています!

活動名

放課後子ども教室 川崎フレンズ
【三重県亀山市】

関係する学校

亀山市立川崎小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	一人	一人	一年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	40人	178日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
教室、グラウンド、体育館、保養施設		16年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

学校5日制が始まり、保護者から「子どもの放課後や休日の居場所づくり」の要望があったこと、複合型スポーツ少年団の立上げ、文部科学省の「子どもの居場所づくり新プラン」の始まりがきっかけで活動がスタートした。小中学生保護者の年齢層を中心に「家庭・地域・学校」で協力しあい、水曜日の放課後や土・日・休日にスポーツ系教室と文化系教室を開催している。また、地域のイベントとして「川崎子どもフェスティバル」も開催している。

特徴

PTA・地域・学校・スポーツ少年団・学童保育所など幅広い関係者の参画により、多様な教室等を開催している。

【活動内容】

- ◆スポーツ教室 …バレーボール、サッカー、キックベースボール、陸上、卓球など
- ◆文化系教室 ……粘土細工、紙細工、お菓子づくり、わらべうたあそび、パソコン、華道、文化琴、農園など
- ◆「川崎子どもフェスティバル」「冬の工作会」の開催

活動運営は、小中学生保護者の年齢層が中心で年配者や各種団体の協力も得ているが、特に中学生・高校生など当校を卒業した卒業生が深く関わっている。大人と小学生だけでなく、地域住民全体の途切れのない参加が、将来にわたって活動を継続して行うことができる仕組みとなっている。

地域の住民が全員で「未来の大人たちのために今できること」を考え、地域の子どもを地域で育てる意識が、各世代に受け継がれていくような取り組みを実践している。



スポーツ教室「キックベースボール」



文化系教室「お菓子づくり」



文化系教室「農園(田植え)」



川崎子どもフェスティバル

事業を実施して

子どもに対する地域の協力が、年々大きくなってきている。イベントの継続的な実施に加え、普段の活動にも参画する中学生や高校生が増加するなど、確実に子どもが育ってきている。

こんな活動です!!

「いつもいっしょに、ちいきの、みんなと」 一障がいのある子どもたちの居場所づくり

活動名

柏原子ども教室 ☆いち・み☆【大阪府柏原市】

関係する学校

柏原市内の小・中学校・近隣特別支援学校に在籍する児童生徒

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	—	—

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	7人	69日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
体育館等		13年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

第二土曜日が休みになったことをきっかけに、障がいのある子どもたちが家に引きこもることなく、健常児と同じように、外に遊びに行くという活動をさせたいと、放課後の居場所づくりとして始まった。

関西福祉科学大学ボランティアサークルの学生の協力により、マインドエアロビクス・スポーツ教室(卓球・ボール運動等)・料理教室・プール教室・音楽教室・散髪教室・創作教室(工作・絵等)などの体験教室を実施している。

特徴

<特徴的な活動内容>

地域で障がい児が気兼ねなく活動体験できるように、慣れ親しんだ学校施設などを利用し、一つ一つの体験が成長につながるように、本人のしたい体験や保護者の希望などを取り入れている。

また、活動を通じて児童自身の体験を増やし、将来生きてゆく力を培う事につながればという願いのもと、様々な教室を行っている。毎年50回以上の教室を開催、のべ400～500名の児童・生徒が利用。それを18名のスタッフと20名のボランティアが支援。

<実践に当たっての工夫>

支援学級の介助員、ホームヘルパー有資格者、障がい者施設実務経験者等、障がい児・者への支援経験があるスタッフが手厚く対応。障がい児・者専用の保険に加入する等、安全確保に万全を期するよう努めている。

学校側の理解が得られ、支援学級に入級している児童・生徒へのチラシの配布、体育館や特別教室の利用、吹奏楽部への演奏依頼等、連携が取れている。学校以外の団体・施設とも連携ができていて、ボランティア、施設利用などでも協力を得ている。



▲散髪教室の様子



▲マインドエアロビクスの様子



▲卓球教室の様子



▲月ごとに配布されるチラシ。市内小中学校の支援学級及び近隣の支援学校に在籍する市内在住の児童・生徒みんなに配布される。

事業を実施して

- ・定期的に教室を開催することで、外へ出ることが定着し、障がいのある児童や保護者の暮らしやすさにつながっている。
- ・地域住民の理解も深まっており、指導者の中には、地元で障がい児の為の教室を別に開いて活動を広げる方も出てきた。

活動名

中山台子ども広場【兵庫県宝塚市】

関係する学校

宝塚市立中山桜台小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	一人	一人	一年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	30人	203日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	小学校多目的室、旧幼稚園舎、公園 コミュニティセンター(児童室、調理室等)		19年度	あり
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

「地域の子どもは地域の大人で育てたい。」子どもたちが地域のたくさんの人と関わりながら元気にたくましく育つことを願い、平成の初めの頃より地域の有志が保育や読書の場として自宅を開放し、子育て支援を開始した。以降「子育ては地域の重要な役割」との認識は脈々と受け継がれ、現在に至るまで地域における子育て支援活動が深化発展してきた。

現在は、中山台コミュニティ子ども部に属する5グループと他の1グループ(計6グループ)が中心となり、「子どもが自由に遊び、学び、仲間作りをする場。親子で集いつる場。子どもと大人が繋がり子どもの育ちを地域が支援する場。シニア力を子どもの見守りに繋ぐ場。」等として、安全で安心な居心地の良い子どもの居場所づくりに取り組んでいる。地域全体での子育てを目指したこの活動は、行政機関やその他の子ども関係団体等とも連携しながら地域の子育て力向上にも寄与している。

特徴

○子どもと地域住人の貴重な交流の場となっている。

参加形態が自由であり、子ども達は気軽に参加している。そして地域の大人を信頼し、繋がることを楽しみにしている。また、乳幼児も保護者同伴で参加し微笑ましい異年齢交流となり、若いママと先輩ママとの対話の場ともなっている。地域住人同士の繋がりが希薄な昨今、貴重な活動であり、また子どもと関わることは、地域の住民自身の生きがいともなっている。

○行政、関係機関、色々な団体等と連携し、活動内容も多彩である。

行政、学校や児童館、様々な民間サークル団体と連携をし危機管理や運営に当たっている。また、6グループそれぞれが子育て理念を持ち、経験や能力を生かした自主的・創造的な活動を行っている。さらに、開催回数も多く、活動内容も多彩である。(主だった活動内容)

- ・運動遊び(マット、跳び箱、平均台、縄跳び、バランスボール、キンボール、リズム体操等)
- ・季節行事(こいのぼり作り、七夕、野外炊事、水遊び、アートフェスタ作品作り、ハロウィン、クリスマスツリー作り、こま作り、餅つき大会、節分お面作り、ひな祭り等)
- ・学び・体験活動(囲碁教室、クッキング、水鉄砲作り、エコ勉強会、リサイクル工作、仮説実験、昔遊び、英語で遊ぼう、マジック、音楽、絵本作り、読み聞かせ、紙芝居など)
- ・自由遊び・宿題(公園で思いきり遊ぼう、自由遊び、宿題やろう等)

○行政の要請で行っているのではなく、地域主体で運営している。

地域の子どもを地域みんなで育てようとする熱い思いとパワーがある。

「中山台子ども教室」実行委員の平成23年度登録者は18名だが、長年関わっている方も多い。また、ボランティアも多く、新たな後継者も育ちつつある。実行委員の中には、囲碁の有段者、スポーツ指導員など専門家もいて、自発的に生き生きと、時に専門的な活動も加えて実施している。中山台コミュニティの重要な活動内容として子育て支援活動に位置づけられた「中山台子ども広場」(放課後子ども教室)は、高齢者支援活動と共に、組織的活動として地域に浸透している。



ぼくも宇宙飛行士 「日本宇宙少年団大塚先生のお話会」宇宙への夢が広がりました。



水ロケットを作って飛ばそう！
凄い威力に感動!!



みんなで楽しくあそぼ！
(ニュースポーツ)



本を読んでもらうの大好き！
もっと本を読みたいなあ。

事業を実施して

子どもたちとのふれあいは楽しい。地域で見守り育てていこうという思いがより確かなものになった。

「パパ力アップ講座」「孫育て講座連続8回」等の講座も並行実施し、地域の子育て家庭の見守りに繋がった。(シニア参加者延べ283名。)

学校と地域の連携がより進んだ。

こんな活動です!!

子どもの居場所づくりで世代間交流!

活動名

紀美野町中央公民館ふれあいルーム
【和歌山県紀美野町】

関係する学校

紀美野町立野上小学

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	16人	174日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
中央公民館内ふれあいルーム		16年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

子どもを取り巻く環境が変化し、遊びや生活も変わってきている。子どもたちが安心して異学年の仲間や地域の大人と交流し、つながりを深める場が必要であることから、中央公民館を拠点に「ふれあいルーム」を開設している。

平成16年度開設当初は、毎週水曜日、地元サークルによる「絵本の読み聞かせ」や工作、あみもの教室、音楽教室等子どもたちの体験活動を中心に開催。平成19年度からは、週4日(火曜日を除く平日)に拡充し、様々な世代との交流活動も実施している。

特徴

地域の人が講師となって、干し柿づくり、竹細工、ミュージックベル演奏等の体験学習、地域サロン(高齢者)との交流(ちぎり絵、おやつ作り、ゲートゴルフ等)、絵本の読み聞かせ、ひまわりの観察、工作、献血車での疑似体験、防災訓練等、毎週水曜日をイベントデーとして多種多様なイベントを開催している。

イベントがない日は、宿題をしたり、安全管理員の人や友だちとおしゃべりをしたり、本を読んだり、子どもたちが放課後を安全で健やかに過ごせる活動の場となっている。

週4回(月・水・木・金)の教室の開催

- ・年間開催日数 174日
- ・参加児童 のべ2,733名
- ・工作や体を動かす体験活動
- ・宿題や復習など学習
- ・水曜日には、読み聞かせや体験活動等の企画した取り組みを実施



お手玉づくり



ちぎり絵体験



干し柿づくり

事業を実施して

地域サロン(地域の高齢者の活動グループ)と連携し、ちぎり絵・ゲートゴルフ・蒸しパン作りなど、世代間交流が活発に行える事業に発展し、活動に参加した大人からは、「子どもたちの喜ぶ笑顔を見るのが楽しみ」「こんな事業があれば何年度でも参加したい」「日頃、子どもたちとふれあう機会が少ないのでいつも楽しみにしている」との声が聞かれる等、地域全体で子育てをしていく体制が構築されつつある。

こんな活動です!!

充実した学習支援活動

活動名

早島放課後子ども教室【岡山県早島町】

関係する学校

早島町立早島小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティ・スクール	その他
—	○	—	—

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	30人	196日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
多目的教室		20年度	あり	
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

子どもたちが安全・安心に過ごし、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の定着を図る場として本教室を開設した。4年生から6年生が参加しており、主に平日の放課後に活動を実施している。

特徴

〈特徴的な活動内容〉

● 時間割の作成

児童の学習意欲の向上と学習習慣の定着に向けた取組を重点的に行っており、1コマ45分を基本とした時間割を作成しメリハリのある活動プログラムを工夫している。宿題以外に100マス計算や漢字プリント等、個に応じた学習教材を提供したり、各自にがんばりカードを用意したりして、学習に対する意欲を高めるようにしている。

● 人間関係づくり

学習時間終了後は学習アドバイザーと子どもで自由遊びをしたり、全員でものづくり体験やスポーツをしたりして、大人と子ども、子ども同士の人間関係が深まるようにしている。

〈実践に当たっての工夫〉

● 保護者懇談の実施

保護者の要望の把握や児童理解を深めるため保護者との懇談を実施し、日々の生活の中で配慮すべきことや、児童自身に身につけてほしいことなど保護者から直接聞き取り指導に生かしている。保護者に教室での児童の様子等を伝え、家庭と連携を図りながら適切な教室の運営に努めている。

● 学校との連携

運営委員会において学校と運営等について協議を行ったり、普段から教室関係者と教職員とが児童の様子などを情報交換したりして、学校との連携を密にしている。また、学校で活用している学習教材を共有させてもらい、学校での学習内容を踏まえた教材を提供している。

● 放課後児童クラブとの連携

本教室に隣接して放課後児童クラブ「城山学級」があり、1～3年児童が参加している。クラブ参加児童の中からも、4年生になると本教室へ移行する児童がいることから、移行児童についての情報交換を密にしている。

放課後子ども教室活動時間割

曜日	月	火	水	木	金
15時			学習		
16時			学習		
17時			活動		
18時			活動		
19時			活動		
20時			活動		
21時			活動		
22時			活動		
23時			活動		
24時			活動		
25時			活動		
26時			活動		
27時			活動		
28時			活動		
29時			活動		
30時			活動		
31時			活動		
32時			活動		
33時			活動		
34時			活動		
35時			活動		
36時			活動		
37時			活動		
38時			活動		
39時			活動		
40時			活動		
41時			活動		
42時			活動		
43時			活動		
44時			活動		
45時			活動		
46時			活動		
47時			活動		
48時			活動		
49時			活動		
50時			活動		
51時			活動		
52時			活動		
53時			活動		
54時			活動		
55時			活動		
56時			活動		
57時			活動		
58時			活動		
59時			活動		
60時			活動		
61時			活動		
62時			活動		
63時			活動		
64時			活動		
65時			活動		
66時			活動		
67時			活動		
68時			活動		
69時			活動		
70時			活動		
71時			活動		
72時			活動		
73時			活動		
74時			活動		
75時			活動		
76時			活動		
77時			活動		
78時			活動		
79時			活動		
80時			活動		
81時			活動		
82時			活動		
83時			活動		
84時			活動		
85時			活動		
86時			活動		
87時			活動		
88時			活動		
89時			活動		
90時			活動		
91時			活動		
92時			活動		
93時			活動		
94時			活動		
95時			活動		
96時			活動		
97時			活動		
98時			活動		
99時			活動		
100時			活動		

放課後子ども教室活動時間割



学習活動に取り組む児童



秋の芋掘り体験活動の様子

事業を実施して

4年間の継続した取組により、学習習慣が身に付き、意欲的に学習に取り組める子どもが増えるとともに、異年齢集団での活動を通して、コミュニケーション能力が向上している。

〈保護者の声〉

児童クラブを卒業した学年が、安心で安全に過ごせる場所があることはとてもありがたいです。他学年の子どもとも遊べるし、勉強もよく見てもらえて子どもも楽しみにしています。

こんな活動です!!

「子どもの元気な声が響きわたる学校」にするために、学校支援隊が参画!

活動名

加茂小学校学校運営協議会
【徳島県東みよし町】

関係する学校

東みよし町立加茂小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	○	—

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	40人	41日	あり
	実施場所			開始年度
加茂小学校・加茂公民館			19年度	なし
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H22.5.18	6人	296人	14学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成20・21年度に、文部科学省指定コミュニティ・スクール調査研究校となり、学校運営協議会発足に向けた推進委員会を立ち上げ、学校支援隊を組織する。その教育効果を確認し、平成22年度から正式に東みよし町教育委員会から学校運営協議会の設置を認められる。学校運営協議会は、地域住民や保護者の代表6名と学校職員6名で構成され、学校経営方針について協議している。学校支援隊は、地域住民や保護者で構成され、ほぼ毎日のように学校の教育活動へ参画している。「確かな学力部会」「豊かな心部会」「健やかな体部会」の3部会を編制している。

特徴

学校経営方針くめざす学校の姿>

「子どもが喜んで登校する学校」「子どもの元気な声が響きわたる学校」
「子どもを大切にする人が集まる学校」

学校運営協議会(地域住民・保護者・教職員)くめざす学校の実現>



学校支援隊

○活動名

対象学年：実施日：ボランティア人数

確かな学力部会

- 学習サポーター
全学年：随時：多数
- 丸付け隊
1・2年生：木曜日：25人
- 放課後なかよしスクール
3・4年生：木曜日：12人

豊かな心部会

- 絵本の読み聞かせ
全学年：木曜日：20人
- わくわく広場
1・2年生：水曜日：27人
- 生き生き茶道クラブ
1～6年生：木曜日：4人

健やかな体部会

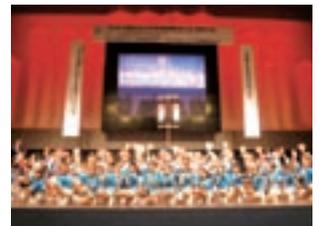
- スクールガード
全学年：毎日：37人
- 加茂小連(阿波踊り)
3・4年生：夏季休業中：20人



丸付け隊



絵本の読み聞かせ



加茂小連(阿波踊り)

事業を実施して

学校評価アンケートの「学校は楽しい」に関する肯定群が、全児童の88.9% (平成21年度) 90.3% (平成22年度) 93.9% (平成23年度前期)と上昇している。学校支援隊の方からは、「子どもたちがよく挨拶をするようになった」などの感想をいただいている。世代間の交流を通して、互いに良い刺激を与え合っているように思う。学校としては、人間関係が築け、活力ある子どもに育てるために、学校支援隊の力が大きな影響を及ぼしていると捉えている。めざす学校の姿である「子どもの元気な声が響きわたる学校」の実現に向けて、これからも地域とともにある学校づくりを進めていく。

こんな活動です!!

東かがわの元気な子どもたちの健やかな育ちを見守り、地域みんなが生き生きと・・・

活動名

東かがわ市放課後子ども教室
【香川県東かがわ市】

関係する学校

東かがわ市立引田小学校・福栄小学校・三本松小学校・丹生小学校・誉水小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	—	—

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	34人	240日	あり
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	専用施設(学校内)・公民館・コミュニティセンター・学校施設(体育館等)		20年度	あり
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

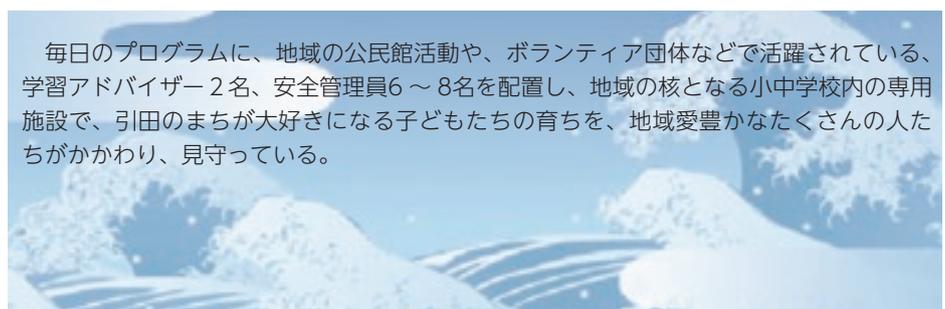
学校内の専用施設や学校に隣接した公民館、コミュニティセンターの休館日を利用して開催している。また、放課後における安心・安全な居場所及び遊び・学びの場の充実を目的とし、地域の子育てネットワークとして、支援の知恵や工夫、人材などを有機的に結びつける。

放課後子ども教室と放課後児童クラブのよい面を取り入れながら、全ての子どもたちが豊かで健やかに放課後を過ごすことができることを目指して、一体的に運用する放課後子どもプランモデル事業を今年度より実施している。

特徴

東かがわ市放課後子どもプラン

5校の中の1校、「引田小学校」では、平成23年度モデル事業として、**放課後児童クラブ47名と、放課後子ども教室50名**が仲間になって、毎日いろいろなプログラムに挑戦して、**なかよく・たのしく・いいじかん**を過ごしています。



毎日のプログラムに、地域の公民館活動や、ボランティア団体などで活躍されている、学習アドバイザー2名、安全管理員6～8名を配置し、地域の核となる小中学校内の専用施設で、引田のまちが大好きになる子どもたちの育ちを、地域愛豊かなたくさんの人たちがかわり、見守っている。



事業を実施して

児童クラブ全体の約60%の児童が子ども教室に参加し放課後児童クラブと連携した放課後対策を実施している。異学年での交流や、地域の大人(スタッフ・ボランティア等)との出会い、ふれ合いの場となっている。

地域の講師を迎えての多種多様なプログラムで、学校とはまた違うスキルを得られており、子どもたちにとってよい経験になっている。

こんな活動です!!

人と人との「想い」を繋ぎ、将来に渡し その「想い」を継承する活動

活動名

三間放課後子ども教室【愛媛県宇和島市】

関係する学校

宇和島市立三間小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	16人	184日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	学校内の和室、多目的ホール、体育館、運動場		20年度	なし
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

平成16年頃から児童クラブ新設の要望を受け、平成19年10月に設置した「放課後子どもプラン運営委員会」で協議し、学校の余裕スペースを活用し「放課後子ども教室」として平成20年5月に「三間放課後子ども教室」を開設した。地域の退職教員や住民を子ども教室の指導者として選任し、学校日を基本に年間185日前後実施。三間小学校の多目的ホール横の和室を利用し、宿題を中心とした学習支援や学校の運動場や体育館を利用して軽スポーツなど多様な活動を実施し、それらの活動を通じて保護者・指導者・学校との信頼関係の構築と「地域の子どもは地域で育てる」という意識の醸成を図っている。

特徴

<特徴的な活動内容>

- 日々の教室では、まず「宿題タイム」で退職教員による宿題を中心とした学習支援活動を実施するとともに、「自由教室」の時間においては、軽スポーツや工作教室を実施する他、学校支援ボランティアによる「読み聞かせ」や民間事業者(電力会社)と連携した科学に関する学習プログラムを始め、行政機関や地域の協力者等との連携を図ることにより、自由教室の時間の内容の充実と多様化に努めている。

<実践に当たっての工夫>

- 管理上、児童の登録を行い、登録児童の情報を学校・指導者と共有するとともに、年度初めに学校・指導者との事前打合せを行なっている。
- 子どもの下校の安全確保を図るため、保護者の迎えを義務付けるとともに、保護者との連絡体制を整備するため、保護者へのメールによる情報配信を実施し、迅速な情報伝達を図っている。
- 地域の退職教員や保護者が教室の指導者を努めることにより、地域教育力の向上に努めている。



参加児童の受入・確認



宿題タイム



クリスマスリース作り



読み聞かせ

活動内容

時間帯	活動内容
14:30	○ 指導者集合 教室の準備
15:00 ~ 17:30	○ 下校・児童の受入、宿題タイム(学習支援)、自由教室(工作、軽スポーツ)
17:30 ~ 18:00	○ 掃除、後片付け、保護者への児童の引渡し
18:00	○ 指導者解散



環境紙芝居

事業を実施して

この事業を通じ、「学校(施設使用)」、「家庭(保護者)」、「地域(指導者)」がそれぞれの立場で事業の趣旨を理解し、「地域の子どもは地域で育てる」という意識のもと、その結びつきを強めながら地域の教育環境の向上が図られている。

今後も「学校」、「家庭」、「地域」が連携・協力を図りながら、地域の人々の「それぞれの想い」を繋ぎ、将来、子どもたちが大人になった時、自分を育ててくれた地域や人々に感謝し、自分立場で出来る活動を率先して行えるよう、この「想い」を継承する活動が今後も必要とされる。

こんな活動です!!

バラエティ豊かな活動を支える、地域ボランティアの底力。

活動名

吉野ヶ里町わくわく子ども教室
【佐賀県吉野ヶ里町】

関係する学校

吉野ヶ里町立三田川小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	42人	67日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	体育館、校庭、空き教室、その他		17年度	あり
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

「もっと遊びたいのに、近くに遊び場がない。又は近くに友達がいない」などの理由で、放課後、家でゲームをしたりテレビを見たりして過ごす子どもが増えている現代。佐賀県吉野ヶ里町では、町の宝である子どもたちに、安全・安心な居場所を提供し、学校では体験できないような“わくわく”できる活動を通じて、子どもたちの活力・知力・社会力の向上に取り組む「わくわく子ども教室」を実施している。毎週水曜日には、運動・ゲーム・実験・おかし作りなど様々な体験活動を計画し、金曜日には、宿題の指導を中心とした学習面でのサポートを行っている。

特徴

【バラエティ豊かな活動内容】

毎週水曜日は、子どもたちがわくわくできるようなバラエティ豊かな活動を用意している。定番人気のおかし作りや昔遊び以外にも、春はいちご狩り、夏はスイカわり大会、秋は焼いも会、冬は凧づくり教室など、季節感のあるプログラム構成を心がけている。また、校外にも積極的に出向き、アイスクリーム工場や醤油工場、製薬会社等の町内企業を訪問するなどして、子どもたちの見聞を広げる活動を取り入れている。

【地域ボランティアの充実】

子どもたちの安全確保と活動サポートの為、現在12名の安全管理員が登録されている。そのうち4名は毎週当番制での参加だが、当番日以外にも積極的に参加して頂き、毎回10名程度の安全管理員が来られる。その他にも、その時々々の活動内容に応じて、調理系であれば婦人会、昔遊びであれば老人クラブなど、それぞれの得意分野でご協力頂いている。

【卒業生がリーダーやボランティアへ】

教室への参加は基本的に4年生までとしているが、毎年数名の卒業生(5年生)が「わくわくリーダー」として活躍している。子どもたちにとっては、頼りになるお兄さん・お姉さんの存在で、コーディネーター以下指導者にとっても非常に心強い存在である。更にリーダーを卒業した6年生の中から2～3名がボランティアとして参加している。

【放課後児童クラブとの連携】

主な活動場所である小学校体育館と放課後児童クラブが隣接しているという恵まれた条件を生かして、活動内容に余裕のある時は、積極的に児童クラブの児童受け入れを行っている。



<竹パン・焼いも会>



<いちご狩り>



<アイスクレープ作り>



<宿題の指導>

事業を実施して

今年で7年目を迎えるわくわく子ども教室。当初はボランティアの確保に頭を抱えていたが、地域の各種団体への積極的な呼びかけや広報活動により、現在では毎回多くのボランティアに支えられての活動となっている。参加児童の保護者からは、「親子の会話が増え、子どもの笑顔が増えた」「集団での行動ができるようになった」などの嬉しい声が多く聞かれ、指導者一同も常にやりがいを感じながら活動を行っている。わくわく子ども教室は、子どもの居場所であるばかりでなく、大人の生きがいの場でもあるようだ。

こんな活動です!!

「地域の子どもは地域で育てる」～全保護者と各種地域団体との幅広い連携～

活動名

かじかクラブ(田代小学校放課後子ども教室)【鹿児島県南九州市】

関係する学校

南九州市立田代小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	8人	60日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
図書館、体育館、校庭等		20年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

田代小学校区では、家庭においては、家庭教育2日制という考えに基づいた子どものしつけなど、家庭教育の充実に努めるとともに、地域においては、関係機関・団体と学校が連携し、地域の子どもは地域で育てるという考えに立った子どもたちの健全育成に向けた取組を行っている。「かじかクラブ」では、全保護者を含む推進委員とコーディネーターが協力して活動を計画し、運営まで行っている。内容は、スクールガードによる放課後学習の見守りをはじめ、親子読書会による読み聞かせ会、体育指導員によるニュースポーツ、警察による交通安全教室等で、地域や各種団体と連携して活動している。

特徴

かじかクラブの運営に当たっては、全ての保護者が推進委員となり、地域の方々のほか、スクールガード、民生委員、食農推進委員、警察署、市体育指導委員、市役所、親子読書会等、学校以外の関係機関と幅広く連携した活動を行っている。

かじかクラブの基本的な活動は毎週木・金曜日の放課後学習と毎月1回の休日の活動である。放課後学習は、スクールガードや民生委員を中心に指導している。毎月1回の休日の活動は、5月の「かじかクラブ推進委員会」で、屋内型と屋外型の活動のバランスを考慮し、協力していただく関係団体と調整を図りながら計画を立てている。また、年度末の推進委員会では、活動を振り返り、次年度の活動方針を話し合っている。



<かじかクラブ推進委員会>



<スクールガードによる放課後学習>

【かじかクラブ年間計画(平成22年度)】

【1学期】

月	活動(休日)内容	関係団体
5	第1回かじかクラブ支援推進委員会	
6	高齢者交流・ボランティア活動 グループホーム訪問	グループホーム
7	交通安全教室 祇園祭り参加	南九州警察署 市指導員 PTA生活指導部

【2学期】

9	ビデオ鑑賞(人権学習)	校区公民館
10	ニュースポーツ(親子スポーツ)	市体育指導員 家庭教育学級
11	「山の寺」ピクニック ネイチャーゲーム	市文化財課
12	クリスマス読書会	親子読書会 校区公民館

【3学期】

1	カルタとり大会	校区公民館
2	ベタンク 第2回かじかクラブ支援推進委員会	保護者



<警察署の協力による交通安全教室>

事業を実施して

- 地域の方々の活動への参加によって、地域住民に子どもたちの考えや様子について理解してもらえる良い機会となった。
- 市、校区、PTA、学校、警察署等が連携した様々な活動の企画により、子どもたちは多くの体験をすることができた。
- 子どもと一緒に保護者も活動に参加することで、親子共通の話題づくりとなった。

こんな活動です!!

学校・児童クラブと連携！ 地域のボランティアの心で子どもを育てる！

活動名

真和志小学校放課後子ども教室
【沖縄県那覇市】

関係する学校

那覇市立真和志小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	一人	一人	一年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	20人	169日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
ニコニコルーム・体育館(校舎内)		19年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

新年度が始まる4月から活動を開始し、月～土まで充実した活動プログラムがある。手芸・お手玉や、様々なもの(船やお花)を折り紙で作ったりして手先の器用さを養い、琉舞や三線では、伝統芸能に学ぶことで地域(沖縄)の文化に関心を広げている。それぞれの活動の前に宿題時間を設けたり、漢字検定にも取り組むなど学習支援も行っている。また、体力面で運動を取り入れ、キンボールを楽しみながら実施している。

特徴

真和志小放課後子ども教室は、地域の方の呼びかけによって始動しており、活動場所となっているニコニコルームも「父親の会」が空き教室をリフォームして設置するなど、多くの地域住人で取り組まれている。地域の方のボランティア精神によって成り立っており、地域の子どものためにスタッフみんなが楽しく教室活動を行っている。

充実した活動内容を中心に子どもの意思を尊重した運営となっている。

学校側も「放課後子ども教室」が放課後の子どもの安心・安全な居場所として認識し、環境を整えるよう協力的であり、教室スタッフが活動しやすい体制である。また、学校行事と一体化した形で取り組み、教室活動の成果発表の場として学校行事に参加している。

児童クラブとの連携も良好で、共通理解のもと子どもたちのニーズにあった活動を提供している。

活動予定お知らせ

平成23年度の主な活動			
	内容	曜日	時間
1	手芸・お手玉	月	15:00～17:00
2	郷土の踊り	火	15:00～17:00
3	折り紙	水	15:00～17:00
4	漢字学習	木	15:00～17:00
5	三線	木	15:00～17:00
6	琴	金	15:00～17:00
7	キンボール	土	9:00～12:00



折り紙の前の宿題



お琴&琉舞の練習



事業を実施して

- 子ども教室スタッフの組織体制がしっかりし、多くの地域高齢者の方々の協力が得られ、充実した活動となっている。(学校)
- 以前より活発になり、勉強に対する姿勢も変わった。教室で学んだ工作等を家で披露するなど楽しませてもらっている。(保護者)
- 地域の子どもに対する関心が高くなり、様々な交流をもつようになった。子どもたちから元気(パワー)をもらっている。
- 地域の高齢者・異学年との交流により、子どもたちは素直に明るく成長している。学校の理解・協力も得られ、スタッフみんなが楽しく活動し、地域住民間の交流も深まっている。(スタッフ)

こんな活動です!!

～みんなで遊ぼう!! ゆうやけ・サタデーサポート～

活動名

ゆうやけ・サタデーサポート
【さいたま市】

関係する学校

さいたま市立高砂小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	—	—

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	69人	76日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
校庭、体育館、生活科室		16年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

地域に子ども達が自由に遊べる広い場所がないことや都市化の影響で世代間の交流の機会が減ったことから、地域の有志の方の協力により、校庭を開放し、子どもたちと遊びを通して触れ合い、体験学習の機会を提供するなどして、徐々にその活動の幅を広げていった。現在、月・木・土曜・学校休業日に学校の教室・校庭等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちの遊び、自主学習、スポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進している。



【生徒募集チラシ】

【シンボルデザイン】

特徴

《多彩なプログラム ～今日は何をするのかな?!～》

活動開始より今年で7年となり、これまで培ってきた、子どもが安心・安全に過ごす為のノウハウとバラエティ豊かなプログラムを実施できる活動力が大きな魅力である。

[活動事例1]

遊びと学び: ボール遊び・大縄飛び・フラフープ・編み物・折り紙・ゲーム・すいか割り・空手教室・ツリー作り・宿題サポート・面白プリント・習字・そろばんなど

[活動事例2]

中学生による特別講座: 「中学生による夏休みわくわく講座」・「高校生によるおもしろ体験講座」

[活動事例3]

理科教室: シャボン玉作り・地球儀作り・ツリー作り・日食観察・博物館見学など

《地域・家庭との連携～スタッフの充実～》

スタッフ構成: 参加者の保護者・PTA・元教員・民生委員・青少年育成地区会・大学生・高校生・中学生など

平成22年度は述べ1,119人のスタッフが参加した。スタッフの年齢層が広く、様々な世代との交流が可能となっている。近隣の多くの中高生がスタッフとして加わり、夏休みには中高生による特別講座を行うことにより、中高生自身の成長を促すだけでなく、年の近い者が手本を示すことによる良い影響を児童に与えることができている。

さらに、保護者と一緒に参加できる日を設け、親子で共有できる思い出を作る手伝いをし、家族との繋がりを大切にできる活動を行っている。

《学校との連携～学校地域連携コーディネーターの配置～》

平成22年度より、学校地域連携コーディネーターが学校に配置され、学校と地域の橋渡し役として、ゆうやけサタデーサポートと学校との連携を行っている。



【活動風景: 学習アドバイザーと頭脳パズルをして過ごす】



事業を実施して

高学年の児童はボランティアをすることが参加の条件であり、低学年の児童もお手伝いをするシールをもらえる仕組みを作っている。中高生がスタッフとして参加していることもあり、当教室では上級生が下級生の面倒を見る流れが自然と出来ており、子どもたちは他人の手助けをする助け合いの気持ちを育むことができている。

参加児童からは「勉強ができるようになった」「苦手だったことが自分から進んでできるようになった」「小さい子の面倒をみられるようになった」「ゆうやけ大好き、毎日あるといいな」「友だちがいっぱいできた」「スタッフの人が話をよく聞いてくれるので安心して話ができる」「みんなと協力して、いっしょに勉強や工作や掃除ができて良かったし、楽しかった」等との声が寄せられており、児童それぞれの喜びや成長につながっていることが伝わってくる。

また、スタッフは「子どもをたくさん褒めて、自信をつけさせてあげたい」「長い人生に必要な生きる力を身に付ける場にしたい」という想いのもと、「地域の子は地域で育てる」ことを実践しており、本事業を通して、地域・家族・友達などの人と人との絆を感じることができ、のびのびと遊び、楽しみながら学習できる居場所作りを行っている。

こんな活動です!!

地域力を活用して、子どもたちに豊かな「遊び」「学び」「体験」「交流」の提供

活動名

児玉小学校トワイライトスクール
【名古屋市】

関係する学校

名古屋市立児玉小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	—	—

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	33人	290日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	トワイライトスクールプレイルーム、校庭、体育館		9年度	なし
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績（補助の有無についてはH23年度の状況）

活動の概要

放課後などに学校施設を使って、学年の異なる友達と自由に遊んだり、学んだり、さまざまな体験活動に参加したり、地域の人々と交流したりする活動を通じて、子どもたちの自主性、社会性、創造性を育む目的で実施している。

各学校の運営指導者がコーディネーターとなり、地域協力員や体験活動講師、学生ボランティアなどの地域の方々の積極的な協力を受けながら、日々、子どもたちの豊かな活動を支援している。

特徴

<特徴的な活動内容>

- 地域の特性を生かしながら、地域人材を積極的に活用し、お抹茶、囲碁、サッカー、ゲートボール、手芸、折り紙等、毎月15～16種類の体験活動講座を開催し、毎回多くの児童が受講している。
- 体験活動講座の講師は、学区の女性会、老人クラブ連合会、ゲートボール協会等の諸団体や地域の方々との連携・協力によるもので、地域がさまざまな形で支援しながら充実した活動に取り組んでいる。

<地域の方による多様な体験活動の例>

- ABCで遊ぼう ○キッズイングリッシュ ○絵を描こう ○お話(読み聞かせ)
- 紙芝居と折り紙 ○サッカー・ボール遊び ○ゲートボール ○ペタンク ○手芸
- クロリティー ○マジック ○物作り ○お楽しみ会(季節行事) ○楽しい工作
- どきどきゲーム ○ゲームとクイズ ○囲碁(碁石で楽しもう) ○はじき絵 ○折り紙
- お抹茶 ○環境デーなごや「トワイライト美化活動」

<地域との交流を深める事業>

地域ふれあいサタデー「グランドゴルフ」

<その他の特徴>

- 名古屋市のトワイライトスクールへの申込の割合(全市の平均)が49.8%であるのに対して、本校は58.6%と高く、より多くの子どもたちから支持を受け、事業の充実を図ろうと努めている。
- 体験活動講座の種類が大変豊富である。学区や地域の積極的な協力により、長年に渡って毎月15～16種類の豊富な体験活動講座を継続的に維持することができている。

<組織・手法における特色>

- 学校や地域の意見を反映した運営に向けて、定期的に運営連絡会を開催し、十分な地域との連携が図られている。
- 地域のさまざまな立場の人材が、地域協力員や体験活動講師として積極的に事業に関わり運営されている。



開設当初からの講師による講座「手芸」



体験活動講師による講座「ふれあい囲碁」



老人会のみなさんと楽しく交流

事業を実施して

「地域の子どもは地域で育てる」という意識のもと、学校という安心・安全が確保されている場所で、学年の異なる子どもたちが一緒になって思い切り遊び、学ぶことができる場を提供し、日常的な異学年交流や学習習慣の定着化を図っている。

地域協力員や体験活動講師として地域の方々の協力を得て、日々「遊び」・「学び」・「体験」・「交流」の豊かな活動が実施されており、本事業を通して、子どもたちと地域の大人との交流が深まっている。

こんな活動です!!

地域力を活用し、子どもたちに豊かな「遊び」「学び」「体験」「交流」の提供

活動名

御器所小学校トワイライトスクール
【名古屋市】

関係する学校

名古屋市立御器所小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	29人	288日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
トワイライトスクールプレイルーム、校庭、体育館		11年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

放課後などに学校施設を使って、学年の異なる友達と自由に遊んだり、学んだり、さまざまな体験活動に参加したり、地域の人々と交流したりする活動を通じて、子どもたちの自主性、社会性、創造性を育む目的で実施している。

各学校の運営指導者がコーディネーターとなり、地域協力員や体験活動講師、学生ボランティアなどの地域の方々の積極的な協力を受けながら、日々、子どもたちの豊かな活動を支援している。

特徴

<特徴的な活動内容>

- 子どもの体験活動の充実のために、地域と連携し地域人材を活用して、「おもしろ工作」、「電車を走らせよう」、「ランラン学習(科学遊び)」、「手芸遊び」、「ゲーム遊び」、「陶芸」等、子どもたちに好評な魅力的な体験活動を提供している。
- 日ごろの体験活動講座「陶芸」で子どもの興味・関心を引き出した上で、地域ふれあいサタデーとして「ふれあい親子陶芸教室」を実施するなどの工夫をこらして、地域と連携して企画・運営している。

<地域の方による多様な体験活動の例>

- ランラン学習 ○言葉と遊ぼう(短歌) ○楽しいぬり絵 ○読み聞かせ ○ボール遊び
- ゲーム遊び ○電車を走らせよう ○ザ・マジック ○折り紙・切り紙 ○おもしろ工作
- 陶芸 ○手芸遊び ○絵手紙 ○手話 ○環境デーなごや「リサイクル工作」

<地域との交流を深める事業>

地域ふれあいサタデー「ふれあい親子陶芸教室」「ふれあいわくわくガーデニング」「夏の盆踊り練習会」

<その他の特徴>

- 子どもたちが活動できるプレイルームが、1部屋という限られたスペースの中で、親子、家族、地域の積極的な参加を促す工夫をし、多数の参加者を集めながら楽しい活動を実施している。
- 地域との強い結びつきのもと、地域の教育力を積極的に生かした体験活動を開発している。体験活動の数が月平均18.3回と多く、コーディネーターである運営指導者が、地域の協力者とともに活動方法を工夫して実施している。

<組織・手法における特色>

- 学校や地域の意見を反映した運営に向けて、定期的に運営連絡会を開催し、十分な地域との連携が図られている。
- 地域のさまざまな立場の人材が、地域協力員や体験活動講師として積極的に事業に関わり運営されている。



環境デーなごやの「リサイクル工作」



体験活動講師による講座「陶芸」



女性会・民謡の会のみなさんと楽しく交流

事業を実施して

「地域の子どもは地域で育てる」という意識のもと、学校という安心・安全が確保されている場所で、学年の異なる子どもたちが一緒になって思い切り遊び、学ぶことができる場を提供し、日常的な異学年交流や学習習慣の定着化を図っている。

地域協力員や体験活動講師として地域の方々の協力を得て、日々「遊び」「学び」「体験」「交流」の豊かな活動が実施されており、本事業を通して、子どもたちと地域の大人との交流が深まっている。

こんな活動です!!

「地域の子どもは地域で育む」理念のもと、子どもたちに自学自習の習慣づけを図る。

活動名

西陣中央小学校放課後まなび教室
【京都市】

関係する学校

京都市立西陣中央小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	○	—

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	26人	188日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
空き教室		19年度	あり	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H18.2.14	5人	583人	18学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

放課後における児童の自学自習の学習習慣の定着と安心安全な居場所の充実を図るため、平成19年度に開設した。現在は、学力向上の取組の一環として、宿題や予習復習等をはじめ、子どもたちが個別の学習教材を持参し、自学自習に取り組んでいる。

また、夏休みには、地域のそろばん塾の協力を得て、そろばん講座を開講したり、放課後まなび教室のスタッフが指導する卓球教室を開催したりするなど、特別な活動も実施している。

特徴

<幅広い関係者の参画>

- 「子どもは学校・保護者・地域の三者が共同して育む」との方針の下、学校運営協議会の「確かな学力向上委員会」及び「読書活動委員会」が中心になり、実行委員会を組織し、運営している。スタッフは、地域や保護者、学校運営協議会、元教員、学生など、幅広い関係者が参画し、ボランティアとして活動している。また、スタッフ会議を定期的に開催し、運営上の課題や子どもたちの様子等について、情報の共有を図っている。
- 学校に「放課後まなび教室」担当教員を配置するなど、日頃からスタッフと学校との連携が円滑に行われている。
- 保護者に対しては、子どもの成長を意識してもらうため、年間数回の保護者会を開催し、子どもの成長の様子と課題を共有している。

<特徴的な活動内容>

子どもたちは、「放課後まなび教室」での学習計画表を毎回作成し、自分で立てた計画に沿って学習していく。学習計画表はスタッフと保護者が毎回目を通す。

- 参加者数 年々参加児童が増加し、多い月には500名を超える状況である。
- スタッフ数 学習アドバイザー6名・学習サポーター21名

<実践に当たっての工夫>

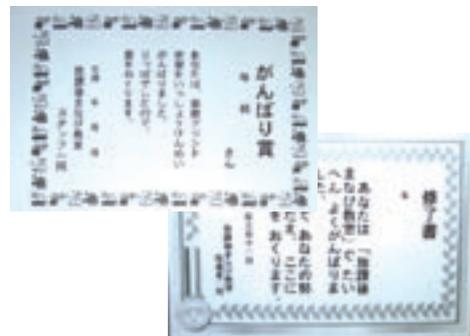
- 新企画 今年度は夏季休業中に、日常的な学習活動以外に、地域のそろばん塾の協力を得たそろばん教室か、卓球の経験者が指導する卓球教室かを選択できるようにした。
- プリント学習などをがんばった子どもに「がんばり賞」、年度の終わりには「修了書」等、子どもたちの学習への取組に対し、スタッフから賞状を贈り、子どもたちのやる気を引き出している。



学習計画表と参加カード



放課後まなび教室の様子



スタッフから贈られる賞状と修了書

事業を実施して

- 基礎的な学力の定着や自学自習の習慣づけが図られてきている。
- 西陣中央小学校は、複数の小学校の統合校であり、「放課後まなび教室」で地域住民や保護者等が子どもたちを支援することで、学校を中心にした地域づくりにつながっている。

こんな活動です!!

なかよくすすんで活動する「いきいき」をめざして!!

活動名

西天満小学校「いきいき」活動【大阪市】

関係する学校

大阪市立西天満小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	—	—

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	39人	293日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
グラウンド、体育館、余裕教室		7年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

活動のねらい

(1)仲間とともに支えあって活動する

参加児童が学年を問わず仲良く友達と活動するよう、支援児童をみんなで支えあって仲間に入れた活動をすすめる。

(2)自分で考えすすんで活動する

自ら見通しを持っていきいきに参加し、自主学習にいそしみ、ものづくりや遊びなど主体的な活動を推進する。

(3)安全に留意して元気に遊ぶ

室内・屋外での活動のきまりを守り、自分の身の安全とともに友達の安全も気をつけて楽しい遊びを工夫する。

→指導員は、日々ミーティングでの意見交換などを通じて、常に注意喚起し、環境整備に配慮している。

特徴

○学校・地域・保護者が一体となった年間行事

・年間を通した「いきいき大会」において、ぬりえ、なわとび、カルタ、地域指導員が準備した「大型百人一首」などの大会を開催し、地域・保護者に公開している。

○創作活動や特別活動

・年間を通して様々な創作活動に取り組み(竹笛づくり、凧づくり、万華鏡工作、どんぐり・松ぼっくり工作、廃品利用の工作など)、「児童いきいき作品展」への出展をはじめ、学校が実施する作品展で作品を展示している。

また、施設見学や、「天神祭」などの地域行事など、校外活動も実施している。

○子どもたちとのミーティング

⇒子どもたちの参加が最も多い時間帯を見計い、子どもたちと話し合う。

・児童の安全管理 ・いじめや仲間外れ ・遊び道具の使い方 ・後始末

・あいさつや言葉づかい ・良い行い、直してほしいこと など様々

⇒子どもたちの意見・経験も取り入れ、繰り返し根気よく実践。「決まり」を守らなかつたり

気付かなかつたりしたこと

を意識付けるとともに、安全な活動、良い友だち関係、望ましい生活習慣づくりに役立っている。

年間行事		
	いきいき大会	創作活動
1学期	ぬりえコンテスト オセロ大会 けん玉大会 チャレンジ大会	光の万華鏡作り 万華鏡作り 箱入形作り
夏休み	手作りおもちゃ作り 校外見学	折り紙工作 いきいき作品展出品作品制作
2学期	ぬりえ大会 将棋大会 こままわし大会 お楽しみ会	笛作り どんぐり工作 マスク作り
3学期	かるた大会 なわとび大会 卒業生を送る会	たこ作り お面作り



伝承あそび(指導員の手作り「百人一首」)

事業を実施して

「いきいき」に継続して参加する児童が非常に多いことなど、何よりも子どもが喜び、進んで参加している「いきいき」となっている。運営する指導員の様々な創意工夫などにより、行事の充実だけでなく、子ども相互の人間関係づくりが良好である。また、学校・地域などの組織との連携がスムーズかつ緊密であり、児童の健全育成に着実に繋がっている。地域の方々も「いきいき」に対して非常に協力的であり、地域に定着している。

こんな活動です!!

輝く笑顔あふれる「いきいき活動」を求めて

活動名

新平野西小学校「いきいき」活動【大阪市】

関係する学校

大阪市立新平野西小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	56人	293日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
グラウンド、体育館、余裕教室		11年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

活動のねらい

- (1)子どもたちが互いに協力し積極的に創造的な遊びができるように努める
- (2)いきいきパートナーとの交流を促進する
- (3)支援を必要とする児童への理解を深め指導の充実を図る

特徴

○学校・保護者・地域と連携した特別プログラムが充実している。

これらのプログラムの実施にあたっては、その「お知らせ」を学校を通じて全保護者に配布したりするなど、学校も積極的に関与している。さらには、PTA組織や、町会をはじめとした地域の方々もその企画・運営に積極的に関わっている。

- ・4月の新入生歓迎会
- ・6月の保護者を交えたミニ運動会
- ・7月の七夕飾り
- ・8月のお店屋さんごっこ
- ・11月の地域の方々とともにゲートボール大会
- ・1月のこま回し、ぬりえ大会
- ・3月の卒業生送別会

○地域の方々の協力を得た特色ある取組み

子どもたちとのふれあいを通じて地域に貢献したいとの思いから、様々な取り組みに対して非常に協力的である。

- ・ゲートボールの指導(地域のゲートボールチームから指導者を派遣)
- ・太極拳の指導
- ・将棋の指導(将棋連盟からの有段者)

年間行事(特別プログラム)	
1学期	新入生歓迎会 ミニ運動会 太極拳 七夕まつり
夏休み	お店屋さんごっこ
2学期	プラ板製作 ゲートボール大会 クリスマス大会 ビンゴゲーム 人形劇
3学期	こま回し大会 ぬりえ大会 卒業お祝い会
その他	将棋教室(毎月月曜開催) ゲートボール(第4土曜日)



地域の方と一緒に太極拳



「将棋教室」の日の様子

事業を実施して

「いきいき」活動の大きな目標である「児童の健全育成」にしっかりと取り組み成果を挙げている。特に地域の人々による積極的・貢献的な活動を通して、学校や「いきいき」に協力体制ができあがっている。また、地域で実施されている「見守り隊」による登下校時の見守りなど、安全管理に対する活動なども含め、「地域全体で子どもを育てていく」という意識がしっかりと根付いてきている。また、地域を交えた様々な活動が定着しており、児童のいきいきとした活動が地域の方々に認識・理解されている。

こんな活動です!!

地域の子どもは地域の宝! 子どもが輝く居場所づくり

活動名

白鷺小学校放課後ルーム【堺市】

関係する学校

堺市立白鷺小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	○	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	13人	287日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	多目的室、図書室、体育館、運動場等		21年度	あり
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

「地域の子どもは地域の宝」を合言葉に、平成21年度より白鷺校区連合自治会が中心となって運営し、今年で3年目を迎える。

放課後や週末等に学校施設を利用し、高学年児童を対象に、学習をはじめ様々な体験・交流活動等の場を提供することにより、児童の学習の習慣づけを図るとともに、意欲や関心を広げることを目的とする。

特徴

<特徴的な活動内容>

宿題などの日々の学習活動に加えて、書道、木工、けん玉や竹馬などの昔遊びを含めた活動、野外炊飯や科学館への校外活動、放課後児童クラブと連携して夏祭りやスポーツ大会を主催するなどのプログラムが充実している。

◎日常活動 ※平日は入室後20分以上学習、その後、自由時間(プログラム)

長期休業中は、午前中2回(45分)学習、昼からプログラム

○自主学習：宿題、ワークブック、読書、書道、作文・読書感想文(夏休み等の宿題で、保護者に好評)等

○室内プログラム：工作、編み物、ワイヤーアート、オカリナづくり、ビーズ、オセロ、将棋、音楽活動等

○スポーツ活動：ドッジボール、バスケットボール、サッカー、バトミントン、おおなわ、エアロビクス、一輪車、卓球等

○昔遊び：けんだま、竹馬等

○野菜作り

○イベント：のびのびルームと合同の夏まつり(保護者も参加して)、のびのびルームスポーツ交流会、クリスマス会等

◎校外活動 長期休業中や土曜日等を利用し年に数回実施(野外炊飯・大阪市立科学館・天王寺動物園等)

<地域の人材を生かした運営体制>

コーディネーターが中心となり、円滑な事業運営ができるよう学校や行政機関と調整を図っている。

また、地域の方や保護者をゲストティーチャーに招いたり、地域にある大学の学生を指導員として登用したりする等、地域の人材を生かした運営に努めている。



野外炊飯



エアロビクス

平成23年度夏休み						
月	火	水	木	金	土	
18	19	20	21	22	23	
校日	フリー	読書会	書道	木工製作	空手の	
25	26	27	28	29	30	
お祭り	読書会	読書会	読書会	読書会	読書会	
1	2	3	4	5	6	
エアロビクス	読書会	読書会	読書会	読書会	読書会	
8	9	10	11	12	13	
読書会	読書会	読書会	読書会	読書会	読書会	
15	16	17	18	19	20	
読書会	読書会	読書会	読書会	読書会	読書会	
22	23	24	25	26	27	
読書会	読書会	読書会	読書会	読書会	読書会	
29	30	31				
読書会	読書会	読書会				

事業を実施して

- **子どもの声** いろいろなことができ楽しいプログラムがある。友達が増えた。
- **保護者の声** 自分から進んで学習するようになった。子どもの良いところを見つけて褒めてくれるのがありがたい。
- **学校の声** 指導員の皆さまが、「地域の子どもを育てる温かい心」をもち、児童一人ひとりの特性を理解して、関わっていただいています。学習のみならず、様々な体験プログラムを通して、子どもたちの生き生きとした姿が見られます。
- **運営委員会の声** 指導員は子どもたちの五感を大切に、その長所を最大限引き出すべく、きめ細やかに一人ひとりと向き合うことを常に心がけています。

こんな活動です!!

学習習慣の定着と学力向上の手助けをする

活動名

五明っ子クラブ【松山市】

関係する学校

松山市立五明小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
—	○	—	—

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	22人	303日	あり
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
五明小学校別館和室、校庭、体育館など		20年度	なし	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	—	—人	—人	—学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

開設のきっかけは、学校からの要望により、子どもたちの放課後の安全・安心な居場所として「放課後子ども教室」を開設する運びとなった。活動の目的は、学習習慣の定着で、特に算数・国語を中心に学習する。算数は、プリント、問題集などを使って基礎基本の定着と、考える力の育成を目指している。国語は、漢字・もじのけいこ、読書、詩の暗唱などを行っていて、様々な作品に触れさせることで、豊かに読み取る力を育成することを目指している。また、「はばたきタイム」として様々な専門分野の講師を招いて、水泳・造形・英語・自然の体験学習を行う。

特徴

<特徴的な活動内容>

- **学習習慣の定着**・・・低学年から継続的に学習活動を行うことで学習習慣をつける。
- **学力の向上**・・・様々な問題に挑戦することで、基礎学力の定着を図るとともに、漢字検定など多数が参加する機会をつくって向上心や経験値を養う。
- **本物を学ぶ**・・・専門家の指導による体験活動で本物に触れる。

<実践に当たっての工夫>

- **継続性・定着度**・・・年間を通じて、月～土及び長期休業中に実施し、日常的に活動が実施されている。
- **参画者の充実**・・・学習スタッフとして、教育学部の大学生が参画している。
- **学校との連携**・・・学校側と密に連絡を取り合い、円滑な連携・協力関係を図っている。



学習の様子



学校参観デー



漢字検定全員合格



ダンボールハウス作り

【はばたきタイム活動表】

花のアレンジプレゼント(5月)	習字(8月)	オオムラサキの幼虫をさがそう(2月)
おんぷのマーチ(7月)	トールペイント(8月)	漢字検定(2月)
きろくを伸ばそう ※水泳(7月)	ダンボールでピザ作り(8月)	サックスを聞こう(3月)
Tシャツアート(7月)	五明川の水生生物調べ(9月)	卒業おめでとうケーキ(3月)
ダンボールハウス(8月)	エリエール美術館で絵の鑑賞(9月)	楽しい英語(毎週土曜日)
ポスター(8月)	紙でとんぼや飛行機を作ろう(10月)	

事業を実施して

- 中山間地域に位置する少人数の学校であるため、放課後の学習や体験の場があることは、子どもの居場所づくりに最適の場となっている。
- 学校との連携を密にすることで、子どもの日々の様子や実態にあわせた対応が可能となり、個に応じた指導を行うことができる。
- 五明っ子の活動を地域に知らせることで、地域の理解と協力が得られている。

(松山市立五明小学校より)

こんな活動です!!

学校づくりは地域づくり 自主参画型で学校と地域の協働関係を深める

活動名

南が丘地域教育委員会【三重県津市】

関係する学校

津市立南が丘小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティ・スクール	その他
-	-	○	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H17.12.26	14人	876人	30学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

特徴

学校運営に地域住民が参画することで人と人、地域と学校との出会いが生まれ、相互が協力し合う中で連帯感が育まれてくる。このことは、「学校を核とした地域づくり」と、よりよい子どもたちの成長へとつながっていく。即ち、南が丘地域教育委員会は、学校に対する権限よりも、学校との信頼関係を大切にしている。学校と「緊張感のある協働」の関係を保持しながら、年度末に学校への提言を行うとともに、地域住民を講師に招いての「夏休み子ども教室」の開催、日ごろの学習を支援する学習支援ボランティアの組織化をはかり、子どもたちに「地域を思う心」を育み、地域の連帯を深める南が丘「ふれあいまつり」を開催してきた。

特徴



事業を実施して

平成14年度～平成16年度の3年間、文部科学省より「新しいタイプの学校運営の在り方に関する実践研究」の指定を受けて以来、本年で節目の10年を迎えた。指定を受けた当初は、「地縁が薄い新興住宅団地ではコミュニティ・スクールは成功しないのではないか。」と危惧する面もあったが、学校を支援する組織体制が確立されるとともに多くの地域の方の協力が得られ地域住民のつながりもできてきた。

今後、学校運営協議会の委員が代わっても、これらの取組が継続されるよう、活動自体をより学校・地域にとって魅力あるものとして保護者の参加機会を増やししながら、その参画意識を一層高めていく必要がある。

こんな活動です!!

地域のブレインが県立高校をバックアップ! (大方高等学校学校運営協議会)

活動名

大方高等学校 学校運営協議会
【高知県黒潮町】

関係する学校

高知県立大方高等学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	-	○	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H18.7.5	11人	167人	7学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

大方高等学校は平成17年4月に、通信制の課程を併置した多部制単位制普通科高校として、前身の大方商業高等学校の施設・設備を引き継ぐ形で開校している。伝統ある大方商業高等学校を多部制(定時制)高校に改編するにあたり、多くの諸問題をクリアする必要があり、地域のブレインに力を借り、平成15年度には学校運営協議会の前身となる組織を立ち上げ、地域の理解を得て開校することができた。それ以降、学校の経営方針、取組、学校評価等について協議し、学校の活性化に貢献してきている。

特徴

学校運営協議会の活動の中からヒントを得て生まれたものが、高知大学、地元の黒潮町との連携による取組である。

1年次は、高知大学との連携によりコミュニケーション能力の育成に重点をおいたプログラムを実施し、生徒たちの仲間づくりや人間関係力を育む機会となっている。

1年次生たちに一定の準備ができた後、2年次に地域の協力を得て、自律創造型地域課題解決学習を実施している。これは地域からのミッション(黒潮町を活性化するための方策)を解決するためのアイデアを高校生が提案するもので、そのために、地域で調査やインタビューを行い、最後にまとめたものを校内発表会でプレゼンテーションするというものである。学校と地域をつなぐコーディネーター役を地元の学校運営協議会委員が担ってくれていることで、生徒たちはミッションに向けて多様な経験ができており、校内発表会には、ミッションに関わった地域の方々等も参加している。この取組の中から、高知県地場産大賞次世代賞を受賞した「かつおタタキバーガー」や商品化された「黒塩」などが生まれている。

そして3年次には進路に関わるコース別プログラムを高知大と連携し実施し進学・就職指導に役立っている。



学校運営協議会会議風景



校内発表会 プレゼンテーション風景



かつおタタキバーガー NHK番組に出演

事業を実施して

開校以前から約9年にわたり、黒潮町の企業主や行政関係者、教育関係者、高知大学関係者および保護者代表が学校にかかわってくれ、教職員・生徒に力強い支援体制が生まれ落ち着いた環境で教育活動ができるようになった。

特に、生徒たちは教職員以外の地域の大人との交流により、大きく成長していく様子が顕著に見られ、この活動の成果となっている。

こんな活動です!!

未来に輝く小中一貫コミュニティ・スクール

活動名

OGT小中一貫コミュニティ・スクール(御所南コミュニティ、スマイル21プラン委員会、けやきプロジェクト)【京都市】

関係する学校

京都市立御所南小学校、高倉小学校、京都御池中学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	-	○	-

基本データ

コミュニティ・スクール	御所南小学校	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
		H16.11.26	14人	1,174人	33学級
	高倉小学校	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
		H16.11.26	13人	571人	18学級
	京都御池中学校	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
		H16.11.26	7人	661人	20学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

御所南小学校、高倉小学校、京都御池中学校では、平成16年度に「学校運営協議会」が指定され、「未来に輝く小中一貫コミュニティ・スクールの創造」として、3校の学校運営協議会を基盤とした取組を進めている。

以来、3校それぞれの取組はもちろん、OGT小中一貫コミュニティ・スクールでの共同の取組として、3校合同で実施する小中一貫コミュニティ・スクール研究発表会への支援をはじめ、「敬老プレゼント作り」、「御苑宝探ツアー」や「のれんスタンプリング」など中学校区を対象とした取組も精力的に行われており、3校のきずなを深め、小中一貫教育を進める大きな基盤となっている。

さらに、平成23年2月には、文部科学省が呼びかけられている「リアル熟議(現場対話)」の一環として、3校の児童・生徒を対象とした「こども熟議」を開催するなど、その取組の充実に努めている。

特徴

- OGT小中一貫コミュニティ・スクール(「御所南コミュニティ(御所南小)」・「スマイル21プラン委員会(高倉小)」・「けやきプロジェクト(京都御池中)」)においては、平成16年度の学校運営協議会制度が創設される以前に、「新しいタイプの学校運営に関する実践研究」の指定(御所南小学校は平成14年度文部科学省指定、高倉小学校は平成14年度京都市独自の指定、京都御池中学校は平成15年度京都市独自の指定)を受けて以来、その後の京都市での学校運営協議会の普及にあたり、そのモデルとなる方式を構築するとともに、活動のさらなる充実に努めている。
- 3校それぞれの学校運営協議会の取組とは別に、OGT小中一貫教育推進委員会を設置し、その下に、学力向上委員会、読解力育成委員会、小中交流委員会の3つの委員会を置いて、小中学校間の連続性を高めるカリキュラムの構築、小中学校間での人事交流などを通じて「学び」と「育ち」を一層充実させる小中一貫教育を推進している。
- 3校による小中一貫教育については、中学校の校舎で2小学校の6年生が学ぶ(5・4制)という京都市唯一の特色であり、こうした取組と密接に関わってきた本活動は、本市で目指している小中一貫教育(中学校区)の視点を踏まえた取組として継続的に行われている。
- 小学校の教員間で合同学年会を実施する小い連携や、3校のPTAが集まって学習したいことを自ら企画する合同の家庭教育学級や親睦行事等を計画的・継続的に開催するなど、学校運営協議会以外の場でも学校間での連携の場が広がってきている。



学校運営協議会の様子



土曜学習部会の様子



こども熟議の様子

事業を実施して

地域に根ざした将来のよき町衆(市民)を育てるといった共通の目標に向けた取組をOGT小中一貫教育推進委員会で推進することで、「自ら学び、自ら考え、学んだことを実社会や実生活に生かす力」の育成をねらいとした、小学校と中学校の義務教育9年間を見通す小中一貫カリキュラムの編成や指導方法の工夫・改善に地域とともに取り組むことができている。

こんな活動です!!

学校支援ボランティアと運営協議会で新しい学校づくり!

活動名

岐阜小学校運営協議会【岐阜市】

関係する学校

岐阜市立岐阜小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティ・スクール	その他
—	—	○	—

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	—人	—人	—年度	—
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	—人	—人	—日	—
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	—		—年度	—
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	H20.4.1	20人	361人	15学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

「地域に開かれ、地域に支えられるよりよい学校づくり」をめざし、保護者・地域・学校が連携して、様々な活動を行っている。地域で育つ子どもたちの将来を見据え、学校や地域のあるべき姿を戦略的に捉え、新しい方向性を示す『学校運営協議会』と、その方向性を実現させるための実働部として、学校支援ボランティアの活動を、企画・調整していく『学校支援推進委員会及び3つの専門部会(学び部、安全・安心部、地域行事部)』で活動を支えている。

学校統合によって新しく生まれた本校の教育は、この仕組みで充実が図られている。



家庭科・ミシンの授業



名産の鮎菓子作り



ふれあいフェスタにて

特徴

<特徴的な活動内容>「学び部」の活動を中心として

● サポーターのタイプを分けて行う「連携授業」

地域の方や保護者、大学生との連携授業が行われている。専門的な知識や技術をもっている方(GT)、教師の指導のサポートをする方(A)、子どもたちの学習を見守る方(AU)と、3つのタイプに分け、授業支援を行う。授業の内容や展開、子どもたちの実態に応じて、いずれかのタイプのサポーターと連携授業を行う。

GTタイプ… 国語(詩)、社会(昔のくらし)、家庭科(調理)、岐阜小コミュニティスクール構想 道徳(町の宝物)

Aタイプ… 算数(かけ算)、家庭科(裁縫)、クラブ活動(将棋)、体育(跳び箱)

AUタイプ… 音楽(合唱を聴く)、総合(発表会)、学級活動(集会) など

その他にも、朝の活動(授業以外)の時間に、各クラスにサポーターが入り、本の読み聞かせを行っている。

● 興味・関心を広げる「放課後クラブ」や「サマースクール」

子どもたちの下校後や長期休業中の活動を支えていく活動を行っている。「放課後クラブ」では、月に数回、公民館を会場として、お抹茶の体験や粘土で小物作りなどの活動を行っている。「サマースクール」では、夏休みの学校を会場として、お料理体験、飛行機作り、お菓子作り、そば打ち体験、などの活動を行っている。

<その他の特徴>

● 安全・安心部は下校ボランティアや通学路の安全対策等の活動を行っている。

● 地域行事部は「ふれあいフェスタ」実施の中核となり、二つの旧小学校区の人々が力を合わせて、地域ふれあい行事を企画運営する。第一部は連携協働型の授業の参観(学び部が支援) 第二部は、児童・保護者・地域の方で構成した即席家族が地域発見のウォークラリーを行い、ふれあいを深める。2つの地域の様々な団体と学校、保護者が連携・協働し半年に及ぶ綿密な準備を経て1000人規模のイベントを実施する。子どもの豊かな育ちとともに、二つの地域の融和にも寄与している。

<実践にあたっての工夫>

・学校支援サポーターの人材バンクへの登録

・学校運営委員会によるコーディネーター制の導入

・月に一度、学校運営協議会を開き、支援推進委員会(学び部、安全・安心部、地域行事部)からの提案を承認したり、学校評価などを基に学校や地域の在り方についての討議

・3つの専門部会及び支援推進委員会は、いずれも地域の住民、保護者、教師(学校)で構成されている。

事業を実施して

- ・三者が連携して、子どもたちを育てていく活動は、地域や保護者の願いや想いを学校運営に反映させていくよい機会となっている。
- ・学校・家庭・地域が共に高まり合う気運や風土の醸成が行われ、それぞれの果たす役割の再認識が高まりつつある。
- ・活動を重ねる毎に、新たなコミュニケーションの場や機会が増え、地域に愛着をもつ子どもが育ちつつある。
- ・地域の方の生きがいややりがいを生む活動につながっている。
- ・一つ一つの活動を専門部が互いに関わりを持つことで、有機的なつながりを深めた活動へと発展させていきたい。

こんな活動です!!

地域住民による 学校教育活動支援体制の確立

活動名

むつ市立川内小学校【青森県むつ市】

関係する学校

むつ市立川内小学校

活動の区分			
学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
-	-	-	○

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	-人	-人	-年度	-
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	-人	-人	-日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		-年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	-人	-人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- ・教育ボランティア
コース別学習時の丸つけボランティア(算数、国語)、クラブ活動支援ボランティア、読み聞かせボランティア
各種体験教室ボランティア(絵画教室、俳句・川柳教室、習字教室、陶芸教室、手話教室、リズム体操教室)
- ・安全ボランティア
登下校時の見守り安全パトロールボランティア、校外学習時の引率・付き添いボランティア等
- ・環境ボランティア
学校の樹木の剪定・雪囲いボランティア、学校畑の作業・収穫支援ボランティア等

特徴

〈特徴的な活動内容〉

- ・平成12年度より、地区公民館を拠点として陶芸、俳句、川柳、読み聞かせ、絵画、手話等の活動をしていたサークル団体であるせきれい会を学校教育活動に取り入れ、それを母体として、PTA活動とは切り離れた地域住民による学校教育活動への支援ボランティアの形態を確立した。
- ・せきれい会はPTAではなく地域住民であり、あくまでも自主的活動として守秘義務の厳守など基本理念をしっかりと持っているため、信頼し合って事業を進めている。
- ・平成20年度より、3年間、「学校支援地域本部事業」に取り組んでから、学校支援ボランティアコーディネーターを中心とした支援事業の充実が図られ現在に至る。
- ・平成23年度より併設型小中一貫教育校として新設され、義務教育9年間を見通したボランティア活動の推進を目指している。

〈実践に当たっての工夫〉

- ・校内のボランティアルームにいつでも気軽に教師が行って相談できるような環境をつくることにより、直接コーディネーター等と相談ができる。このようなボランティアルームの設置は県内では先駆的である。
- ・地区公民館、SA(School Assistant)せきれい会、地域住民等と連携している。

〈その他の特徴〉

- ・平成21年度にボランティア活動先進校として、県の教育委員訪問が行われ、第一川内小学校で実施しているボランティアやコーディネーターの活動に対し、高い評価をいただいた。
- ・活動の先進校として、県及び管内の研修会において数多くの具体的な事例発表をし、啓発活動に大きな貢献をした。



漢字ドリルまる付け



ボランティアルーム



コーディネーター勤務日予定表



ボランティアルームだより

事業を実施して

- ・ボランティアルームを設け、コーディネーターを中心にボランティアの方々が気軽に学校に入り、教育活動を身近にとらえながら共に活動できる「開かれた学校」が確立されている。
- ・ボランティアルームがあることなどにより地域の方が学校に行きやすくなった。
- ・学校にボランティアが入ることによって教職員の意識が変化している。
- ・コース別学習等へボランティアが支援に入ることにより学力が向上した。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について

※図中の数値は、H23.4.1現在

●コミュニティ・スクールとは

・コミュニティ・スクールに指定された学校には「学校運営協議会」が設置され、教育委員会から任命された保護者や地域住民などが、一定の権限と責任をもって、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりします。

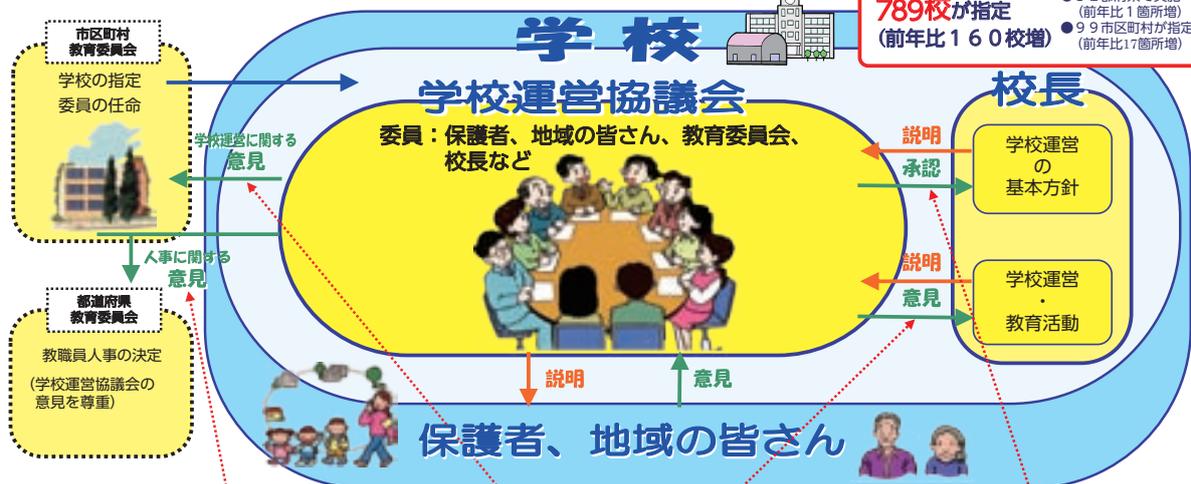
これを通じて

地域とともにある
学校の実現

※「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により導入。平成16年9月9日より施行。

H23.4.1現在
789校が指定
(前年比160校増)

●32都府県で実施
(前年比1箇所増)
●99市区町村が指定
(前年比17箇所増)



学校運営協議会の主な役割

●教職員の任用に関して教育委員会に意見が述べられます。

・「若手の先生、体育が得意な先生が必要」、「A校長やB先生に次年度も残って欲しい」などの意見

●学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べられます。

・「挨拶の指導に力を入れて欲しい」、「地域に協力を求めて欲しい」、「学校にエアコンを入れて欲しい」、「学校予算を増やして欲しい」などの意見

●校長の作成する学校運営の基本方針を承認します。

・校長と共に、保護者や地域住民等が責任をもって学校運営に参画すること、校長が作成する学校運営の基本方針に保護者や地域住民等の意向を反映させるために行うもの。

コミュニティ・スクールの成果や課題と文部科学省の取組

- 全国のコミュニティ・スクールでは、学校が抱える様々な課題を解決するために、この制度を活用して、地域と連携した学校づくりに積極的に取り組んでいます。
- 文部科学省では、コミュニティ・スクールの取組の促進に向けて、制度の普及啓発や制度運用の方策等の研究・開発、指定校の実践についての情報発信などの施策を推進しています。

成果例

- 地域全体で子どもを守り育てようとする意識が高まり、多くの保護者や地域住民が先生役や見守り役として学校に協力。
- 保護者の「学校への苦情」が「意見や提案、相談、協力」へと変化。
- 学校の課題に対して、自治会等による主体的な支援が拡大。
- 地域のお祭りづくりなどに参加する子どもが増え、地域が活性化。

課題例

- 協議会の協議が形式的なものにとどまり、委員の意見が十分反映されていない。
- 地域住民の参画に偏りがある。
- 継続的な取組を進めるための人材や経費がたりない。

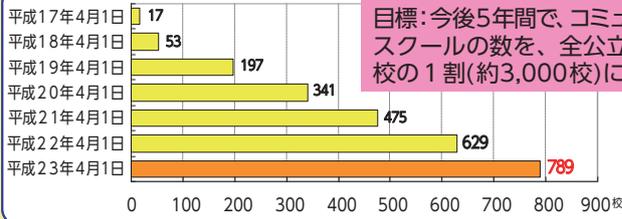
- コミュニティ・スクールを設置する教育長等からなる「全国コミュニティ・スクール連絡協議会」とも連携し、コミュニティ・スクールの意義や好事例の普及を図る。
- コミュニティ・スクールの推進方策の検討を具体的に進める。

文部科学省の取組 <平成23年度>

- 制度等普及説明会 <全国28地域(予定)>
 - ・コミュニティ・スクールがない地域の保護者、地域住民、学校関係者等を対象とした個別説明会を実施します。
- コミュニティ・スクールの推進への取組に係る委託事業 <全国68地域212校>
 - ・これからコミュニティ・スクールを導入しようとする各学校の実情に応じた制度運用の方策等を教育委員会に委託して研究・開発を行います。
- 地域とともにある学校づくり推進協議会 <全国6会場>
 - ・専門家によるパネルディスカッションや実践発表等を通じて、コミュニティ・スクールの理解啓発を図ります。
- 学校運営協議会委員対象の研究協議会 <全国1会場>
 - ・全国の学校運営協議会委員、教育委員会関係者を対象とした研究協議会を開催し、学校運営協議会の充実した運営に向けた取組を推進します。
- ◆平成23年度予算額：学校運営支援事業等の推進 約2億円の内数

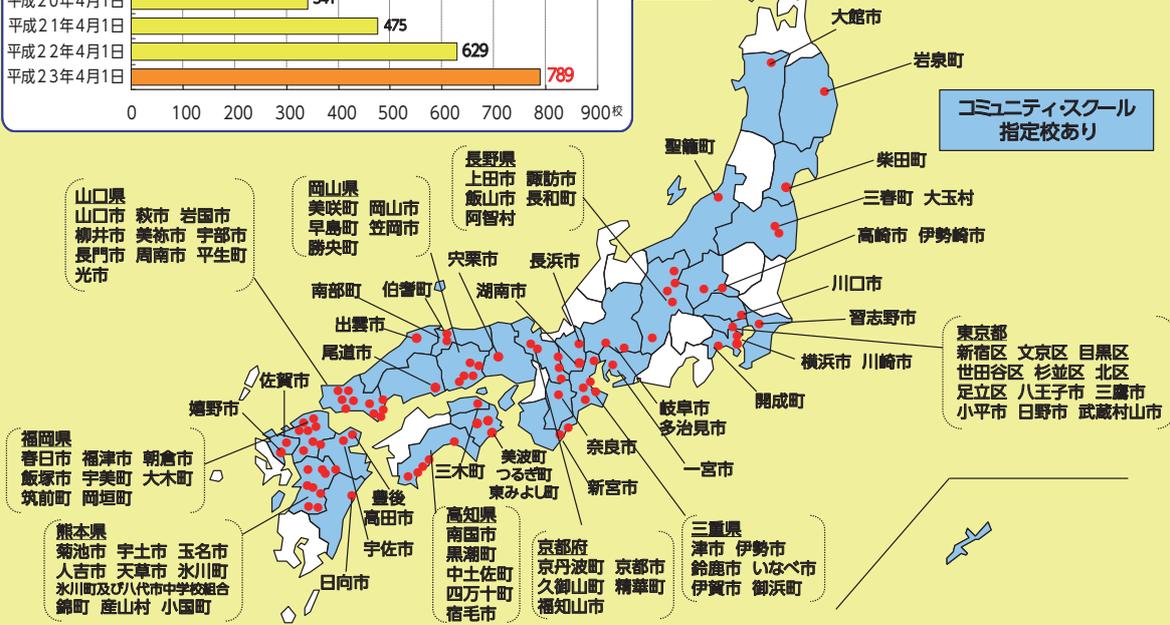
平成23年度 コミュニティ・スクールの指定状況

○コミュニティスクール 32都府県 789校が指定
(幼稚園42、小学校539、中学校199、高等学校4、特別支援学校5)



目標:今後5年間で、コミュニティ・スクールの数を、全公立小中学校の1割(約3,000校)に拡大

全国のコミュニティスクールを設置する区市町村の教育長が集まり「コミュニティスクール全国連絡協議会」発足(会長:貝ノ瀬三鷹市教育長)



コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) 24年度事業予算案



コミュニティスクールの課題

【運営の在り方等の課題】

- 協議の形骸化の解消
- 地域住民等の参画不足の解消
- 教員、地域住民等の負担感の解消
- 地域をつなぐ学校のマネジメント力の強化
- 小中学校間の連携・接続の強化等

【導入状況の偏り】

- 全国の指定校は32都府県789校にとどまっており、導入状況に地域的な偏りが見られる。



平成24年度予算(案)

○[学校運営支援等の推進事業]事業費149,898千円の内数
○教職員加配分については、[義務教育費国庫負担金]の内数

コミュニティスクールの充実 改善に関する実践研究事業 <新規>

①コミュニティスクールでの熟議と協働の充実に関する研究<7地域>

- コミュニティスクールに見られる課題を解決し、実効性を高めるための具体的な方策を研究。
- 1地域100万円程度の調査研究費(研究期間:2年間)

【研究内容】

⇒学校運営協議会の協議の実質化や地域住民等の幅広い参画促進など、熟議と協働の充実を図るための具体的な方策の開発など。

②コミュニティスクールのマネジメント力の強化に関する研究<100校>

- コミュニティスクールにおける地域とともにある学校づくりに必要なマネジメントの在り方等の研究。
- 学校事務職員の加配措置+1校10万円程度の調査研究費(研究期間:2年間)

【研究内容】

⇒学校運営協議会の協議の実質化や地域住民等の幅広い参画促進など、学校支援地域本部事業等との連携を強化し熟議と協働の充実を図るための具体的な方策の開発など。

コミュニティスクールの導入促進に関する調査研究事業 <継続>

○コミュニティスクール導入の在り方に係る研究<142校>

- これからコミュニティスクールを導入しようとする各学校の実情に応じた制度運用の方策を研究。
- 1校30万円程度の調査研究費。(研究期間:2年間)

【研究内容】

⇒学校運営協議会の組織・運営体制づくりに向けた具体的な検討や学校運営協議会と学校、保護者等の役割分担の在り方の検討など。

成果の普及 啓発等

○コミュニティスクール推進プラン

- ①推進協議会の開催
 - ・研究成果を基にした協議の実施
- ②制度普及説明会の実施
 - ・制度活用の好事例や制度の意義等を普及啓発
- ③学校運営協議会委員研究協議会
 - ・学校運営協議会委員による協議を通じて研究成果を普及。
- ④情報発信
 - ・HP、事例集、パンフレット等による発信。

地域とともにある学校づくりの促進

今後5年間でコミュニティ・スクールの全公立小中学校の1割(約3,000校)に拡大する目標の達成

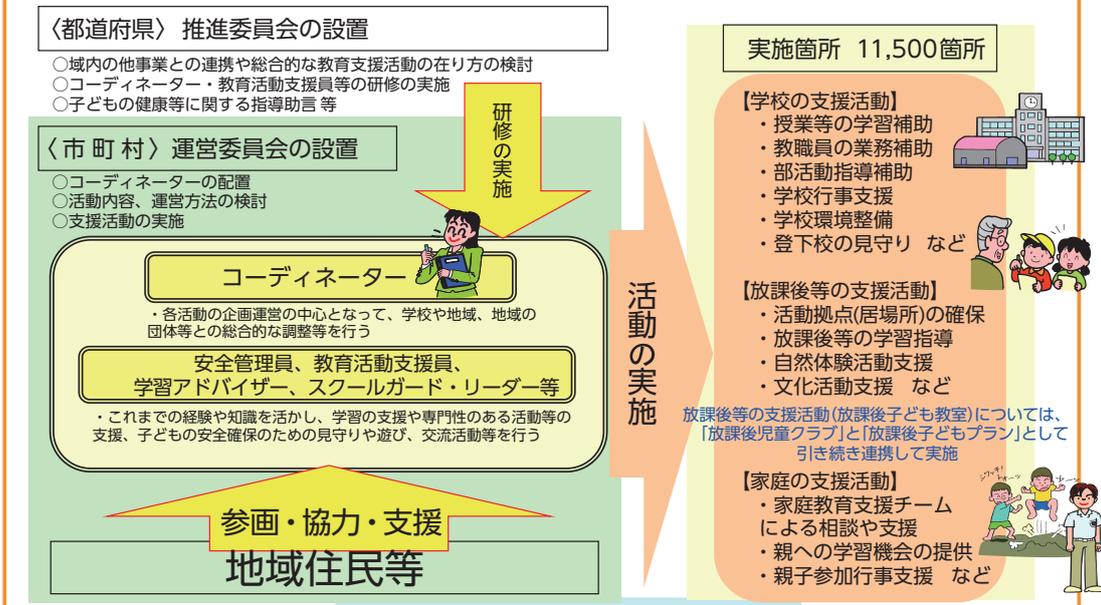


学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業について(学校支援地域

学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業について

24年度予定額8,516百万円の内数(前年度予算額 9,450百万円の内数) 【補助率】
 地域住民等の参画による「学校支援地域本部」「放課後子ども教室」「家庭教育支援」「地域ぐるみの学校安全体制の整備」「スクールヘルスリーダー派遣」などの教育支援活動を引き続き支援するとともに、各地域の実情に応じたそれぞれの取組を有機的に組み合わせることを可能とし、より充実した教育支援活動を支援する。
 国 1/3
 都道府県 1/3
 市町村 1/3

都道府県・市町村の委員会の一本化や合同研修の実施など、各地域の実情に応じた教育支援活動を有機的に組み合わせて実施が可能



地域社会全体で様々な教育支援活動を実施し、地域の教育力の向上を図る

「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」※1 実施状況
 (学校支援地域本部、放課後子ども教室、家庭教育支援)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
国庫補助額 (委託費)※2	2,359百万円 -	3,774百万円 (2,404百万円)	4,411百万円 (2,166百万円)	4,631百万円 (2,358百万円)	5,166百万円 -
学校支援地域本部 設置数 (実施小・中学校数)	-	2,176本部 (6,494校) 小学校:4,527校 中学校:1,967校	2,405本部 (7,735校) 小学校:5,381校 中学校:2,354校	2,540本部 (8,557校) 小学校:5,903校 中学校:2,654校	2,659本部 (7,097校) 小学校:5,047校 中学校:2,050校
放課後子ども教室 実施数	6,201 教室	7,736 教室	8,610 教室	9,197 教室	9,733 教室
家庭教育支援 実施数	-	332 市町村	194 市町村	108 市町村	315 市町村
実施市町村数	放課後 851市町村	本部 867市町村 放課後 1,011市町村 家庭 332市町村	本部 1,004市町村 放課後 1,053市町村 家庭 194市町村	本部 1,005市町村 放課後 1,060市町村 家庭 108市町村	本部 570市町村 放課後 1,075市町村 家庭 315市町村

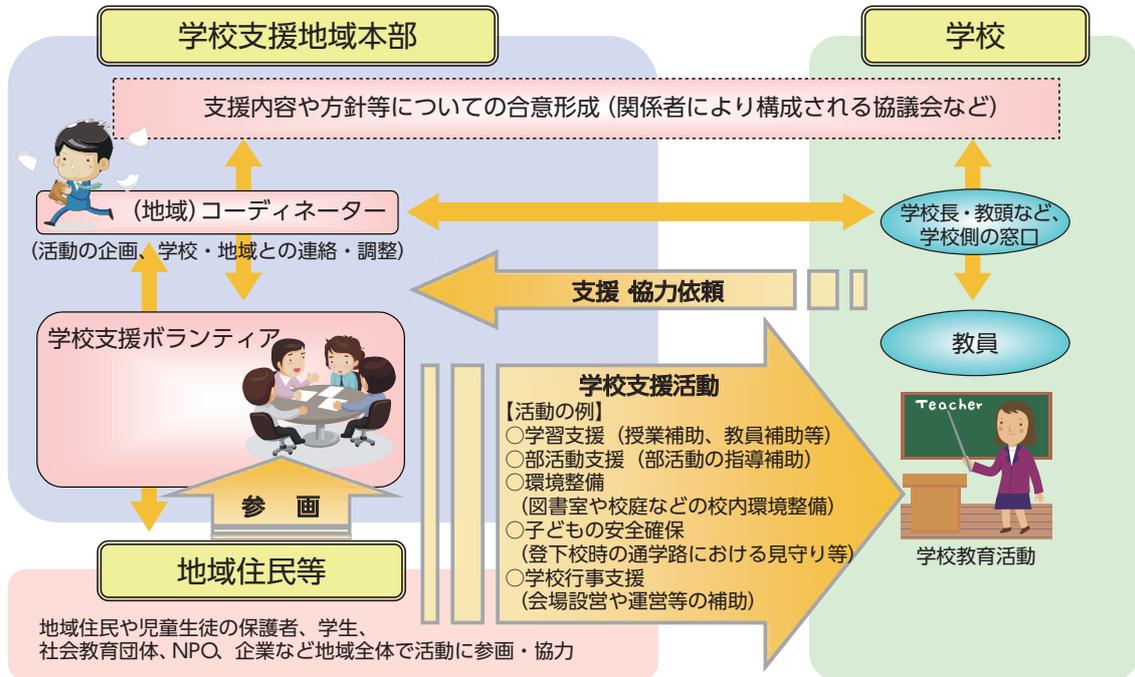
※1 平成23年度より、学校支援地域本部、放課後子ども教室、家庭教育支援等を総合的に推進する統合メニュー化(22年度以前は個別メニューで実施)
 ※2 学校支援地域本部については、平成20~22年度、家庭教育支援については、平成20~21年度は委託事業として実施(21年度以降は補助事業も併せて実施)

本部、放課後子ども教室)

学校支援地域本部

(学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業の中で実施)

地域住民等の参画により、学校の教育活動を支援する仕組み(本部)をつくり、様々な学校支援活動を実施



地域で学校を支援する仕組みづくりを促進し、子どもたちの学びを支援するだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力の向上を図る

平成23年度学校支援地域本部設置状況

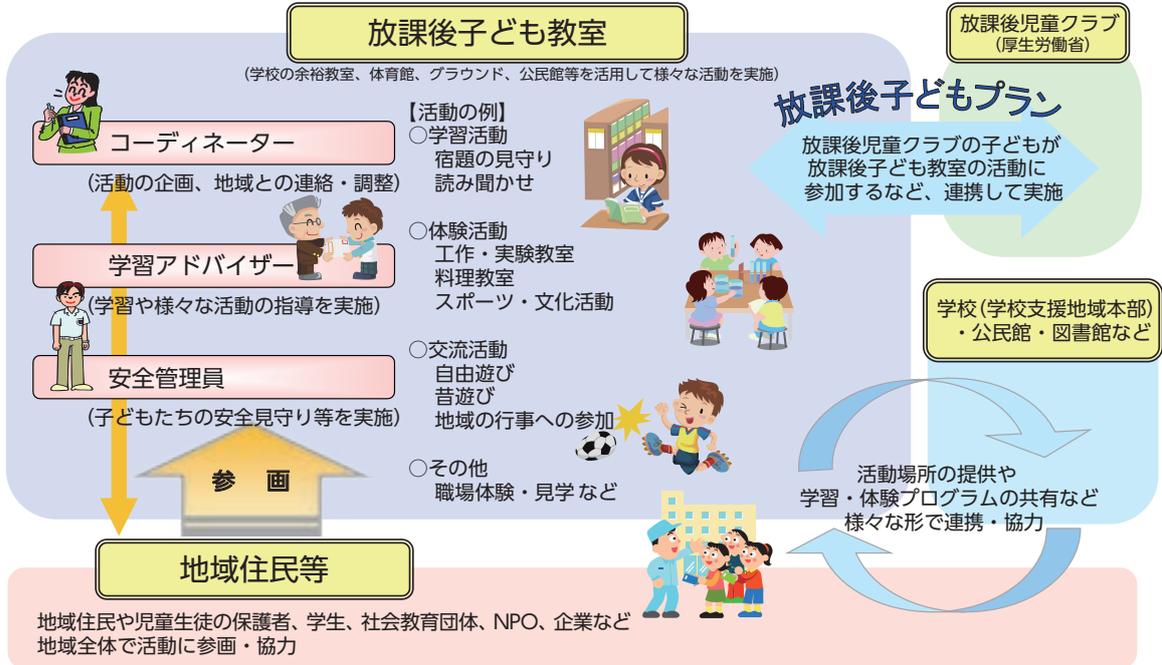
都道府県	市町村数	本部数	都道府県	市町村数	本部数
北海道	80	129	福井県	0	0
青森県	15	79	山梨県	0	0
岩手県	16	42	長野県	0	0
宮城県	0	0	岐阜県	0	0
秋田県	16	48	静岡県	17	19
山形県	19	45	愛知県	6	6
福島県	13	18	三重県	5	52
茨城県	0	0	滋賀県	10	33
栃木県	7	106	京都府	13	17
群馬県	2	3	大阪府	27	169
埼玉県	25	25	兵庫県	27	86
千葉県	11	62	奈良県	26	149
東京都	22	353	和歌山県	17	24
神奈川県	1	1	鳥取県	6	6
新潟県	16	64	島根県	16	72
富山県	0	0	岡山県	20	39
石川県	9	28	広島県	0	0

都道府県	市町村数	本部数	都道府県	市町村数	本部数
山口県	11	34	千葉市	0	0
徳島県	5	13	横浜市	1	288
香川県	10	10	川崎市	1	7
愛媛県	5	10	相模原市	0	0
高知県	17	21	新潟市	1	139
福岡県	0	0	静岡市	1	3
佐賀県	0	0	浜松市	0	0
長崎県	0	0	名古屋市	1	1
熊本県	21	26	京都市	0	0
大分県	11	57	大阪市	1	76
宮崎県	15	33	堺市	0	0
鹿児島県	1	28	神戸市	1	33
沖縄県	20	55	岡山市	1	7
札幌市	0	0	広島市	0	0
仙台市	1	33	北九州市	1	13
さいたま市	1	94	福岡市	1	3

合計 570 市町村 2,659 本部

放課後子ども教室 (学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業の中で実施)

地域住民等の参画により、放課後や週末等に、子どもたちに学習や様々な体験・交流活動の機会を提供



子どもたちの安心安全な活動拠点を確保し、様々な学びを支援するだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力の向上を図る

平成23年度放課後子ども教室実施状況

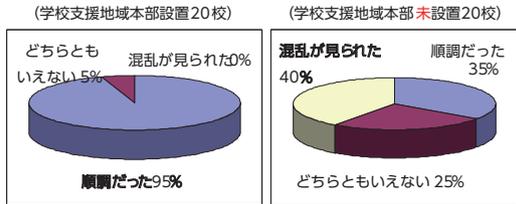
都道府県	市町村数	教室数	都道府県	市町村数	教室数	都道府県	市町村数	教室数	都道府県	市町村数	教室数
北海道	54	118	福井県	16	144	山口県	19	165	千葉県	1	117
青森県	26	103	山梨県	13	42	徳島県	14	52	横浜市	1	356
岩手県	24	126	長野県	35	120	香川県	14	70	川崎市	1	172
宮城県	14	50	岐阜県	16	138	愛媛県	14	70	相模原市	1	6
秋田県	19	146	静岡県	20	116	高知県	33	174	新潟市	1	51
山形県	32	123	愛知県	36	323	福岡県	13	61	静岡市	1	9
福島県	40	139	三重県	23	63	佐賀県	19	104	浜松市	0	0
茨城県	30	209	滋賀県	9	54	長崎県	20	222	名古屋市	1	276
栃木県	10	74	京都府	19	77	熊本県	32	195	京都市	1	173
群馬県	19	95	大阪府	39	486	大分県	18	208	大阪市	1	298
埼玉県	40	294	兵庫県	38	239	宮崎県	15	95	堺市	1	64
千葉県	27	186	奈良県	17	83	鹿児島県	10	55	神戸市	1	135
東京都	51	1,026	和歌山県	16	88	沖縄県	21	219	岡山市	1	40
神奈川県	19	75	鳥取県	11	43	札幌市	1	174	広島市	0	0
新潟県	17	73	島根県	19	166	仙台市	1	124	北九州市	1	257
富山県	15	197	岡山県	23	132	さいたま市	1	70	福岡市	1	140
石川県	10	64	広島県	19	169						

合計 1,075市町村 9,733教室

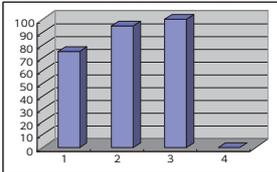
学校支援地域本部等の震災時の様子

〈宮城県内の小中学校の校長 40名への聞き取り等調査結果〉

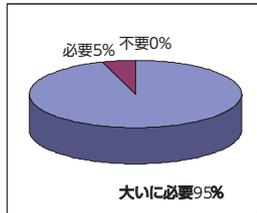
Q 避難所において自治組織が立ち上がる過程は順調だったか。(校長)



Q 学校支援地域本部のコーディネーターは震災避難時、避難所運営、学校復旧でどんな役割を果たしたか。(学校支援地域本部設置20校の校長 複数回答可)



Q 学校支援地域本部等のシステムは今後の学校運営に必要なか。(学校支援地域本部設置20校)



〈校長、地域連携担当教員のコメントから〉



(地域との協働のシステムができていた学校)

- コーディネーターは学校と自治会、商会などのたくさんの人たちをつなぐ接着剤になりました。
- 学校支援ボランティアの調整により、避難所開設時には、学校や子どもに配慮したルールができあがっていました。
- 「先生は学校のごとく家族のごとく考えてください。避難所は私たちにまかせて」と学校支援ボランティアからの声には胸がつまりました。
- コーディネーターやボランティアは学校再開に向けての避難所閉鎖の時にこそ存在感が際立ちました。避難住民と子どもたち、学校の様子がよく分かっているからこそ活躍でした。

(地域との協働のシステムができていなかった学校)×物資を配布するにも、避難者の顔もわからず混乱しました。「権利を振りかざして」物資を奪っていく人たちが、どさくさに紛れて決められた数量を守らない人がいて、見過ごすがありませんでした。

〈コーディネーターのコメントから〉



- 学校支援地域本部は、実質、避難所支援地域本部となり、避難住民や子どもたち、先生方の声をボランティアが集約すると、みんなで不足するものを持ち合い、配食や清掃などの自主的な動きは加速していきました。(学校支援コーディネーター、PTA)
- 避難所運営の格差は、日頃の学校と地域住民のかかわりの質の格差でもありました。(民生委員・学校支援コーディネーター、PTAOB)
- 会議だけで顔を合わせる人よりも、定期的に子どもたちや先生方とじっくり汗をかいている人はごく自然なかたちで避難所を支援する側に立っていました。(民生委員・学校支援コーディネーター、PTAOB)

これから求められること！

- 保護者の多くが、子どもをひとりで自宅においておきたいと考えています。また、子どもも地震への不安がぬえず、放課後子ども教室の需要がますます高まっています。
- 子どもたちの姿は、これまでに見たことのないようなオーバーアクションです。地域総ぐるみによる子育てこそ、復興には不可欠だと思います。
- 全国からのボランティアが去り、雪がちらつく頃にこそ本当の復興は住民の手によって進められていくのだと思います。

放課後子ども教室における震災とその後の様子

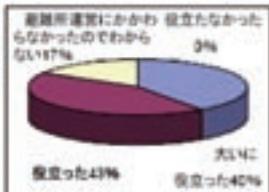
〈岩手・宮城県内の放課後子ども教室コーディネーター30名への聞き取り等調査結果〉

協力：仙台放課後子ども教室ネットワーク協議会

学校支援地域本部事業に関する聞き取りから、→ 確認を！

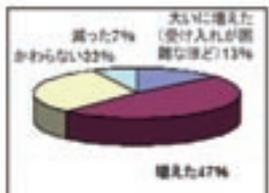
- 保護者の多くが、子どもをひとりで自宅においておきたいと考えています。また、子どもも地震への不安がぬえず、放課後子ども教室の需要がますます高まっています。
- 子どもたちの姿は、これまでに見たことのないようなオーバーアクションです。地域総ぐるみによる子育てこそ、復興には不可欠だと思います。

Q1 普段の放課後子ども教室での人のつながりは、震災時(避難所支援や自治組織の立ち上げ)に役立ったと思えますか。(放課後子ども教室コーディネーター)



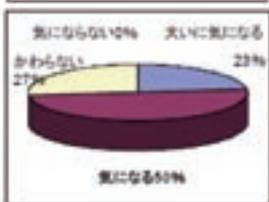
- 放課後子ども教室のボランティア同士が学区を超えて情報交換したので、地域間で相互援助ができました。
- 放課後子ども教室の実行委員が、避難所の世話役を買って出ました。小中学生も、よく知るところの指導に任せて積極的に活躍し、たくさんの人にはめられて、ますますがんばっていました。(一町内会から「こんな子どもたちに育ててくれてありがとうとお礼をいただきました。)

Q2 震災後、放課後子ども教室の活用希望は増えましたか。



- 地震への不安から、子どもを一人で自宅に置いておけないので当初申し込みがなかったが、新たに受け入れてほしいという要望が多い。
- すでに豪華年が参加させてほしいとの声が多い。
- 仕事ではないが、被災地のボランティアに参加するので、放課後子ども教室を活用させてほしいとの問い合わせがあった。
- これまでに受け入れていた子どもの見守りが一緒に参加することが多かった。

Q3 震災後、放課後子ども教室や学校・地域での子どもの様子について気になることはありますか。



- 互いに「こっぴどい」を出し合い、小さなめもごとが多くなりました。
- いまだに余震が続いていることもあり、子どもたちが楽しみにしている、ボールや学校行事、地域のお祭りが軒並み中止になり、喪失感が強いように見えます。
- 遊びが「動物園遊園地」になったり、大きな物音に敏感になったりして遊びの場面でも、大人みんなで見守り、子どものこころをフォローする事が必要だと感じます。
- 大人に相手をしてほしい、大人に話を聞いてほしいという子どもが増えました。
- 目によって、違和感を感じるほどのテンションになる子どもが見られるようになった。

○遅れがちな学習を取り戻してあげたいという声が多く聞かれています。放課後や夏休みに、学校支援地域本部と連携して、補習をしようという事です。震災後休みなく動いている先生たちを応援したいという気持ちです。(一小学生の夏休みが延長され、ますます地域役員ががんばらないと！)

地域とともにある学校づくりの推進について

地域とともにある学校づくりの推進について

学校運営の改善の在り方等に関する調査研究協力者会議まとめ(平成23年7月5日)より

1. 子どもを中心に据えた学校と地域の連携

- すべての学校が、地域の人々(保護者・地域住民等)と目標を共有した上で、地域と一体となって子どもたちをはぐくむ「**地域とともにある学校**」を目指すべき。

<地域とともにある学校づくりの成果>

①子どもたちの「生きる力」をはぐくむ (地域の望む子ども像の実現)	②教職員、保護者、地域住民等がともに成長 (地域の教育力向上)	③学校を核とした地域ネットワークの形成 (地域の活力向上)	④地域コミュニティの基礎力が高まる (地域の礎の構築)
--------------------------------------	------------------------------------	----------------------------------	--------------------------------

- 子どもを中心に据えた学校と地域の連携は、子どもの成長にとどまらず、大人の学びの拠点を創造し、地域の絆を強く、地域づくりの担い手を育てることにつながる。
- 平素からの学校と地域の関係づくりが、子ども、保護者、地域住民、教職員など、そこに関わるすべての人々の自発的な学びや成長を促し、子どもたちを守り、地域を守ることに繋がる。

2 学校と地域の関係づくり(学校と地域の人々が相互理解と信頼関係を深めるプロセス)

- 学校：「**熟議(熟慮と議論)**」「**協働**」「**マネジメント**」を備えた**学校運営**が鍵

①関係者が当事者意識をもって「 熟議(熟慮と議論) 」を重ねること	②学校と地域の人々が「 協働 」して活動すること	③学校が組織として力を発揮するための「 マネジメント 」
--	---------------------------------	-------------------------------------

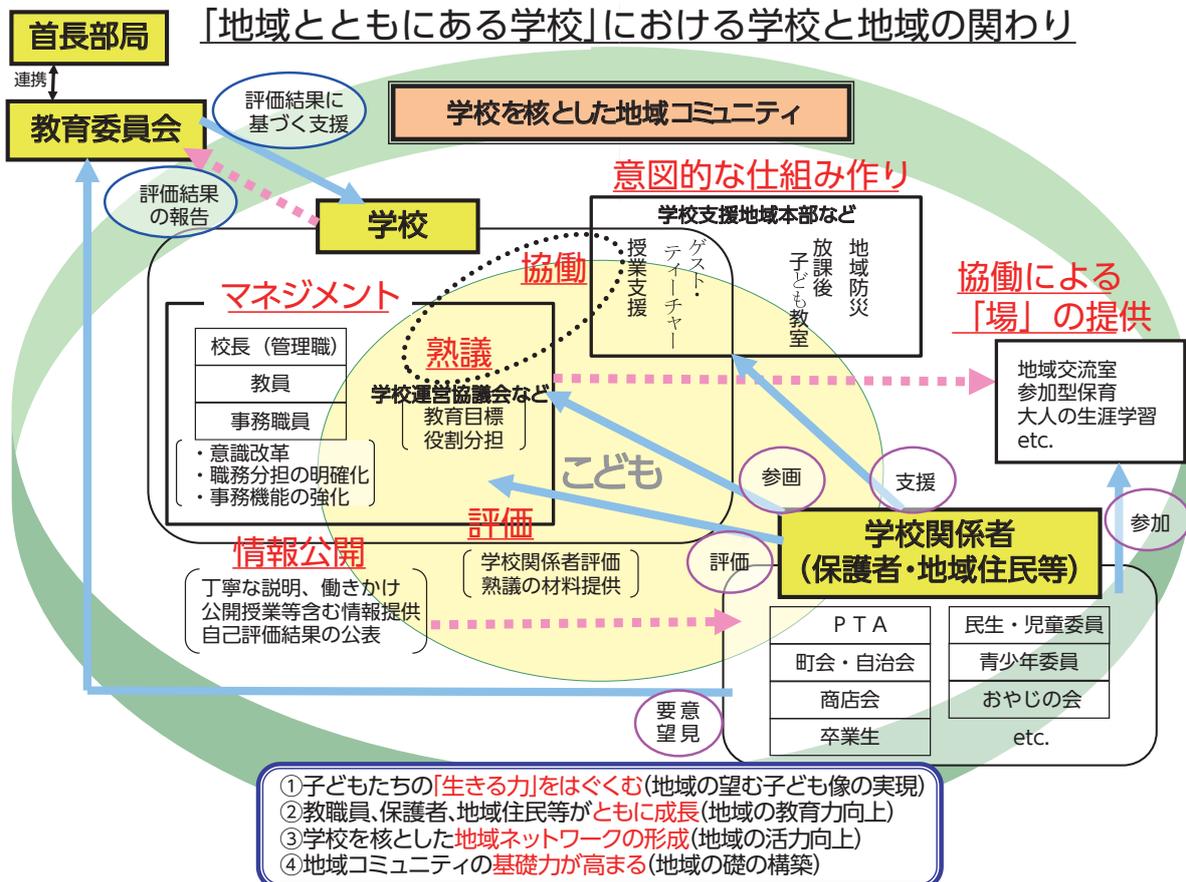
<仕掛けの例>

- ・学校運営協議会
- ・学校関係者評価
- ・学校支援地域本部
- ・放課後子ども教室
- ・副校長、教頭や主幹教諭、事務職員を含めたマネジメントを担う組織の整備等

- 設置者：関係者の努力と取組を引き出す「**仕掛け**」の構築、各地域、学校の**自発性と独自性**を基本とした、教育委員会・教育長の明確な**ビジョンと行動**

3. 今後の国の推進目標

- ① 5年間でコミュニティ・スクールを全公立小中学校の1割(約3000校)に拡大
- ② すべての学校で実効性ある学校関係者評価を実施
- ③ 複数の小・中学校間の連携・接続に留意した運営体制を拡大(中学校区が運営単位)
- ④ 学校の組織としての総合的なマネジメント力を強化
- ⑤ 地域コミュニティの核として被災地の学校を再生し、震災復興の推進力となるよう、総合的な支援を実施



優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる 文部科学大臣表彰要項

平成23年3月2日
文部科学大臣決定

1 趣 旨

この要項は、未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域が連携協力し、社会全体の教育力の向上に向けた取組の一層の推進を図ることを目的に、地域全体で学校や子どもたちの教育活動を支援する活動(以下「地域による学校支援活動」という。)のうち、その内容が特に優れ、他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣が行う表彰に関して必要な事項を定めることを目的とする。

2 表彰の対象

表彰は、「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」での教育方針に基づいた「地域による学校支援活動」や、「学校支援地域本部」及び「放課後子ども教室」等における「地域による学校支援活動」のうち、その内容が他の活動と比して特に優れ、他の模範と認められるものに対して行うものとする。

なお、PTA活動として行われる学校支援活動については、別に定めるところにより表彰を行うものとし、本要項の対象とはしない。

〔表彰対象の基準〕

組織、運営及び活動について、概ね以下に掲げる内容の活動であること。

(1) 組織、運営

ア 地域の実情に応じた組織により、幅広い関係者の参画を得て、効果的な運営が行われていること。

イ 連携する学校側の意見を十分に反映して運営が行われており、学校関係者との連携協力が円滑に行われていること。

(2) 活動

ア 地域のコーディネーターの調整のもと、学習支援、放課後の活動を含む学校外活動、学校環境整備、子どもの安全確保など、「地域による学校支援活動」が活発に、かつ継続的に行われていること。

イ 多くの地域住民等がボランティアとして参加し、地域の実情に応じた創意工夫のある活動を展開するなどにより、当該地域の教育環境の改善・充実に効果を上げていること。

ウ 学校以外の地域の各種機関・団体とも幅広く連携協力し、活動が行われていること。

3 推薦の方法

(1) 推薦依頼

文部科学省は、都道府県、指定都市、中核市(以下「都道府県等」という。)に対し、上記2を満たす活動のうち、表彰するにふさわしいと判断するものについての推薦依頼を行うものとする。

(2) 都道府県等における推薦方法

都道府県等は次に定めるところにより、被表彰対象候補として、上記2に該当する「地域による学校支援活動」を、文部科学大臣に推薦することができる。

なお、推薦にあたっては、<別紙>優れた「地域による学校支援活動」推薦書に推薦の理由等を記載し、文部科学大臣に提出するものとする。

〔都道府県等による推薦数〕

都道府県等においては、選考の上、上記2の表彰対象の基準を満たす域内に存在する「地域による学校支援活動」のうち、都道府県については3件以内、指定都市については2件以内、中核市については1件を、それぞれの被表彰対象候補として推薦することができる。

なお、選考にあたっては、都道府県等に関係者からなる選考委員会を設け、その議を経るとともに、複数推薦する場合は、推薦順位を決定し、推薦書に明記した上で提出するものとする。

(3) 文部科学省における推薦

上記(2)による都道府県等からの推薦のほかに、文部科学省は、表彰するにふさわしいと判断する「地域による学校支援活動」を、被表彰対象候補として審査の対象に加えることができる。

4 被表彰対象活動の審査及び決定

文部科学大臣は、上記3により推薦された「地域による学校支援活動」について、学識経験者等の意見を聞いて審査を行い、被表彰対象活動を決定する。

5 受賞歴について

当該表彰の受賞は1回限りとする。ただし、他の表彰等の受賞歴は問わない。

6 表彰の期日等

文部科学省において別に定める。

7 表彰の取り消し

次に該当する場合は、表彰を取り消すことができる。

(1) 被表彰対象活動に関する推薦書に不実な記載があると判明したとき。

(2) 被表彰対象活動において、本表彰の趣旨を損なう行為があったとき。

8 本表彰にかかる事務

本表彰にかかる事務については、文部科学省初等中等教育局参事官付(学校運営支援担当)の協力を得て、文部科学省生涯学習政策局社会教育課において処理する。

附 則

1 この決定は、平成23年3月2日から実施し、平成23年度の表彰から適用する。

2 放課後子ども教室推進表彰要項(平成20年11月11日生涯学習政策局長決定)は、本要項の決定をもって廃止する。